別記様式第２号（その１の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	研究科の設置	
フリガナ 設置者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ　ﾆｲｶﾞﾀﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　新潟大学	
フリガナ 大学の名称	ﾆｲｶﾞﾀﾀﾞｲｶﾞｸ 新潟大学　(Niigata University)	
大学本部の位置	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地	
大学の目的	新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献することを全学の目的とする。	
新設研究科等の目的	本学の理念「自律と創生」に基づき、地域社会および国際社会に貢献する高度な専門性と創造性を備えた人材の養成、及び、革新的研究や技術の開発、データ解析やAI活用、患者中心のケアを推進し、地域・国際医療課題に対応可能なリーダーの養成を目的とする。また、多職種連携を基盤に地域の特性に即した活動を展開し、次世代を担う専門職業人および研究者を輩出することで、教育と研究の融合を通じた社会貢献を果たす。	

新設研究科等の概要

新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	年	人	年次 人	人			年 月 第　年次		
医歯保健学研究科 ［Graduate School of Medicine, Dentistry and Health Sciences］									
健康科学専攻 （前期2年の課程） ［Master’s Program of Health Science］	2	40	－	80	修士（医科学） 修士（保健学） 修士（口腔保健福祉学）	医学関係、保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）	令和8年4月 第1年次	新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地、新潟県新潟市中央区学校町通２番町5274番地、新潟県新潟市中央区旭町通２番町746番地	【基礎となる学部等】 医学部医学科 医学部保健学科 歯学部歯学科 歯学部口腔生命福祉学科 14条特例の実施
健康科学専攻 （後期3年の課程） ［Doctoral Program of Health Science］	3	10	－	30	博士（保健学） 博士（口腔保健福祉学） 博士（学術）	医学関係、保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）	令和8年4月 第1年次	新潟県新潟市中央区学校町通２番町5274番地、新潟県新潟市中央区旭町通２番町746番地	【基礎となる学部等】 医歯学総合研究科 口腔生命福祉学専攻 （前期2年の課程） 保健学研究科 保健学専攻 （前期2年の課程） 14条特例の実施
医歯学専攻 （博士課程） ［Doctoral Program of Medicine and Dentistry］	4	101	－	404	博士（医学） 博士（歯学） 博士（学術）	医学関係、歯学関係	令和8年4月 第1年次	新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地、新潟県新潟市中央区学校町通２番町5274番地	【基礎となる学部等】 医学部医学科 歯学部歯学科 14条特例の実施
計		151		514					

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	備考
大学院医歯学総合研究科（廃止） 修士課程 　医科学専攻　（△20）　※令和8年4月学生募集停止 博士課程（前期2年の課程） 　口腔生命福祉学専攻　（△6）　※令和8年4月学生募集停止 博士課程（後期3年の課程） 　口腔生命福祉学専攻　（△3）　※令和8年4月学生募集停止 博士課程（4年一貫制の課程） 　分子細胞医学専攻　（△22）　※令和8年4月学生募集停止 　生体機能調節医学専攻（△37）　※令和8年4月学生募集停止 　地域疾病制御医学専攻（△14）　※令和8年4月学生募集停止 　口腔生命科学専攻　（△28）　※令和8年4月学生募集停止 大学院保健学研究科（廃止） 博士課程（前期2年の課程） 　保健学専攻　（△20）　※令和8年4月学生募集停止 博士課程（後期3年の課程） 　保健学専攻　（△6）　※令和8年4月学生募集停止	

同一設置者内における 変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	大学院現代社会文化研究科 博士課程（前期2年の課程）（廃止） 現代文化専攻　（△10）　※令和8年4月学生募集停止 社会文化専攻　（△20）　※令和8年4月学生募集停止 法政社会専攻　（△10）　※令和8年4月学生募集停止 経済経営専攻　（△20）　※令和8年4月学生募集停止 大学院自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程）（廃止） 数理物質科学専攻　（△63）　※令和8年4月学生募集停止 材料生産システム専攻（△143）　※令和8年4月学生募集停止 電気情報工学専攻　（△137）　※令和8年4月学生募集停止 生命・食料科学専攻　（△70）　※令和8年4月学生募集停止 環境科学専攻　（△89）　※令和8年4月学生募集停止 大学院総合学術研究科 修士課程 人文社会科学専攻　（60）　※令和7年4月事前相談 自然科学専攻　（507）　※令和7年4月事前相談	

	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
教育課程	医歯保健学研究科 健康科学専攻 （前期2年の課程）	86科目	100科目	29科目	215科目	30単位	
	医歯保健学研究科 健康科学専攻 （後期3年の課程）	26科目	14科目	1科目	41科目	12単位	
	医歯保健学研究科 医歯学専攻 （博士課程）	164科目	143科目	9科目	316科目	30単位	

	研究科等の名称	専任教員					助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	医歯保健学研究科 健康科学専攻（前期2年の課程）	88 人 (95)	70 人 (72)	33 人 (34)	66 人 (67)	257 人 (268)	0 人 (0)	32 人 (29)	
	医歯保健学研究科 健康科学専攻（後期3年の課程）	18 (24)	22 (22)	0 (0)	2 (2)	42 (48)	0 (0)	16 (10)	
	医歯保健学研究科 医歯学専攻（博士課程）	48 (63)	59 (64)	45 (48)	86 (86)	238 (261)	0 (0)	10 (10)	
	総合学術研究科 人文社会科学専攻（修士課程）	54 (54)	84 (84)	8 (8)	0 (0)	146 (146)	0 (0)	129 (129)	令和7年4月事前相談
	総合学術研究科 自然科学専攻（修士課程）	95 (95)	121 (121)	4 (4)	36 (36)	256 (256)	0 (0)	174 (174)	令和7年4月事前相談
	計	236 (257)	291 (296)	58 (61)	132 (133)	717 (747)	0 (0)	ー (ー)	
既設分	教育実践学研究科 教育実践開発専攻（専門職学位課程）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	22 (22)	
	現代社会文化研究科 人間形成研究専攻（後期3年の課程）	29 (29)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	0 (0)	
	共生文化研究専攻（後期3年の課程）	21 (21)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	0 (0)	
	共生社会研究専攻（後期3年の課程）	23 (23)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	45 (45)	0 (0)	1 (1)	
	自然科学研究科 数理物質科学専攻（後期3年の課程）	20 (20)	16 (16)	0 (0)	3 (3)	39 (39)	0 (0)	14 (14)	
	材料生産システム専攻（後期3年の課程）	16 (16)	26 (26)	0 (0)	3 (3)	45 (45)	0 (0)	3 (3)	
	電子情報工学専攻（後期3年の課程）	17 (17)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	39 (39)	0 (0)	9 (9)	
	生命・食料科学専攻（後期3年の課程）	21 (21)	22 (22)	0 (0)	2 (2)	45 (45)	0 (0)	1 (1)	
	環境科学専攻（後期3年の課程）	27 (27)	31 (31)	1 (1)	5 (5)	64 (64)	0 (0)	11 (11)	
	計	174 (174)	186 (186)	3 (3)	15 (15)	385 (385)	0 (0)	ー (ー)	
合計		267 (282)	318 (323)	60 (63)	134 (134)	779 (802)	0 (0)	ー (ー)	

職種	専属	その他	計
事務職員	403 人 (403)	19 人 (19)	422 人 (422)
技術職員	104 (104)	9 (9)	113 (113)
図書館職員	15 (15)	0 (0)	15 (15)
その他の職員	857 (857)	622 (622)	1,479 (1,479)
指導補助者	ー (ー)	ー (ー)	ー (ー)
計	1,379 (1,379)	650 (650)	2,029 (2,029)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	733,800 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	733,800 ㎡	
	その他	5,474,933 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	5,474,933 ㎡	
	合計	6,208,733 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	6,208,733 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	264,484 ㎡ (264,484 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	264,484 ㎡ (264,484 ㎡)	

講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室	
	25室	565室	32室	124室	大学全体

図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	1,306,801〔478,745〕 (1,306,801〔478,745〕)	23,815〔21,098〕 (23,815〔21,098〕)	46,669〔26,289〕 (46,669〔26,289〕)	16,798〔15,206〕 (16,798〔15,206〕)	10,310 (10,310)	182 (182)	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	1,306,801〔478,745〕 (1,306,801〔478,745〕)	24,192〔21,098〕 (24,192〔21,098〕)	46,669〔26,289〕 (46,669〔26,289〕)	16,798〔15,206〕 (16,798〔15,206〕)	10,310 (10,310)	182 (182)	

経費の見積り及び維持方法の概要		区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
	経費の見積り	教員１人当り研究費等		― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	
		共同研究費等		― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	
		図書購入費	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	
		設備購入費	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
				― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金、寄付金等						

既設大学等の状況

大学等の名称：新潟大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
(学部) 人文学部 人文学科	4	210	(3年次) 6	852	学士（文学）	1.07 《1.04》	平成22年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
教育学部 学校教員養成課程	4	180	―	720	学士（教育学）	1.07	平成20年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
法学部 法学科	4	170	(3年次) 5	690	学士（法学）	1.08 《1.04》	平成16年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
経済科学部 総合経済学科	4	350	(3年次) 10	1,420	学士（経済学）、学士（経営学）、学士（学術）	1.03 《1.00》	令和2年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
理学部 理学科	4	200	(3年次) 10	820	学士（理学）	1.09 《1.03》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
医学部 医学科	6	140	―	807	学士（医学）	1.01	昭和24年度	新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地	令和4年度編入学定員減（△5人）
保健学科	4	160	(3年次) 20	680	学士（看護学）、学士（保健学）	0.98	平成11年度	新潟県新潟市中央区旭町通２番町746番地	
歯学部 歯学科	6	40	(2年次) 5	265	学士（歯学）	1.00	昭和40年度	新潟県新潟市中央区学校町通２番町5274番地	
口腔生命福祉学科	4	20	(3年次) 6	92	学士（口腔保健福祉学）	0.94	平成16年度		
工学部 工学科	4	535	(3年次) 20	2,165	学士（工学）	1.06 《1.02》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	令和7年度入学定員増（5人）
農学部 農学科	4	175	(3年次) 10	720	学士（農学）	1.05 《1.01》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
創生学部 創生学修課程	4	70	―	265	学士（学術）	1.07 《1.04》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	令和7年度入学定員増（5人）

既設大学等の状況	**（研究科）**									
	教育実践学研究科 専門職学位課程						0.92		新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
	教育実践開発専攻	2	20	－	40	教職修士（専門職）	0.92	平成31年度		
	現代社会文化研究科 博士課程（前期2年の課程）						0.92		新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
	現代文化専攻	2	10	－	20	修士（文学）、修士（学術）	2.15	平成24年度		
	社会文化専攻	2	20	－	40	修士（文学）、修士（学術）	0.75	平成24年度		
	法政社会専攻	2	10	－	20	修士（法学）、修士（行政学）、修士（学術）	0.40	平成24年度		
	経済経営専攻	2	20	－	40	修士（経済学）、修士（経営学）、修士（公共経営学）、修士（学術）	0.75	平成24年度		
	博士課程（後期3年の課程）						1.18			
	人間形成研究専攻	3	6	－	18	博士（学術）、博士（文学）、博士（教育学）	2.16	平成24年度		
	共生文化研究専攻	3	7	－	21	博士（学術）、博士（文学）	0.57	平成24年度		
	共生社会研究専攻	3	7	－	21	博士（学術）、博士（法学）、博士（経済学）	0.95	平成24年度		
	自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程）						1.16		新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地	
	数理物質科学専攻	2	63	－	126	修士（学術）、修士（理学）	1.09	平成22年度		
	材料生産システム専攻	2	143	－	286	修士（学術）、修士（工学）	1.16	平成16年度		
	電気情報工学専攻	2	137	－	259	修士（学術）、修士（工学）	1.19	平成22年度		令和7年度入学定員増（15人）
	生命・食料科学専攻	2	70	－	140	修士（学術）、修士（理学）、修士（農学）	1.07	平成16年度		
	環境科学専攻	2	89	－	178	修士（学術）、修士（理学）、修士（工学）、修士（農学）	1.24	平成22年度		
	博士課程（後期3年の課程）						0.95			
	数理物質科学専攻	3	13	－	39	博士（学術）、博士（理学）	0.71	平成22年度		
	材料生産システム専攻	3	16	－	48	博士（学術）、博士（工学）	0.64	平成16年度		
	電気情報工学専攻	3	13	－	39	博士（学術）、博士（工学）	1.07	平成22年度		
	生命・食料科学専攻	3	13	－	39	博士（学術）、博士（理学）、博士（農学）	1.00	平成16年度		
	環境科学専攻	3	15	－	45	博士（学術）、博士（理学）、博士（工学）、博士（農学）	1.33	平成22年度		
	保健学研究科 博士課程（前期2年の課程）						1.22		新潟県新潟市中央区旭町通２番町746番地	
	保健学専攻	2	20	－	40	修士（保健学）	1.22	平成16年度		
	博士課程（後期3年の課程）						2.61			
	保健学専攻	3	6	－	18	博士（保健学）	2.61	平成19年度		
	医歯学総合研究科 修士課程						0.90			
	医科学専攻	2	20	－	40	修士（医科学）	0.90	平成15年度	新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地	
	博士課程（前期2年の課程）						0.75			
	口腔生命福祉学専攻	2	6	－	12	修士（口腔保健福祉学）	0.75	平成20年度	新潟県新潟市中央区学校町通２番町5274番地	
	博士課程（後期3年の課程）						1.66			
	口腔生命福祉学専攻	3	3	－	9	博士（口腔保健福祉学）	1.66	平成22年度	新潟県新潟市中央区学校町通２番町5274番地	
	博士課程						1.12			
	分子細胞医学専攻	4	22	－	88	博士（医学）、博士（学術）	1.35	平成13年度	新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地	
	生体機能調節医学専攻	4	37	－	148	博士（医学）、博士（学術）	1.21	平成13年度		
	地域疾病制御医学専攻	4	14	－	56	博士（医学）、博士（学術）	0.57	平成13年度		
	口腔生命科学専攻	4	28	－	112	博士（歯学）、博士（学術）	1.08	平成13年度		

附属施設の概要	（附属学校） 名　称　：附属学校（小学校・中学校・幼稚園・特別支援学校） 目　的　：教育基本法及び学校教育法に定める保育又は教育を行うとともに，新潟大学における幼児の保育並びに児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学生の教育実習を行うこと 所在地　：（附属新潟小学校・中学校・特別支援学校）新潟県新潟市中央区西大畑町5214番地 （附属長岡小学校・中学校・幼稚園）新潟県長岡市学校町1丁目1番1号 設置年月：（附属新潟小学校・中学校）昭和26年4月 （附属特別支援学校）昭和52年4月 （附属長岡小学校・中学校・幼稚園）昭和26年4月 規模等　：（附属新潟小学校・中学校）建物：12,151㎡ （附属特別支援学校）建物：4,320㎡ 土地：56,381㎡ （附属長岡小学校・長岡中学校・幼稚園）土地：47,214㎡　建物：10,587㎡	
	（附属病院） 名　称　：医歯学総合病院 目　的　：医学及び歯学の臨床教育及び臨床研究並びに診療を行い、もって社会に貢献すること 所在地　：新潟県新潟市中央区旭町通１番町754番地 設置年月：昭和24年5月（平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合） 規模等　：土地：68,696㎡　建物：110,062㎡	
	（学部等の附属施設） 名　称　：工学部附属工学力教育センター 目　的　：地域社会及び企業との連携を図り、工学力教育プログラムの体系化を目指した研究開発を推進するとともに、リメディアル教育の充実・強化を進め，学生のものづくり活動を奨励すること 所在地　：新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地 設置年月：平成17年4月 規模等　：建物：611㎡ 名　称　：農学部附属フィールド科学教育研究センター 目　的　：フィールドにおける生物生産技術及び環境管理技術に関する教育研究並びに社会教育を行うこと 所在地　：（農場：村松）新潟県五泉市石曽根6934 （農場：新通）新潟県新潟市西区新通2156-1 設置年月：平成13年4月 規模等　：（農場：村松）土地：264,248㎡　建物：2,748㎡ （農場：新通）土地：28,926㎡　建物：665㎡ 名　称　：医歯学総合研究科附属腎研究センター 目　的　：腎及び腎臓病の基礎・臨床並びに応用研究を推進し、もって医学医療の発展に貢献すること 所在地　：新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地 設置年月：平成14年4月 （平成28年４月に医歯学総合研究科附属腎研究施設を同附属腎研究センターに再編） 規模等　：建物：851㎡ （附置研究所） 名　称　：脳研究所 目　的　：脳及び脳疾患に関する学理及びその応用の研究を行うこと 所在地　：新潟県新潟市中央区旭町通１番町757番地 設置年月：昭和42年6月 規模等　：建物：18,369㎡ 名　称　：災害・復興科学研究所 目　的　：日本海側地域をはじめとする国内外における自然災害科学及び復興に関する研究を行うこと 所在地　：新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地 設置年月：平成23年4月 規模等　：建物：1,361㎡ （全学共同教育研究組織） 名　称　：アジア連携研究センター 目　的　：アジア地域の発展と平和に寄与する学術研究機関として機能するため、アジア地域の社会的ニーズに直結し、近未来の社会の構築に資する融合的研究活動を行うとともに、研究活動に密接に関連する人材育成への支援及び広報活動を行うこと 所在地　：新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地 設置年月：平成30年4月 規模等　：建物：437㎡ 名　称　：佐渡自然共生科学センター 目　的　：自然共生科学拠点として、自然共生科学に関する融合的な教育研究活動を行うこと 所在地　：（演習林）新潟県佐渡市小田94-2 （朱鷺・自然再生学研究施設）新潟県佐渡市新穂潟上1101-1 （臨海実験所）新潟県佐渡市達者87 設置年月：平成31年4月 規模等　：（演習林）土地：5,042,106㎡　建物：944㎡ （朱鷺・自然再生学研究施設）建物：596㎡ （臨海実験所）土地：4,270㎡　建物：1,557㎡	

附属施設の概要	名　称　：日本酒学センター 目　的　：日本酒学に関する学問体系を構築し、国際的な日本酒学の拠点形成とその発展に寄与すること 所在地　：新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地 設置年月：令和2年2月 規模等　：建物：535㎡ 名　称　：ビッグデータアクティベーション研究センター 目　的　：ビッグデータ関連の科学技術に関する学問体系を構築し、国際的なビッグデータ関連の科学技術の拠点形成とその発展に寄与すること 所在地　：新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地 設置年月：令和5年4月 規模等　：建物：80㎡ （附属図書館） 名　称　：附属図書館 目　的　：教育研究上必要な図書館資料の収集、整理及び提供並びに学術情報を提供し、新潟大学の学生及び職員の教育、研究、調査及び学習に資すること 所在地　：（中央図書館）新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050番地 （医歯学図書館）新潟県新潟市中央区旭町通１番町754番地 設置年月：昭和24年5月 （昭和47年に中央図書館を五十嵐地区新施設に移転。旭町地区は医歯学図書館へ） 規模等　：（中央図書館）建物：14,212㎡ （医歯学図書館）建物：4,449㎡	

新潟大学　設置申請に関わる組織の移行表

令和7年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員
人文学部 人文学科	210	(3年次) 6	852
教育学部 学校教員養成課程	180	―	720
法学部 法学科	170	(3年次) 5	690
経済科学部 総合経済学科	350	(3年次) 10	1,420
理学部 理学科	200	(3年次) 10	820
医学部 医学科	140	―	640
保健学科	160	(3年次) 20	680
歯学部 歯学科	40	(2年次) 5	265
口腔生命福祉学科	20	(3年次) 6	92
工学部 工学科	535	(3年次) 20	2,180
農学部 農学科	175	(3年次) 10	720
創生学部 創生学修課程	70	―	280
計	2,250	(2年次) 5 (3年次) 87	9,359

令和8年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員	変更の事由
人文学部 人文学科	210	(3年次) 6	852	
教育学部 学校教員養成課程	180	―	720	
法学部 法学科	170	(3年次) 5	690	
経済科学部 総合経済学科	350	(3年次) 10	1,420	
理学部 理学科	200	(3年次) 10	820	
医学部 医学科	100	―	600	医学部医学科臨時定員増期間終了のため
保健学科	160	(3年次) 20	680	
歯学部 歯学科	40	(2年次) 5	265	
口腔生命福祉学科	20	(3年次) 6	92	
工学部 工学科	535	(3年次) 20	2,180	
農学部 農学科	175	(3年次) 10	720	
創生学部 創生学修課程	70	―	280	
計	2,210	(2年次) 5 (3年次) 87	9,319	

令和7年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員
教育実践学研究科			
専門職学位課程			
教育実践開発専攻	20	—	40
現代社会文化研究科			
博士課程（前期2年の課程）			
現代文化専攻	10	—	20
社会文化専攻	20	—	40
法政社会専攻	10	—	20
経済経営専攻	20	—	40
博士課程（後期3年の課程）			
人間形成研究専攻	6	—	18
共生文化研究専攻	7	—	21
共生社会研究専攻	7	—	21
自然科学研究科			
博士課程（前期2年の課程）			
数理物質科学専攻	63	—	126
材料生産システム専攻	143	—	286
電気情報工学専攻	137	—	274
生命・食料科学専攻	70	—	140
環境科学専攻	89	—	178
博士課程（後期3年の課程）			
数理物質科学専攻	13	—	39
材料生産システム専攻	16	—	48
電気情報工学専攻	13	—	39
生命・食料科学専攻	13	—	39
環境科学専攻	15	—	45
保健学研究科			
博士課程（前期2年の課程）			
保健学専攻	20	—	40
博士課程（後期3年の課程）			
保健学専攻	6	—	18
医歯学総合研究科			
修士課程			
医科学専攻	20	—	40
博士課程（前期2年の課程）			
口腔生命福祉学専攻	6	—	12
博士課程（後期3年の課程）			
口腔生命福祉学専攻	3	—	9
博士課程			
分子細胞医学専攻	22	—	88
生体機能調節医学専攻	37	—	148
地域疾病制御医学専攻	14	—	56
口腔生命科学専攻	28	—	112
計	828	－	1,957

令和8年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員	変更の事由
教育実践学研究科				
専門職学位課程				
教育実践開発専攻	20	—	40	
現代社会文化研究科				
博士課程（前期2年の課程）				令和8年4月学生募集停止
現代文化専攻	0	—	0	
社会文化専攻	0	—	0	
法政社会専攻	0	—	0	
経済経営専攻	0	—	0	
博士課程（後期3年の課程）				
人間形成研究専攻	6	—	18	
共生文化研究専攻	7	—	21	
共生社会研究専攻	7	—	21	
自然科学研究科				
博士課程（前期2年の課程）				令和8年4月学生募集停止
数理物質科学専攻	0	—	0	
材料生産システム専攻	0	—	0	
電気情報工学専攻	0	—	0	
生命・食料科学専攻	0	—	0	
環境科学専攻	0	—	0	
博士課程（後期3年の課程）				
数理物質科学専攻	13	—	39	
材料生産システム専攻	16	—	48	
電気情報工学専攻	13	—	39	
生命・食料科学専攻	13	—	39	
環境科学専攻	15	—	45	
総合学術研究科				研究科の設置（事前相談）
修士課程				
人文社会科学専攻	60	—	120	
自然科学専攻	507	—	1,014	
保健学研究科				令和8年4月学生募集停止
博士課程（前期2年の課程）				
保健学専攻	0	—	0	
博士課程（後期3年の課程）				
保健学専攻	0	—	0	
医歯学総合研究科				令和8年4月学生募集停止
修士課程				
医科学専攻	0	—	0	
博士課程（前期2年の課程）				
口腔生命福祉学専攻	0	—	0	
博士課程（後期3年の課程）				
口腔生命福祉学専攻	0	—	0	
博士課程				
分子細胞医学専攻	0	—	0	
生体機能調節医学専攻	0	—	0	
地域疾病制御医学専攻	0	—	0	
口腔生命科学専攻	0	—	0	
医歯保健学研究科				研究科の設置（事前相談）
博士課程（前期2年の課程）				
健康科学専攻	40	—	80	
博士課程（後期3年の課程）				
健康科学専攻	10	—	30	
博士課程				
医歯学専攻	101	—	404	
計	828	－	1,958	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科健康科学専攻（博士前期課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻共通科目		リサーチ・メソッズ・ベーシック	1前		2			○			9	6					共同
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			9	6		0	0	0	
プログラム共通科目群		保健理工学概論	1前			2				○	4	2		1			
		医療情報統計科学	1前			2		○			2						隔年
		脳と心の医科学	1前			2		○			6	2					オムニバス、標準外
		グローバル医学入門	1前			2		○			5			1			オムニバス、標準外
		生命医療科学総論	1前			2		○			5	1					オムニバス、標準外
		医療福祉援助学総論	1前			2		○			2	3					オムニバス、標準外
		小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			23	8	0	2	0	0	
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	分子細胞医科学	1前			2		○			2	4	1				オムニバス、標準外
		医学と社会	1前			2		○			4	2					オムニバス
		感染と免疫	1前			2		○			3	2	1				オムニバス
		臨床医学入門	1前			2		○			7	1					オムニバス、標準外
		医科学セミナー	1前			1		○			1						
		医科学研究発表演習	2前			1			○		1						
		解剖学演習	1後			4			○		1	1		1			
		脳機能形態学演習	1後			4			○					1			
		組織学演習	1後			4			○		1	1		2			
		神経生理学演習	1後			4			○		1	1		2			
		発達生理学演習	1後			4			○		1	1					
		オミクス生物学演習	1後			4			○		1	1		2			
		分子細胞機能学演習	1後			4			○		1		1				
		薬理学演習	1後			4			○		1	1		1			
		細菌学演習	1後			4			○		1		1	2			
		ウイルス学演習	1後			4			○		1	1		1			
		社会・環境医学演習	1後			4			○		1	1					
		国際保健学演習	1後			4			○		1			2			
		免疫・医動物学演習	1後			4			○		1			3			
		法医学演習	1後			4			○		1			3			
		腎分子病態学演習	1後			4			○			1		1			
		医学教育学演習	1後			4			○		1	2		2			
		循環器内科学演習	1後			4			○		1	1		1			
		血液・内分泌・代謝内科学演習	1後			4			○		1	2	2	3			
		腎・膠原病内科学演習	1後			4			○		1		2				
		呼吸器･感染症内科学演習	1後			4			○		1	2	1	1			
		消化器内科学・肝臓病学演習	1後			4			○		1	1	1	2			
		分子精神医学・精神医学演習	1後			4			○			1		1			
		小児科学・小児保健学演習	1後			4			○		1	1	1	3			
		腫瘍外科学・消化器・一般外科学演習	1後			4			○		1	1	2	2			
		呼吸循環外科学演習	1後			4			○			2	2	4			
		整形外科学・リハビリテーション医学演習	1後			4			○		1	2	2	2			
		形成・再建外科学演習	1後			4			○		1	1					
		小児外科学演習	1後			4			○		1	1	1				
		皮膚科学演習	1後			4			○		1	1		1			
		腎・泌尿器病態学・分子腫瘍学演習	1後			4			○				3	1			
		眼科学演習	1後			4			○			1	2				
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学演習	1後			4			○		1	1	1	2			
		腫瘍放射線医学・機能画像医学演習	1後			4			○		1	2	3	2			
		生殖器官制御・生殖医学病態解析演習	1後			4			○		1	1		1			
		麻酔科学演習	1後			4			○		1	1	2	1			
		救命救急医学演習	1後			4			○		1	1	1				
		分子・診断病理学演習	1後			4			○		1			2			
		生殖医学病態解析演習	1後			4			○		1		3				
		薬剤評価学演習	1後			4			○		1	1					
		臨床研究・レギュラトリーサイエンス学演習	1後			4			○			1					
		総合診療医学演習	1後			4			○		1						
		神経病理学演習	1後			4			○		2	1					
		脳神経外科学演習	1後			4			○		1	1	1	2			
		脳神経内科学演習	1後			4			○		1	1	1			1	
		脳機能解析学演習	1後			4			○		1						
		生体磁気共鳴学演習	1後			4			○		1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科健康科学専攻（博士前期課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	臨床機能脳神経学演習	1後			4			○		1						
		神経病因遺伝学演習	1後			4			○		1	1					
		神経機能・発生・生殖工学演習	1後			4			○			2					
		細胞病態学演習	1後			4			○		1	1					
		システム脳病態学演習	1後			4			○		1						
		脳病態解析学演習	1後			4			○		1	2					
		災害医療学演習	1後			4			○							1	
		バイオインフォーマティクス学演習	1後			4			○		1			1			
		神経精神薬理学演習	1後			4			○							1	
		分子遺伝学演習	1後			4			○							1	
		神経工学演習	1後			4			○							1	
		小児脳病態学演習	1後			4			○							1	
		生物学的精神医学演習	1後			4			○							1	
		脳神経発生学演習	1後			4			○							1	
		ゲノム科学演習	1後			4			○							1	
		がんゲノム演習	1後			4			○							1	
		視覚病態学演習	1後			4			○							1	
		小計（69科目）	－	－	0	262	0		－		45	51	35	55	0	11	
	口腔保健福祉学プログラム	口腔保健福祉学研究論	1後			2		○			2	2					オムニバス
		専門英文読解	1前			2			○			1					
		一般口腔保健管理学Ⅰ	1前			2		○			1						
		一般口腔保健管理学Ⅱ	1・2通			2				○	1						
		特殊口腔保健管理学Ⅰ	1後			2		○						1			
		特殊口腔保健管理学Ⅱ	1・2通			2		○			1						
		摂食嚥下機能評価支援学	1・2通			2		○			2						オムニバス
		口腔保健の疫学と統計	1後			2		○			1						
		口腔健康教育入門	1前			2		○						1			
		地域歯科保健活動	1後			2		○			1						
		口腔保健活動展開論	2前			2		○				1					
		保健福祉計画演習	2前			2			○		1						
		口腔保健医療福祉援助論	1後			2		○						1			
		口腔保健医療福祉制度	1後			2		○			1						
		医療福祉援助技術論	2前			2				○		1					
		口腔医療福祉政策学	1前			2		○				1					
		地域福祉活動	1後			2		○				1					
		小計（17科目）	－	－	0	34	0		－		7	5	0	4	0	0	
	看護学プログラム	基礎看護学実習	1・2前			2				○	3	2					
		国際看護学実習	1・2通			2				○		2				1	標準外
		小児看護学実習	1・2通			2				○	1	1					標準外
		精神看護学実習	1・2前			2				○						1	
		母性看護学実習	1・2後			2				○		2				1	
		看護倫理学	1・2通			2		○			2	3		1		1	オムニバス、標準外
		母性看護学特論Ⅰ	1・2通			2		○				1				1	標準外
		母性看護学特論Ⅱ	1・2後			2		○				2				3	
		看護研究	1・2通			2		○			3	5				2	オムニバス、共同（一部）、標準外
		小児看護学特論Ⅰ	1・2通			2		○			1	1					標準外
		小児看護学特論Ⅱ	1・2通			2		○			1	1					標準外
		基礎看護学特論Ⅱ	1・2通			2		○			1	1					標準外
		基礎看護学特論Ⅲ	1・2前			2		○			1						
		基礎看護学特論Ⅳ	1・2通			2			○		1						標準外
		基礎看護学特論Ⅴ	1前			2		○			1	1					標準外
		国際看護学特論	1・2通			2		○				2				1	標準外
		小児看護学演習	1・2通			2			○		1	1					標準外
		精神看護学特論Ⅰ	1・2通			2		○								1	標準外
		精神看護学特論Ⅱ	1・2通			2		○								1	標準外
		母性看護学演習	1・2通			2			○			2				1	標準外
		看護教育	1・2通			2		○			1	2					
		基礎看護学演習	1・2通			2			○		3	2					
		国際看護学演習	1・2通			2			○			2				1	
		精神看護学演習	1・2通			2			○							1	標準外
		医療ナラトロジー	1・2前			2		○			2			1			オムニバス
		地域看護学実習	1・2後			2				○	1	2					
		地域看護学特論Ⅰ	1・2後			2		○			1	2					オムニバス、共同（一部）
		地域看護学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1	2					
		地域看護学演習Ⅰ	1・2後			2			○		1	2					
		地域看護学演習Ⅱ	1・2後			2			○		1	2					
		家族看護学特論	1・2後			2		○			1	2					
		遺伝看護学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1					1	
		遺伝看護学特論Ⅱ	1・2前			2		○			1					2	

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科健康科学専攻（博士前期課程））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム		遺伝看護学特論Ⅲ	1・2前			2		○			1					1	オムニバス
			遺伝看護学特論Ⅳ	1・2前			2		○			3					1	オムニバス
			遺伝看護学特論Ⅴ	1・2前			2		○			2					2	オムニバス
			遺伝看護学特論Ⅵ	1・2前			2		○			1					2	
			遺伝看護学実習Ⅰ	1・2前			2				○						2	
			遺伝看護学実習Ⅱ	1・2前			2				○		1				2	
			遺伝看護学実習Ⅲ	1・2前			2				○		1				1	
			遺伝看護学実習Ⅳ	1・2前			2				○	1					1	
			遺伝看護学演習Ⅰ	1・2前			2			○							2	
			遺伝看護学演習Ⅱ	1・2前			2			○							1	
			遺伝看護学演習Ⅲ	1・2前			2			○		1	1				1	オムニバス
			小計（44科目）	－	－	0	50	0	－			7	8	0	1	0	7	
	看護学プログラム	専門看護師（CNS）コース	CNSコース共通 臨床薬理学	1・2通			2		○			1	2				2	
			CNSコース共通 フィジカルアセスメント	1・2通			2		○			2	3	1			3	オムニバス、共同（一部）、標準外
			CNSコース共通 基礎看護学特論Ⅰ	1・2通			2		○			1					2	
			CNSコース共通 コンサルテーション論	1・2通			2		○								2	
			CNSコース共通 病態生理学	1・2通			2		○			1	3				1	
			慢性看護コース 成人・老年看護学実習Ⅰ	1・2前			2				○		1					
			慢性看護コース 成人・老年看護学実習Ⅱ	1・2前			2				○		1					
			慢性看護コース 成人・老年看護学実習Ⅲ	1・2前			2				○		1					
			慢性看護コース 成人・老年看護学実習Ⅳ	1・2前			2				○		1					
			慢性看護コース 成人・老年看護学特論Ⅰ	1・2前			2		○				1				1	オムニバス
			慢性看護コース 成人・老年看護学演習Ⅲ	1・2前			2			○			1		1		1	オムニバス
			慢性看護コース 成人・老年看護学特論Ⅱ	1・2前			2		○				1				1	オムニバス
			慢性看護コース 成人・老年看護学特論Ⅲ	1・2前			2		○				1				1	オムニバス
			慢性看護コース 看護理論	1・2前			2		○				4				1	
			慢性看護コース 成人・老年看護学特論Ⅳ	1・2後			2		○				1				1	オムニバス
			慢性看護コース 成人・老年看護学演習Ⅰ	1・2後			2			○			1				1	
			慢性看護コース 成人・老年看護学演習Ⅱ	1・2後			2			○			1				2	オムニバス
			がん看護コース がん看護学演習Ⅲ	1・2通			2			○		1			1		1	オムニバス、共同（一部）、標準外
			がん看護コース がん看護学演習Ⅳ	1・2通			2			○		1	1				1	オムニバス、共同（一部）、標準外
			がん看護コース がん看護学実習Ⅰ	1・2通			2				○	1	1		1		1	標準外
			がん看護コース がん看護学実習Ⅱ	1・2通			2				○	1			1		1	共同（一部）、標準外
			がん看護コース がん看護学実習Ⅲ	1・2通			2				○	1			1		2	標準外
			がん看護コース がん看護学実習Ⅳ	1・2通			2				○	1			1		2	標準外
			がん看護コース がん看護学特論Ⅰ	1・2前			2		○			3	3				2	オムニバス、共同（一部）
			がん看護コース がん看護学特論Ⅱ	1・2前			2		○			2	3				1	オムニバス、標準外
			がん看護コース がん看護学特論Ⅲ	1・2前			2		○			2			1		1	オムニバス、標準外
			がん看護コース がん看護学演習Ⅰ	1・2後			2			○		1	1				2	オムニバス、共同（一部）、標準外
			がん看護コース がん看護学演習Ⅱ	1・2後			2			○		1					1	共同（一部）
			小計（28科目）	－	－	0	56	0	－			6	10	0	1	0	16	
	次世代医療技術科学プログラム		病態解析学概論	1・2後			2		○			1	1				1	
			応用数理解析学概論	1・2後			2		○			1						
			医学物理学概論	1・2前			2		○			1	1					オムニバス
			医用放射線科学概論	1・2前			2		○			2			1			オムニバス
			国際放射線医療科学概論	1・2後			2		○				1					
			生体構造機能解析工学特論	1・2前			2		○			1						
			生体構造機能解析工学演習	1・2後			2			○		1						
			放射線物質科学特論	1・2前			2		○			1						
			放射線物質科学演習	1・2後			2			○		1						
			医用放射線機器科学特論	1・2前			2		○			1	1		1			オムニバス
			医用放射線機器科学演習	1・2後			2			○		1	1		1			オムニバス
			臨床画像医学特論	1・2前			2		○			1						
			臨床画像医学演習	1・2後			2			○		1						
			医用画像情報学特論	1・2前			2		○			1			3			オムニバス、標準外
			医用画像情報学演習	1・2後			2			○		1			3			オムニバス、標準外
			核医学情報学特論	1・2前			2		○			1						
			核医学情報学演習	1・2後			2			○		1						
			国際病態検査科学概論	1・2通			2		○				2					標準外
			基礎生体情報検査科学論	1・2後			2		○			1						
			臨床生体情報検査科学論	1・2前			2		○			1	1		2			
			ゲノム検査分子生物学特論	1・2後			2		○			1						
			ゲノム検査分子生物学実習	1・2前			2				○	1						
			病原微生物解析学特論	1・2後			2		○				2					
			病原微生物解析学実習	1・2後			2				○		2					
			生体情報解析学特論	1・2前			2		○			1	1					
			生体情報解析学実習	1・2後			2				○	1	1					
			病態病理検査学特論	1・2後			2		○				1					
			病態病理検査学実習	1・2前			2				○		1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科健康科学専攻（博士前期課程））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム		病態生理機能学特論	1・2前			2		○				2				1	
			病態生理機能学実習	1・2後			2				○		2				1	
			血液・腫瘍検査学特論	1・2前			2		○				1		1			
			血液・腫瘍検査学実習	1・2前			2				○		1				3	
			免疫病態検査学特論	1・2後			2		○			1			1			
			免疫病態検査学実習	1・2後			2				○	1			1			
			細胞検査学特論	1後			2		○				1					
			小計（35科目）	－	－	0	70	0	－			10	8	0	6	0	4	
		医学物理士コース	医学物理学特論	1・2後			2		○			1	2				3	オムニバス
			医学物理学演習	1・2前			2			○		1	2		1			オムニバス
			放射線腫瘍学特論	1・2後			2		○			1	1					
			放射線腫瘍学演習	1・2後			2			○		1	1					
			医学物理臨床実習	1・2前			2				○	1	2				1	
			電磁気学特論	1・2後			2		○			1	2		1		1	
			量子力学特論	1・2後			2		○			1	2		1		1	
			小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			1	2	0	1	0	3	
特別研究			特別研究Ⅰ（メディカルサイエンス）	1後			2			○		70						
			特別研究Ⅰ（口腔保健福祉）	1後			2			○		5	5					
			特別研究Ⅰ（看護学）	1後			2			○		6	9		1			
			特別研究Ⅰ（次世代医療技術科学）	1後			2			○		10	9		5			
			特別研究Ⅱ（メディカルサイエンス）	2通			8			○		70						
			特別研究Ⅱ（口腔保健福祉）	2通			8			○		5	5					
			特別研究Ⅱ（看護学）	2通			8			○		6	9		1			
			特別研究Ⅱ（次世代医療技術科学）	2通			8			○		10	9		5			
			小計（8科目）	－	－	0	10	0	－			91	23	0	6	0	0	
合計（215科目）				－	－	2	508	0	－			95	72	34	67	0	32	

学位又は称号	修士（医科学）、修士（口腔保健福祉学）、修士（保健学）	学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）

卒　業　・　修　了　要　件　及　び　履　修　方　法

（修了要件）
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

修了要件単位数：30単位
（１）専攻共通科目　2単位
（２）プログラム共通科目群　4単位以上
（３）プログラム専門科目群　14単位以上
（４）特別研究　特別研究Ⅰ　2単位　特別研究Ⅱ　8単位

（履修方法）
メディカルサイエンスプログラム
1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・ベーシック」（2単位）を修得すること。
2. プログラム共通科目群から、4単位以上を修得すること。
3. プログラム専門科目群のうち本プログラムの中から、14単位以上を修得すること。
4. 特別研究は、本プログラムで開講する特別研究Ⅰ（2単位）および特別研究Ⅱ（8単位）を修得すること。

口腔生命福祉学プログラム
1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・ベーシック」（2単位）を修得すること。
2. プログラム共通科目群から、4単位以上を修得すること。
3. プログラム専門科目群のうち本プログラムの中から、14単位以上を修得すること。
4. 特別研究は、本プログラムで開講する特別研究Ⅰ（2単位）および特別研究Ⅱ（8単位）を修得すること。

看護学プログラム
1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・ベーシック」（2単位）を修得すること。
2. プログラム共通科目群から、4単位以上を修得すること。
3. プログラム専門科目群のうち本プログラムの中から、14単位以上を修得すること。
4. 特別研究は、本プログラムで開講する特別研究Ⅰ（2単位）および特別研究Ⅱ（8単位）を修得すること。

次世代医療技術科学プログラム
1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・ベーシック」（2単位）を修得すること。
2. プログラム共通科目群から、4単位以上を修得すること。
3. プログラム専門科目群のうち本プログラムの中から、14単位以上を修得すること。
4. 特別研究は、本プログラムで開講する特別研究Ⅰ（2単位）および特別研究Ⅱ（8単位）を修得すること。

※看護学プログラムにおける専門看護師（CNS）コース及び次世代技術科学プログラムにおける医学物理士コースを専攻する者は、上記コース記載の科目を必修とするが、当該コースを専攻しない者も選択は可能。

授業期間等

１学年の学期区分	2期
１学期の授業期間	15週
１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科健康科学専攻（博士後期課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻共通科目		リサーチ・メソッズ・アドバンスト	1前		2			○			9					2	共同
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			10	0	0	0	0	2	
プログラム共通科目群		アカデミックリーディング	1・2・3前			1		○								1	
		実践統計学ベーシックコース	1・2・3後			1		○			1					3	オムニバス、共同（一部）
		ケア技術開発法	1前			2		○			1						
		研究倫理	1前			2		○			1						
		保健学情報解析法	1前			2		○			1						
		小計（5科目）	－	－	0	8	0	－			4	0	0	0	0	4	
プログラム専門科目群	口腔保健福祉プログラム	口腔保健管理学特論	1・2・3前			2		○			2	2					オムニバス
		摂食嚥下機能評価支援学特論	1・2・3後			2		○								3	オムニバス
		口腔保健福祉援助学特論	1・2・3前			2		○			1	2		1			オムニバス
		地域口腔保健福祉学特論	1・2・3後			2		○				2					オムニバス
		アカデミックライティング	1・2・3前			2		○								1	
		アカデミックリーディングⅡ	1・2・3後			1			○			1					
		小計（6科目）	－	－	0	11	0	－			3	4	0	1	0	4	
	看護学プログラム	地域・国際看護学特講	1・2・3後			2		○			3	2				1	オムニバス
		成人・老年看護学特講	1・2・3後			2		○			1	3					
		小児・女性看護学特講	1・2・3後			2		○			2	3				1	
		小児・女性看護学特講演習	1・2・3後			2		○			2	3				1	
		地域・国際看護学特講演習	1・2・3後			2		○			3	2				1	オムニバス
		成人・老年看護学特講演習	1・2・3後			2		○			1	3					
		小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			6	8	0	0	0	2	
	次世代医療技術科学プログラム	生体機能情報解析学特講	1・2・3前			2		○			2						
		生体機能情報解析学特講演習	1・2・3後			2			○		2						
		生体システム機能検査科学特講	1・2・3前			2		○			1	2				1	
		病態病理検査科学特講	1・2・3前			2		○				1					
		免疫・血液病態検査科学特講	1・2・3前			2		○			1	1		1		2	
		ゲノム・微生物病態検査科学特講	1・2・3後			2		○				2				1	
		生体システム機能検査科学特講演習	1・2・3後			2			○		1	2				1	
		病態病理検査科学特講演習	1・2・3後			2			○			1					
		免疫・血液病態検査科学特講演習	1・2・3後			2			○		1	1		1		2	
		ゲノム・微生物病態検査科学特講演習	1・2・3後			2			○			2				1	
		臨床画像医学特講	1・2・3前			2		○			1						
		臨床画像医学特講演習	1・2・3後			2			○		1						
		医用画像情報学特講	1・2・3前			2		○			1						
		医用画像情報学特講演習	1・2・3後			2			○		1						
		放射線腫瘍学特講	1・2・3前			2		○			1						
		放射線腫瘍学特講演習	1・2・3後			2			○		1						
		医学物理学特講	1・2・3前			2		○			2	1					オムニバス
		医学物理学特講演習	1・2・3後			2			○		2	1					オムニバス
		放射線治療医学物理臨床実習	1・2・3通			2				○	1	1					
		小計（19科目）	－	－	0	38	0	－			9	7	0	1	0	6	
特定研究		特定研究（口腔保健福祉）	3通			4			○		3	5					
		特定研究（看護学）	3通			4			○		6	8					
		特定研究（次世代医療技術科学）	3通			4			○		9	7					
		特定研究（学術）	3通			4			○		3	5					
		小計（4科目）	－	－	0	16	0	－			18	20	0	0	0	0	
合計（41科目）			－	－	2	85	0	－			24	22	0	2	0	15	

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科健康科学専攻（博士後期課程））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	

学位又は称号	博士（口腔保健福祉学）、博士（保健学）、博士（学術）	学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 修了に必要な単位数を12単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：12単位 （１）専攻共通科目　2単位 （２）プログラム共通科目群　2単位 （３）プログラム専門科目群　4単位以上 （４）特定研究　4単位 （履修方法） **口腔保健福祉学プログラム** 1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・アドバンスト」（2単位）を修得する。 2. プログラム共通科目群から2単位を修得する。 3. プログラム専門科目群のうち、本プログラムの中から4単位を修得する。 4. 本プログラムで開講する特定研究（4単位）を修得する。 **看護学プログラム** 1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・アドバンスト」（2単位）を修得する。 2. プログラム共通科目群から2単位を修得する。 3. プログラム専門科目群のうち、本プログラムの中から4単位を修得する。 4. 本プログラムで開講する特定研究（4単位）を修得する。 **次世代医療技術科学プログラム** 1. 専攻共通科目の「リサーチ・メソッズ・アドバンスト」（2単位）を修得する。 2. プログラム共通科目群から2単位を修得する。 3. プログラム専門科目群のうち、本プログラムの中から4単位を修得する。 4. 本プログラムで開講する特定研究（4単位）を修得する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科医歯学専攻（博士課程））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
専攻共通科目			リサーチ・メソッズ・ドクター	1前		2			○			13						共同
			小計（1科目）	－	－	2	0	0		－		13	0	0	0	0	0	
プログラム共通科目群			アカデミックリーディング＆ライティングI	1前			2		○								1	
			実践医学統計演習	1後			2			○		1	1		1		1	オムニバス、共同（一部）、標準外
			先端医学セミナー	2後			1		○			1						
			医学研究発表演習	3後			1			○		1						
			医学研究倫理	1前			2		○			1						
			小計（5科目）	－	－	0	8	0		－		2	1	0	1	0	2	
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	細胞免疫学	1前			4		○			1						
			細胞免疫学演習	1後			4			○		1						
			免疫学研究法演習	2前			2			○					3			
			感染症対策論演習	1前			4			○		1		1	2			
			細菌学特論	1後			4		○			1						
			感染症診断と治療戦略	2前			2		○			1						
			ウイルス制御学	1前			4		○			1						
			感染症対策論	1後			4		○			1						
			ウイルス制御学演習	2前			4			○		1	1		1			
			予防医学特論	1前			4		○				1					
			予防医学演習	1後			4			○			1					
			公衆衛生学演習	1前			4			○		1			1			
			保健医療情報学演習	1後			4			○		1						
			国際感染症制御学I	2前			4		○			1						
			国際感染症制御学II	2後			4		○						1			
			法医中毒学特論	1前			4		○			1						
			死因究明学概論	1後			4		○			1						
			賠償医学	2前			4		○			1						
			死因究明学演習	2後			4			○					3			
			国際医学教育学演習	1前			4			○		1	1		2			
			バイオインフォーマティクス特論	1前			4		○			1						
			バイオインフォーマティクス演習	1後			4			○		1			1			
			医学生物学データ統合解析	2前			4		○			1						
			医療情報学特論	1前			4		○				1					
			医療統計学演習	1後			2			○			2	1	1			
			臨床疫学概論	2前			2		○				1					
			医療経済学特論	2後			4		○				1					
			医療薬剤学特論	1前			4		○				1					
			医療薬剤学演習	1後			4			○			1					
			臨床薬効評価学	2前			4		○				1					
			総合診療学特論	1前			4		○			1						
			総合診療学演習	1後			4			○		1						
			救急集中治療医学概論	1前			4		○			1						
			救急集中治療医学演習	1後			4			○		1	1	1				
			小計（34科目）	－		0	120	0		－		9	7	3	15	0	0	
		精密医学研究コース	組織構造研究法演習	1前			4			○					1			
			神経発達分子生物学	1後			4		○				1					
			分子発生学演習	2前			4			○			1					
			神経組織機能解析学演習	1前			4			○					1			
			正常発生や再生時における超微構造機能学	1前			4		○			1						
			分子病態構造学特論	1後			4		○			1						
			超微構造機能学演習	2前			4			○			1		2			
			オミクス医学特論	1前			4		○			1						
			オミクス医学演習	1後			4			○		1			2			
			オミクス医学実習	2前			4				○		1					
			細胞機能研究法演習	1前			2			○		1						
			分子生物学演習	1後			2			○				1				
			発生薬理学特論	1前			4		○			1						
			脈管発生学演習	1後			4			○		1			1			
			脈管の分子病態学特論	2前			4		○				1					
			シグナル分子制御学	1前			4		○				1					
			シグナル分子制御学演習	1後			4			○			1					
			心電生理学特論	1前			4		○			1	1					
			心不全解析演習	1後			4			○		1	1					
			心血管カテーテル治療演習	2前			4			○					1			
			リンパ性腫瘍病態学演習	1前			4			○		1	1	2				
			血液免疫学演習	1後			4			○		1	1	2				
			大規模医療データサイエンス	2後			4		○			1						
			内分泌代謝学演習	2前			4			○		1			2		3	
			呼吸生理学演習	1前			4			○				1	1			
			心療内科学演習	1後			4			○				1				
			呼吸調節病態学特論	2前			4		○					1				
			呼吸調節病態学演習	2後			4			○			1					
			消化器病態解析学	1前			4		○			1						
			消化器免疫病態学	1後			4		○			1						
			消化器医工学演習	2前			4			○		1	1	1	2			

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科医歯学専攻（博士課程））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 助手を除く基幹教員以外の教員	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	腫瘍内科学特論	1前			4		○				1					
			緩和医療学演習	1後			4			○			1					
			小児病態学特論	1前			4		○			1						
			小児集中治療学演習	1後			4			○		1	1	1	3			
			発達免疫・心身学	2前			4		○			1						
			臨床腫瘍学特論	1前			2		○			1						
			消化管外科学演習I	1後			4			○		1		2	2			
			消化管外科学演習II	2前			4			○		1						
			臓器横断的がん診療演習	2後			4			○			1					
			呼吸器外科学特論	1前			4		○					1	1			
			心臓血管外科学演習	1後			4			○			2	1	4			
			小児腫瘍病態制御学	1前			4		○			1						
			小児外科学概論	1後			4		○			1						
			小児外科診療演習	2前			4			○			1	1				
			運動機能制御再建学	1前			4		○			1						
			運動機能制御再建学演習	1後			4			○		1	1		2			
			骨代謝免疫学	2前			4		○					1				
			人工関節学	2後			4		○					1				
			再建外科学特論	1前			4		○			1						
			再建外科学演習	1後			4			○		1	1					
			皮膚病態解析学	1前			4		○			1						
			皮膚病態解析学演習	1後			4			○		1	1					
			皮膚腫瘍分子制御学	2前			4		○						1			
			神経分子尿路科学	1前			4		○					1				
			泌尿器腫瘍制御学概論	1後			4		○					1				
			泌尿器腫瘍制御学特論	2前			4		○					1				
			小児泌尿器病態調節学	2後			4		○						1			
			移植臓器機能調節学	2前			4		○					1				
			移植医学演習	2後			2			○				1				
			放射線診断学特論	1前			4		○			1	1	1	1			
			放射線腫瘍学	1後			4		○			1		2	1			
			放射線腫瘍学演習	2前			4			○		1		2	1			
			婦人科腫瘍学特論	1前			4		○			1	1	1				
			生殖内分泌学実習	1後			4				○	1			1			
			周産期医学概論	2後			4		○			2		2				
			女性医学演習	2前			4			○		1			1			
			術中麻酔管理学演習	1前			4			○				3	1			
			疼痛管理学演習	1後			4			○			1					
			麻酔学特論	2前			4		○				1					
			耳鼻咽喉手術学演習	1前			4			○		1		1	2			
			聴覚障害学特論	1後			4		○			1						
			めまいと平衡障害学	2前			4		○			1						
			頭頸部腫瘍学	2後			4		○				1					
			腎疾患組織病理学演習	1前			4			○		1						
			慢性腎臓病病態学特論	1後			4		○			1						
			腎代謝学総論	2前			4		○			1						
			腎免疫病態学	2後			4		○					1				
			腎分子生物学演習	2前			4			○				1				
			腎糸球体分子生物学	1前			4		○				1					
			腎分子病態学特論	1後			4		○				1					
			腎糸球体構造病態学	2前			4		○						1			
			腫瘍病理学	1前			4		○			1						
			病態細胞学	1後			4		○			1						
			臨床病理学演習	2前			4			○		1			2			
			小計（85科目）	－		0	332	0		－		19	22	27	36	0	3	
		脳とこころの医学研究コース	認知脳科学特論	1前			4		○			1						
			認知脳科学演習	1後			4			○		1			2			
			認知脳科学実習	2前			4				○		1					
			神経発達学特論	1前			4		○			1						
			神経発達学演習	1後			4			○		1	1					
			分子精神医学	1前			4		○				1					
			精神機能治療学	1後			4		○				1					
			臨床心理学演習	2前			4			○			1		1			
			眼科学総論	1前			4		○				1					
			眼科学演習	1後			4			○			1	2				
			シナプス可塑性機構論	1前			4		○			1						
			脳細胞病態学特論	1後			4		○			1						
			脳細胞病態学演習	2前			4			○			1					
			脳構造解析学特論	1前			4		○			1						
			脳構造解析学演習	1後			4			○		1						
			先端脳科学技術特論	2前			4		○			1						
			脳機能回復学特論	1前			4		○			1						
			脳機能回復学演習	1後			4			○		1						
			神経回路構築学	2前			4		○			1						
			脳神経腫瘍病態学	2前			4		○			1						
			臨床神経病理学概論	1前			4		○				1					
			臨床神経病理学演習	1後			4			○			1					
			神経病理疾患解析学	2前			4		○			1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科医歯学専攻（博士課程））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳とこころの医学研究コース	脳腫瘍制御学演習	1前			4			○		1		1	2			
			脳機能病態制御学演習	1後			4			○		1						
			脳血管病態制御学	2前			4		○				1					
			脳血管障害制御学演習	2後			4			○				1				
			神経免疫学	1前			4		○				1					
			脳神経疾患の分子医学	1後			4		○					1				
			脳神経疾患の分子医学演習	2前			4			○				1				
			神経変性疾患学特論	2後			4		○					1				
			脳血管分子病態学	2前			4		○				1					
			脳機能解析学	1前			4		○			1						
			脳機能解析学演習	1後			4			○		1	1					
			脳機能イメージング演習	2前			2			○		1						
			脳疾患バイオマーカー解析学	1前			4		○			1						
			脳疾患バイオマーカー解析学演習	1後			4			○		1	1					
			動物実験法演習	1前			2			○			2					
			実験動物学	1前			4		○				1					
			加齢性疾患制御学演習	1前			4			○		1	2					
			神経難病細胞病理学	1後			4		○			1						
			脳病態モデル解析学特論	2前			4		○			1						
			小計（42科目）	―	―	0	164	0	―			10	15	4	5	0	0	
	小計（161科目）			―	―	0	616	0	―			28	28	29	50	0	3	
	歯学プログラム		アカデミックリーディング＆ライティングII	1前			2		○								1	
			生体組織再生工学コースワーク	1・2・3前			4		○			1						
			ベーシック形態解析コース	1・2・3前			4		○			1	1		1			
			顎口腔機能学ベーシックコース	1・2・3前			4		○			1	1					
			顎顔面解剖学ベーシックコース	1・2・3前			4				○		1					
			ベーシック細胞生物学コース	1・2・3前			4		○			1						
			口腔病理学ベーシックコース	1・2・3前			4		○				1		1			
			研究の倫理法令・遺伝子組換え実験コースワーク	1・2・3後			4		○			1			1			
			国際連携基礎コース	1・2・3通			4				○	1						
			ベーシック国際口腔保健学コース	1・2・3通			4		○			1			1			
			歯内疾患制御学臨床演習コース	1・2・3前			4			○			1	1				
			小児歯科関係コースワーク	1・2・3前			4		○						1			
			補綴歯科学臨床総合コース	1・2・3前			4		○				1		1			
			補綴歯科学基礎総合コース	1・2・3前			4		○				1		1			
			顎顔面口腔外科関係コースワーク	1・2・3前			4		○				1					
			歯周歯科関係コースワーク	1・2・3前			4			○		1		1				
			矯正臨床ベーシックコース	1・2・3前			4			○		1			1			
			摂食リハ関係コースワーク	1・2・3前			4		○				1					
			包括歯科補綴学コースワーク	1・2・3前			4		○			1		1				
			組織再建口腔外科関係コースワーク	1・2・3前			4		○				1					
			歯科放射線関係コースワーク	1・2・3前			4		○						2			
			基礎疼痛学コースワーク	1・2・3前			4		○				1	1	1			
			基礎・臨床連続講義	1・2・3後			2		○				1	1				
			先端感染症学研究 A	1・2・3前			2		○			1						
			先端感染症学研究 B	1・2・3後			2		○			1						
			細菌学・免疫学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
			細菌学・免疫学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
			骨免疫学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
			骨免疫学 B	1・2・3後			2		○				1		1			
			基礎分子生物学・細胞生物学・遺伝学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
			基礎分子生物学・細胞生物学・遺伝学 B	1・2・3後			2		○				1		1			
			生体組織再生工学特論 A	1・2・3前			2		○			1						
			生体組織再生工学特論 B	1・2・3後			2		○			1						
			生体組織再生工学演習 A	1・2・3前			2			○		1						
			生体組織再生工学演習 B	1・2・3後			2			○		1						
			歯内疾患制御学特論 A	1・2・3前			2		○								1	
			歯内疾患制御学特論 B	1・2・3後			2		○								1	
			歯内疾患制御学演習 A	1・2・3前			2		○						1			
			歯内疾患制御学演習 B	1・2・3後			2		○						1			
			う蝕制御管理学演習 A	1・2・3前			2		○					1	1		1	
			う蝕制御管理学演習 B	1・2・3後			2		○					1	1		1	
			国際口腔疫学 A	1・2・3前			2		○			1						
			国際口腔疫学 B	1・2・3後			2		○			1						
			国際口腔保健学演習 A	1・2・3前			2			○		1						
			国際口腔保健学演習 B	1・2・3後			2			○		1						
			予防歯科学演習 A	1・2・3前			2			○			1	1			1	
			予防歯科学演習 B	1・2・3後			2			○			1	1			1	
			成育歯科学 A	1・2・3前			2		○						1			
			成育歯科学 B	1・2・3後			2		○						1			
			小児口腔治療学演習 A	1・2・3前			2			○			1		1			
			小児口腔治療学演習 B	1・2・3後			2			○			1		1			
			障害者歯科治療学演習 A	1・2・3前			2			○					1			
			障害者歯科治療学演習 B	1・2・3後			2			○					1			
			顎関節疾患に対する外科的対応 A	1・2・3前			2			○			1					
			顎関節疾患に対する外科的対応 B	1・2・3後			2			○			1					
			歯科口腔外科学演習A	1・2・3前			2			○		1						
			歯科口腔外科学演習B	1・2・3後			2			○		1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科医歯学専攻（博士課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 助手を除く教員	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	固定性補綴治療学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
		固定性補綴治療学 B	1・2・3後			2		○				1		1			
		口腔インプラント治療学演習 A	1・2・3前			2			○			1		1			
		口腔インプラント治療学演習 B	1・2・3後			2			○			1		1			
		口腔インプラント研究演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		デジタル技術を用いた補綴臨床治療学 A	1・2・3前			2		○				1		2			
		デンタルインプラント臨床学 A	1・2・3前			2		○			1						
		デンタルインプラント臨床学 B	1・2・3後			2		○			1						
		疼痛生理学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		疼痛生理学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		臨床う蝕学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		臨床う蝕学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		歯科医療政策学演習 A	1・2・3前			2			○							1	
		歯科医療政策学演習 B	1・2・3後			2			○							1	
		地域口腔保健推進学 A	1・2・3前			2		○								1	
		地域口腔保健推進学 B	1・2・3後			2		○								1	
		衛生・福祉統計学演習 A	1・2・3前			2		○								1	
		衛生・福祉統計学演習 B	1・2・3後			2		○								1	
		歯科補綴応用生体力学演習 A	1・2・3前			2			○							1	
		歯科補綴応用生体力学演習 B	1・2・3後			2			○							1	
		海外短期エクスターンシップ	1・2・3通			1				○	1						
		エクスターンシップ	1・2・3通			4				○	1						
		国際口腔保健科学研究発表演習Ⅰ	2・3通			1			○		1						
		国際口腔保健科学研究発表演習Ⅱ	2・3通			1			○		1						
		国際口腔保健科学特定研究 Ⅰ	1通			8			○		1						
		国際口腔保健科学特定研究Ⅱ	4後			4			○		1						
		顎口腔解剖学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
		顎口腔解剖学 B	1・2・3後			2		○				1		1			
		顎口腔解剖学演習 A	1・2・3前			2		○			1	1		1			
		顎口腔解剖学演習 B	1・2・3後			2		○			1	1		1			
		顎口腔機能学 A	1・2・3前			2		○			1						
		顎口腔機能学 B	1・2・3後			2		○			1						
		神経科学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		神経科学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		神経生物学特論 A	1・2・3前			2				○	1						
		神経生物学特論 B	1・2・3後			2				○	1						
		顎顔面矯正学 A	1・2・3前			2		○					1				
		顎顔面矯正学 B	1・2・3後			2		○					1				
		歯科矯正学演習 A	1・2・3前			2			○				1	1			
		歯科矯正学演習 B	1・2・3後			2			○				1	1			
		歯科矯正治療学演習 A	1・2・3前			2			○		1						
		歯科矯正治療学演習 B	1・2・3後			2			○		1						
		嚥下障害学 A	1・2・3前			2		○				1					
		嚥下障害学 B	1・2・3後			2		○				1					
		摂食嚥下障害診断学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		摂食嚥下障害診断学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		摂食機能評価学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		摂食機能評価学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		歯周治療学 A	1・2・3前			2		○			1		1				
		歯周治療学 B	1・2・3後			2		○			1		1				
		歯周再生治療学演習 A	1・2・3前			2			○		1		1				
		歯周再生治療学演習 B	1・2・3後			2			○		1		1				
		歯周治療学演習 A	1・2・3前			2			○		1		1				
		歯周治療学演習 B	1・2・3後			2			○		1		1				
		生体防御機能回復学 A	1・2・3前			2		○			1		1				
		生体防御機能回復学 B	1・2・3後			2		○			1		1				
		硬組織形態学 A	1・2・3前			2		○				1					
		硬組織形態学 B	1・2・3後			2		○				1					
		硬組織形態学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		硬組織形態学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		口腔病理診断学 A	1・2・3前			2		○				1					
		口腔病理診断学 B	1・2・3後			2		○				1					
		口腔分子病理学演習 A	1・2・3前			2			○					1			
		口腔分子病理学演習 B	1・2・3後			2			○					1			
		臨床口腔病理学演習 A	1・2・3前			2			○			1	1				
		臨床口腔病理学演習 B	1・2・3後			2			○			1	1				
		臨床口腔細胞診断学演習 A	1・2・3前			2			○			1	1				
		臨床口腔細胞診断学演習 B	1・2・3後			2			○			1	1				
		薬理学演習A	1・2・3前			2			○		1			1			
		薬理学演習B	1・2・3後			2			○		1			1			
		咬合機能再建学 A	1・2・3前			2		○			1			1			
		咬合機能再建学 B	1・2・3後			2		○			1			1			
		顎機能評価学演習 A	1・2・3前			2			○		1			1			
		顎機能評価学演習 B	1・2・3後			2			○		1			1			
		口腔インプラント臨床学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		口腔インプラント臨床学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		顎口腔組織再建外科学 A	1・2・3前			2			○			1		1			
		顎口腔組織再建外科学 B	1・2・3後			2			○			1		1			
		腫瘍制御学演習 A	1・2・3前			2		○					1				

教　育　課　程　等　の　概　要

（医歯保健学研究科医歯学専攻（博士課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 助手（教員を除く）以外の教員	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	腫瘍制御学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		顎顔面発育異常治療学演習 A	1・2・3前			2			○				1	1			
		顎顔面発育異常治療学演習 B	1・2・3後			2			○				1	1			
		顎顔面放射線学 A	1・2・3前			2		○						2			
		顎顔面放射線学 B	1・2・3後			2		○						2			
		顎顔面画像診断学演習 A	1・2・3前			2			○					4			
		顎顔面画像診断学演習 B	1・2・3後			2			○					4			
		頭頸部放射線治療学 A	1・2・3前			2		○					1				
		頭頸部放射線治療学 B	1・2・3後			2		○					1				
		末梢神経再生学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		末梢神経再生学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		歯科心身医学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		歯科心身医学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		小計（149科目）	－	－	0	347	0	－			12	19	12	28	0	7	
合計（316科目）			－	－	2	971	0	－			63	64	48	86	0	10	

学位又は称号	博士（医学）、博士（歯学）、博士（学術）	学位又は学科の分野	医学関係、歯学関係

卒業・修了要件及び履修方法

（修了要件）
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

修了要件単位数：30単位
（１）専攻共通科目　２単位
（２）プログラム共通科目群　４単位以上
（３）プログラム専門科目群　16単位以上

（履修方法）
医学プログラムグローカル医療研究コース
1. 専攻共通科目「リサーチ・メソッズ・ドクター」（2単位）を修得する。
2. プログラム共通科目群から4単位以上を修得する。
3. プログラム専門科目群の医学プログラムのグローカル医療研究コースの中から16単位以上を修得する。また、他のコースの履修を認めることとし、修得した単位はプログラム専門科目群に含める。
4. 各科目群あわせて30単位以上となるよう修得する。

医学プログラム精密医学研究コース
1. 専攻共通科目「リサーチ・メソッズ・ドクター」（2単位）を修得する。
2. プログラム共通科目群から4単位以上を修得する。
3. プログラム専門科目群の医学プログラムの精密医学研究コースの中から16単位以上を修得する。また、他のコースの履修を認めることとし、修得した単位はプログラム専門科目群に含める。
4. 各科目群あわせて30単位以上となるよう修得する。

医学プログラム　脳とこころの医学研究コース
1. 専攻共通科目「リサーチ・メソッズ・ドクター」（2単位）を修得する。
2. プログラム共通科目群から4単位以上を修得する。
3. プログラム専門科目群の医学プログラムの脳とこころの医学研究コースの中から16単位以上を修得する。また、他のコースの履修を認めることとし、修得した単位はプログラム専門科目群に含める。
4. 各科目群あわせて30単位以上となるよう修得する。

歯学プログラム
1. 専攻共通科目「リサーチ・メソッズ・ドクター」（2単位）を修得する。
2. プログラム共通科目群から4単位以上を修得する。
3. プログラム専門科目群の歯学プログラムの中から16単位以上を修得する。
4. 各科目群あわせて30単位以上となるよう修得する。

授業期間等

１学年の学期区分	2期
１学期の授業期間	15週
１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医学部医学科）【基礎学部】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1		○								24	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②		1				○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1			○							24	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④			1			○							13	
		中級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							10	メディア
		上級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							2	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④		1				○							5	
		中級ＣＡＬＬ（留学準備）	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	メディア
		中級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①			1			○							1	
		中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②			1			○							1	
		上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④			2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②			0.5			○							1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		医療英語（看護）	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		医療英語（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
		医療英語（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④			2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Research Writing ）	1.2.3.4③～④			1			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Communication Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		P.A.C.E.（Presentation Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		小計（47科目）	－	－	2	67	0	－			0	0	0	0	0	77	
	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1.2①②			1		○								1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1.2③④			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1.2③④			1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○								1	
		フィリピノ語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④			1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1.2①			2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1.2②			2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							2	
		フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							1	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1.2④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1.2①			2			○							6	メディア、オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語インテンシブ IB	1.2②			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語セミナーE	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーF	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1.2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A（発音・文法）	1.2③～④			2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		上海語演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		中国語セミナーG	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーH	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーN	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		朝鮮語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		スペイン語スタンダード II	1.2③～④			3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③			1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④			1			○							1	メディア
		フィリピノ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		フィリピノ語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		小計（141科目）	－	－	0	249	0		－		0	0	0	0	0	53	
	健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1.2.3.4①～②			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅱ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅰ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		小計（15科目）	－	－	0	15	0		－		0	0	0	0	0	26	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④		2				○							10	
		データサイエンス総論Ⅰ	1.2.3.4①③		1			○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○								6	オムニバス
		データサイエンス総論Ⅱ	1.2.3.4②④		1			○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1.2.3.4②			2		○								3	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	1.2.3.4②			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		情報処理概論Ａ Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②			6			○							1	
		情報処理概論Ａ Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		データサイエンス発表	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①			2		○								1	
		小計（17科目）	－	－	4	32	0	－			0	0	0	0	0	33	
	新潟大学個性化科目	日本酒学C	1.2.3.4②			1		○								5	オムニバス
		日本酒学A	1.2.3.4①～②			2		○							1	3	オムニバス
		キャリアデザイン	1.2.3.4①～②			2		○								3	オムニバス
		SDGs入門演習	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		新潟産業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
		新潟の農林業	1.2.3.4③			2		○								10	メディア、オムニバス
		食と健康の科学	1.2.3.4④			2		○								13	オムニバス
		土と水	1.2.3.4④			2		○								14	オムニバス
		近世越後諸地域の歴史と社会	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		SDGs入門	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		地域を探る	1.2.3.4③～④			2		○							1	13	オムニバス
		日本酒学B	1.2.3.4①～④			1		○							1	8	オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅰ	1.2.3.4①			1		○								3	※演習、オムニバス
		生まれ変わる地方小都市－人とまちの未来図を描く－	1.2.3.4①			2			○							1	メディア
		自己・他者理解から始まるキャリア自律	1.2.3.4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
		仕事・業界理解から働く意味を探究する	1.2.3.4③			2		○								2	※演習、オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅱ	1.2.3.4②			1			○							3	メディア、オムニバス
		ボランティア開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		地域から文化を考える	1.2.3.4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
		学校支援フィールドワークA（小学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（中学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（高等学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（小学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（中学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		授業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅰ	1.2.3.4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		生涯学習社会とメディア	1.2.3.4③			2		○								1	
		私のローカルキャリア論 －地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかた－	1.2.3.4③			2		○								1	※演習、メディア
		ボランティア開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅱ	1.2.3.4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲb	1.2.3.4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1.2.3.4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅰ	1.2.3.4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱa	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱb	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習　メディア、オムニバス
		地域共創演習Ⅰb	1.2.3.4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲa	1.2.3.4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		コミュニティーインターンシップ実践	1.2.3.4①～④			4			○							1	※実験・実習
		日本手話Ａ	1.2.3.4①			2		○								4	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	アクティブラーニングA	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		アクティブラーニングC	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		日本と外国人	1.2.3.4①②③④			1		○								1	メディア
		ユーザのための数学I	1.2.3.4①			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門A	1.2.3.4①			1		○								1	
		分野横断デザイン	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修B1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修C1	1.2.3.4①③			1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1.2.3.4②④			1		○								1	
		日本手話Ｂ	1.2.3.4②			2		○								4	オムニバス
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1.2.3.4②			2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1.2.3.4②			2		○								7	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門B	1.2.3.4②			1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1.2.3.4②			1		○								6	オムニバス
		中国留学準備講座　サマーセミナー中国入門	1.2.3.4②			1		○								1	オムニバス
		多文化間共修A2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修B2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修C2	1.2.3.4②④			1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		平和を考えるＡ	1.2.3.4①～②			2		○								5	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		International Relations in the Asia-Pacific	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Regionalism in the Asia-Pacific Region	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Chinese Politics and Diplomacy	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		生命保険を考える	1.2.3.4①～②			2		○								7	オムニバス
		ストレスマネジメント	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		パーソナルファイナンス論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	1.2.3.4②～③			2		○								1	※演習
		学問の扉　知と方法の最前線	1.2.3.4③～④			1		○						1		12	メディア、オムニバス
		平和と現代のグローバル安全保障論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		中東イスラーム言語文化入門	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		大学生のための役に立つ育児学	1.2.3.4①～②			1		○								7	オムニバス
		朱鷺・自然再生フィールドワーク	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ	1.2.3.4①～②			4				○						2	オムニバス
		表現プロジェクト演習Ｑ	1.2.3.4①～②			2			○							2	オムニバス
		異文化と技術	1.2.3.4①～②③～④			1		○								5	オムニバス
		研究者の仕事と生活	1.2.3.4①～②			1		○								6	メディア、オムニバス
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・演習	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		森・里・海フィールド実習	1.2.3.4①～②			1				○						6	オムニバス
		開発・環境と平和	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		韓国サマースクールⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
		カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
		韓国サマーセミナーⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
		地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○							6	オムニバス
		トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○								8	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習G	1.2.3.4③			2			○							1	
		ユーザのための数学II	1.2.3.4③			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門C	1.2.3.4③			1		○								1	
		国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
		西洋カリグラフィーA	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
		リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
		大学生活戦略論　－キャンパス内外を「越境」する学び・経験－	1.2.3.4④			2		○								1	
		シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
		オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
		佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1.2.3.4④			2		○								3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅰ	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅱ4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習H	1.2.3.4③～④			2			○							1	オムニバス
		平和を考えるB	1.2.3.4③～④			2		○							1	8	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		台湾スプリングセミナー Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		台湾スプリングセミナー II	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
		フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
		佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○						5	オムニバス
		地域共創特別演習(岩室)	1.2.3.4①～④			2			○							1	
		地域共創特別演習ⅠA（刈羽＆東京）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		地域共創特別演習ⅠB（刈羽＆東京）	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
		小計（139科目）	－	－	0	248	0	－			0	0	0	1	1	192	
	留学生基本科目	英語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		日本語Ⅰ	1.2.3.4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
		日本語Ⅲ	1.2.3.4①③			2			○							1	
		英語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		日本語Ⅱ	1.2.3.4②④			2			○							1	メディア
		日本語Ⅳ	1.2.3.4②④			2			○							1	
		JLPT-N1 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	メディア
		JLPT-N2 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	
		日本語作文Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅱ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 II	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 III	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 IV	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 V	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 VI	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語入門	1.2.3.4①～②③～④			3			○							2	
		日本語Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			4			○							1	
		日本語Ⅵ	1.2.3.4①～②			5			○							1	
		英語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		英語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		JLPT-N1 C	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		集中日本語Ｏ F	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語Ｏ G	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語Ｏ H	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		日本語Ⅶ	1.2.3.4③～④			5			○							1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	留学生基本科目	日本文化入門Ⅰ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	メディア
		日本文化入門Ⅱ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	
		日本事情自然系A	1.2.3.4①～②			2		○								9	オムニバス
		課題研究Ⅱ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		ビジネス日本語	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		日本で働く	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本事情社会系A	1.2.3.4③～④			2		○								3	メディア、オムニバス
		日本事情自然系B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		課題研究Ⅰ	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		小計（41科目）	－	－	0	77	0	－			0	0	0	0	0	27	
	大学学習法	人文初年次演習	1.2.3.4①～②			2			○								オムニバス
		スタディ・スキルズA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズB	1.2.3.4①			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズC	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズE	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズF	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズG	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズH	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズⅠ	1.2.3.4①			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズK	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズL	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズM	1.2.3.4①			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズN	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズP	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズ	1.2.3.4①			2			○							11	オムニバス
		スタディスキルズⅠ	1.2.3.4①			1			○							10	オムニバス
		スタディスキルズⅡ	1.2.3.4③			1			○							18	オムニバス
		スタディスキルズⅢ	1.2.3.4④			1			○							2	オムニバス
		スタディスキルズ　（看護）	1.2.3.4①			2			○							5	オムニバス
		スタディスキルズ　（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディスキルズ　（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		工学リテラシー入門（力学分野）	1.2.3.4①			2			○							19	オムニバス
		工学リテラシー入門（情報電子分野）	1.2.3.4①			2		○								18	※演習、オムニバス
		工学リテラシー入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2			○							18	オムニバス
		工学リテラシー入門（建築分野）	1.2.3.4①			2			○							12	オムニバス
		工学リテラシー入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2			○							8	オムニバス
		スタディ・スキルズAⅠa	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡa	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠb	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡb	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠc	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡc	1.2.3.4③			1			○							8	
		小計（34科目）	－	－	0	59	0	－			0	0	0	0	0	207	
	自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1.2.3.4①			1		○								1	
		解析学基礎2	1.2.3.4②			1		○								1	
		数学基礎A1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③		1			○								3	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④		1			○								3	オムニバス
		物理学基礎A Ⅰ	1.2.3.4①①～②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②			2		○								6	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②		2			○								1	
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④			2		○								2	オムニバス
		化学基礎A	1.2.3.4①②③		2			○								5	オムニバス
		化学基礎B	1.2.3.4①②④		2			○								3	オムニバス
		生物学基礎A	1.2.3.4①②①～②③		2			○								4	オムニバス
		生物学基礎B	1.2.3.4①②③③～④		2			○								5	オムニバス
		地学基礎A	1.2.3.4①③			2		○								2	オムニバス
		地学基礎B	1.2.3.4①			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎A II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④		2			○								1	
		地学基礎C	1.2.3.4④			2		○								1	
		小計（22科目）	－	－	14	22	0	－			0	0	0	0	0	46	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	自然科学	リメディアル数学I	1.2.3.4①			1		○								4	オムニバス
		基礎数理Ａ Ⅰ	1.2.3.4②④			2		○								5	オムニバス
		物理学への招待Ａ	1.2.3.4②			2		○								1	
		生物学実験	1.2.3.4②			1				○						6	オムニバス
		基礎雪氷学	1.2.3.4②			2		○								5	オムニバス
		リメディアル数学ＩＩ	1.2.3.4②			1		○								4	オムニバス
		生物学－植物A－	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						3	オムニバス
		地学実験Ａ	1.2.3.4①～②			2				○						1	
		自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②		2					○						17	オムニバス
		量子研究の最前線	1.2.3.4①～②			2		○								12	オムニバス
		数学の世界	1.2.3.4③			2		○								4	オムニバス
		基礎数理B	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		化学とSDGs	1.2.3.4③			2		○								3	オムニバス
		社会を支える有機化学	1.2.3.4③			2		○								1	
		生物学－動物Ａ－	1.2.3.4③			2		○								1	
		地質学の基礎	1.2.3.4③			2		○								1	
		地学実験Ｂ	1.2.3.4③			1				○						1	
		基礎数理Ａ ⅡⅠ	1.2.3.4④			2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		地学概論Ａ	1.2.3.4①④			2		○								2	
		地球と気象	1.2.3.4④			2		○								1	
		地学Ｃ（マグマと火山）	1.2.3.4④			1		○								1	オムニバス
		物理学への招待Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学概論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		最先端技術を支える化学 Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								9	メディア、オムニバス
		都市インフラを考える	1.2.3.4①			2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1.2.3.4①			1		○								1	
		原子力・放射線防護学入門	1.2.3.4①			1		○								2	オムニバス
		生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1.2.3.4②			2		○								1	オムニバス
		原子力・放射線関連法規入門	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		くらしを支える機械システム工学	1.2.3.4③			2		○								13	オムニバス
		材料科学概論	1.2.3.4③			2		○								14	オムニバス
		安全工学基礎	1.2.3.4④			2		○								1	オムニバス
		化学実験	1.2.3.4③～④			2				○						6	オムニバス
		特許・経営および製品開発入門	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		放射線入門と実習	1.2.3.4①～④			1				○						1	オムニバス
		原子力の未来と災害を考える	1.2.3.4①～④			1		○								3	オムニバス
		特許と技術経営I	1.2.3.4①～②			1		○								2	オムニバス
		特許と技術経営Ⅱ	1.2.3.4③～④			1		○								3	オムニバス
		農業資源を知る	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		生命を知る	1.2.3.4①			2		○								13	メディア、オムニバス
		生態系を知る	1.2.3.4②			2		○								8	オムニバス
		農業DXを知る	1.2.3.4①～②			1		○								1	
		医学物理学入門	1.2.3.4③			1		○			1					7	オムニバス
		小計（45科目）	－	－	0	74	0	－			1	0	0	0	0	138	
	人文社会・教育科学	歴史学Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								1	
		メディアの記号論	1.2.3.4①③			2		○								1	
		実験心理学と応用	1.2.3.4①			2		○									
		英語基礎 L	1.2.3.4①①～②			1			○							16	オムニバス
		技術日本語演習	1.2.3.4②			2			○							1	
		人文系フロンティア	1.2.3.4②			4		○								1	オムニバス
		現代日本と伝統文化	1.2.3.4②③④			2		○								1	
		歴史学Q	1.2.3.4②			2		○									
		英語基礎 R	1.2.3.4②①～②			1			○							14	オムニバス
		心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本語教育Ⅰ－Ａ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		少数民族の言語と文化	1.2.3.4①～②			2		○									
		教養の心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		音と音楽をめぐる科学と教養	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		心と社会	1.2.3.4①～②			2		○									メディア
		哲学	1.2.3.4①～②			2			○								
		生涯学習概論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		歴史学Ｈ	1.2.3.4③			2		○								1	
		心理学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		心と脳の科学リテラシー	1.2.3.4③			2		○									
		現代社会論	1.2.3.4③			2		○									
		人間関係論	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会と科学技術	1.2.3.4③			2		○								1	
		文化人類学の方法–他者へのまなざし	1.2.3.4③			2		○									
		アクターネットワークの社会学	1.2.3.4③～④			2		○									
		歴史学0	1.2.3.4③			2		○									隔年
		中国語オプショナルＡ	1.2.3.4③			2			○							1	
		意思決定のコミュニケーション論	1.2.3.4④			2		○								1	
		つながりと絆の社会学	1.2.3.4④			2		○									

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	人文社会・教育科学	朝鮮語オプショナルB	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		音楽R	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		対人行動の心理学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		セクシュアリティ・スタディーズ	1.2.3.4③～④			2		○								4	オムニバス
		人文系展開科目D	1.2.3.4③～④			2		○							1	12	オムニバス
		日本古典文学N	1.2.3.4③～④			2		○									
		日本古典文学0	1.2.3.4①			2		○								1	
		文学D	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		西洋哲学演習	1.2.3.4③～④			2			○								
		演劇入門	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		現代思想論	1.2.3.4③～④			2		○									
		人文系展開科目Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○									隔年
		日本語教育Ⅰ－B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		教養教育としての教育学入門	1.2.3.4③			2			○							1	
		精神疾患とその治療	1.2.3.4②			2		○								1	メディア
		公認心理師の職責	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		ビジネス書道入門	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		音楽(ピアノ)	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		水彩画表現入門	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		美術史	1.2.3.4①～②			2		○									メディア
		人体の構造と機能及び疾病	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		福祉心理学	1.2.3.4①～②			2		○								2	隔年、オムニバス
		教養を考える	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習、オムニバス
		司法・犯罪心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		臨床心理学概論	1.2.3.4④			2		○								1	メディア
		音楽E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		日本文化論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		心理演習	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		心理的アセスメント	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		関係行政論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		健康生活環境論	1.2.3.4③～④			2		○								1	メディア
		心理実習	1.2.3.4①～④			2				○						3	オムニバス
		人文社会科学入門（法学）	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムA	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		日本国憲法	1.2.3.4①②③④①～②③～④			2		○								5	オムニバス
		リーガル・システム	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		リーガル・システムB	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		死因究明と法	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		組織マネジメント論	1.2.3.4①			2		○								1	
		マーケティングプロモーション入門	1.2.3.4②			1		○								1	
		小計（68科目）	－	－	0	136	0	－			0	0	0	0	1	106	
	医歯学	はじめての医学	1.2.3.4②		1			○			2						オムニバス
		先端医科学研究概説	1.2.3.4①～②			2		○			1						
		医学序説 Ⅰ	1.2.3.4①～②		2			○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		原子力と倫理	1.2.3.4④			1		○								3	オムニバス
		医学序説 II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		健康と医学	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		災害医療概論	1.2.3.4①～④			1		○			1						
		原子力災害医療体制	1.2.3.4①～④			1		○			1						※実験・実習
		災害医療ロジスティクス	1.2.3.4①～④			1		○			1						
		「食べる」	1.2.3.4①			2		○								14	オムニバス
		PBL入門	1.2.3.4②			1		○								3	※演習、オムニバス
		健康福祉学入門	1.2.3.4②			2		○								12	メディア、オムニバス
		新潟発福祉学	1.2.3.4③			2		○								10	オムニバス
		顔	1.2.3.4③～④			2		○								12	オムニバス
		小計（16科目）	－	－	3	23	0	－			4	0	0	0	0	52	
専門教育に関する授業科目	医学	医学入門	1③④	○	2			○			2	1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		早期医学体験実習(EME)	1②	○	1					○	3	2		1		1	
		発生学	2後	○	1			○			1	1		1			
		人体の構造と機能Ⅰ（生理学）	2前	○	3			○			2	1		3		7	
		人体の構造と機能Ⅰ（解剖総論）	2前	○	2			○			1	1	1	1			※実習
		人体の構造と機能Ⅰ（肉眼解剖学）	2前	○	5.5					○	1	1	1	1		4	※講義
		人体の構造と機能Ⅰ（組織学総論）	2前	○	2			○			1	2	1	2			※実習
		人体の構造と機能Ⅱ（神経の構造）	2後	○	2			○			1	2	1	1			※実習
		人体の構造と機能Ⅱ（生理学）	2後	○	3			○			1		1	1		3	
		人体の構造と機能Ⅱ（生理学実習）	2後	○	2					○	2	2		4		3	
		人体の構造と機能Ⅱ（組織学各論）	2後	○	4			○			1	2	1	2		1	※実習
		生体内物質と代謝	2前	○	4			○			2	2	1	4		4	
		病気と遺伝学	2後	○	1			○			2	1	1	1		4	
		分子生物学	2後	○	2.5			○			2	2	1	4		7	※実習
		基礎薬理	3前	○	3.5			○			1	1	1	2		1	※実習
		病理総論	3前	○	3			○						1		3	※実習

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門教育に関する授業科目	医学	生体防御と感染（細菌学）	3前	○	3			○			1	1	1	2		4	※実習
		生体防御と感染（免疫学）	3前	○	2.5			○			1			1		2	※実習
		生体防御と感染（ウイルス学）	3前	○	2			○			1	1		1		1	※実習
		生体防御と感染（医動物学）	3前	○	1			○			1			1			
		生体防御と感染（総合）	3前	○	1.5			○			1	1		3		2	
		疫学	2後	○	1.5			○			1	1		1		1	
		医学情報学(基礎)	2後	○	1.5			○								1	
		医学情報学(応用)	4前	○	0.5			○								1	
		環境医学	3前	○	1.5			○			1	1		1			※実習
		法医学	4前	○	2			○			1			3		11	
		公衆衛生学	4前	○	2			○			1			1		18	※実習
		医学英語Ⅰ	2後	○	0.5			○			2	1		1		2	※演習
		医学英語Ⅱ	4後	○	0.5			○			1			1		2	※演習
		基礎臨床統合Ⅰ	2前	○	1			○			1	2		1			※演習
		基礎臨床統合Ⅱ	2後	○	1			○			1	2				1	※演習
		統合臨床医学	3前	○	4			○			7	7	7	3		17	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		臨床実習入門（CBT）	4後	○	2					○	3	1					
		臨床実習入門（OSCE）	4後	○	4					○	5	8	4	3		23	
		臓器別講義・演習Ⅰ	3後	○	15			○			6	13	9	12		66	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		臓器別講義・演習Ⅱ	4前	○	18			○			13	12	16	14		60	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		臓器別講義・演習Ⅲ	4後	○	7			○			5	5	6	7		32	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		臨床実習ⅠA	4後	○	7					○	21	17	14	15		41	
		臨床実習ⅠB	5前	○	15					○	21	17	14	15		41	
		臨床実習ⅠC	5後	○	15					○	21	17	14	15		41	
		臨床実習ⅡA	5後	○	7					○	21	17	14	15		41	
		臨床実習ⅡB	6前	○	15					○	21	17	14	15		41	
		臨床医学講義(集中)	6後	○	7			○			19	4		1		2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学研究実習	3後	○	7					○	32	24	12	30		40	
		ミャンマー夏期医学短期研修	4前	○		1				○	1						
		多職種連携	4前	○	0.5					○	1	1		1		3	※演習　標準外
	小計（46科目）		―	―	187	1	0	―			44	40	35	70	0	368	―
合計（ 631科目）			―	―	212	1003	0	―			49	40	35	71	2	1325	―

学位又は称号	学士（医学）	学位又は学科の分野	医学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【医学教育プログラム】 本プログラムに修業年限以上在学し、教養教育に関する授業科目から43単位以上、専門教育に関する授業科目（必修科目）の186.5単位、計229.5単位以上を修得すること。	１学年の学期区分	2期 （1年次は4期）
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医学部保健学科）【基礎学部】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1		○								24	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②			1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1				○							24	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1				○							13	
		中級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							10	メディア
		上級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							2	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④			1			○							5	
		中級ＣＡＬＬ（留学準備）	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	メディア
		中級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①			1			○							1	
		中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②			1			○							1	
		上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④			2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②			0.5			○							1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		医療英語（看護）	1.2.3.4①～②		2				○		1	1		1		1	オムニバス
		医療英語（放射）	1.2.3.4①～②		2				○		7	2		4		1	オムニバス
		医療英語（検査）	1.2.3.4①～②		2				○		3	7		3		2	オムニバス
		医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④			2			○		3	2				2	オムニバス
		P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Research Writing ）	1.2.3.4③～④			1			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Communication Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		P.A.C.E.（Presentation Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		小計（47科目）	－	－	8	61	0	－			11	9	0	8	0	47	
	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1.2①②			1		○								1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1.2③④			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1.2③④			1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○								1	
		フィリピノ語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④			1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1.2①			2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1.2②			2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							2	
		フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							1	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	初修外国語	ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1.2④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1.2①			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1.2②			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語セミナーE	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーF	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1.2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A（発音・文法）	1.2③～④			2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		上海語演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		中国語セミナーG	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーH	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーN	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		朝鮮語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		スペイン語スタンダード II	1.2③～④			3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③			1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④			1			○							1	メディア
		フィリピノ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		フィリピノ語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		小計（141科目）	－	－	0	249	0	－			0	0	0	0	0	53	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④		1					○						16	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1.2.3.4①～②			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅱ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅰ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		小計（15科目）	－	－	1	14	0		－		0	0	0	0	0	26	
	情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④			2			○							10	
		データサイエンス総論Ⅰ	1.2.3.4①③			1		○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○								6	オムニバス
		データサイエンス総論Ⅱ	1.2.3.4②④			1		○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1.2.3.4②			2		○								3	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	1.2.3.4②			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2			○		1						
		情報処理概論Ａ Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②			6			○							1	
		情報処理概論Ａ II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		データサイエンス発表	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①			2		○								1	
		小計（17科目）	－	－	2	36	0		－		1	0	0	0	0	32	
	新潟大学個性化科目	日本酒学C	1.2.3.4②			1		○								5	オムニバス
		日本酒学A	1.2.3.4①～②			2		○							1	3	オムニバス
		キャリアデザイン	1.2.3.4①～②			2		○								3	オムニバス
		SDGs入門演習	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		新潟産業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
		新潟の農林業	1.2.3.4③			2		○								10	メディア、オムニバス
		食と健康の科学	1.2.3.4④			2		○								13	オムニバス
		土と水	1.2.3.4④			2		○								14	オムニバス
		近世越後諸地域の歴史と社会	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		SDGs入門	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		地域を探る	1.2.3.4③～④			2		○							1	13	オムニバス
		日本酒学B	1.2.3.4①～④			1		○							1	8	オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅰ	1.2.3.4①			1		○								3	※演習、オムニバス
		生まれ変わる地方小都市－人とまちの未来図を描く－	1.2.3.4①			2			○							1	メディア
		自己・他者理解から始まるキャリア自律	1.2.3.4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
		仕事・業界理解から働く意味を探究する	1.2.3.4③			2		○								2	※演習、オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅱ	1.2.3.4②			1			○							3	メディア、オムニバス
		ボランティア開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		地域から文化を考える	1.2.3.4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
		学校支援フィールドワークA（小学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（中学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（高等学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（小学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（中学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	授業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅰ	1.2.3.4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		生涯学習社会とメディア	1.2.3.4③			2		○								1	
		私のローカルキャリア論 －地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかた－	1.2.3.4③			2		○								1	※演習、メディア
		ボランティア開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅱ	1.2.3.4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲb	1.2.3.4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1.2.3.4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅰ	1.2.3.4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱa	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱb	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習　メディア、オムニバス
		地域共創演習Ib	1.2.3.4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲa	1.2.3.4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		コミュニティーインターンシップ実践	1.2.3.4①～④			4			○							1	※実験・実習
		日本手話Ａ	1.2.3.4①			2		○								4	オムニバス
		アクティブラーニングA	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		アクティブラーニングC	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		日本と外国人	1.2.3.4①②③④			1		○								1	メディア
		ユーザのための数学I	1.2.3.4①			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門A	1.2.3.4①			1		○								1	
		分野横断デザイン	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修B1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修C1	1.2.3.4①③			1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1.2.3.4②④			1		○								1	
		日本手話Ｂ	1.2.3.4②			2		○								4	オムニバス
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1.2.3.4②			2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1.2.3.4②			2		○								7	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門B	1.2.3.4②			1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1.2.3.4②			1		○								6	オムニバス
		中国留学準備講座　サマーセミナー中国入門	1.2.3.4②			1		○								1	オムニバス
		多文化間共修A2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修B2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修C2	1.2.3.4②④			1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		平和を考えるＡ	1.2.3.4①～②			2		○								5	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		International Relations in the Asia-Pacific	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Regionalism in the Asia-Pacific Region	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Chinese Politics and Diplomacy	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		生命保険を考える	1.2.3.4①～②			2		○								7	オムニバス
		ストレスマネジメント	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		パーソナルファイナンス論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	1.2.3.4②～③			2		○								1	※演習
		学問の扉　知と方法の最前線	1.2.3.4③～④			1		○						1		12	メディア、オムニバス
		平和と現代のグローバル安全保障論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		中東イスラーム言語文化入門	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		大学生のための役に立つ育児学	1.2.3.4①～②			1		○				1		1		5	オムニバス
		朱鷺・自然再生フィールドワーク	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ	1.2.3.4①～②			4				○						2	オムニバス
		表現プロジェクト演習Ｑ	1.2.3.4①～②			2			○							2	オムニバス
		異文化と技術	1.2.3.4①～②③～④			1		○								5	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	研究者の仕事と生活	1.2.3.4①～②			1		○			1					5	メディア、オムニバス
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・演習	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		森・里・海フィールド実習	1.2.3.4①～②			1				○						6	オムニバス
		開発・環境と平和	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		韓国サマースクールⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
		カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
		韓国サマーセミナーⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
		地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○							6	オムニバス
		トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○								8	オムニバス
		キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習Ｇ	1.2.3.4③			2			○							1	
		ユーザのための数学II	1.2.3.4③			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門C	1.2.3.4③			1		○								1	
		国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
		西洋カリグラフィーＡ	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
		リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
		大学生活戦略論　－キャンパス内外を「越境」する学び・経験－	1.2.3.4④			2		○								1	
		シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
		オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
		佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1.2.3.4④			2		○								3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅰ	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅱ4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習Ｈ	1.2.3.4③～④			2			○							1	オムニバス
		平和を考えるＢ	1.2.3.4③～④			2		○							1	8	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		台湾スプリングセミナー Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		台湾スプリングセミナー II	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
		フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
		佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○						5	オムニバス
		地域共創特別演習(岩室)	1.2.3.4①～④			2			○							1	
		地域共創特別演習ⅠA（刈羽＆東京）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		地域共創特別演習ⅠB（刈羽＆東京）	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
		小計（139科目）	－		0	248	0				1	1	0	2	1	189	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	留学生基本科目	英語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		日本語Ⅰ	1.2.3.4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
		日本語Ⅲ	1.2.3.4①③			2			○							1	
		英語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		日本語Ⅱ	1.2.3.4②④			2			○							1	メディア
		日本語Ⅳ	1.2.3.4②④			2			○							1	
		JLPT-N1 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	メディア
		JLPT-N2 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	
		日本語作文Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅱ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 I	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 II	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 III	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 IV	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 V	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 VI	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語入門	1.2.3.4①～②③～④			3			○							2	
		日本語Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			4			○							1	
		日本語Ⅵ	1.2.3.4①～②			5			○							1	
		英語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		英語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		JLPT-N1 C	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		集中日本語０ F	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語０ G	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語０ H	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		日本語Ⅶ	1.2.3.4③～④			5			○							1	
		日本文化入門Ⅰ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	メディア
		日本文化入門Ⅱ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	
		日本事情自然系Ａ	1.2.3.4①～②			2		○								9	オムニバス
		課題研究Ⅱ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		ビジネス日本語	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		日本で働く	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本事情社会系Ａ	1.2.3.4③～④			2		○								3	メディア、オムニバス
		日本事情自然系Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		課題研究Ⅰ	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		小計（41科目）	－	－	0	77	0	－			0	0	0	0	0	27	
	大学学習法	人文初年次演習	1.2.3.4①～②			2			○							10	オムニバス
		スタディ・スキルズＡ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズＢ	1.2.3.4①			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズＣ	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズＥ	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズＦ	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズＧ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＨ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＩ	1.2.3.4①			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズＫ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＬ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズＭ	1.2.3.4①			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＮ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＰ	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズ	1.2.3.4①			2			○							11	オムニバス
		スタディスキルズⅠ	1.2.3.4①			1			○							10	オムニバス
		スタディスキルズⅡ	1.2.3.4③			1			○							18	オムニバス
		スタディスキルズⅢ	1.2.3.4④			1			○							2	オムニバス
		スタディスキルズ （看護）	1.2.3.4①	○	2				○		3	1				1	オムニバス
		スタディスキルズ （放射）	1.2.3.4①～②	○	2				○					1			
		スタディスキルズ （検査）	1.2.3.4①～②	○	2				○		3	6		3		2	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		工学リテラシー入門（力学分野）	1.2.3.4①			2			○							19	オムニバス
		工学リテラシー入門（情報電子分野）	1.2.3.4①			2		○								18	※演習、オムニバス
		工学リテラシー入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2			○							18	オムニバス
		工学リテラシー入門（建築分野）	1.2.3.4①			2			○							12	オムニバス
		工学リテラシー入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2			○							8	オムニバス
		スタディ・スキルズＡⅠａ	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅡａ	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅠｂ	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅡｂ	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅠｃ	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅡｃ	1.2.3.4③			1			○							8	
		小計（34科目）	－	－	6	53	0	－			6	7	0	4	0	177	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1.2.3.4①			1		○								1	
		解析学基礎2	1.2.3.4②			1		○								1	
		数学基礎A1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		物理学基礎Ａ Ⅰ	1.2.3.4①①～②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②			2		○								6	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④			2		○			1					1	オムニバス
		化学基礎Ａ	1.2.3.4①②③			2		○								5	オムニバス
		化学基礎Ｂ	1.2.3.4①②④			2		○								3	オムニバス
		生物学基礎Ａ	1.2.3.4①②①～②③			2		○								4	オムニバス
		生物学基礎Ｂ	1.2.3.4①②③③～④			2		○								5	オムニバス
		地学基礎Ａ	1.2.3.4①③			2		○								2	オムニバス
		地学基礎Ｂ	1.2.3.4①			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎Ａ ⅡⅠ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学基礎Ｃ	1.2.3.4④			2		○								1	
		小計（22科目）	－	－	12	36	0	－			1	0	0	0	0	45	
	自然科学	リメディアル数学I	1.2.3.4①			1		○								4	オムニバス
		基礎数理Ａ Ⅰ	1.2.3.4②④			2		○								5	オムニバス
		物理学への招待Ａ	1.2.3.4②			2		○								1	
		生物学実験	1.2.3.4②			1				○						6	オムニバス
		基礎雪氷学	1.2.3.4②			2		○								5	オムニバス
		リメディアル数学ⅠⅠ	1.2.3.4②			1		○								4	オムニバス
		生物学－植物A－	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○	2					1	オムニバス
		地学実験Ａ	1.2.3.4①～②			2				○						1	
		自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						17	オムニバス
		量子研究の最前線	1.2.3.4①～②			2		○								12	オムニバス
		数学の世界	1.2.3.4③			2		○								4	オムニバス
		基礎数理B	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		化学とSDGs	1.2.3.4③			2		○								3	オムニバス
		社会を支える有機化学	1.2.3.4③			2		○								1	
		生物学－動物Ａ－	1.2.3.4③			2		○								1	
		地質学の基礎	1.2.3.4③			2		○								1	
		地学実験Ｂ	1.2.3.4③			1				○						1	
		基礎数理Ａ ⅡⅠ	1.2.3.4④			2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		地学概論Ａ	1.2.3.4①④			2		○								2	
		地球と気象	1.2.3.4④			2		○								1	
		地学Ｃ（マグマと火山）	1.2.3.4④			1		○								1	オムニバス
		物理学への招待Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学概論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		最先端技術を支える化学 Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								9	メディア、オムニバス
		都市インフラを考える	1.2.3.4①			2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1.2.3.4①			1		○								1	
		原子力・放射線防護学入門	1.2.3.4①			1		○								2	オムニバス
		生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1.2.3.4②			2		○								1	オムニバス
		原子力・放射線関連法規入門	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		くらしを支える機械システム工学	1.2.3.4③			2		○								13	オムニバス
		材料科学概論	1.2.3.4③			2		○								14	オムニバス
		安全工学基礎	1.2.3.4④			2		○								1	オムニバス
		化学実験	1.2.3.4③～④			2				○						6	オムニバス
		特許・経営および製品開発入門	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		放射線入門と実習	1.2.3.4①～④			1				○						1	オムニバス
		原子力の未来と災害を考える	1.2.3.4①～④			1		○								3	オムニバス
		特許と技術経営I	1.2.3.4①～②			1		○								2	オムニバス
		特許と技術経営Ⅱ	1.2.3.4③～④			1		○								3	オムニバス
		農業資源を知る	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		生命を知る	1.2.3.4①			2		○								13	メディア、オムニバス
		生態系を知る	1.2.3.4②			2		○								8	オムニバス
		農業DXを知る	1.2.3.4①～②			1		○								1	
		医学物理学入門	1.2.3.4③			1		○			1	1				6	オムニバス
		小計（45科目）	－	－	12	76	0	－			3	1	0	0	0	136	
	人文社会・教育科学	歴史学Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								1	
		メディアの記号論	1.2.3.4①③			2		○								1	
		実験心理学と応用	1.2.3.4①			2		○								1	
		英語基礎 L	1.2.3.4①①～②			1			○							17	オムニバス
		技術日本語演習	1.2.3.4②			2			○		1						
		人文系フロンティア	1.2.3.4②			4		○								20	オムニバス
		現代日本と伝統文化	1.2.3.4②③④			2		○								1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	人文社会・教育科学	歴史学Q	1.2.3.4②			2		○								1	
		英語基礎 R	1.2.3.4②①～②			1			○							14	オムニバス
		心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本語教育Ⅰ－A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		少数民族の言語と文化	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		教養の心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		音と音楽をめぐる科学と教養	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		心と社会	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		哲学	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		生涯学習概論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		歴史学H	1.2.3.4③			2		○								1	
		心理学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		心と脳の科学リテラシー	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会論	1.2.3.4③			2		○								1	
		人間関係論	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会と科学技術	1.2.3.4③			2		○								1	
		文化人類学の方法–他者へのまなざし	1.2.3.4③			2		○								1	
		アクターネットワークの社会学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		歴史学0	1.2.3.4③			2		○								1	隔年
		中国語オプショナルA	1.2.3.4③			2			○							1	
		意思決定のコミュニケーション論	1.2.3.4④			2		○								1	
		つながりと絆の社会学	1.2.3.4④			2		○								1	
		朝鮮語オプショナルB	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		音楽R	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		対人行動の心理学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		セクシュアリティ・スタディーズ	1.2.3.4③～④			2		○			1					7	オムニバス
		人文系展開科目D	1.2.3.4③～④			2		○							1	12	オムニバス
		日本古典文学N	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		日本古典文学0	1.2.3.4①			2		○								1	
		文学D	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		西洋哲学演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		演劇入門	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		現代思想論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		人文系展開科目Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								1	隔年
		日本語教育Ⅰ－B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		教養教育としての教育学入門	1.2.3.4③			2			○							1	
		精神疾患とその治療	1.2.3.4②			2		○								1	メディア
		公認心理師の職責	1.2.3.4②			1		○								3	オムニバス
		ビジネス書道入門	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		音楽(ピアノ)	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		水彩画表現入門	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		美術史	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		人体の構造と機能及び疾病	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		福祉心理学	1.2.3.4①～②			2		○								2	隔年、オムニバス
		教養を考える	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習、オムニバス
		司法・犯罪心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		臨床心理学概論	1.2.3.4④			2		○								1	メディア
		音楽E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		日本文化論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		心理演習	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		心理的アセスメント	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		関係行政論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		健康生活環境論	1.2.3.4③～④			2		○								1	メディア
		心理実習	1.2.3.4①～④			2				○						3	オムニバス
		人文社会科学入門（法学）	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムA	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		日本国憲法	1.2.3.4①②③④①～②③～④			2		○								5	オムニバス
		リーガル・システム	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		リーガル・システムB	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		死因究明と法	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		組織マネジメント論	1.2.3.4①			2		○								1	
		マーケティングプロモーション入門	1.2.3.4②			1		○								1	
		小計（68科目）	－	－	0	136	0	－			2	0	0	0	1	104	
	医歯学	はじめての医学	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		先端医科学研究概説	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		医学序説 Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		原子力と倫理	1.2.3.4④			1		○			1					2	オムニバス
		医学序説 II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		健康と医学	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		災害医療概論	1.2.3.4①～④			1		○								1	
		原子力災害医療体制	1.2.3.4①～④			1		○								1	※実験・実習
		災害医療ロジスティクス	1.2.3.4①～④			1		○								1	
		「食べる」	1.2.3.4①			2		○								14	オムニバス
		PBL入門	1.2.3.4②			1		○								3	※演習、オムニバス
		健康福祉学入門	1.2.3.4②			2		○								12	メディア、オムニバス
		新潟発福祉学	1.2.3.4③			2		○								10	オムニバス
		顔	1.2.3.4③～④			2		○								12	オムニバス
		小計（16科目）	－	－	0	26	0	－			1	0	0	0	0	55	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育に関する授業科目	看護学専攻	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1①～②	○	2			○				2					
			人体の構造と機能Ⅱ	1③～④	○	2			○			2	1					オムニバス
			遺伝と分子生物学	1③～④	○		2		○			2						
			医療と画像技術	1③～④	○		2		○			3	2					オムニバス
			環境と健康	2①～②	○	2			○			1	2					オムニバス
			生活習慣と健康	2③～④	○		2		○			3	7		1			オムニバス
			疾病の原因と成り立ち	2①～②	○	2			○			3						オムニバス
			疾病の予防と治療	2③～④	○	2			○			4	3					オムニバス
			性と個体発生の科学	3①～②	○		2		○			1	1		1			オムニバス
			人間工学論	1①～②	○		2		○			1						
			医学と医療の歴史	1③～④	○		2		○			4	1		1			オムニバス
			ケアの基本理念と実際	1③～④	○		2		○			4	4		5			オムニバス
			医療の倫理	2①～②	○	2			○			3	1		1			オムニバス
			医療と法	2①～②	○		2		○			1			3			メディア、オムニバス
			社会保障論	2②	○	1			○			1	2		3			オムニバス
			医療ボランティア論	2③	○		1		○			1	1		1			メディア、オムニバス
			医療統計学	2③～④	○	2			○			1						
			保健学総合	1③～④	○		2		○			7	4		3			オムニバス
			救急救護法	3①	○		1		○			1						
			国際保健医療学	4③	○		1		○				2		1			オムニバス
			国際医療情報科学	4③	○		1		○			1						
			小計（21科目）	－	－	15	22	0	－			9	9	0	12	2	0	－
		専門教育科目	健康支援関係法規	1③	○	1			○			1	1		3			オムニバス
			保健医療福祉行政論	1④	○	1			○			1	2		2			オムニバス
			治療法概説	2①	○	1			○			2	1		1			オムニバス
			病態論	2①～②	○	2			○			2	1		1			オムニバス
			栄養学	2③	○	1			○			1						
			健康危機管理論	4③	○	1			○						1			
			看護学原論	1①	○	1			○			1			2			オムニバス
			看護ケア論	1②	○	1			○			1			1			
			援助的人間関係論	1②	○	1			○				1		1			
			発達段階別対象論	1③	○	1			○			1	1		3			メディア、オムニバス
			生活援助論	2①	○	1			○				1		2			オムニバス
			看護過程展開技術演習	2②	○	1				○			1		2			オムニバス
			生活援助技術演習	2②	○	1				○			2		3			オムニバス
			診療援助技術演習	2④	○	1				○		1	2		2			オムニバス
			フィジカルアセスメント演習	2③	○	1				○		1	2		2			オムニバス
			ナラティヴケア論	2④	○		1		○			2						
			臨床課題解決基礎演習	3①	○	1			○			2	5		3			オムニバス
			看護教育管理論	4①	○	1			○			1	1		1			オムニバス
			看護教育方法論	4①	○		1		○			1	1		1			オムニバス
			看護療法	4③	○		1		○			1	1		1			オムニバス
			基礎看護学実習Ⅰ	1②	○	1					○	1	2		3			オムニバス
			基礎看護学実習Ⅱ	2④	○	2					○	1	2		3			オムニバス
			成人・老年看護学概論	2②	○	1			○			1	2					オムニバス
			アキュートケア看護論	2④	○	1			○			1			2			オムニバス
			クロニックケア看護論	3①	○	1			○				2		2			オムニバス
			バリアティブケア看護論	3②	○	1			○			1			2			オムニバス
			成人・老年看護技術論Ⅰ	3①	○	1				○		2	2		4			オムニバス
			成人・老年看護技術論Ⅱ	3②	○	1				○		2	2		4			オムニバス
			成人・老年看護学実習Ⅰ	3③～④	○	2					○	1	1		4			オムニバス
			成人・老年看護学実習Ⅱ	3③～④	○	2					○	1	2		4			オムニバス
			エイジング看護論	2③	○	1			○				1		2			オムニバス
			疾病の成因と治療	1②	○	1			○			2	1		1			オムニバス
			成人・老年看護技術論Ⅲ	3①	○	1				○		1	3		8			オムニバス
			成人・老年看護技術論Ⅳ	3②	○	1				○		2	1		3			オムニバス
			成人・老年看護学実習Ⅲ	3③～④	○	2					○	1	2		4			オムニバス
			小児看護学概論	2①	○	1			○			1	1		1			オムニバス
			小児疾病治療論	2③	○	1			○			2	2		3		1	メディア、オムニバス
			小児生活支援看護論	3①	○	1			○				1		1			
			小児看護学演習	3②	○	1				○		1	1		1			オムニバス
			小児看護学実習	3③～④	○	2					○	1	1		1			オムニバス
			母性家族支援看護論	2②	○	1			○			1	2		1			オムニバス
			リプロダクティブヘルス看護論	2①	○	1			○			1	2		1			オムニバス
			産科婦人科疾病治療概論	2①	○	1			○			2	2					オムニバス
			母性家族支援看護演習	3①	○	1				○		1	2		2			オムニバス
			母性家族支援看護実習	3③～④	○	2					○	1	2		1			オムニバス
			精神看護学概論	2①	○	1			○			1			2			オムニバス
			精神科治療概論	2②	○	1			○			2			1			オムニバス
			精神看護学	2③	○	1			○			1			2			オムニバス
			精神看護学演習	3②	○	1				○		1			2			オムニバス

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門教育に関する授業科目	看護学専攻	専門教育科目	精神看護学実習	3③～④	○	2					○	1			2			オムニバス
			公衆衛生看護学原論	1③	○	1			○			1	2		1			オムニバス
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2①～②	○	2			○			1	2		1			オムニバス
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	2④	○	1			○			1	2		1			オムニバス
			地域・在宅看護論	2①	○	1			○				1		1			
			地域・在宅看護論演習	3①	○	1				○		1	2		1			オムニバス
			新潟地域看護学実習	2②	○	2					○	1	2		1			オムニバス
			地域・在宅看護論実習	3③～④	○	2					○	1	2		1			オムニバス
			国際看護学	1①	○	1			○			1	2		1			オムニバス
			看護学特論Ⅰ	2④	○	1			○			9						オムニバス
			看護学特論Ⅱ	4③	○		1		○									
			異文化看護演習	4①	○		1			○			1		1			
			看護研究演習Ⅰ	3④	○	1				○		3	3		2			オムニバス
			看護研究演習Ⅱ	4①～③	○	2				○		2	1		1			オムニバス
			チーム医療実習	3③～④	○	2					○	3	3		5			オムニバス
			統合実践実習	4①～②	○	2					○	1	2		3			オムニバス
			助産学原論	2④	○		1		○			1	1		1			オムニバス
			ウィメンズヘルスナーシング	2③	○		1		○				1		1			
			周産期病態論	2③～④	○		2		○			2	2		2		1	オムニバス
			助産ケア論	3①	○		2		○			1	2		1			オムニバス
			セクシュアルカウンセリング	3②	○		1		○			1						
			助産ケア演習Ⅰ	3②	○		1			○		1	2		1			オムニバス
			助産ケア演習Ⅱ	4①	○		2			○		1	2		1			オムニバス
			助産学特論	4③	○		1		○			1	1					
			助産管理	4③	○		1		○			1						
			地域母子保健実習	4③	○		1				○		1					
			助産学実習	4②	○		8				○	1	2		1			オムニバス
			学校・産業保健論	2③	○		1		○			1	2		1			オムニバス
			健康相談・家庭訪問の技法	3①	○		1		○			1	2		1			オムニバス
			健康教育・グループ支援の技法	3①	○		1		○			1	2		1			オムニバス
			コミュニティ・アセスメントの技法	3①	○		1		○			1	2		1			オムニバス
			コミュニティ・アセスメント演習	4①	○		1			○			1					
			公衆衛生看護学技術演習	4③	○		1			○		1	2		1			オムニバス
			公衆衛生看護管理論	4③	○		1		○			1	2		1			オムニバス
			健康危機管理実践論	4③	○		1		○			1	2		1			オムニバス
			健康政策論	4③	○		1		○			1						
			疫学特講	4③	○		1		○			1						
			公衆衛生看護学実習	4②	○		4				○	1	2		1			オムニバス
			小計（87科目）	－	－	74	40	0	－			9	9	0	12	0	2	－
	放射線技術科学専攻	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1①～②	○	2			○				2					
			人体の構造と機能Ⅱ	1③～④	○	2			○			2	1					オムニバス
			遺伝と分子生物学	1③～④	○		2		○			2						
			医療と画像技術	1③～④	○		2		○			3	2					オムニバス
			環境と健康	2①～②	○	2			○			2	2					オムニバス
			生活習慣と健康	2③～④	○		2		○			3	7		1			オムニバス
			疾病の原因と成り立ち	2①～②	○	2			○			3			1			オムニバス
			疾病の予防と治療	2③～④	○	2			○			4	3					オムニバス
			性と個体発生の科学	3①～②	○		2		○			1	1		1			オムニバス
			人間工学論	1①～②	○		2		○			1						
			医学と医療の歴史	1③～④	○		2		○			4	1		1			オムニバス
			ケアの基本理念と実際	1③～④	○		2		○			4	4		5			オムニバス
			医療の倫理	2①～②	○	2			○			3	1		1			オムニバス
			医療と法	2①～②	○		2		○			1			3			メディア、オムニバス
			社会保障論	2①～②	○		1		○			1	2		3			オムニバス
			医療ボランティア論	2③	○		1		○			1	1		1			メディア、オムニバス
			医療統計学	2③～④	○		2		○			1						
			保健学総合	1③～④	○		2		○			7	4		3			オムニバス
			救急救護法	3①	○		1		○			1						
			国際保健医療学	4③	○		1		○				2		1			オムニバス
			国際医療情報科学	4③	○		1		○			1						
			小計（21科目）	－	－	12	25	0	－			7	2	0	5	0	0	－
		専門教育科目	応用数学	2①～②	○	2			○									
			医用工学	2①～②	○	2			○			1						
			医用工学演習	2③～④	○	1				○		1						
			医用工学実験	2③～④	○	1					○	1						
			医用システム工学実験	3①～②	○		1				○	2						
			医用生体工学	3③	○		1		○			1						
			情報科学実習	2①～②	○		1				○	1						
			放射線物理学	2①～②	○	2			○			1						
			放射線物理学演習	2③～④	○	1				○		1						
			放射線理工学演習	3③～④	○	1				○		1	1					
			放射線計測学	2③～④	○	2				○		1						
			放射線計測学演習	3①～②	○	1			○			1						
			放射線計測学実験	3③～④	○	1					○	1						
			放射化学及び演習	2①～②	○	1				○					1			
			放射化学実験	2③～④	○	1					○		2		1			オムニバス

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門教育に関する授業科目	放射線技術科学専攻	専門教育科目	放射線生物学及び演習	2①～②	○	1				○		1						
			放射線衛生学	2①	○	1			○				2		1			オムニバス
			放射線関係法規及び演習	2①～②	○	1				○			1		1			
			放射線管理学及び演習	3③～④	○	1				○			1					
			放射線管理学実験	3③～④	○	1					○		3		2			オムニバス
			診療画像機器学Ⅰ	2③～④	○	2			○			1	1		1			オムニバス
			診療画像機器学Ⅱ	3①～②	○	2			○			1	1		1			オムニバス
			診療画像機器学実験Ⅰ	3①～②	○	1					○	1	2		1			オムニバス
			診療画像機器学実験Ⅱ	3③～④	○	1					○	1	2		1			オムニバス
			診療画像機器学演習	3①～②	○	1				○		1	1					
			基礎放射線医学	1②	○	1			○			3						オムニバス
			画像解剖学演習	2①～②	○	1				○		1			1			
			画像医学Ⅰ	3①	○	1			○			1			1			
			画像医学Ⅱ	3②	○	1			○			1			1			
			画像医学演習	3③～④	○	1				○		1			1			
			放射線写真学	2①～②	○	1			○			2	2		1			オムニバス
			放射線撮影技術学Ⅰ	2④	○	1			○			1			1			
			放射線撮影技術学Ⅱ	3①～②	○	2			○			1			1			
			放射線撮影技術学Ⅲ	3③～④	○	2				○		2	2		4			オムニバス
			磁気共鳴画像技術学演習	3③～④	○	1				○		2			1			オムニバス
			超音波技術学	3③	○	1			○			1	2		1			オムニバス
			医療画像工学Ⅰ	2③	○	1			○			1						
			医療画像工学Ⅱ	2④	○	1			○			1						
			医療画像処理工学	3①	○	1			○			1						
			医療画像工学実験	3①～②	○	1					○				2			
			医療情報学	3③	○	1			○			1						
			医療画像処理工学演習	3③	○		1			○					1			
			医療情報システム概論	3④	○		1		○			1						
			核医学検査技術学Ⅰ	2③～④	○	2			○			1			1			
			核医学検査技術学Ⅱ	3①～②	○	2			○			1			1			
			核医学検査技術学Ⅲ	3③～④	○	2			○			1			2			オムニバス
			放射線治療技術学Ⅰ	2③～④	○	2			○			1	1					
			放射線治療技術学Ⅱ	3①～②	○	2			○			1	1					
			放射線治療技術学Ⅲ	3③～④	○	2			○			1	1					
			放射線治療技術学演習	3③～④	○	1				○		1	1					
			実践臨床画像学	3①～④	○	2			○			3	1		5			※演習、オムニバス
			臨床実習	4①～②	○	12					○	7	2		5			
			卒業研究	4③～④	○	4				○		7	2		5			
			放射線科学セミナー	3③～④	○	2				○		7	2		5			オムニバス
			医用放射線技術の歴史	1③～④	○		1		○				1		2			オムニバス
			小計（55科目）	－	－	79	6	0	－			7	2	0	5	0	0	－
	検査技術科学専攻	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1①～②	○	2			○				2					
			人体の構造と機能Ⅱ	1③～④	○		2		○			2	1					オムニバス
			遺伝と分子生物学	1③～④	○		2		○			2						
			医療と画像技術	1③～④	○		2		○			3	2					オムニバス
			環境と健康	2①～②	○	2			○			2	2					オムニバス
			生活習慣と健康	2③～④	○	2			○			3	7		1			オムニバス
			疾病の原因と成り立ち	2①～②	○	2			○			3			1			オムニバス
			疾病の予防と治療	2③～④	○		2		○			4	3					オムニバス
			性と個体発生の科学	3①～②	○		2		○			1	1		1			オムニバス
			人間工学論	1①～②	○		2		○			1						
			医学と医療の歴史	1③～④	○		2		○			4	1		1			オムニバス
			ケアの基本理念と実際	1③～④	○		2		○			4	4		5			オムニバス
			医療の倫理	2①～②	○	2			○			3	1		1			オムニバス
			医療と法	2①～②	○		2		○			1			3			メディア、オムニバス
			社会保障論	2①～②	○		1		○			1	2		3			オムニバス
			医療ボランティア論	2③	○		1		○			1	1		1			メディア、オムニバス
			医療統計学	2③～④	○		2		○			1						
			保健学総合	1③～④	○		2		○			7	4		3			オムニバス
			救急救護法	3①	○		1		○			1						
			国際保健医療学	4③	○		1		○				2		1			オムニバス
			国際医療情報科学	4③	○		1		○			1						
			小計（21科目）	－	－	10	27	0	－			4	7	0	3	0	0	－
		専門教育科目	人体機能構造学Ⅰ	2①	○	1			○				1		1			
			人体機能構造学Ⅱ	2②	○	1			○			1	1					
			人体構造学実習	2②	○		1				○				1			
			生体機能学実習	2④	○		1				○	1	1					
			生物化学	2①～②	○	2			○			1						
			生物化学実習	2③	○	1					○	1						
			ゲノム検査科学	3②	○	1			○			1	1					
			ゲノム検査科学実習	3④	○	1					○	1						
			ＲＩ検査科学	3①	○	1			○			1	1					
			循環器機能検査科学	3②	○	1			○			1	1					
			筋電図検査科学	3①	○	1			○						1			
			脳波検査科学	3②	○	1			○						1			

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門教育に関する授業科目	検査技術科学専攻	専門教育科目	呼吸機能検査科学	3③	○	1			○			1	1					
			平衡機能検査科学	3②	○	1			○						1			
			生理機能検査科学実習	3③～④	○	1					○	1	1		1		2	オムニバス
			画像検査科学	3③	○	1			○				1					
			画像検査科学実習	3④	○	1					○		1					
			医用工学概論	2③～④	○	2			○			1	1					
			医用工学実習	3③	○		1				○	1	1					
			情報科学概論演習	2②	○	1				○		1	1					
			病気の成り立ちⅠ	3①～②	○	2			○				1					
			病気の成り立ちⅡ	3①～②	○	2			○				1		1			
			疾患と臨床検査	3③	○	2			○				2		1			オムニバス
			血液学Ⅰ	2④	○	2			○				1					
			血液学Ⅱ	3①	○	2			○				1					
			血液検査科学実習	3②～③	○	1					○		1		1		1	
			医学検査管理総論	4①	○	2			○			5	7		2			オムニバス
			医学検査機器概論	2③	○	1			○			2	1		1		1	オムニバス
			分析系検査管理論	3④	○	1			○			1			2		1	オムニバス
			一般検査科学	2①～②	○	2			○				1					
			一般検査科学実習	2④	○	1					○		1					
			病態化学分析学Ⅰ	2①,③	○	2			○			1			1		1	
			病態化学分析学Ⅱ	2②	○	1			○				1					
			病態化学分析学実習Ⅰ	2①	○	1					○	1	1					
			病態化学分析学実習Ⅱ	2②	○	1					○	1	1					
			病理形態学Ⅰ	2③～④	○	2			○				1				1	
			病理形態学Ⅱ	3①～②	○		2		○				1				1	
			病理形態学実習Ⅰ	3①～②	○	1					○		1					
			病理形態学実習Ⅱ	3③～④	○	1					○		1					
			細胞検査学実習	3③～④	○	1					○		1					
			病原微生物学	2①～②	○	2			○			1	1					
			病原微生物学実習	2③～④	○	1					○		1					
			微生物検査科学	2③～④	○	2			○				1					
			微生物検査科学演習	3①	○	1				○			1					
			寄生虫検査科学	2①～②	○	2			○				1					
			寄生虫検査科学実習	2③	○	1					○		1					
			基礎免疫学	2③～④	○	2			○			1			1			
			免疫検査学演習	3④	○	1				○		1			1			
			免疫検査科学	3①～②	○	2			○			1			1			
			免疫検査科学実習	3①	○	1					○	1			1			
			臓器移植検査科学	3④	○	1			○			1					1	
			医療安全管理学	3④	○	1			○			3	1		2		1	※実習、オムニバス
			臨床検査管理概論	2①	○		1		○				1				1	
			医療制度概論	3④	○	1			○				1					
			臨床検査実習Ⅰ	4①～③	○	8					○	4	7		3			
			臨床検査実習Ⅱ	4①～③	○		4			○		4	6		3			
			小計（56科目）	－	－	73	10	0	－			4	7	0	3	0	11	－
合計（846科目）				－	－	304	1142	0	－			20	18	0	20	4	904	－

学位又は称号	学士（看護学）、学士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）

卒業要件及び履修方法

（卒業要件）
保健学科に4年以上在学し、所定の授業科目の単位（保健学科における教養教育に関する授業科目から26単位以上および保健学科における専門教育に関する授業科目から98単位）を修得すること。

（履修方法）
・保健学科における教養教育に関する授業科目（下表）から26単位以上

科目区分	修得単位数(各専攻共通)
英語	3
初修外国語	2
健康・スポーツ	1
大学学習法	2
情報リテラシー	1
新潟大学個性化科目	
自然系共通専門基礎	4
自然科学	◎18
人文社会・教育科学	
医歯学(別表第5に規定する授業科目を除く。)	
合計	26

・保健学科における専門教育に関する授業科目（下表）から98単位

区分		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
専門基礎科目	必修科目	15単位	12単位	10単位
	選択科目	6単位	5単位	8単位
	小計	21単位	17単位	18単位
専門教育科目	必修科目	74単位	79単位	73単位
	選択科目	3単位	2単位	7単位
	小計	77単位	81単位	80単位
合計		98単位	98単位	98単位

授業期間等

１学年の学期区分	2期
１学期の授業期間	15週
１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（歯学部歯学科）【基礎学部】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1		○								18	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②			1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1			○							19	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④			1			○							13	
		中級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							10	メディア
		上級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④			1			○							5	
		中級ＣＡＬＬ（留学準備）	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	メディア
		中級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①			1			○							1	
		中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②			1			○							1	
		上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④			2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②			0.5			○							1	
		英語表現セミナーＡ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーＢ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーＣ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		医療英語（看護）	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		医療英語（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
		医療英語（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④			2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Research Writing ）	1.2.3.4③～④			1			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Communication Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		P.A.C.E.（Presentation Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		小計（47科目）	－	－	0	69	0	－			0	0	0	0	0	77	
	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1.2③④			1		○								1	メディア

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1.2③④			1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○								1	
		フィリピノ語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④			1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1.2①			2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1.2②			2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							2	
		フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							1	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1.2④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1.2①			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1.2②			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							11	メディア

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語セミナーE	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーF	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1.2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A（発音・文法）	1.2③～④			2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		上海語演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		中国語セミナーG	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーH	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーN	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		朝鮮語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		スペイン語スタンダード II	1.2③～④			3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③			1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④			1			○							1	メディア
		フィリピノ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		フィリピノ語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		小計（141科目）	－	－	0	249	0		－		0	0	0	0	0	53	
	健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1.2.3.4①～②			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅱ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅰ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		小計（15科目）	－	－	0	15	0		－		0	0	0	0	0	26	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④			2			○							10	
		データサイエンス総論Ⅰ	1.2.3.4①③		1			○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○								6	オムニバス
		データサイエンス総論Ⅱ	1.2.3.4②④			1		○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1.2.3.4②			2		○								3	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	1.2.3.4②			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		情報処理概論Ａ Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②			6			○							1	
		情報処理概論Ａ Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		データサイエンス発表	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①			2		○								1	
		小計（17科目）	－	－	1	35	0	－			0	0	0	0	0	33	
	新潟大学個性化科目	日本酒学C	1.2.3.4②			1		○								5	オムニバス
		日本酒学A	1.2.3.4①～②			2		○						1	1	2	オムニバス
		キャリアデザイン	1.2.3.4①～②			2		○								3	オムニバス
		SDGs入門演習	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		新潟産業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
		新潟の農林業	1.2.3.4③			2		○								10	メディア、オムニバス
		食と健康の科学	1.2.3.4④			2		○			1					12	オムニバス
		土と水	1.2.3.4④			2		○								14	オムニバス
		近世越後諸地域の歴史と社会	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		SDGs入門	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		地域を探る	1.2.3.4③～④			2		○							1	13	オムニバス
		日本酒学B	1.2.3.4①～④			1		○						1	1	7	オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅰ	1.2.3.4①			1		○								3	※演習、オムニバス
		生まれ変わる地方小都市－人とまちの未来図を描く－	1.2.3.4①			2			○							1	メディア
		自己・他者理解から始まるキャリア自律	1.2.3.4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
		仕事・業界理解から働く意味を探究する	1.2.3.4③			2		○								2	※演習、オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅱ	1.2.3.4②			1			○							3	メディア、オムニバス
		ボランティア開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		地域から文化を考える	1.2.3.4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
		学校支援フィールドワークA（小学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（中学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（高等学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（小学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（中学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		授業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅰ	1.2.3.4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		生涯学習社会とメディア	1.2.3.4③			2		○								1	
		私のローカルキャリア論 －地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかた－	1.2.3.4③			2		○								1	※演習、メディア
		ボランティア開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅱ	1.2.3.4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲb	1.2.3.4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1.2.3.4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅰ	1.2.3.4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱa	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱb	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習 メディア、オムニバス
		地域共創演習Ⅰb	1.2.3.4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	地域共創演習Ⅲa	1.2.3.4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		コミュニティーインターンシップ実践	1.2.3.4①～④			4			○							1	※実験・実習
		日本手話Ａ	1.2.3.4①			2		○								4	オムニバス
		アクティブラーニングA	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		アクティブラーニングC	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		日本と外国人	1.2.3.4①②③④			1		○								1	メディア
		ユーザのための数学I	1.2.3.4①			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門A	1.2.3.4①			1		○								1	
		分野横断デザイン	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修B1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修C1	1.2.3.4①③			1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1.2.3.4②④			1		○								1	
		日本手話Ｂ	1.2.3.4②			2		○								4	オムニバス
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1.2.3.4②			2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1.2.3.4②			2		○								7	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門B	1.2.3.4②			1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1.2.3.4②			1		○								6	オムニバス
		中国留学準備講座　サマーセミナー中国入門	1.2.3.4②			1		○								1	オムニバス
		多文化間共修A2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修B2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修C2	1.2.3.4②④			1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		平和を考えるＡ	1.2.3.4①～②			2		○								5	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		International Relations in the Asia-Pacific	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Regionalism in the Asia-Pacific Region	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Chinese Politics and Diplomacy	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		生命保険を考える	1.2.3.4①～②			2		○								7	オムニバス
		ストレスマネジメント	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		パーソナルファイナンス論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	1.2.3.4②～③			2		○								1	※演習
		学問の扉　知と方法の最前線	1.2.3.4③～④			1		○						1		12	メディア、オムニバス
		平和と現代のグローバル安全保障論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		中東イスラーム言語文化入門	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		大学生のための役に立つ育児学	1.2.3.4①～②			1		○								7	オムニバス
		朱鷺・自然再生フィールドワーク	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ	1.2.3.4①～②			4				○						2	オムニバス
		表現プロジェクト演習Ｑ	1.2.3.4①～②			2			○							2	オムニバス
		異文化と技術	1.2.3.4①～②③～④			1		○								5	オムニバス
		研究者の仕事と生活	1.2.3.4①～②			1		○								6	メディア、オムニバス
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・演習	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		森・里・海フィールド実習	1.2.3.4①～②			1				○						6	オムニバス
		開発・環境と平和	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		韓国サマースクールⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
		カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
		韓国サマーセミナーⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
		地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○							6	オムニバス
		トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○								8	オムニバス
		キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習G	1.2.3.4③			2			○							1	
		ユーザのための数学II	1.2.3.4③			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門C	1.2.3.4③			1		○								1	
		国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
		西洋カリグラフィーA	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
		リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
		大学生活戦略論　－キャンパス内外を「越境」する学び・経験－	1.2.3.4④			2		○								1	
		シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
		オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
		佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1.2.3.4④			2		○								3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅰ	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅱ4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習H	1.2.3.4③～④			2			○							1	オムニバス
		平和を考えるB	1.2.3.4③～④			2		○							1	8	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		台湾スプリングセミナー Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		台湾スプリングセミナー Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
		フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
		佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○						5	オムニバス
		地域共創特別演習(岩室)	1.2.3.4①～④			2			○							1	
		地域共創特別演習ⅠA（刈羽&東京）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		地域共創特別演習ⅠB（刈羽&東京）	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
		小計（139科目）	－	－	0	248	0	－			1	0	0	2	1	190	
	留学生基本科目	英語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		日本語Ⅰ	1.2.3.4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
		日本語Ⅲ	1.2.3.4①③			2			○							1	
		英語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		日本語Ⅱ	1.2.3.4②④			2			○							1	メディア
		日本語Ⅳ	1.2.3.4②④			2			○							1	
		JLPT-N1 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	メディア
		JLPT-N2 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	
		日本語作文Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅱ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅱ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅵ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語入門	1.2.3.4①～②③～④			3			○							2	
		日本語Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			4			○							1	
		日本語Ⅵ	1.2.3.4①～②			5			○							1	
		英語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		英語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		JLPT-N1 C	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		集中日本語Ｏ F	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語Ｏ G	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語Ｏ H	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		日本語Ⅶ	1.2.3.4③～④			5			○							1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	留学生基本科目	日本文化入門Ⅰ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	メディア
		日本文化入門Ⅱ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	
		日本事情自然系A	1.2.3.4①～②			2		○								9	オムニバス
		課題研究Ⅱ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		ビジネス日本語	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		日本で働く	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本事情社会系A	1.2.3.4③～④			2		○								3	メディア、オムニバス
		日本事情自然系B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		課題研究Ⅰ	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		小計（41科目）	－	－	0	77	0	－			0	0	0	0	0	27	
	大学学習法	人文初年次演習	1.2.3.4①～②			2			○							10	オムニバス
		スタディ・スキルズA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズB	1.2.3.4①			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズC	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズE	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズF	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズG	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズH	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズⅠ	1.2.3.4①			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズK	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズL	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズM	1.2.3.4①			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズN	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズP	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズ	1.2.3.4①			2			○							11	オムニバス
		スタディスキルズⅠ	1.2.3.4①			1			○							10	オムニバス
		スタディスキルズⅡ	1.2.3.4③			1			○							18	オムニバス
		スタディスキルズⅢ	1.2.3.4④			1			○							2	オムニバス
		スタディスキルズ　（看護）	1.2.3.4①			2			○							5	オムニバス
		スタディスキルズ　（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディスキルズ　（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②	○	2				○			2	2			3	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②	○	2				○			1	2			2	オムニバス
		工学リテラシー入門（力学分野）	1.2.3.4①			2			○							19	オムニバス
		工学リテラシー入門（情報電子分野）	1.2.3.4①			2		○								18	※演習、オムニバス
		工学リテラシー入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2			○							18	オムニバス
		工学リテラシー入門（建築分野）	1.2.3.4①			2			○							12	オムニバス
		工学リテラシー入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2			○							8	オムニバス
		スタディ・スキルズAⅠa	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡa	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠb	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡb	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠc	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡc	1.2.3.4③			1			○							8	
		小計（34科目）	－	－	4	55	0	－			0	3	3	0	0	201	
	自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1.2.3.4①			1		○								1	
		解析学基礎2	1.2.3.4②			1		○								1	
		数学基礎A1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		物理学基礎A Ⅰ	1.2.3.4①①～②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②			2		○								6	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④			2		○								2	オムニバス
		化学基礎A	1.2.3.4①②③			2		○								5	オムニバス
		化学基礎B	1.2.3.4①②④			2		○								3	オムニバス
		生物学基礎A	1.2.3.4①②①～②③			2		○								4	オムニバス
		生物学基礎B	1.2.3.4①②③③～④			2		○								5	オムニバス
		地学基礎A	1.2.3.4①③			2		○								2	オムニバス
		地学基礎B	1.2.3.4①			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎A II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学基礎C	1.2.3.4④			2		○								1	
		小計（22科目）	－	－	0	36	0	－			0	0	0	0	0	46	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	自然科学	リメディアル数学I	1.2.3.4①			1		○								4	オムニバス
		基礎数理Ａ Ⅰ	1.2.3.4②④			2		○								5	オムニバス
		物理学への招待Ａ	1.2.3.4②			2		○								1	
		生物学実験	1.2.3.4②			1				○						6	オムニバス
		基礎雪氷学	1.2.3.4②			2		○								5	オムニバス
		リメディアル数学ＩＩ	1.2.3.4②			1		○								4	オムニバス
		生物学－植物A－	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						3	オムニバス
		地学実験Ａ	1.2.3.4①～②			2				○						1	
		自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						17	オムニバス
		量子研究の最前線	1.2.3.4①～②			2		○								12	オムニバス
		数学の世界	1.2.3.4③			2		○								4	オムニバス
		基礎数理B	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		化学とSDGs	1.2.3.4③			2		○								3	オムニバス
		社会を支える有機化学	1.2.3.4③			2		○								1	
		生物学－動物Ａ－	1.2.3.4③			2		○								1	
		地質学の基礎	1.2.3.4③			2		○								1	
		地学実験Ｂ	1.2.3.4③			1				○						1	
		基礎数理Ａ ⅡI	1.2.3.4④			2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		地学概論Ａ	1.2.3.4①④			2		○								2	
		地球と気象	1.2.3.4④			2		○								1	
		地学Ｃ（マグマと火山）	1.2.3.4④			1		○								1	オムニバス
		物理学への招待Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学概論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		最先端技術を支える化学 Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								9	メディア、オムニバス
		都市インフラを考える	1.2.3.4①			2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1.2.3.4①			1		○								1	
		原子力・放射線防護学入門	1.2.3.4①			1		○								2	オムニバス
		生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1.2.3.4②			2		○								1	オムニバス
		原子力・放射線関連法規入門	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		くらしを支える機械システム工学	1.2.3.4③			2		○								13	オムニバス
		材料科学概論	1.2.3.4③			2		○								14	オムニバス
		安全工学基礎	1.2.3.4④			2		○								1	オムニバス
		化学実験	1.2.3.4③～④			2				○						6	オムニバス
		特許・経営および製品開発入門	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		放射線入門と実習	1.2.3.4①～④			1				○						1	オムニバス
		原子力の未来と災害を考える	1.2.3.4①～④			1		○								3	オムニバス
		特許と技術経営I	1.2.3.4①～②			1		○								2	オムニバス
		特許と技術経営Ⅱ	1.2.3.4③～④			1		○								3	オムニバス
		農業資源を知る	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		生命を知る	1.2.3.4①			2		○								13	メディア、オムニバス
		生態系を知る	1.2.3.4②			2		○								8	オムニバス
		農業DXを知る	1.2.3.4①～②			1		○								1	
		医学物理学入門	1.2.3.4③			1		○								8	オムニバス
		小計（45科目）	－	－	0	76	0	－			0	0	0	0	0	139	
	人文社会・教育科学	歴史学Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								1	
		メディアの記号論	1.2.3.4①③			2		○								1	
		実験心理学と応用	1.2.3.4①			2		○								1	
		英語基礎 L	1.2.3.4①①～②			1			○							17	オムニバス
		技術日本語演習	1.2.3.4②			2			○							1	
		人文系フロンティア	1.2.3.4②			4		○								20	オムニバス
		現代日本と伝統文化	1.2.3.4②③④			2		○								1	
		歴史学Q	1.2.3.4②			2		○								1	
		英語基礎 R	1.2.3.4②①～②			1			○							14	オムニバス
		心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本語教育Ⅰ－Ａ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		少数民族の言語と文化	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		教養の心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		音と音楽をめぐる科学と教養	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		心と社会	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		哲学	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		生涯学習概論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		歴史学H	1.2.3.4③			2		○								1	
		心理学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		心と脳の科学リテラシー	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会論	1.2.3.4③			2		○								1	
		人間関係論	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会と科学技術	1.2.3.4③			2		○								1	
		文化人類学の方法–他者へのまなざし	1.2.3.4③			2		○								1	
		アクターネットワークの社会学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		歴史学0	1.2.3.4③			2		○								1	隔年
		中国語オプショナルＡ	1.2.3.4③			2			○							1	
		意思決定のコミュニケーション論	1.2.3.4④			2		○								1	
		つながりと絆の社会学	1.2.3.4④			2		○								1	
		朝鮮語オプショナルＢ	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		音楽R	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		対人行動の心理学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		セクシュアリティ・スタディーズ	1.2.3.4③～④			2		○								8	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	人文社会・教育科学	人文系展開科目D	1.2.3.4③～④			2		○							1	12	オムニバス
		日本古典文学N	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		日本古典文学0	1.2.3.4①			2		○								1	
		文学D	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		西洋哲学演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		演劇入門	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		現代思想論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		人文系展開科目Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								1	隔年
		日本語教育Ⅰ－B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		教養教育としての教育学入門	1.2.3.4③			2			○							1	
		精神疾患とその治療	1.2.3.4②			2		○								1	メディア
		公認心理師の職責	1.2.3.4②			1		○								3	オムニバス
		ビジネス書道入門	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		音楽(ピアノ)	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		水彩画表現入門	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		美術史	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		人体の構造と機能及び疾病	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		福祉心理学	1.2.3.4①～②			2		○								2	隔年、オムニバス
		教養を考える	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習、オムニバス
		司法・犯罪心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		臨床心理学概論	1.2.3.4④			2		○								1	メディア
		音楽E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		日本文化論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		心理演習	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		心理的アセスメント	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		関係行政論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		健康生活環境論	1.2.3.4③～④			2		○								1	メディア
		心理実習	1.2.3.4①～④			2				○						3	オムニバス
		人文社会科学入門（法学）	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムA	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		日本国憲法	1.2.3.4①②③④①～②③～④			2		○								5	オムニバス
		リーガル・システム	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		リーガル・システムB	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		死因究明と法	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		組織マネジメント論	1.2.3.4①			2		○								1	
		マーケティングプロモーション入門	1.2.3.4②			1		○								1	
		小計（68科目）	－	－	0	136	0	－			0	0	0	0	1	106	
	医歯学	はじめての医学	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		先端医科学研究概説	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		医学序説 Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		原子力と倫理	1.2.3.4④			1		○								3	オムニバス
		医学序説 II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		健康と医学	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		災害医療概論	1.2.3.4①～④			1		○								1	
		原子力災害医療体制	1.2.3.4①～④			1		○								1	※実験・実習
		災害医療ロジスティクス	1.2.3.4①～④			1		○								1	
		「食べる」	1.2.3.4①			2		○			3		2	2		7	オムニバス
		PBL入門	1.2.3.4②	○	1			○								3	※演習、オムニバス
		健康福祉学入門	1.2.3.4②			2		○								12	メディア、オムニバス
		新潟発福祉学	1.2.3.4③			2		○								10	オムニバス
		顔	1.2.3.4③～④			2		○			1		1			10	オムニバス
		小計（16科目）	－	－	1	25	0	－			3	0	2	2	0	49	
専門教育に関する授業科目	医歯学	早期臨床実習Ⅰ	1①～②	○	1					○	1	3	2	16		1	オムニバス
		バイオメディカルサイエンス	2①～②	○	1			○								1	
		医療統計学	2①～②	○	2			○			2	1		1			オムニバス
		微生物学Ⅰ	2①～②	○	2			○			1	2		1			オムニバス
		微生物学Ⅱ	2③～④	○	2			○			1	2		1			オムニバス
		歯科理工学Ⅰ	2①～②	○	1			○			1		1				オムニバス
		歯科理工学Ⅱ	2①～②	○	1			○			1		1				オムニバス
		生体理工学	2③～④	○	1			○			1		1				オムニバス
		人体解剖学Ⅰ	2①～②	○	2			○			1	1		1			オムニバス
		人体発生学	2①～②	○	1			○			2	1		1			オムニバス
		組織学総論	2③～④	○	1			○			2	1		1			オムニバス
		生理学Ⅰ	2①～②	○	2			○			1	1	1				オムニバス
		生理学Ⅱ	2③～④	○	2			○			1	1	1			1	オムニバス
		生化学実習	2①～②	○	1					○	1			1			オムニバス
		基礎生化学	2①～②	○	2			○			1						
		薬理学	2③～④	○	2			○						1			
		放射線学総論	2③～④	○	1			○			1	1	1	2			オムニバス
		歯学研究演習	2③～④	○	2				○		3	4		1			オムニバス
		地域歯科保健実習	2③～④	○	1					○	1	1	1				オムニバス
		国際歯科保健医療学入門	2③～④	○	2			○			1	1		1			オムニバス
		早期臨床実習Ⅱ	3①～②	○	2					○	9		1	1			オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育に関する授業科目	医歯学	人体解剖学Ⅱ	3①～②	○	1			○				1		1		1	オムニバス
		人体解剖学実習	3①～②	○	3					○	4	1		1			オムニバス
		組織学各論	3①～②	○	1			○			2	1		1			オムニバス
		口腔組織発生学	3①～②	○	1			○			2	1		1			オムニバス
		口腔生理学	3①～②	○	1			○			2	1		1			オムニバス
		口腔生化学	3①～②	○	1			○			2						オムニバス
		歯科薬理学	3①～②	○	2			○				2		2			オムニバス
		病理学総論	3③～④	○	2			○			1	1	1	1			オムニバス
		歯の形態学	3③～④	○	2			○			3	2	1	3			オムニバス
		齲蝕学	3③～④	○	2			○			3	3	3	3			オムニバス
		保存修復学	3③～④	○	1			○			1	1		1			オムニバス
		保存修復学実習	3③～④	○	1					○	1			3			オムニバス
		歯冠修復学	3③～④	○	3					○			1	4			オムニバス
		衛生学	3③～④	○	1			○			2	1	1				オムニバス
		生体材料学	3③～④	○	1			○			1		1	2			オムニバス
		顎口腔機能学	3③～④	○	1			○			1		1	2			オムニバス
		人体のしくみ	3③～④	○	2				○		8	4	1	1			オムニバス
		予防歯科学	4①～②	○	1			○			2	1	1	4			オムニバス
		予防歯科学実習	4①～②	○	1					○	1	1	1	4			オムニバス
		歯周病学	4①～②	○	2			○			1	3	1	4			オムニバス
		歯周病学実習	4③～④	○	1					○	1	2					オムニバス
		欠損補綴学Ⅰ	4①～②	○	2					○	1			2			オムニバス
		欠損補綴学Ⅱ	4③～④	○	1					○				3			オムニバス
		欠損補綴学Ⅲ	4③～④	○	1					○	1		1	2			オムニバス
		有床義歯学	4①～②	○	1			○			1		1	3			オムニバス
		口腔外科学Ⅰ	4①～②	○	1			○			1	2	1	2			オムニバス
		口腔外科学Ⅱ	4③～④	○	1			○			1	1	1	2		1	オムニバス
		口腔病理学	4①～②	○	3					○	1	1	1	1			オムニバス
		歯内療法学	4③～④	○	1			○			1	1					オムニバス
		歯内療法学実習	4③～④	○	1					○	1			2			オムニバス
		歯科矯正学	4③～④	○	1					○	1		1	2			オムニバス
		成長発育学	4①～②	○	2			○			2	1	2	5			オムニバス
		小児歯科学	4③～④	○	2			○			1	1	1	4			オムニバス
		障害者歯科学	4③～④	○	1			○			2	1	1	2			オムニバス
		加齢歯科学	4③～④	○	1			○			2	1	1	1		1	オムニバス
		歯科麻酔学	4③～④	○	1			○			1	1	2	2			オムニバス
		歯科放射線学	4③～④	○	1			○			1	1	1				オムニバス
		生涯にわたる歯と咬合	4①～②	○	2				○		3		2	19			オムニバス
		包括社会歯科学	4③～④	○	2				○		3			1			オムニバス
		医療倫理	4①～②	○	1			○								1	
		医科学Ⅰ	4①～②	○	2			○								7	オムニバス
		医科学Ⅱ	4③～④	○	2			○								5	オムニバス
		摂食嚥下障害学	5①～②	○	1			○			1	1	1	1			オムニバス
		全身管理学	5①～②	○	2			○			1	1	2	2		3	オムニバス
		医科学Ⅲ	5①～②	○	2			○								5	オムニバス
		総合模型実習	5①～②	○	3					○		3		6			オムニバス
		口腔と全身とのかかわり	5①～②	○	2				○		1	5	1	2			オムニバス
		口腔インプラント学	5①～②	○	1			○			3	2		3			オムニバス
		臨床予備実習	5①～④	○	8					○	1	1	3	1			オムニバス
		臨床実習Ⅰ	5③～④	○	17					○	5	3	2	1			オムニバス
		歯科臨床推論	6①～②	○	1				○				1	3			オムニバス
		歯科法医学	6①～②	○	1			○								2	オムニバス
		臨床実習Ⅱ	6①～②	○	18					○	2	3	2	1			オムニバス
		ネットワーク型先端歯学研究	3①～②	○		2			○		1						※実験・実習
		短期海外派遣実習	3①～②	○		1				○	1						
		小計（76科目）	－	－	149	3	0	－			18	19	15	59	0	29	－
	英語	コミュニケーション論Ⅰ	2③～④	○	1				○			1					
		コミュニケーション論Ⅱ	3①～②	○	1				○			1		1			
		臨床英会話	4③～④	○	1				○			1					
		小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			0	1	0	1	0	0	－
合計（665科目）			－	－	158	1,024	0	－			18	19	15	59	2	976	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	

学位又は称号	学士（歯学）	学位又は学科の分野	歯学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（卒業要件） 歯学科に6年以上在学し、所定の授業科目の単位（歯学科における教養教育に関する授業科目から40単位以上および歯学科における専門教育に関する授業科目から必修152単位）を修得すること。 （履修方法） ・歯学科における教養教育に関する授業科目（下表）から40単位以上	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

科目区分	細区分又は授業科目名等	修得単位数
英語	英語	2
初修外国語		2
大学学習法	歯学スタディ・スキルズ	2
	歯学スタディ・スキルズⅡ	2
人文社会・教育科学	教養を考える	2
情報リテラシー	データサイエンス総論Ⅰ	1
自然系共通専門基礎	数学・統計学	2
	物理学	2
	化学	2
	生物学	2
医歯学	PBL入門	1
留学生基本科目の日本語及び日本事情並びに歯学科における専門教育に関する授業科目を除く授業科目のうちから		20
合計		40

・歯学科における専門教育に関する授業科目　必修152単位

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（歯学部口腔生命福祉学科）【基礎学部】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1		○								24	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②			1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1			○							24	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④			1			○							13	
		中級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							10	メディア
		上級コミュニカティブ英語	1.2.3.4①～②③～④			2			○							6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							2	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④			1			○							5	
		中級ＣＡＬＬ（留学準備）	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	メディア
		中級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①			1			○							1	
		中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②			1			○							1	
		上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
		上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④			2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④			2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②			0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②			0.5			○							1	
		英語表現セミナーＡ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーＢ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		英語表現セミナーＣ	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
		医療英語（看護）	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		医療英語（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
		医療英語（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④			2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅰ）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading Ⅱ）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Research Writing ）	1.2.3.4③～④			1			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Communication Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		P.A.C.E.（Presentation Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		小計（47科目）	－	－	0	69	0	－			0	0	0	0	0	77	
	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1.2①②			1		○								1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1.2③④			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1.2①②			1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1.2③④			1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○								1	
		フィリピノ語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④			1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1.2①			2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1.2②			2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							2	
		フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							1	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1.2④			1			○							1	メディア

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1.2①			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1.2②			2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語セミナーE	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーF	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1.2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A（発音・文法）	1.2③～④			2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		上海語演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		中国語セミナーG	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーH	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		中国語セミナーN	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		朝鮮語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	隔年
		スペイン語スタンダード II	1.2③～④			3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③			1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④			1			○							1	メディア
		フィリピノ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
		フィリピノ語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
		小計（141科目）	－	－	0	249	0		－		0	0	0	0	0	53	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○						2	
		健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1.2.3.4①～②			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅱ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（卓球 Ⅰ）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
		健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		小計（15科目）	－	－	0	15	0		－		0	0	0	0	0	26	
	情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④			2			○							10	
		データサイエンス総論Ⅰ	1.2.3.4①③		1			○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○								6	オムニバス
		データサイエンス総論Ⅱ	1.2.3.4②④			1		○								7	オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1.2.3.4②			2		○								3	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	1.2.3.4②			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		情報処理概論Ａ Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②			6			○							1	
		情報処理概論Ａ II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		データサイエンス発表	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①			2		○								1	
		小計（17科目）	－	－	1	35	0		－		0	0	0	0	0	33	
	新潟大学個性化科目	日本酒学C	1.2.3.4②			1		○								5	オムニバス
		日本酒学A	1.2.3.4①～②			2		○							1	3	オムニバス
		キャリアデザイン	1.2.3.4①～②			2		○								3	オムニバス
		SDGs入門演習	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		新潟産業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
		新潟の農林業	1.2.3.4③			2		○								10	メディア、オムニバス
		食と健康の科学	1.2.3.4④			2		○								13	オムニバス
		土と水	1.2.3.4④			2		○								14	オムニバス
		近世越後諸地域の歴史と社会	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		SDGs入門	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		地域を探る	1.2.3.4③～④			2		○							1	13	オムニバス
		日本酒学B	1.2.3.4①～④			1		○							1	8	オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅰ	1.2.3.4①			1		○								3	※演習、オムニバス
		生まれ変わる地方小都市－人とまちの未来図を描く－	1.2.3.4①			2			○							1	メディア
		自己・他者理解から始まるキャリア自律	1.2.3.4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
		仕事・業界理解から働く意味を探究する	1.2.3.4③			2		○								2	※演習、オムニバス
		ダブルホーム活動入門Ⅱ	1.2.3.4②			1			○							3	メディア、オムニバス
		ボランティア開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		地域から文化を考える	1.2.3.4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
		学校支援フィールドワークA（小学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（中学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークA（高等学校）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（小学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		学校支援フィールドワークB（中学校）	1.2.3.4①～②			4			○							3	オムニバス
		授業フィールドワーク	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅰ	1.2.3.4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		生涯学習社会とメディア	1.2.3.4③			2		○								1	
		私のローカルキャリア論 －地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかた－	1.2.3.4③			2		○								1	※演習、メディア
		ボランティア開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		コミュニティ開発論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								2	オムニバス
		現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－Ⅱ	1.2.3.4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲb	1.2.3.4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1.2.3.4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅰ	1.2.3.4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱa	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱb	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習 メディア、オムニバス
		地域共創演習Ib	1.2.3.4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲa	1.2.3.4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		コミュニティーインターンシップ実践	1.2.3.4①～④			4			○							1	※実験・実習
		日本手話Ａ	1.2.3.4①			2		○								4	オムニバス
		アクティブラーニングA	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		アクティブラーニングC	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
		日本と外国人	1.2.3.4①②③④			1		○								1	メディア
		ユーザのための数学I	1.2.3.4①			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門A	1.2.3.4①			1		○								1	
		分野横断デザイン	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修B1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		多文化間共修C1	1.2.3.4①③			1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1.2.3.4①③			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1.2.3.4②④			1		○								1	
		日本手話Ｂ	1.2.3.4②			2		○								4	オムニバス
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1.2.3.4②			2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1.2.3.4②			2		○								7	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門B	1.2.3.4②			1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1.2.3.4②			1		○								6	オムニバス
		中国留学準備講座　サマーセミナー中国入門	1.2.3.4②			1		○								1	オムニバス
		多文化間共修A2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修B2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		多文化間共修C2	1.2.3.4②④			1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1.2.3.4②④			1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
		新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		平和を考えるＡ	1.2.3.4①～②			2		○								5	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		International Relations in the Asia-Pacific	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Regionalism in the Asia-Pacific Region	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		Chinese Politics and Diplomacy	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		生命保険を考える	1.2.3.4①～②			2		○								7	オムニバス
		ストレスマネジメント	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
		パーソナルファイナンス論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	1.2.3.4②～③			2		○								1	※演習
		学問の扉　知と方法の最前線	1.2.3.4③～④			1		○								13	メディア、オムニバス
		平和と現代のグローバル安全保障論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		中東イスラーム言語文化入門	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		大学生のための役に立つ育児学	1.2.3.4①～②			1		○								7	オムニバス
		朱鷺・自然再生フィールドワーク	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ	1.2.3.4①～②			4				○						2	オムニバス
		表現プロジェクト演習Q	1.2.3.4①～②			2			○							2	オムニバス
		異文化と技術	1.2.3.4①～②③～④			1		○								5	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	研究者の仕事と生活	1.2.3.4①～②			1		○								6	メディア、オムニバス
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・演習	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		森・里・海フィールド実習	1.2.3.4①～②			1				○						6	オムニバス
		開発・環境と平和	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		韓国サマースクールⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
		カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
		新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
		１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
		１・２年生対象　長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
		オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
		韓国サマーセミナーⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
		地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○							6	オムニバス
		トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○								8	オムニバス
		キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
		表現プロジェクト演習Ｇ	1.2.3.4③			2			○							1	
		ユーザのための数学II	1.2.3.4③			2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門C	1.2.3.4③			1		○								1	
		国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
		西洋カリグラフィーＡ	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
		リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
		大学生活戦略論　－キャンパス内外を「越境」する学び・経験－	1.2.3.4④			2		○								1	
		シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
		オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
		佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1.2.3.4④			2		○								3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅰ	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅱ4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
		ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習H	1.2.3.4③～④			2			○							1	オムニバス
		平和を考えるＢ	1.2.3.4③～④			2		○							1	8	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
		地理情報システム（ＧＩＳ）概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		台湾スプリングセミナー Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		台湾スプリングセミナー II	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
		フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
		佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○						5	オムニバス
		地域共創特別演習(岩室)	1.2.3.4①～④			2			○							1	
		地域共創特別演習ＩＡ（刈羽＆東京）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		地域共創特別演習ＩＢ（刈羽＆東京）	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
		小計（139科目）	－	－	－	248	0				0	0	0	0	1	193	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	留学生基本科目	英語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説a	1.2.3.4①			1		○								1	
		日本語Ⅰ	1.2.3.4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
		日本語Ⅲ	1.2.3.4①③			2			○							1	
		英語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｂ	1.2.3.4②			1		○								1	
		日本語Ⅱ	1.2.3.4②④			2			○							1	メディア
		日本語Ⅳ	1.2.3.4②④			2			○							1	
		JLPT-N1 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	メディア
		JLPT-N2 A	1.2.3.4①～②			1			○							1	
		日本語作文Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅱ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語作文Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 II	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 III	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 IV	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 V	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語読解 VI	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
		日本語入門	1.2.3.4①～②③～④			3			○							2	
		日本語Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			4			○							1	
		日本語Ⅵ	1.2.3.4①～②			5			○							1	
		英語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｃ	1.2.3.4③			1		○								1	
		英語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		中国語による日本語文法解説ｄ	1.2.3.4④			1		○								1	
		JLPT-N1 C	1.2.3.4③～④			1			○							1	
		集中日本語０ F	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語０ G	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		集中日本語０ H	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
		日本語Ⅶ	1.2.3.4③～④			5			○							1	
		日本文化入門Ⅰ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	メディア
		日本文化入門Ⅱ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	
		日本事情自然系Ａ	1.2.3.4①～②			2		○								9	オムニバス
		課題研究Ⅱ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		ビジネス日本語	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		日本で働く	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		日本事情社会系Ａ	1.2.3.4③～④	○		2		○								3	メディア、オムニバス
		日本事情自然系Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		課題研究Ⅰ	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		小計（41科目）	－	－	0	77	0	－			0	0	0	0	0	27	
	大学学習法	人文初年次演習	1.2.3.4①～②			2			○							10	オムニバス
		スタディ・スキルズＡ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズＢ	1.2.3.4①			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズＣ	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズＥ	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズＦ	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
		スタディ・スキルズＧ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＨ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＩ	1.2.3.4①			2			○							3	オムニバス
		スタディ・スキルズＫ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＬ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディ・スキルズＭ	1.2.3.4①			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＮ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
		スタディ・スキルズＰ	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
		スタディ・スキルズ	1.2.3.4①			2			○							11	オムニバス
		スタディスキルズⅠ	1.2.3.4①			1			○							10	オムニバス
		スタディスキルズⅡ	1.2.3.4③			1			○							18	オムニバス
		スタディスキルズⅢ	1.2.3.4④			1			○							2	オムニバス
		スタディスキルズ （看護）	1.2.3.4①			2			○							5	オムニバス
		スタディスキルズ （放射）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		スタディスキルズ （検査）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②	○	2				○		1	1				5	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②			2			○		1					5	オムニバス
		工学リテラシー入門（力学分野）	1.2.3.4①			2			○							19	オムニバス
		工学リテラシー入門（情報電子分野）	1.2.3.4①			2		○								18	※演習、オムニバス
		工学リテラシー入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2			○							18	オムニバス
		工学リテラシー入門（建築分野）	1.2.3.4①			2			○							12	オムニバス
		工学リテラシー入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2			○							8	オムニバス
		スタディ・スキルズＡⅠａ	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅡａ	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅠｂ	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅡｂ	1.2.3.4③			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅠｃ	1.2.3.4①			1			○							8	
		スタディ・スキルズＡⅡｃ	1.2.3.4③			1			○							8	
		小計（34科目）	－	－	2	57	0	－			2	1	0	0	0	204	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1.2.3.4①			1		○								1	
		解析学基礎2	1.2.3.4②			1		○								1	
		数学基礎A1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③			1		○								3	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④			1		○								3	オムニバス
		物理学基礎Ａ Ⅰ	1.2.3.4①①～②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②			2		○								6	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④			2		○								2	オムニバス
		化学基礎Ａ	1.2.3.4①②③			2		○								5	オムニバス
		化学基礎Ｂ	1.2.3.4①②④			2		○								3	オムニバス
		生物学基礎Ａ	1.2.3.4①②①～②③			2		○								4	オムニバス
		生物学基礎Ｂ	1.2.3.4①②③③～④			2		○								5	オムニバス
		地学基礎Ａ	1.2.3.4①③			2		○								2	オムニバス
		地学基礎Ｂ	1.2.3.4①			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎Ａ Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学基礎Ｃ	1.2.3.4④			2		○								1	
		小計（22科目）	－	－	0	36	0	－			0	0	0	0	0	46	
	自然科学	リメディアル数学I	1.2.3.4①			1		○								4	オムニバス
		基礎数理Ａ Ⅰ	1.2.3.4②④			2		○								5	オムニバス
		物理学への招待Ａ	1.2.3.4②			2		○								1	
		生物学実験	1.2.3.4②			1				○						6	オムニバス
		基礎雪氷学	1.2.3.4②			2		○								5	オムニバス
		リメディアル数学ⅠⅠ	1.2.3.4②			1		○								4	オムニバス
		生物学－植物A－	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		物理学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						3	オムニバス
		地学実験Ａ	1.2.3.4①～②			2				○						1	
		自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						17	オムニバス
		量子研究の最前線	1.2.3.4①～②			2		○								12	オムニバス
		数学の世界	1.2.3.4③			2		○								4	オムニバス
		基礎数理B	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		化学とSDGs	1.2.3.4③			2		○								3	オムニバス
		社会を支える有機化学	1.2.3.4③			2		○								1	
		生物学－動物Ａ－	1.2.3.4③			2		○								1	
		地質学の基礎	1.2.3.4③			2		○								1	
		地学実験Ｂ	1.2.3.4③			1				○						1	
		基礎数理Ａ Ⅱ	1.2.3.4④			2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④			2		○								2	オムニバス
		地学概論Ａ	1.2.3.4①④			2		○								2	
		地球と気象	1.2.3.4④			2		○								1	
		地学Ｃ（マグマと火山）	1.2.3.4④			1		○								1	オムニバス
		物理学への招待Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		地学概論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		最先端技術を支える化学 Ⅰ	1.2.3.4①			2		○								9	メディア、オムニバス
		都市インフラを考える	1.2.3.4①			2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1.2.3.4①			1		○								1	
		原子力・放射線防護学入門	1.2.3.4①			1		○								2	オムニバス
		生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1.2.3.4②			2		○								1	オムニバス
		原子力・放射線関連法規入門	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		くらしを支える機械システム工学	1.2.3.4③			2		○								13	オムニバス
		材料科学概論	1.2.3.4③			2		○								14	オムニバス
		安全工学基礎	1.2.3.4④			2		○								1	オムニバス
		化学実験	1.2.3.4③～④			2				○						6	オムニバス
		特許・経営および製品開発入門	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		放射線入門と実習	1.2.3.4①～④			1				○						1	オムニバス
		原子力の未来と災害を考える	1.2.3.4①～④			1		○								3	オムニバス
		特許と技術経営I	1.2.3.4①～②			1		○								2	オムニバス
		特許と技術経営Ⅱ	1.2.3.4③～④			1		○								3	オムニバス
		農業資源を知る	1.2.3.4①			2		○								7	オムニバス
		生命を知る	1.2.3.4①			2		○								13	メディア、オムニバス
		生態系を知る	1.2.3.4②			2		○								8	オムニバス
		農業DXを知る	1.2.3.4①～②			1		○								1	
		医学物理学入門	1.2.3.4③			1		○								8	オムニバス
		小計（45科目）	－	－	0	76	0	－			0	0	0	0	0	139	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育に関する授業科目	人文社会・教育科学	歴史学Ｉ	1.2.3.4①			2		○								1	
		メディアの記号論	1.2.3.4①③			2		○								1	
		実験心理学と応用	1.2.3.4①			2		○								1	
		英語基礎 L	1.2.3.4①①～②			1			○							17	オムニバス
		技術日本語演習	1.2.3.4②			2			○							1	
		人文系フロンティア	1.2.3.4②			4		○								20	オムニバス
		現代日本と伝統文化	1.2.3.4②③④			2		○								1	
		歴史学Q	1.2.3.4②			2		○								1	
		英語基礎 R	1.2.3.4②①～②			1			○							14	オムニバス
		心理学	1.2.3.4①～②		2			○								1	
		日本語教育Ｉ－Ａ	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		少数民族の言語と文化	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		教養の心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		音と音楽をめぐる科学と教養	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		心と社会	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		哲学	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		生涯学習概論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		歴史学H	1.2.3.4③			2		○								1	
		心理学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
		心と脳の科学リテラシー	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会論	1.2.3.4③		2			○								1	
		人間関係論	1.2.3.4③			2		○								1	
		現代社会と科学技術	1.2.3.4③			2		○								1	
		文化人類学の方法–他者へのまなざし	1.2.3.4③			2		○								1	
		アクターネットワークの社会学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		歴史学0	1.2.3.4③			2		○								1	隔年
		中国語オプショナルＡ	1.2.3.4③			2			○							1	
		意思決定のコミュニケーション論	1.2.3.4④			2		○								1	
		つながりと絆の社会学	1.2.3.4④			2		○								1	
		朝鮮語オプショナルＢ	1.2.3.4③～④			2			○							1	隔年
		音楽R	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		対人行動の心理学	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		セクシュアリティ・スタディーズ	1.2.3.4③～④			2		○								8	オムニバス
		人文系展開科目D	1.2.3.4③～④			2		○								13	オムニバス
		日本古典文学N	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		日本古典文学0	1.2.3.4①			2		○								1	
		文学D	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		西洋哲学演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		演劇入門	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		現代思想論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		人文系展開科目Ｉ	1.2.3.4③～④			2		○								1	隔年
		日本語教育Ｉ－Ｂ	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		教養教育としての教育学入門	1.2.3.4③			2			○							1	
		精神疾患とその治療	1.2.3.4②			2		○								1	メディア
		公認心理師の職責	1.2.3.4②			1		○								3	オムニバス
		ビジネス書道入門	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
		音楽(ピアノ)	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		水彩画表現入門	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
		美術史	1.2.3.4①～②			2		○								1	メディア
		人体の構造と機能及び疾病	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
		福祉心理学	1.2.3.4①～②			2		○								2	隔年、オムニバス
		教養を考える	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習、オムニバス
		司法・犯罪心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		臨床心理学概論	1.2.3.4④			2		○								1	メディア
		音楽E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		日本文化論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		心理演習	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
		心理的アセスメント	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		関係行政論	1.2.3.4③～④			2		○								1	
		健康生活環境論	1.2.3.4③～④			2		○								1	メディア
		心理実習	1.2.3.4①～④			2				○						3	オムニバス
		人文社会科学入門（法学）	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムＡ	1.2.3.4①			2		○								3	オムニバス
		日本国憲法	1.2.3.4①②③④①～②③～④			2		○								5	オムニバス
		リーガル・システム	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		リーガル・システムＢ	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
		死因究明と法	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
		組織マネジメント論	1.2.3.4①			2		○								1	
		マーケティングプロモーション入門	1.2.3.4②			1		○								1	
		小計（68科目）	－	－	4	132	0	－			0	0	0	0	0	159	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	医歯学	はじめての医学	1.2.3.4②			1		○								2	オムニバス
		先端医科学研究概説	1.2.3.4①～②			2		○								1	
		医学序説 Ⅰ	1.2.3.4①～②		2			○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
		原子力と倫理	1.2.3.4④			1		○								3	オムニバス
		医学序説 II	1.2.3.4③～④		2			○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	1.2.3.4③～④			2			○							1	
		健康と医学	1.2.3.4③～④			2		○								5	オムニバス
		災害医療概論	1.2.3.4①～④			1		○								1	
		原子力災害医療体制	1.2.3.4①～④			1		○								1	※実験・実習
		災害医療ロジスティクス	1.2.3.4①～④			1		○								1	
		「食べる」	1.2.3.4①			2		○			1					13	オムニバス
		PBL入門	1.2.3.4②	○		1		○			3						※演習、オムニバス
		健康福祉学入門	1.2.3.4②			2		○			4	5		3			メディア、オムニバス
		新潟発福祉学	1.2.3.4③			2		○			1	2				8	オムニバス
		顔	1.2.3.4③～④			2		○								12	オムニバス
		小計（16科目）	－	－	4	22	0		－		4	5	0	3	0	44	
専門教育に関する授業科目	医歯学	早期臨床実習ⅠB	1①～②	○	2					○	2	3	2	16		1	オムニバス
		早期臨床実習ⅡB	2①～②	○	1					○	5	4	1	1			オムニバス
		臨床歯学演習	2①～②	○	1				○		3						オムニバス
		歯科衛生士概論	2①～②	○	1			○			1	1					オムニバス
		医療倫理	2①～②	○	1			○								1	
		人体のしくみ	2①～②	○	8				○		4	5		1			オムニバス
		疾病とその病態	2①～②	○	2			○			4	2		1			オムニバス
		口腔の科学	2①～②	○	6				○		4	1					オムニバス
		歯科臨床概論	2①～②	○	2			○			4	1	5	2			オムニバス
		歯科衛生学Ⅰ	2③～④	○	8				○		1	1					オムニバス
		歯科衛生学実習Ⅰ	2③～④	○	3					○	1	3		3			オムニバス
		栄養学	2③～④	○	2			○			1						
		社会調査法	2①～②	○	2				○		2	1		1			オムニバス
		衛生学・公衆衛生学	2③～④	○	2			○			2	1	1				オムニバス
		歯科診療補助Ⅰ	2③～④	○	2					○	1	3		3			オムニバス
		臨床歯科学Ⅰ	2③～④	○	1				○		2	1					オムニバス
		社会福祉原論Ⅰ	3①～②	○	2			○			2	1					
		社会福祉現場実習指導Ⅰ	3①～②	○	2					○	2	2					
		社会保障論	3①～②	○	2				○		1	2					オムニバス
		公的扶助論	3①～②	○	2				○		1	2					オムニバス
		児童福祉論Ⅰ	3①～②	○	2				○		1	1					オムニバス
		社会福祉援助技術論Ⅰ	3①～②	○	2				○		1	1					
		歯科衛生学実習Ⅱ	3①～②	○	3					○	3	3	1	6			オムニバス
		歯科衛生士臨床実習Ⅰ	3①～②	○	2					○	2	2		3		1	オムニバス
		歯科診療補助Ⅱ	3①～④	○	4					○	2	5	2	1			オムニバス
		臨床歯科学Ⅱ	3①～②	○	1				○		2	2					オムニバス
		臨床歯科学Ⅲ	3③～④	○	1				○		2	2		1			オムニバス
		障害者福祉論Ⅰ	3③～④	○	2				○		1	2					オムニバス
		社会福祉援助技術論Ⅱ	3③～④	○	2				○		1	2					オムニバス
		高齢者福祉論Ⅰ	3③～④	○	4				○		1	1					
		社会福祉援助技術演習Ⅰ	3③～④	○	4				○		1	1					
		高齢者・障害者歯科学	3③～④	○	2			○			2	2	2	1			オムニバス
		歯科衛生学実習Ⅲ	3③～④	○	2					○		2	2	4			オムニバス
		地域福祉論	3①～②	○	2			○			1	1					オムニバス
		権利擁護と成年後見	3③～④	○	1			○			1	1					オムニバス
		歯科衛生士臨床実習Ⅱ	3③～④	○	2					○	5	3	2	1			オムニバス
		社会福祉現場実習Ⅰ	3③～④	○	2					○	2	3		1			オムニバス
		訪問歯科診療	4①～④	○	1					○		2	1	3		2	オムニバス
		歯科衛生士臨床実習Ⅲ	4①～④	○	14					○	4	3		3			オムニバス
		社会福祉現場実習Ⅱ	4①～④	○	6					○	2	3		1			オムニバス
		社会福祉援助技術演習Ⅱ	4①～④	○	1				○		1	2		1			オムニバス
		社会福祉現場実習指導Ⅱ	4①～④	○	1					○	1	2		1			オムニバス
		保健医療制度	4①～④	○	2			○			1						オムニバス
		臨床歯科学Ⅳ	4①～④	○	1				○		2	1		2			オムニバス
		更生保護制度	4①～④	○	1			○						1			
		社会福祉経営	4①～④	○	1			○			1	1					オムニバス
		社会福祉原論Ⅱ	4①～④	○		2			○		5	5		3			オムニバス
		高齢者福祉論Ⅱ	4①～④	○		2			○		5	5		3			オムニバス
		障害者福祉論Ⅱ	4①～④	○		2			○		5	5		3			オムニバス
		児童福祉論Ⅱ	4①～④	○		2			○		5	5		3			オムニバス
		歯科衛生学Ⅱ	4①～④	○		2			○		5	5		3			オムニバス
		短期海外派遣実習	3①～②	○		1				○	1						
	小計（52科目）		－	－	118	11	0		－		6	5	0	3	0	5	－
合計（ 638科目）			－	－	129	1027	0		－		6	5	0	3	1	1006	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考

学位又は称号	学士（口腔保健福祉学）	学位又は学科の分野	保健衛生学(看護関係及びリハビリテーション関係除く)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（卒業要件） 口腔生命福祉学科に4年以上在学し，所定の授業科目の単位（口腔生命福祉学科における教養教育に関する授業科目から30単位以上および口腔生命福祉学科における専門教育に関する授業科目から必修120単位）を修得すること。 （履修方法） ・口腔生命福祉学科における教養教育に関する授業科目（下表）から30単位以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
・口腔生命福祉学科における専門教育に関する授業科目　必修120単位（選択科目のうち2単位を必修とする）	1時限の授業時間	90分

科目区分	細区分又は授業科目名等	修得単位数
英語	英語	2
初修外国語		2
健康・スポーツ	体育実技	1
大学学習法	歯学スタディ・スキルズ	2
情報リテラシー	データサイエンス総論Ⅰ	1
自然系共通専門基礎	物理学，化学，生物学の細区分から2区分以上	4
人文社会・教育科学	心理学 2 単位を含む。 社会学 2 単位を含む。	8
医歯学	医学序説Ⅰ　2 単位 医学序説Ⅱ　2 単位	4
留学生基本科目の日本語及び日本事情並びに口腔生命福祉学科における専門教育に関する授業科目を除く授業科目のうちから		6
合計		30

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科医科学専攻（修士課程））【既設研究科】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
医科学専攻	人体の構造	1前		2			○			3	4		1			
	分子細胞医科学	1前		2			○			2	4	1				
	グローバル医学入門	1前		2			○			6			1			
	脳と心の医科学	1前		2			○			5	3					
	医学と社会	1前		2			○			4	2					
	感染と免疫	1前		2			○			3	2	1			1	
	医科学研究法	1前		2			○			4	3					
	臨床医学入門	1前		2			○			7	1					
	医科学総合演習	1後		4				○		49	45	35	55			
	医科学研究特論	2通		10				○		49	45	35	55			
	小計（10科目）	－	－	30	0	0	－			49	45	35	55	0	1	－
合計（10科目）		－	－	30	0	0	－			49	45	35	55	0	1	－

学位又は称号	修士（医科学）	学位又は学科の分野	医学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 修士課程を2年以上在学し，規程に定める授業科目について，合計30単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 必修科目10科目を履修し、30単位を修得する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	
専攻共通科目		保健理工学概論	1,2通			2				○	4	2		1			標準外
		リサーチ・メソッズ・ベーシック	1,2前		2			○			3	2					
		医療情報統計科学	1,2前			2		○			2						
		国際医療保健学概論	1,2前			2		○			1	1					
		応用数理解析学概論	1,2後			2		○			1						
		病態解析学概論	1,2後			2		○			2	1					
		小計（6科目）	－	－	2	10	0	－			13	6	0	1	0	0	－
看護学分野	看護共通科目	臨床薬理学	1,2前			2		○			4	2		1			
		フィジカルアセスメント	1,2前			2		○			4						
		病態生理学	1,2前			2		○			5	2		1			
		看護倫理学	1,2前			2		○			4	3		1			
		看護研究	1,2前			2		○			5	5					
		医療ナラトロジー	1,2前			2		○			2			1			
		コンサルテーション論	1,2前			2		○			1						
		看護理論	1,2後			2		○			1	4					
		看護教育	1,2後			2		○			1	2					
		小計（9科目）	－	－	0	18	0	－			9	9	0	4	0	0	
看護学分野	看護専門科目	基礎看護学実習	1,2通			2				○	3	2					標準外
		国際看護学実習	1,2通			2				○	1	2					標準外
		地域看護学演習Ⅱ	1,2前			2			○		1	2				5	
		地域看護学実習Ⅱ	1,2通			2				○	1	2					標準外
		地域看護学実習Ⅲ	1,2通			2				○	1	2					標準外
		地域看護学実習Ⅳ	1,2通			2				○	1	2					標準外
		小児看護学実習	1,2通			2				○	1	1					標準外
		精神看護学実習	1,2通			2				○	1			1			標準外
		成人・老年看護学実習Ⅰ	1,2通			2				○		1					標準外
		成人・老年看護学実習Ⅱ	1,2通			2				○		1					標準外
		成人・老年看護学実習Ⅲ	1,2通			2				○		1					標準外
		成人・老年看護学実習Ⅳ	1,2通			2				○		1					標準外
		がん看護学実習Ⅰ	1,2通			2				○	1	1		1			標準外
		がん看護学実習Ⅱ	1,2通			2				○	1	1		1			標準外
		がん看護学実習Ⅲ	1,2通			2				○	1	1		1			標準外
		がん看護学実習Ⅳ	1,2通			2				○	1	1		1			標準外
		遺伝看護学特論Ⅰ	1,2通			2		○			3					1	
		遺伝看護学特論Ⅱ	1,2通			2		○			3					1	
		遺伝看護学特論Ⅲ	1,2通			2		○			2						
		遺伝看護学特論Ⅵ	1,2通			2		○			3					1	標準外
		遺伝看護学演習Ⅲ	1,2前			2			○		2	1					
		遺伝看護学実習Ⅰ	1,2通			2				○	1					1	
		遺伝看護学実習Ⅱ	1,2通			2				○	1	1				1	標準外
		遺伝看護学実習Ⅲ	1,2通			2				○	1	1					
		遺伝看護学実習Ⅳ	1,2通			2				○	2						
		母性看護学実習	1,2通			2				○	1	2					
		基礎看護学特論Ⅰ	1,2前			2		○			1						
		家族看護学特論	1,2前			2		○			1	2					
		地域看護学特論Ⅰ	1,2前			2		○			1	2					
		小児看護学特論Ⅰ	1,2前			2		○			1	1					
		母性看護学特論Ⅰ	1,2前			2		○			1						
		精神看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○			1			1			
		成人・老年看護学特論Ⅰ	1,2前			2		○				1				1	
		成人・老年看護学演習Ⅲ	1,2前			2			○			1		1		1	
		がん看護学特論Ⅰ	1,2前			2		○			5	1		1			
		がん看護学演習Ⅳ	1,2通			2				○	1	1				2	標準外

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員（助手を除く）以外の教員	備考
看護学分野	看護専門科目	看護専門科目	1,2前			2		○			4					1	
		基礎看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○			1	1					
		基礎看護学特論Ⅲ	1,2前			2		○			1						
		地域看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○			1	2					
		小児看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○			1	1					
		母性看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○			1	2				2	
		成人・老年看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○				1				1	
		成人・老年看護学特論Ⅲ	1,2前			2		○				1				1	
		がん看護学特論Ⅱ	1,2前			2		○			1	1					
		遺伝看護学特論Ⅴ	1,2前			2		○			3					1	
		地域看護学実習Ⅰ	1,2後			2				○	1	2					
		がん看護学演習Ⅲ	1,2後			2				○	1			1		2	
		基礎看護学特論Ⅳ	1,2後			2			○		2						
		国際看護学特論	1,2後			2			○		1	2					
		地域看護学演習Ⅰ	1,2後			2			○		1	2				1	
		小児看護学演習	1,2後			2			○		1	1					
		精神看護学特論Ⅰ	1,2後			2		○			1			1			
		成人・老年看護学特論Ⅳ	1,2後			2		○				1				1	
		成人・老年看護学演習Ⅰ	1,2後			2			○			1				1	
		がん看護学特論Ⅲ	1,2後			2		○			2	1				2	
		がん看護学演習Ⅰ	1,2後			2			○		1	1				2	
		遺伝看護学演習Ⅰ	1,2後			2			○		1					1	
		母性看護学演習	1,2後			2			○		1	2					
		基礎看護学演習	1,2後			2			○		3	2					
		国際看護学演習	1,2後			2			○		1	2					
		地域看護学特論Ⅲ	1,2後			2		○			1	2					
		精神看護学演習	1,2後			2			○		1			1			
		成人・老年看護学演習Ⅱ	1,2後			2			○		1	1				1	
		がん看護学演習Ⅱ	1,2後			2			○		1			1		1	
		遺伝看護学演習Ⅱ	1,2後			2			○		1						
		保健学特別研究（看護学）	2通			2			○		9	8					
		小計（67科目）	－	－	0	134	0	－			9	9	0	4	0	32	－
放射線技術科学分野	共通科目	医学物理学概論	1,2前			2		○			1	1					
		医用放射線科学概論	1,2前			2		○			2	1					
		国際放射線医療科学概論	1,2後			2		○				1					
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			2	2	0	0	0	0	－
放射線技術科学分野	専門科目	生体構造機能解析工学特論	1,2前			2		○			1						
		放射線物質科学特論	1,2前			2		○			1						
		医用放射線機器科学特論	1,2前			2		○			1	1		1			
		医学物理学演習	1,2前			2			○		1	2		1			
		臨床画像医学特論	1,2前			2		○			1						
		放射線腫瘍学特論	1,2前			2		○			1	1					
		医用画像情報学特論	1,2前			2		○			1			3			
		核医学情報学特論	1,2前			2		○			1						
		医学物理臨床実習	1,2前			2				○	1	2				1	
		生体構造機能解析工学演習	1,2後			2			○		1						
		放射線物質科学演習	1,2後			2			○		1						
		医用放射線機器科学演習	1,2後			2			○		1	2		1			
		医学物理学特論	1,2後			2		○			1	2				3	
		臨床画像医学演習	1,2後			2			○		1						
		放射線腫瘍学演習	1,2後			2			○		1	1					
		医用画像情報学演習	1,2後			2			○		1			1			
		核医学情報学演習	1,2後			2			○		1						
		電磁気学特論	1,2後			2		○			1	2		1		1	
		保健学特別研究（放射線技術科学）	2通			2			○		7	2		3			
		小計（19科目）	－	－	0	38	0	－			7	2	0	3	0	5	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員（助手を除く）以外の教員	備考
検査技術科学分野	共通科目	臨床生体情報検査科学論	1,2前			2		○			1	1		2			
		国際病態検査科学概論	1,2前			2		○				2					
		基礎生体情報検査科学論	1,2通			2		○			1						
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			2	3	0	2	0	0	－
検査技術科学分野	専門科目	ゲノム検査分子生物学実習	1,2前			2				○	1						
		生体情報解析学特論	1,2前			2		○			1	1					
		病態病理検査学実習	1,2前			2				○		1					
		病態生理機能学特論	1,2前			2		○			1	2					
		血液・腫瘍検査学特論	1,2前			2		○				1		1			
		ゲノム検査分子生物学特論	1,2通			2		○			1						
		血液・腫瘍検査学実習	1,2前			2				○		1					
		免疫病態検査学特論	1,2通			2		○			1			1			
		病原微生物解析学特論	1,2後			2		○				2					
		病原微生物解析学実習	1,2後			2				○		2					
		生体情報解析学実習	1,2後			2				○	1	1					
		病態病理検査学特論	1,2後			2		○				1					
		病態生理機能学実習	1,2後			2				○	1	2					
		免疫病態検査学実習	1,2後			2				○	1			1			
		保健学特別研究（検査技術科学）	2通			2			○		4	6					
		小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			4	7	0	3	0	0	－
合計（122科目）			－	－	2	241	0	－			20	18	0	6	0	37	－

学位又は称号	修士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 博士前期課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 専攻共通科目から必修2単位及び及び研究支持科目2単位の計4単位並びに、専攻する教育研究分野の授業科目のうち共通科目2単位、専門科目16単位及び特別研究8単位の計30単位以上を修得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻（博士前期課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
共通基礎必修科目		口腔保健福祉学研究論Ⅰ	1前		2			○			2	1				1	
		口腔保健福祉学研究論Ⅱ	1後		2			○			3	1					
		生命医療科学総論	1前		2			○			4	1				2	
		医療福祉援助学総論	1前		2			○			2	2					
		専門英文読解	1前		2				○			1					
		小計（5科目）	－	－	10	0	0	－			6	4	0	0	0	3	
専門選択科目	口腔保健推進学系科目	一般口腔保健管理学Ⅰ	1前			2		○			1						
		一般口腔保健管理学Ⅱ	1・2通			2				○	1			1			
		特殊口腔保健管理学Ⅰ	1後			2		○						1			
		特殊口腔保健管理学Ⅱ	1・2通			2		○			1						
		摂食嚥下機能評価支援学	1・2通			2		○								2	
		口腔保健の疫学と統計	1後			2		○			1						
		口腔健康教育入門	1前			2		○						1			
		地域歯科保健活動	1後			2		○			1						
		口腔保健活動展開論	2前			2		○				1					
		口腔保健推進学特別研究	1・2通			8			○		6	4		3			
		小計（10科目）	－	－	0	26	0	－			6	5		3	0	2	
	医療福祉援助系科目	保健福祉計画演習	2前			2		○			1						
		口腔保健医療福祉援助論	1後			2		○						1			
		口腔保健医療福祉制度	1後			2		○			1						
		医療福祉援助技術論	2前			2				○		1					
		口腔医療福祉政策学	1前			2		○				1					
		地域福祉活動	1後			2		○				1					
		医療福祉援助学特別研究	1・2通			8			○		6	5	3				
		小計（7科目）	－	－	0	20	0	－			6	5	3	1	0	0	
合計（22科目）			－	－	10	46	0	－			6	5	3	4	0	5	

学位又は称号	修士（口腔保健福祉学）	学位又は学科の分野	保健衛生学(看護関係及びリハビリテーション関係除く)

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 本研究科に２年以上在学し、30単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 共通基礎必修科目から10単位及び専門選択科目から20単位以上、合計30単位以上を修得すること。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻共通科目		ケア技術開発法	1,2,3前			2		○			1						
		研究倫理	1,2,3前			2		○			1						
		リサーチ・メソッズ・アドバンスト	1,2,3前		2			○			7						
		保健学情報解析法	1,2,3前			2		○			9	5					
		小計（4科目）	－	－	2	6	0	－			11	5	0	0	0	0	－
看護学分野	看護専門科目	地域・国際看護学特講	1,2,3後			2		○			4	2					
		成人・老年看護学特講	1,2,3後			2		○			2	3					
		小児・女性看護学特講	1,2,3後			2		○			3	3					
		地域・国際看護学特講演習	1,2,3後			2			○		4	2					
		成人・老年看護学特講演習	1,2,3後			2			○		2	3					
		小児・女性看護学特講演習	1,2,3後			2			○		3	3					
		保健学特定研究（看護学）	3通			4			○		9	6					
		小計（7科目）	－	－	0	16	0	－			9	6	0	0	0	0	－
放射線技術科学分野	専門科目	医学物理学特講	1,2,3前			2		○			2	1					
		生体機能情報解析学特講	1,2,3前			2		○			2						
		臨床画像医学特講	1,2,3前			2		○			1						
		医用画像情報学特講	1,2,3前			2		○			1						
		放射線腫瘍学特講	1,2,3前			2		○			1						
		放射線治療医学物理臨床実習	3通			2				○	1	1					
		医学物理学特講演習	1,2,3後			2			○		2	1					
		生体機能情報解析学特講演習	1,2,3後			2			○		2						
		臨床画像医学特講演習	1,2,3後			2			○		1						
		医用画像情報学特講演習	1,2,3後			2			○		1						
		放射線腫瘍学特講演習	1,2,3後			2			○		1						
		保健学特定研究（放射線技術科学）	3通			4			○		7	1					
		小計（前科目）	－	－	0	26	0	－			7	1	0	0	0	0	－
検査技術科学分野	専門科目	生体システム機能検査科学特講	1,2,3前			2					2	2					
		病態病理検査科学特講	1,2,3通			2		○				1					
		免疫・血液病態検査科学特講	1,2,3通			2		○			1	1					
		ゲノム・微生物病態検査科学特講	1,2,3後			2		○			1	2					
		生体システム機能検査科学特講演習	1,2,3後			2			○		2	2					
		病態病理検査科学特講演習	1,2,3後			2			○			1					
		免疫・血液病態検査科学特講演習	1,2,3後			2			○		1	1					
		ゲノム・微生物病態検査科学特講演習	1,2,3後			2			○		1	2					
		保健学特定研究（検査技術科学）	3通			4			○		4	4					
		小計（9科目）	－	－	0	20	0	－			4	4	0	0	0	0	－
合計（32科目）			－	－	2	68	0	－			20	11	0	0	0	0	－

学位又は称号	博士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学（看護関係）、保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 博士後期課程に3年以上在学し、12単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 専攻共通科目から必修2単位及び選択2単位の計4単位並びに、専攻する教育研究分野の授業科目のうち専門科目4単位及び特別研究4単位の計12単位以上を修得すること。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻（博士後期課程））【既設研究科】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
必修コースワーク科目	口腔保健福祉学研究ベーシックコース	1・2・3前			2		○			6					1	※演習
	アカデミックリーディング	1・2・3前			2		○								1	
	実践統計学ベーシックコース	1・2・3後			2		○			2	1				4	オムニバス、共同（一部）
	小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			6	1	0	0	0	5	
専門展開科目	口腔保健管理学特論	1・2・3前			2		○			4	2					オムニバス
	摂食嚥下機能評価支援学特論	1・2・3後			2		○			2					3	オムニバス
	口腔保健福祉援助学特論	1・2・3前			2		○			2	2		1			オムニバス
	地域口腔保健福祉学特論	1・2・3後			2		○			1	2					オムニバス
	アカデミックライティング	1・2・3前			2		○								1	
	アカデミックリーディングⅡ	1・2・3後			2			○			1					
	小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			5	4	0	1	0	4	
研究指導	口腔保健福祉学特別研究	1・2・3通		4				○		6	5		3			
	小計（1科目）	－	－	4	0	0	－			6	5	0	3	0	0	
合計（10科目）		－	－	4	18	0	－			6	5	0	3	0	7	

学位又は称号	博士（口腔保健福祉学）、博士（学術）	学位又は学科の分野	保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係除く）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 本研究科に２年以上在学し、12単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 必修コースワーク科目から4単位、専門展開科目から4単位以上及び研究指導4単位の合計12単位以上を修得すること。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科地域疾病制御医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
必修科目	専攻共通	ライフサイエンス研究概論	1後		2			○			15						オムニバス
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			9	0	0	0	0	6	－
必修科目	専攻共通選択	動物実験法演習	1前			2					1						
		分子生物学演習	1前			2						1					
		細胞機能研究法演習	1前			2					1						
		組織構造研究法演習	1前			2							1				
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			2	1	1	0	0	0	－
専攻個別科目	遺伝子制御	分子病因遺伝学	2,3通			4					1						
		ゲノム医学	2,3通			4					1						
		ゲノム医学演習	2,3通			4					1			1			
		分子細胞病理学	2,3通			4					1						
		分子細胞病理学演習	2,3通			4					1			1			
		分子女性医学	2,3通			4					1			1			
		分子女性医学演習	2,3通			4					1			1			
		放射線腫瘍学	2,3通			4					1		2	1			
		ゲノム薬理学	2,3通			4					1						
		蛋白質構造特論	2,3通			4					1						
		分子消化器癌診断学	2,3通			4					1			1			
		腫瘍制御学	2,3通			4					1						
		分子精神医学	2,3通			4					0	1					
		臨床腫瘍学特論I	2,3通			2					1						
		臨床腫瘍学特論II	2,3通			2					1						
		臨床腫瘍学特論III	2,3通			4					1						
		放射線腫瘍学演習	2,3通			4					1		2	1			
		放射線腫瘍学論文演習	2,3通			4					1			1			
		腫瘍内科学論文演習	2,3通			4					1			1			
		臓器横断的がん診療演習	2,3通			4						1		1			
		小計（20科目）	－	－	0	76	0	－			6	2	2	10	0	0	
	シグナル伝達	分子生体制御学	2,3通			4					1						
		分子生体制御学演習	2,3通			4					1			1			
		脈管発生学	2,3通			4					1						
		脈管の分子病態学演習	2,3通			4					1			1			
		高次情報薬理学	2,3通			4					1						
		分子情報制御学	2,3通			4					1						
		神経分子尿路科学	2,3通			4						1	1	1			
		小計（7科目）	－	－	0	28	0	－			4	1	1	3	0	0	
	細胞機能	正常発生や再生時における超微構造機能学	2,3通			4					1						
		超微構造機能学演習	2,3通			4						1		1			
		分子機能細胞学	2,3通			4					1						
		腫瘍病理学	2,3通			4					1						
		腫瘍病理学演習	2,3通			4					1			1			
		病態細胞学	2,3通			4					1						
		分子病態構造学	2,3通			4					1						
		免疫制御病理学	2,3通			4											
		シグナル分子制御学	2,3通			4						1					
		シグナル分子制御学演習	2,3通			4						1		1			
		肝臓病態構造学	2,3通			4					1						
		皮膚病態解析学	2,3通			4					1						
		皮膚病態解析学演習	2,3通			4					1	1		1			
		皮膚機能構造学	2,3通			4						1					
		皮膚機能構造学演習	2,3通			4					1			1			

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科地域疾病制御医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻個別科目	細胞機能	皮膚免疫病理学	2,3通			4					1						
		皮膚腫瘍分子制御学	2,3通			4											
		器官発生遺伝子構造診断学	2,3通			4							1				
		器官発生遺伝子構造診断学演習	2,3通			4							1	1			
		小計（19科目）	－	－	0	76	0	－			5	3	2	6	0	0	
	分子情報医学	高次神経機能学	2,3通			4					1						
		神経発達学	2,3通			4					1						
		脳神経腫瘍病態学	2,3通			4					1						
		脳神経腫瘍病態学演習	2,3通			4					1			1			
		脳神経疾患の分子医学	2,3通			4					1		1				
		脳神経疾患の分子医学演習	2,3通			4					1		1	1			
		神経免疫学	2,3通			4						1					
		脳疾患病態学	2,3通			4						1					
		神経細胞栄養学	2,3通			4					1						
		脳腫瘍病態制御学	2,3通			4					1						
		脳腫瘍病態制御学演習	2,3通			4						1		1			
		脳血管病態制御学	2,3通			4						1					
		実験動物学	2,3通			4					1	1					
		小計（13科目）	－	－	0	52	0	－			5	3	2	3	0	0	
合計（64科目）			－	－	2	240	0	－			9	3	2	11	0	6	

学位又は称号	博士（医学）、博士（学術）	学位又は学科の分野	医学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 博士課程に4年以上在学し，所属する専攻が開設する共通科目から6単位(講義2単位，演習2科目4単位以上)以上及び個別科目から20単位以上並びに研究科が開設する個別科目から4単位以上，合計30単位以上を，原則として第3年次末までに修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 専攻共通必修科目　2単位 専攻共通選択必修科目　4単位以上 専攻個別科目　24単位以上	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科分子細胞医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
必修科目	専攻共通	地域疾病制御概論	1後		2			○			15						オムニバス
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			12	0	0	0	0	3	－
必修科目	専攻共通選択	医療統計学演習	1前			2						2	1	1			
		感染学演習	1前			2						1					
		免疫学研究法演習	1前			2								3			
		理論疫学演習	1前			2					1						
		小計（4目）	－	－	0		0	－			1	3	1	4	0	0	－
専攻個別科目	国際感染医学	ウイルス制御学	2,3通			4					1						
		ウイルス制御学演習	2,3通			4					1	1		1			
		細胞免疫学	2,3通			4					1						
		細胞免疫学演習	2,3通			4					1			1			
		分子細胞免疫学	2,3通			4					1						
		感染症対策論	2,3通			4					1						
		感染症対策論演習	2,3通			4					1		1	1			
		宿主・新興再興病原因子関係論	2,3通			4					1						
		国際感染症制御学	2,3通			4					1						
		国際感染症制御学演習	2,3通			4								1			
		国際医療計画学	2,3通			4					1						
		細菌学	2,3通			4					1						
		細菌学演習	2,3通			4						1		1			
		小計（13科目）	－	－	0	52	0	－			5	2	1	13	0	0	
	地域予防医学	環境医学特論	2,3通			4					1						
		環境医学演習	2,3通			4					1			1			
		疫学概論	2,3通			4					1						
		疫学演習	2,3通			4						1		1			
		法医病理学概論	2,3通			4					1						
		法医病理学演習	2,3通			4					1			1			
		賠償科学特論	2,3通			4					1						
		死因究明学I	2,3通			4					1						
		死因究明学II	2,3通			4					1						
		死因究明と法	2,3通			4					1						
		死後画像診断学	2,3通			4					1						
		臨床法医学	2,3通			4					1						
		予防医学特論	2,3通			4					1	1					
		予防医学演習	2,3通			4					1	1					
		lncRNA研究の過去・現在・未来	2,3通			4					1						
		発達予防医学特論	2,3通			4					1						
		発達予防医学演習	2,3通			4					1			1			
		医事法・医療倫理学	2,3通			4					1						
		医療家族法社会学	2,3通			4					1						
		小計（19科目）	－	－	0	76	0	－			4	3	0	5	0	0	
	総合医療評価学	医療情報学特論	2,3通			4						1					
		医療統計学特論	2,3通			4					1						
		医療薬剤学	2,3通			4					1						
		臨床薬効評価学	2,3通			4					1	1					
		小計（4科目）	－	－	0	16	0	－			2	2	0	0	0	0	－
合計（41科目）			－	－	2	144	0	－			12	10	2	22	0	3	－

学位又は称号	博士（医学）、博士（学術）	学位又は学科の分野	医学関係

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科分子細胞医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 博士課程に4年以上在学し，所属する専攻が開設する共通科目から6単位(講義2単位，演習2科目4単位以上)以上及び個別科目から20単位以上並びに研究科が開設する個別科目から4単位以上，合計30単位以上を，原則として第3年次末までに修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 専攻共通必修科目　2単位 専攻共通選択必修科目　4単位以上 専攻個別科目　24単位以上	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科生体機能調節医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
必修科目	専攻共通	生体調節研究概論	1後		2			○			15						オムニバス
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			15	0	0	0	0	0	－
必修科目	専攻共通選択	生体機能研究法演習	1前			2						1					
		移植医学演習	1前			2							1				
		脳機能イメージング演習	1前			2					1						
		器官臓器実験法演習	1前			2					1						
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			2	1	1	0	0	0	－
専攻個別科目	内部環境医学	液性調節病態学	2,3通			4							1				
		液性調節病態学演習I	2,3通			4					1			1			
		液体調節病態学演習II	2,3通			4					1			1			
		呼吸調節病態学	2,3通			4							1				
		発達病態解析学	2,3通			4					1						
		発達病態解析学演習I	2,3通			4					1			1			
		発達病態解析学演習II	2,3通			4					1			1			
		発達内部環境病態学	2,3通			4					1						
		神経・液性調節連関学	2,3通			4					1						
		体液情報医学	2,3通			4					1			1			
		代謝病態解析学	2,3通			4					1						
		緩和医療学演習	2,3通			4						1		1			
		緩和医療学論文演習	2,3通			4					1			1			
		大規模医療データサイエンス	2,3通			4					1						
		小計（14科目）	－	－	0	56	0	－			5	0	2	7	0	0	
	器官制御医学	循環病態学	2,3通			4					1						
		循環病態学演習	2,3通			4					1			1			
		情報循環調節学	2,3通			4					1						
		心筋制御学	2,3通			4							1				
		心筋制御学演習	2,3通			4						1		1			
		循環補助学	2,3通			4							1				
		生体制御学	2,3通			4					1			1			
		生体制御学演習I	2,3通			4					1			1			
		生体制御学演習II	2,3通			4					1			1			
		救急集中治療医学	2,3通			4						1					
		救急集中治療医学演習	2,3通			4					1	1	1	1			
		病態器官構造学	2,3通			4					1						
		臨床腫瘍学特論I	2,3通			4					1						
		臨床腫瘍学特論II	2,3通			4					1						
		臨床腫瘍学特論III	2,3通			4					1						
		臓器横断的がん診療演習	2,3通			4						1		1			
		腫瘍外科学論文演習	2,3通			4					1			1			
		小計（17科目）	－	－	0	68	0	－			4	4	3	8	0	0	
	器官制御医学	移植再建生理学	2,3通			4					1						
		形態形成学	2,3通			4					1						
		形態形成学演習	2,3通			4						1		1			
		病態制御再建学	2,3通			4					1						
		病態制御再建学演習	2,3通			4					1			1			
		泌尿器病態調節学	2,3通			4					1						
		移植臓器機能調節学	2,3通			4						1	1				
		移植臓器機能調節学演習	2,3通			4						1		1			
		移植・再生医学	2,3通			4							1				
		造血細胞移植学	2,3通			4						1					
		血液免疫学	2,3通			4					1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科生体機能調節医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻個別科目	器官制御医学	止血・血栓学	2,3通			4											
		運動機能制御再建学	2,3通			4					1						
		運動機能制御再建学演習	2,3通			4					1	2		1			
		骨代謝調節学	2,3通			4						1					
		人工関節学	2,3通			4							1				
		新生児機能再建学	2,3通			4							1				
		新生児機能再建学演習	2,3通			4						1		1			
		小児腫瘍病態制御学	2,3通			4					1						
		腫瘍病態制御学	2,3通			4						1					
		腫瘍動態調節学	2,3通			4							1				
		小計（21科目）	－	－	0	84	0	－			3	9	5	5	0	0	
	感覚統合医学	高次脳形態学	2,3通			4					1						
		高次脳形態学演習	2,3通			4					1			1			
		認知脳科学	2,3通			4					1						
		認知脳科学演習	2,3通			4					1			1			
		精神機能病態学総論	2,3通			4					1						
		精神機能病態学演習	2,3通			4						1		1			
		情報処理・認知精神医学	2,3通			4					1						
		眼科学総論	2,3通			4						1					
		眼科学演習I	2,3通			4						1	2	1			
		眼科学演習II	2,3通			4						1	2	1			
		感覚情報病態学	2,3通			4											
		感覚情報病態学演習	2,3通			4							1	1			
		呼吸器・循環器画像医学	2,3通			4						1					
		視覚定位行動学	2,3通			4					1						
		生体計測制御論	2,3通			4					1						
		生体情報工学	2,3通			4					1						
		小計（16科目）	－	－	0	64	0	－			4	5	5	6	0	0	
	腎科学	腎疾患解析分子病理学	2,3通			4					1						
		腎糸球体細胞構築学	2,3通			4					1						
		微小循環病態学	2,3通			4						1					
		ミトコンドリア学	2,3通			4					1						
		腎病態制御学	2,3通			4					1						
		腎分子病態学	2,3通			4					1						
		小計（6科目）	－	－	0	24	0	－			2	1	0	0	0	0	
	可塑性機能制御	統合的神経病理学	2,3通			4					1						
		感覚運動系機能医学	2,3通			4					1						
		シナプス可塑性機構論	2,3通			4					1						
		聴覚生理学概論	2,3通			4					1						
		神経遺伝病理学総論	2,3通			4						1					
		神経遺伝病理学演習	2,3通			4					1			1			
		脳機能解析学	2,3通			4					1						
		脳機能解析学演習	2,3通			4					1	1		1			
		遺伝子疾患解析学	2,3通			4						1					
		小計（9科目）	－	－	0	36	0	－			3	3	0	2	0	0	－
合計（88科目）			－	－	2	340	0	－			23	24	16	28	0	0	－

学位又は称号	博士（医学），博士（学術）	学位又は学科の分野	医学関係

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科生体機能調節医学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 博士課程に4年以上在学し，所属する専攻が開設する共通科目から6単位(講義2単位，演習2科目4単位以上)以上及び個別科目から20単位以上並びに研究科が開設する個別科目から4単位以上，合計30単位以上を，原則として第3年次末までに修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 専攻共通必修科目　2単位 専攻共通選択必修科目　4単位以上 専攻個別科目　24単位以上	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	専任教員等の配置 専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻共通必修科目		実践医学統計演習A	1後		2				○		1	1		1		1	オムニバス
		アカデミックリーディング＆ライティングIA	1前		2			○								1	
		アカデミックリーディング＆ライティングIB	1前		2			○								1	
		小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			1	1	0	1	0	2	－
専攻共通選択必修科目		生体組織再生工学コースワーク	1・2・3前			4		○			1						
		生体材料関連コースワーク	1・2・3前			4		○					1				
		ベーシック形態解析コース	1・2・3前			4		○			1	1		1			
		顎口腔機能学ベーシックコース	1・2・3前			4		○			1	1					
		顎顔面解剖学ベーシックコース	1・2・3前			4				○	1	1					
		ベーシック細胞生物学コース	1・2・3前			4		○			1						
		口腔病理学ベーシックコース	1・2・3前			4		○			1	1		1			
		研究の倫理法令・遺伝子組換え実験コースワーク	1・2・3前			4		○			1			1			
		国際連携基礎コース	1・2・3通			4				○	1						
		ベーシック国際口腔保健学コース	1・2・3通			4		○			1			1			
		歯内疾患制御学臨床演習コース	1・2・3前			4		○			1	1		1			
		小児歯科関係コースワーク	1・2・3前			4		○			1			1			
		補綴歯科学臨床総合コース	1・2・3前			4		○				1		1			
		補綴歯科学基礎総合コース	1・2・3前			4		○				1		1			
		顎顔面口腔外科関係コースワーク	1・2・3前			4		○				1					
		歯周歯科関係コースワーク	1・2・3前			4			○			1	1				
		矯正臨床ベーシックコース	1・2・3前			4			○				1	1			
		摂食リハ関係コースワーク	1・2・3前			4		○			1	1					
		包括歯科補綴学コースワーク	1・2・3前			4		○			1		1				
		組織再建口腔外科関係コースワーク	1・2・3前			4		○				1					
		歯科放射線関係コースワーク	1・2・3前			4		○			1	1					
		基礎疼痛学コースワーク	1・2・3前			4		○			1			1			
		小計（22科目）	－	－	0	88	0	－			13	12	4	10	0	0	－
専攻個別科目	選択科目	基礎・臨床連続講義	1・2・3後			2		○			1	1	1				
		先端感染症学研究 A	1・2・3前			2		○			1						
		先端感染症学研究 B	1・2・3後			2		○			1						
		細菌学・免疫学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		細菌学・免疫学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		骨免疫学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
		骨免疫学 B	1・2・3後			2		○				1		1			
		基礎分子生物学・細胞生物学・遺伝学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
		基礎分子生物学・細胞生物学・遺伝学 B	1・2・3後			2		○				1		1			
		生体組織再生工学特論 A	1・2・3前			2		○			1						
		生体組織再生工学特論 B	1・2・3後			2		○			1						
		生体組織再生工学演習 A	1・2・3前			2			○		1						
		生体組織再生工学演習 B	1・2・3後			2			○		1						
		生体材料学特論 A	1・2・3前			2		○					1				
		生体材料学特論 B	1・2・3後			2		○					1				
		生体材料学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		生体材料学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		歯内疾患制御学特論 A	1・2・3前			2		○			1					1	
		歯内疾患制御学特論 B	1・2・3後			2		○			1					1	
		歯内疾患制御学演習 A	1・2・3前			2		○			1						
		歯内疾患制御学演習 B	1・2・3後			2		○			1						
		う蝕制御管理学演習 A	1・2・3前			2		○			1			1		1	
		う蝕制御管理学演習 B	1・2・3後			2		○			1			1		1	
		国際口腔疫学 A	1・2・3前			2		○			1						
		国際口腔疫学 B	1・2・3後			2		○			1						
		国際口腔保健学演習 A	1・2・3前			2			○		1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	
専攻個別科目	選択科目	国際口腔保健学演習 B	1・2・3後			2			○		1						
		予防歯科学演習 A	1・2・3前			2			○		1	1	1				
		予防歯科学演習 B	1・2・3後			2			○		1	1	1				
		成育歯科学 A	1・2・3前			2		○			1			1			
		成育歯科学 B	1・2・3後			2		○			1			1			
		小児口腔治療学演習 A	1・2・3前			2			○			1		1			
		小児口腔治療学演習 B	1・2・3後			2			○			1		1			
		障害者歯科治療学演習 A	1・2・3前			2			○				1	1			
		障害者歯科治療学演習 B	1・2・3後			2			○				1	1			
		顎関節疾患に対する外科的対応 A	1・2・3前			2			○			1					
		顎関節疾患に対する外科的対応 B	1・2・3後			2			○			1					
		歯科口腔外科学演習A	1・2・3前			2			○		1						
		歯科口腔外科学演習B	1・2・3後			2			○		1						
		固定性補綴治療学 A	1・2・3前			2		○				1					
		固定性補綴治療学 B	1・2・3後			2		○				1					
		口腔インプラント治療学演習 A	1・2・3前			2			○			1		1			
		口腔インプラント治療学演習 B	1・2・3後			2			○			1		1			
		口腔インプラント研究演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		デジタル技術を用いた補綴臨床治療学 A	1・2・3前			2		○				1		1			
		デンタルインプラント臨床学 A	1・2・3前			2		○			1						
		デンタルインプラント臨床学 B	1・2・3後			2		○			1						
		疼痛生理学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		疼痛生理学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		臨床う蝕学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		臨床う蝕学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		歯科医療政策学演習 A	1・2・3前			2			○		1						
		歯科医療政策学演習 B	1・2・3後			2			○		1						
		地域口腔保健推進学 A	1・2・3前			2		○			1						
		地域口腔保健推進学 B	1・2・3後			2		○			1						
		衛生・福祉統計学演習 A	1・2・3前			2		○			1						
		衛生・福祉統計学演習 B	1・2・3後			2		○			1						
		歯科補綴応用生体力学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		歯科補綴応用生体力学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		海外短期エクスターンシップ	1・2・3通			1				○	1						
		エクスターンシップ	1・2・3通			4				○	1						
		国際口腔保健科学研究発表演習Ⅰ	2・3通			1			○		1						
		国際口腔保健科学研究発表演習Ⅱ	2・3通			1			○		1						
		国際口腔保健科学特定研究 Ⅰ	1通			8			○		1						
		国際口腔保健科学特定研究Ⅱ	4後			4			○		1						
		顎口腔解剖学 A	1・2・3前			2		○			1						
		顎口腔解剖学 B	1・2・3後			2		○			1						
		顎口腔解剖学演習 A	1・2・3前			2		○			1	1		1			
		顎口腔解剖学演習 B	1・2・3後			2		○			1	1		1			
		顎口腔機能学 A	1・2・3前			2		○			1						
		顎口腔機能学 B	1・2・3後			2		○			1						
		神経科学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		神経科学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		神経生物学特論 A	1・2・3前			2				○	1						
		神経生物学特論 B	1・2・3後			2				○	1						
		顎顔面矯正学 A	1・2・3前			2		○					1				
		顎顔面矯正学 B	1・2・3後			2		○					1				
		歯科矯正学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		歯科矯正学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		歯科矯正治療学演習 A	1・2・3前			2			○				1				

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	
専攻個別科目	選択科目	歯科矯正治療学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		嚥下障害学 A	1・2・3前			2		○			1						
		嚥下障害学 B	1・2・3後			2		○			1						
		摂食嚥下障害診断学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		摂食嚥下障害診断学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		摂食機能評価学演習 A	1・2・3前			2			○				1				
		摂食機能評価学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		歯周治療学 A	1・2・3前			2		○			1	1					
		歯周治療学 B	1・2・3後			2		○			1	1					
		歯周再生治療学演習 A	1・2・3前			2			○			1	1				
		歯周再生治療学演習 B	1・2・3後			2			○			1	1				
		歯周治療学演習 A	1・2・3前			2			○		1		1				
		歯周治療学演習 B	1・2・3後			2			○		1		1				
		生体防御機能回復学 A	1・2・3前			2		○			1	1					
		生体防御機能回復学 B	1・2・3後			2		○			1	1					
		歯周診断学演習 A	1・2・3通			2		○				1					
		歯周診断学演習 B	1・2・3通			2		○				1					
		硬組織形態学 A	1・2・3前			2		○			1						
		硬組織形態学 B	1・2・3後			2		○			1						
		硬組織形態学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		硬組織形態学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		口腔病理診断学 A	1・2・3前			2		○			1						
		口腔病理診断学 B	1・2・3後			2		○			1						
		口腔分子病理学演習 A	1・2・3前			2			○		1			1			
		口腔分子病理学演習 B	1・2・3後			2			○		1			1			
		臨床口腔病理学演習 A	1・2・3前			2			○			1	1				
		臨床口腔病理学演習 B	1・2・3後			2			○			1	1				
		臨床口腔細胞診断学演習 A	1・2・3前			2			○			1	1				
		臨床口腔細胞診断学演習 B	1・2・3後			2			○			1	1				
		骨組織再建学演習 A	1・2・3前			2		○				1					
		骨組織再建学演習 B	1・2・3前			2		○				1					
		咬合機能再建学 A	1・2・3前			2		○			1			1			
		咬合機能再建学 B	1・2・3後			2		○			1			1			
		顎機能評価学演習 A	1・2・3前			2			○		1			1			
		顎機能評価学演習 B	1・2・3後			2			○		1			1			
		口腔インプラント臨床学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		口腔インプラント臨床学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		顎口腔組織再建外科学 A	1・2・3前			2			○			1		1			
		顎口腔組織再建外科学 B	1・2・3後			2			○			1		1			
		腫瘍制御学演習 A	1・2・3前			2		○					1				
		腫瘍制御学演習 B	1・2・3後			2			○				1				
		顎顔面発育異常治療学演習 A	1・2・3前			2		○					1	1			
		顎顔面発育異常治療学演習 B	1・2・3後			2			○				1	1			
		顎顔面放射線学 A	1・2・3前			2		○			1						
		顎顔面放射線学 B	1・2・3後			2		○			1						
		顎顔面画像診断学演習 A	1・2・3前			2			○			1					
		顎顔面画像診断学演習 B	1・2・3後			2			○			1					
		頭頸部放射線治療学 A	1・2・3前			2		○					1				
		頭頸部放射線治療学 B	1・2・3後			2		○					1				
		歯科疼痛治療学 A	1・2・3通			2		○			1						
		歯科疼痛治療学 B	1・2・3通			2		○			1						
		末梢神経再生学演習 A	1・2・3前			2			○		1	1					
		末梢神経再生学演習 B	1・2・3後			2			○		1	1					
		歯科心身医学演習 A	1・2・3前			2			○		1		1				
		歯科心身医学演習 B	1・2・3後			2			○		1		1				
		小計（135科目）	－	－	0	277	0	－			21	20	13	13	0	2	
合計（160科目）			－	－	6	365	0	－			21	20	13	13	0	2	

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻（博士課程））【既設研究科】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	

学位又は称号	博士（歯学）、博士（学術）	学位又は学科の分野	歯学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（修了要件） 共通科目から10単位(必修科目6単位，選択必修科目4単位以上)以上を含む合計30単位以上修得し，研究指導を受け，かつ研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格すること。 （履修方法） ・専攻共通必修科目　６単位 ・専攻共通選択必修科目　４単位以上 ・専攻個別科目	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻共通科目	リサーチ・メソッズ・ベーシック		研究の初心者が、保健医療に関わる領域の研究を着想し、具体的な計画を立て、研究を実施し、その成果を学会・論文等で発表するまでの過程で必要な基本的な方法論を学ぶ。その内容は、研究課題の特定、研究手法の選択、倫理的配慮と倫理審査、引用(EndNoteによる演習を含む)、論文執筆の実際、論文投稿の実際、学会発表の実際である。保健医療領域における研究者として最低限必要な、博士前期課程における研究活動に対する心構えや方法論の基礎を習得する。心構えの基本は研究者として科学的なものの見方を基本として問題に向き合う態度と、研究の立案と実施において不正を行わず必要な倫理的配慮を講じる態度と実践である。また、方法論とは研究の着想から論文投稿までの一連の作業を行うために必要な方法についての理論である。	共同
プログラム共通科目群	保健理工学概論		医療と工学を融合した学際的な視点から、保健学と自然科学の分野を横断する形で幅広い知識を学ぶ科目である。この科目では、医療機器の開発と応用、健康情報学、バイオメカニクス、環境と健康の関係について学び、診断や治療に用いる医療機器の設計や開発、医療データの収集と分析、リハビリテーション機器や人工関節の開発、また環境要因が健康に及ぼす影響といったテーマを扱う。前半では保健理工学の目的や意義、臨床応用、社会貢献について複数の教員が概説し、保健学や工学の研究事例も紹介する。後半には、夏季集中講義として「ものづくり体験ワークショップ（WS）」が行われ、課題解決に向けたものづくりのプロセスを体験することで、保健理工学の実践的な側面を学び、医療と工学の知識を統合し、医療現場で技術革新や健康向上に貢献できる人材の育成を目指している。	
	医療情報統計科学		データ解析や情報処理の基礎を学び、医療現場でのデータ活用能力を向上させることを目的とする科目である。この科目では、科学的根拠に基づく医療（EBM）を理解し、その実践に必要な疫学研究の方法論や研究計画の立案、データ収集、分析、考察に至る一連の流れを学ぶ。また、医療データの収集や整理、解析手法、統計学の基本概念を習得し、データベースを用いた情報収集とその客観的評価を行う能力を身につける。これにより、高度専門医療職者として自立して研究活動を行うための実践力と、適切な統計手法の選択、結果の考察、得られたエビデンスの質を評価できるスキルを培うことを目指している。	
	脳と心の医科学		本講義では、まず脳の神経回路がどのように形成され機能するのかを概説し、障害時の再生方法についても考察する。生後発達期や学習・記憶の際におけるシナプスの可塑性や、そのメカニズムについて最新の知見を紹介するとともに、こどもの脳における臨界期の神経回路形成の基礎的メカニズムを解説する。また、視覚認識の脳内メカニズムを生理学、行動学、理論モデルから検証し、我々の知覚や意識がどのように生み出されるのかを考察する。さらに、精神神経疾患における脳内環境の異常と臨床症状、薬物的加療の理論的基盤を実例を通じて学ぶ。老化や神経難病研究を通じた医科学研究法の習得も目指し、批判的思考力を身につける訓練も行う。「心の理論」の脳基盤に関する研究についても取り上げ、多角的に脳機能を理解する力を養う。 （オムニバス方式／全16回） （11 上野　将紀／2回）神経回路の構築と機能 （74 長谷川　功／2回）批判的思考 （82 松井　秀彰／2回）老化や神経難病の研究 （87 三國　貴康／2回）シナプスの発達と可塑性 （49 杉山　清佳／2回）こどもの脳の発達のしくみ （117 川嵜　圭祐／2回）視覚と意識：システム神経科学の基礎 （48 島田　斉／2回）脳とこころの病的変容とくすり （107 江川　純／2回）「心の理論」の脳基盤	オムニバス方式
	グローバル医学入門		医療分野での国際的な視点を育み、グローバルな課題に取り組むための実践的な学びを提供する科目である。最新の医学情報が英語で発表される中、英語での文献検索や引用方法を学ぶことは、今後の研究活動や発表に大きな力となる。また、米国や英国の医療制度と日本を比較することで、異なる医療モデルの特長を理解し、日本の医療制度の課題を新たな視点で見直す。さらに、修士論文の執筆や医学英語のコミュニケーションスキルも習得できる。新型コロナウイルス感染症や東南アジアでの熱帯病対策、WHOの活動内容もテーマに含まれ、国際保健や感染症研究の最前線に触れることで、異文化医療への理解を深め、国際医療での専門性を養う。 （オムニバス方式／全16回） （47 芝田　晋介／4回） 英語で世界中の文献を検索して引用する方法、熱帯病を追って -東南アジア地域の医療事情 （34 齋藤　昭彦／2回）米国と英国の医療制度 （25 片貝　智哉／4回）英語と日本語で論文を正しく書く方法、海外留学して世界にはばたく・医学用語を英語で学ぶ （36 齋藤　玲子／2回）日本とミャンマーのインフルエンザ （264 RAZVINA OLGA／2回）医学英語を使った英会話 （18 大橋　瑠子／2回）WHOと病理組織のWHO分類について	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム共通科目群	生命医療科学総論		この科目では、口腔の健康と全身の健康の関係を含む、生命医療科学の重要な要素を網羅的に扱う。生命医療科学の背景や現状、直面する課題、今後の発展の方向性について最新の研究を基に紹介する。口腔保健管理を推進するためには、口腔疾患と全身疾患の関連、全身管理や感染予防の基本知識、生命医療倫理など、多方面の知識が必要である。この科目では、う蝕や関連疾患の病因・治療・予防法から、歯科医療経済や地域口腔保健施策に関する現状と展望も学ぶ。医療経済や社会資源の視点で口腔生命医療を理解し、地域や行政の口腔保健向上の取り組みも深く学ぶ。また、インフォームドコンセントや自己決定といった生命医療倫理の基礎理論、歴史、法規を解説し、患者との信頼構築に不可欠な倫理基盤を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （93 葭原　明弘／3回） 口腔保健管理において必要な感染予防および全身管理について、最新の知見を基に講義する。 （88 宮坂　道夫／2回） インフォームドコンセントや自己決定などの生命医療倫理の基礎理論について講義する。 （20 小川　祐司／2回） 口腔疾患と全身健康状態の関連について最新の研究成果を基に講義する。 （14 大内　章嗣／2回） 医療経済および社会資源に関する側面から口腔生命医療の現状と課題について講義する。 （92 吉羽　永子／2回） う蝕およびこれに起因する関連疾患の病因・病態、治療および予防管理について、最新の知見を踏まえ講義する。 （73 濃野　要／2回） 歯周疾患の病因・病態、治療および予防管理について最新の研究成果を基に講義する。 （120 黒川　孝一／2回） 地域口腔保健の向上を目指した行政および関係団体の取り組みについて講義する。	オムニバス方式
	医療福祉援助学総論		口腔保健および医療福祉援助の基礎を学ぶための科目であり、医療・福祉に関連する制度や援助対象者への理解を深めることを目的としている。この科目では、地域の健康増進を目指す取り組みやそれを支える法的制度について学ぶとともに、食育支援、介護予防などと口腔の健康とどう結びつくかを理解する。また、障害を持つ方々への支援提供にあたり、歯科や医療、福祉の専門職がどのように連携しているか、多職種による協力体制についても学ぶ。さらに、ソーシャルワークの実践事例を取り入れ、現場での支援方法や意義を考察する。 （オムニバス方式／全16回） （14 大内　章嗣／4回） 地域口腔保健のアセスメント、計画、実施、評価に関する基本的な考え方とその実際について講義する。 （165 米澤　大輔／2回） 唇顎口蓋裂患者への対応を題材に、関係者および関係機関の役割分担と連携の実際について講義する。 （93 葭原 明弘／2回） 食育支援や介護予防、喫煙対策などの法規と、それらが歯科保健活動とどのように関連するかについて講義する。 （128 柴田　佐都子／2回） 障害者支援において歯科衛生士や社会福祉士の視点からのアプローチについて講義する。 （142 中村 健／6回） ソーシャルワークの関連法令、実践事例、演習を通じて、社会福祉援助の基礎と応用について講義する。	オムニバス方式
プログラム専門科目群　メディカルサイエンスプログラム	分子細胞医科学		本講義では、オミクス解析法の原理と応用について説明し、分子レベルでの網羅的解析の意義を明らかにする。さらに、細胞の構造と動態に関わる細胞骨格の制御機構や走化性メカニズムについて解説し、細胞の動的活動を支える仕組みを示す。がん化に対する防御機構と発がんメカニズムを通して、疾病予防の分子基盤を理解する。RNAの役割や神経変性疾患における最新の研究についても触れ、脂質代謝や膜ダイナミクスの重要性、細胞周期とその調節機構について学び、細胞増殖の基盤的プロセスを理解する。また、インフルエンザウイルス感染を例に、ウイルス感染の仕組みと治療の基礎を学ぶ。最後に、血管とリンパ管の形成に関わる分子とその機構、がんにおける役割について解説する。 （オムニバス方式／全16回） （85 松本　雅記／4回）オミクス研究の原理と応用 （189 野住　素広／2回）細胞骨格と細胞運動 （111 押川　清孝／2回）がんの分子生物学 （65 中津　史／2回）細胞内脂質の代謝・輸送と生理機能 （151 福田　智行／2回）細胞増殖の機構と制御 （104 内ヶ島　基政／2回）シナプス学入門 （164 吉松　康裕／2回）血管・リンパ管形成を司る分子機構	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	医学と社会		この講義は、まずヒト集団を対象とした疫学の方法を概説し、疾病の規定要因を明らかにするための分析手法と、その結果の批判的な評価方法を学ぶことから始まる。次に、自然環境、生活環境、職場環境など多様な外部環境が健康に与える影響を環境医学の観点から説明し、近年の注目すべきトピックを取り上げる。また、地理情報システム（GIS）を活用し、疾患の分布や社会的・環境的要因を視覚的に解析する手法とその医療・保健分野での応用例を紹介する。さらに、医薬品に関する基本的な知識を整理した上で、治験や臨床研究のデザイン、利点と課題、リスク管理計画、ジェネリック医薬品や育薬の意義について学ぶ。社会問題として深刻化する子ども虐待については具体的な事例を通して現状を理解し、その問題の根深さを考察する。最後に、法医学の対象範囲と、社会におけるその重要な役割について解説し、法医学が社会の安全保障にどのように寄与しているかを理解する。 （オムニバス方式／全16回） （66 中村　和利／2回）疫学総論 （115 金光　洋臣／4回）医薬品と臨床研究、医薬品ライフサイクル （167 渡邊　裕美／2回）環境医学総論 （269 菖蒲川　由郷／2回）地理情報システム（GIS)概論 （53 高塚　尚和／4回）法医学入門、法医学からみた子ども虐待 （21 奥田　修二郎／2回）人工知能は医療に何をもたらすか？	オムニバス方式
		感染と免疫		本講義では、HIVの感染、複製、病態および治療法を学び、ウイルスが人体に及ぼす影響と治療戦略を理解する。ウイルス感染に対する生体防御機構を自然免疫応答の分子レベルから解説し、ウイルスが免疫反応に干渉する作用についても触れる。細菌感染症については、原因となる細菌の性状や抗菌薬と薬剤耐性の現状を考察する。近年増加する非結核性抗酸菌症、とりわけ肺MAC症の臨床像と研究の進展について学び、抗酸菌の寿命や薬剤トレランスの仕組みを基に対策を探る。免疫系の働きとリスクに注目し、免疫反応がもたらす組織・臓器障害の病態形成メカニズムや、重要な免疫系細胞の動的な移動プロセスについても概説し、免疫機能の全体像を理解する。 （オムニバス方式／全16回） （137 高橋　雅彦／4回）分子ウイルス学、エイズウイルス（HIV） （1 阿部　隆之／2回）ウイルス感染と自然免疫応答 （25 片貝　智哉／2回）免疫応答のダイナミクス （150 福住　好恭／2回）免疫学的機序により発症する疾患（アレルギー） （187 西山　晃史／2回）細菌学総論：細菌感染症と抗菌薬・薬剤耐性 （84 松本　壮吉／4回）非結核性抗酸菌症の病態と基礎研究／抗酸菌の長寿から、結核や非結核性抗酸菌症の創薬を考える	オムニバス方式
		臨床医学入門		本講義では、遺伝子診療時代の外科の役割を解説し、特に大腸癌の組織像から遺伝子異常を予測するAI開発に触れる。次に、音の認知メカニズムを学び、鼓膜から聴覚中枢までの経路と障害について解説する。また、心不全の増加と社会的認知の課題に焦点を当て、臨床的課題を考察する。さらに、肺炎と誤嚥性肺炎の病態や診断・治療を紹介し、糖尿病や動脈硬化疾患のビッグデータ解析の重要性を学ぶ。慢性腎臓病と透析療法の課題について解説し、腎疾患の現状を把握する。最後に、運動器の悪性腫瘍である肉腫に注目し、その構造と腫瘍形成のメカニズムを学ぶ。 （オムニバス方式／全16回） （95 若井　俊文／2回）科学技術が導く『がん治療革命』遺伝子診療時代における外科の役割 （81 堀井　新／2回）聴覚のしくみとその障害 （10 猪又　孝元／2回）心不全パンデミック （29 菊地　利明／2回）細菌性肺炎の診療 （52 曽根　博仁／2回）生活習慣病と動脈硬化疾患のビッグデータサイエンス （91 山本　卓／2回）慢性腎臓病の現状と課題 （28 川島　寛之／2回）運動器に発生するがん・肉腫 （131 ZHOU QILIANG／2回）がんの薬物療法	オムニバス方式
		医科学セミナー		本科目は、博士前期課程1年生が博士前期課程2年生の中間発表に参加し、研究内容や進捗を理解するとともに、質疑応答や議論を通じて研究活動の基礎を学ぶことを目的とする。参加者は、上級生の研究テーマや方法論を聴講し、内容を批判的に考察しながら、自身の研究に役立つ知識を得る。また、質疑応答に積極的に参加し、議論を深める姿勢が求められる。事前に配布された資料を基に予習を行い、質問や議論のポイントを準備する。発表後は内容や議論で得た知見を振り返り、自身の研究活動への応用を考察したレポートを作成する。これにより、研究理解の基盤形成、批判的思考力、質疑応答能力、研究計画立案の準備力を向上させ、研究者としての積極的な姿勢とコミュニケーション能力を養うことを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	医科学研究発表演習		本科目は、博士前期2年生の中間発表の場として位置付けられ、自身の研究進捗を発表し、質疑応答やフィードバックを通じて研究内容を深化させることを目的とする。学生は背景、目的、方法、結果、考察を整理した発表を行い、他者からの質問や意見に対応しながら論理的な説明能力を養う。また、他者の発表に対して積極的に質問や建設的な議論を行い、批判的思考力や多角的な視点を身につける。質疑応答を通じて新たな視点を得るとともに、指導教員や同級生からのフィードバックを基に研究計画を見直し、完成度を高める。本科目では、論理的な発表スキル、質疑応答能力、批判的思考力、科学的コミュニケーション能力を向上させ、修士研究の完成に向けた準備を進めることを目指す。	
		解剖学演習		この演習では、神経系の構造と機能を解明するために、末梢および中枢神経系の解剖学と遺伝子改変技術の基礎と応用について学ぶ。まず、末梢神経系の解剖と発生過程を理解するため、組織標本や発生段階の観察を行う。また、遺伝子改変動物モデルを用いて中枢神経系の機能解剖を探究し、蛍光イメージング技術を駆使して神経回路の構造と関連遺伝子の役割を検討する。形態形成に関しては、進化的観点からの比較解剖学を学び、異種生物の神経組織を比較し形態の多様性を理解する。さらに、生体への効率的な遺伝子導入法の開発・改良についても実習し、ウイルスベクターなどを用いた導入実験やその技術の改良を試みる。これらの学びを通じて、神経解剖学の理解を深めるとともに、遺伝子技術の応用力を培うことを目指す。	
		脳機能形態学演習		この演習では、神経系の発生や発達、神経幹細胞の分化メカニズム、神経疾患の病態解明といった神経生物学の基礎と応用について学ぶ。神経系の発生や生後発達を理解するため、神経細胞の成長過程を観察し、特異的ニューロンやグリア細胞が神経幹細胞からどのように分化するかを解析する。また、RNA制御が神経細胞機能に与える影響について、RNA干渉や翻訳調節の実験技術を用いて探究する。再生医学の視点からは、神経難病克服を目指し、幹細胞移植や組織再生の基礎的な技術を実習する。さらに、神経変性疾患モデル動物を用いた病態解析を行い、疾患進行に関与する細胞・分子レベルの変化を探る。これらの演習を通じ、神経系の成長・再生・疾患に関する深い理解を得るとともに、再生医学の基礎と応用の知識を習得することを目指す。	
		組織学演習		この演習では、多様な顕微鏡技術を駆使し、細胞・組織の構造機能解析や新規イメージング技術の開発を通じて、神経や病態生理の理解を深めることを目指す。学生は、光学顕微鏡や電子顕微鏡などの技術を学びながら、自身の興味に基づき特定テーマに取り組む。例えば、神経組織や細胞の構造機能解析、中枢神経や末梢神経の再生促進法、人工神経の開発などがある。また、電子顕微鏡を用いて神経の活動を捉える新たなイメージング法の開発や、アルツハイマー病などの神経変性疾患に伴う組織変化の可視化、癌浸潤に伴う痛み発生のメカニズム解明も実施する。さらに、ヒト特有の知性獲得メカニズム、腸管運動不全の病態、神経幹細胞維持機構などのプロジェクトも含まれる。新規画像解析法の開発や、複数の顕微鏡技法を統合して細胞・組織構造を詳細に解析する実践的な技術習得を通じ、先進的なイメージング技術の基礎と応用力を養成することを目的とする。	
		神経生理学演習		この演習では、霊長類動物モデルを中心にヒトの知性が脳の働きによってどのように生み出されるかを実験的に検証することを目指す。皮質脳波法を用いて脳に電極を配置し、視覚認知やイメージ、記憶などの大脳メカニズム、文字言語の処理機構、社会認知に関連する脳回路の動態の解明に取り組む。さらに、光遺伝学や化学遺伝学を駆使した脳回路操作手法の開発も行う。動物実験、工学、手術といった多分野の技術を学びながら、「知性をもたらす」脳の仕組みに挑む意欲を持つ人の参加を歓迎し、脳の機能を多角的に理解し応用する力を育成することを目指す。	
		発達生理学演習		この演習では、こどもの脳における神経回路の形成とその柔軟性について学び、発達障害や精神疾患の予防と治療の可能性を探る。発達期に豊富な経験が神経回路の形成を促進する一方で、偏った経験が回路の誤配線を引き起こし、精神疾患の一因となるメカニズムを理解するための実験を行う。具体的には、脳の発達を制御する遺伝子群の発見や、経験が神経回路にどのように影響を与えて個性を形成するかの研究を進める。さらに、動物モデルを用いて、行動や情動の基盤となる神経回路の可視化と、行動や情動を解析する画像認識システムの開発に取り組む。また、こどもの柔軟な回路形成能力を大人に再現する方法を探ることで、発達期の脳の特性を応用した治療法の可能性を追求する。これらの研究を通じ、発達期の神経回路の柔軟性とその応用に関する知識を深めることを目指す。	
		オミクス生物学演習		この演習では、タンパク質の発現や修飾、相互作用に焦点を当て、がんや老化などの疾患研究に応用する技術を学ぶ。タンパク質は生命現象における重要な機能素子であり、タンパク質の発現量や翻訳後修飾、タンパク質間相互作用の網羅的・定量的な計測技術を開発する。具体的には、オミクス技術を駆使してがんや老化の分子基盤を解析し、タンパク質動態の制御メカニズムを解明する。また、マルチオミクス計測を通じてシステム生物学的な視点から生命現象を統合的に理解するための研究を行い、タンパク質化学やプロテオミクスにおける新技術の開発にも取り組む。これらの活動を通じ、タンパク質研究を基盤とした先進的な疾患研究の知識と技術を習得し、システム生物学の応用力を養うことを目指す。	
		分子細胞機能学演習		この演習では、分子・細胞・個体レベルでの生化学的なメカニズムを探り、脂質代謝、シグナル伝達、神経成長やウイルス感染といった生命現象における脂質の役割を明らかにすることを目指す。脂質の代謝と輸送メカニズム、免疫細胞や神経細胞のシグナル伝達制御に関わる生化学的プロセスについて研究を進め、脂質が神経系の発達や免疫応答にどのように寄与しているかを解明する。さらに、脂質による炎症性シグナルやウイルス感染、神経成長の制御メカニズムを対象とし、これらが疾患とどのように関連するかを探求する。蛍光イメージング技術や光操作法の開発にも取り組み、脂質動態の可視化と操作を行うことで、分子レベルでの脂質の働きやその制御の仕組みを理解する。この演習を通じて、脂質生物学における基礎知識と先端的な研究技術を習得し、疾患研究への応用力を高めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	薬理学演習		この演習では、遺伝子変異マウスを用いて脈管系の発生および異常により生じる病態を研究し、脈管系における分子メカニズムや病態進行の理解を目指す。具体的には、リンパ管発生の分子機構を解明し、血管由来因子がリンパ管パターン形成にどのような影響を与えるかを探る。また、胎児疾患モデルマウスを作製し、その病態の進行と特徴について解析を行う。さらに、脈管の性質変化が病態の悪性化にどのように関わるかについても実験を通じて検討する。この演習を通じ、脈管系の発生と疾患進行に関する基礎的な知見と遺伝子変異モデルの応用技術を習得し、疾患治療への可能性を探る力を養うことを目的とする。	
		細菌学演習		この演習では、抗酸菌症などの難治性細菌感染症に対する制御法の開発と、細菌を用いた生命現象の理解を目指す。年単位の治療が必要で健康被害と人命損失を招く感染症に対して、「ワクチン」「治療薬」「診断薬」の開発に取り組むとともに、細菌を通じて細胞の長寿メカニズムなど生物の基本原理を探求する。具体的には、細菌の病原性や生命活動に関わるメカニズムの解明、感染病原体に対する免疫の働きを解析し、難病に対する防御法の理解を深める。さらに、アジアやアフリカにおける感染症調査を通じた国際協力活動にも携わり、現地の感染状況や病原体特性の調査と共に、地域特有の感染症対策にも貢献する。この演習を通じ、感染症の分子メカニズムから国際的な公衆衛生に至る広範な知識と技術を身に付け、感染症制御への実践力を高めることを目的とする。	
		ウイルス学演習		この演習では、ウイルスと宿主細胞の相互作用を通じてウイルスの複製機構や病原性発症メカニズムを解明し、感染症治療への応用を目指す。具体的には、肝炎ウイルスの複製と病原性発症機序の解析を行い、ウイルス感染による肝疾患の進行メカニズムを探る。また、新型コロナウイルスに対する自然免疫応答の解析を通じて、ウイルスに対する宿主の防御メカニズムを理解する。さらに、小児に感染するパレコウイルスやヘルペスウイルスの複製機構と病原性を研究し、ウイルス感染による病態形成の基礎を明らかにすることを目指す。加えて、神経変性疾患に関与するUSP10の役割についても解析を行い、ウイルス感染が神経疾患に与える影響を理解する。この演習を通じ、ウイルス感染メカニズムに関する深い知識と実験技術を習得し、感染症やウイルス関連疾患の研究および治療法開発に貢献できる力を養うことを目指す。	
		社会・環境医学演習		この演習では、加齢性疾患の予防に向けた予防医学研究に取り組み、加齢による疾患リスクを低減するための科学的基盤を構築することを目指す。村上コホート研究を基に、認知症や骨粗鬆症性骨折、膝関節症、身体機能低下、サルコペニア、慢性疼痛といった加齢性疾患に関する大規模疫学データを解析し、疾患発症リスクと生活習慣要因の関連を探る。また、認知症予防を目的とした尿プロテオミクスなどのオミックス研究により、早期予防マーカーの同定に取り組む。さらに、ビタミンDやカルシウムなどの栄養素が加齢性疾患に与える影響を評価する栄養疫学研究も行い、予防効果のメカニズムを解明する。この演習を通じて、加齢性疾患の予防に関する疫学的・分子生物学的知識と実践的な研究手法を習得し、予防医学分野での応用力を高めることを目的とする。	
		国際保健学演習		この演習では、日本やミャンマーにおける新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）、インフルエンザウイルス、RSウイルスの流行状況を調査し、感染症の分子疫学や治療効果を検討する。具体的には、インフルエンザウイルス感染症の治療効果の評価、ウイルスの検出・培養、遺伝子解析による進化の追跡、薬剤耐性ウイルスの検出といった実験を行い、感染症における分子基盤を理解する。また、新型コロナウイルスやRSウイルスに対する分子疫学研究を通じて、地域や集団における感染動向やウイルスの変異の影響を探る。さらに、インフルエンザや新型コロナワクチンの予防効果を評価し、感染症の拡大を予防する手段について考察する。感染症疫学や感染症モデリングを用いたデータ解析も行い、感染症の広がり方や予測モデルを構築する。ミャンマーにおけるインフルエンザ様疾患や小児の髄膜脳炎の調査も含まれ、現地での感染症研究基盤を強化し、国際協力による感染症制御の可能性を追求する。この演習を通じて、感染症の分子疫学的手法、データ解析、国際的な公衆衛生対策に関する知識と技術を習得することを目指す。	
		免疫・医動物学演習		この演習では、免疫系における細胞・分子メカニズムの理解を深め、免疫応答と疾患との関係を解明することを目指す。マウスモデルを用いて、免疫細胞の役割や機能分子の特性を解析し、特にリンパ節や脾臓を中心とした免疫組織の構造と機能に焦点を当てる。また、免疫組織におけるストローマ細胞の性質と役割を調べ、免疫細胞の動態を生体イメージング技術で可視化する。さらに、自己免疫疾患やアレルギー疾患、感染免疫応答における免疫細胞と組織環境の相互作用、そして抗癌免疫応答における組織環境が免疫細胞に与える影響についても検討する。加えて、非病原性発酵微生物（麹菌、酵母、乳酸菌）に対する免疫応答を解析し、微生物が免疫系に及ぼす影響を探求する。この演習を通じ、免疫細胞の動態や機能、組織環境との相互作用についての知識と技術を身に付け、免疫学研究および疾患予防・治療への応用力を高めることを目的とする。	
		法医学演習		この演習では、「死因究明に係る高度専門職業人育成プログラム」の一環として、法医病理学や法医画像診断学、法医中毒学をはじめとする法医学の専門知識と実践的技術を学ぶ。具体的には、法医病理学において死亡時の身体的証拠を解析し、法医画像診断学の手法を通じてCTやMRIを用いた死因究明の補助技術を習得する。また、法医中毒学における毒物の分析とその中毒メカニズムを学び、臨床法医学では子どもの虐待やネグレクトに対する法医学的アプローチを習得する。さらに、歯科法医学においては歯の特徴を活用した個人識別法を学び、法医同位体学を通じて同位体分析に基づく身元確認や死因の解明に取り組む。死因究明に関連する法律学もカバーし、司法における科学的証拠の扱い方や法的プロセスについての知識を深める。この演習を通じて、法医学の各分野にわたる知識と技術を総合的に習得し、死因究明の現場で即戦力となる高度専門職業人の育成を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	腎分子病態学演習		この演習は、医歯保健学研究科附属腎研究センターに属し、腎臓病の克服を目指した基礎研究に取り組むものである。腎臓の解剖生理学や病理診断法を学び、腎疾患モデル動物の作成や腎固有細胞の培養を通じて、慢性腎臓病の発症と進行のメカニズムを解明する。また、糸球体の発生・成熟や濾過機能の異常による蛋白尿の発症メカニズム、腎局所におけるレニン・アンジオテンシン系の役割についても研究を進める。さらに、腎臓病の新規治療法や診断法の開発を目指し、腎臓病と他臓器疾患の共通メカニズムの解明に取り組む。教育方針としては、腎臓分野の研究を通じて研究倫理や実験技術、データ分析の基礎を指導し、学会発表や論文発表の方法も学ぶ機会を提供する。	
		医学教育学演習		この演習では、医療者教育における重要なテーマについて学び、医療者としての成長と実践に役立つ教育研究を行う。コミュニケーション能力の獲得を中心に、患者や医療チーム内での効果的な対話技術を習得する方法を研究する。また、プロフェッショナルアイデンティティの形成について考察し、医療者が専門職としての自己認識や倫理観を確立していく過程を理解する。さらに、早期体験実習を通じて得られる学びについても分析し、実習が医療者としてのキャリアや技能形成にどのように寄与するかを検討する。研究テーマの設定に関しては個別の相談に応じ、学生が自身の興味に基づいた研究を進められるようサポートする。この演習を通じ、医療者教育の理論と実践を深く理解し、効果的な教育方法を開発する力を養うことを目指す。	
		循環器内科学演習		この演習では、動脈硬化症、不整脈、心不全といった循環器疾患に関する基礎および臨床研究を通じて、疾患メカニズムの解明と治療法の開発を目指す。動脈硬化症に関する研究では、血管内の病変形成や進行過程を探り、疾患予防や治療への応用を考察する。不整脈の発症メカニズムやそれに基づく治療法の研究では、心臓の電気的活動の異常が生じる仕組みとその制御方法を学ぶ。心不全の発症・進展に関しては、心筋の機能低下が進むメカニズムを解明し、進行を遅らせる治療戦略を模索する。また、循環器疾患の予防と心臓リハビリテーションに焦点を当て、生活習慣の改善や運動療法が心臓病予防と回復に与える効果を調査する。この演習を通じ、循環器疾患における基礎的な病態理解と臨床応用を結びつける実践的な研究スキルを習得し、循環器疾患の予防と治療に貢献できる力を養うことを目指す。	
		血液・内分泌・代謝内科学演習		この演習では、幅広い学部専攻の専門知識を活かし、生活習慣とそれに関連する病気（生活習慣病や動脈硬化症、悪性腫瘍など）についての健康増進および医療に貢献する研究を行う。食事、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣が疾病リスクに及ぼす影響を解析し、特に医療ビッグデータやゲノムデータの解析、AIを活用した予防・予測医療に取り組む。臨床心理学や教育学を背景に、患者の心理面に配慮した治療法や患者教育、運動療法による治療法の開発も行う。また、健康食品や医療経済についても検討し、生活習慣病や腫瘍発症の分子生物学的メカニズム（遺伝子異常や免疫微小環境など）の解明と新規診断法や治療（分子標的療法、免疫細胞療法など）開発を目指す。さらに、細胞治療認定管理師や臨床培養士の資格取得も可能で、研究テーマに応じた指導が行われる。この演習を通じ、多様な専門知識を融合させ、実践的かつ多角的なアプローチで患者支援や医療改善に貢献する力を養うことを目指す。	
		腎・膠原病内科学演習		この演習では、腎疾患や高血圧、糖尿病などの生活習慣病に関連する研究を通じて、腎機能低下やそれに伴う合併症の理解と治療法の開発を目指す。原発性糸球体腎炎や糖尿病性腎症の発症・進行メカニズムを解析し、腎不全やそれに伴う貧血、骨・ミネラル代謝異常といった複雑な病態に関する研究も行う。また、リウマチや膠原病、アレルギー疾患の病態メカニズムの解明を目指し、免疫不全と感染症との関係についても探求する。これらの研究を通じて、腎疾患および関連疾患の分子メカニズムを解明し、効果的な治療戦略を構築することを目指す。さらに、腎不全治療や生活習慣病管理における新たな治療法や予防策の開発も視野に入れ、患者のQOL向上に貢献する実践的なスキルを養う。	
		呼吸器･感染症内科学演習		この演習では、肺疾患に関連する分子メカニズムを解明し、治療法の開発を目指した研究を行う。肺がん幹細胞を標的とした新規治療法の開発を中心に、肺がん化学療法に伴う腎障害を予測する因子の特定に取り組み、治療の安全性と有効性向上を図る。また、気管支喘息に対する舌下免疫療法の開発を進め、喘息患者に対する効果的な治療手段を探る。抗インターフェロンγ自己抗体の臨床的解析では、自己免疫反応と感染リスクの関係を解明し、炎症性肺疾患における元素分析により、疾患の病態と微量元素の関わりを調査する。さらに、抗ミトコンドリア抗体と呼吸不全との関連を解析し、呼吸機能障害のリスク因子を評価するほか、非結核性抗酸菌症の分子疫学的解析を通じて感染パターンやリスク要因を特定する。この演習を通じて、肺がんや炎症性肺疾患の治療と予防に貢献するための分子病理学的知識と実践的な研究技術を習得することを目指す。	
		消化器内科学・肝臓病学演習		この演習では、消化器疾患の治療および診断における先端的な技術と知識を習得し、病態解明から新規治療法の開発まで幅広く研究する。消化器疾患に対する修復再生療法や遺伝子治療の開発を通じ、臓器の機能回復を目指す治療戦略を探る。また、消化器疾患の進行における免疫学的関与や代謝炎症のメカニズムについて研究し、疾患の発症要因や進行因子を解明する。消化器癌やウイルス性肝炎、胆道・膵悪性腫瘍における遺伝子診断や病態生理に関する研究も行い、早期発見や治療法の向上に貢献する。さらに、腸内細菌と生体制御、栄養とサルコペニア、消化管運動や血流の制御に関する研究を通じ、全身の健康との関連を理解する。内視鏡診断と治療、バイオマテリアルの応用、Exosome研究なども含め、診断・治療技術の革新を目指す。これにより、消化器疾患に関する分子生物学、代謝、免疫学的知見を統合し、診断から治療までの実践力を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	分子精神医学・精神医学演習		この演習では、精神疾患の神経回路や遺伝的要因を解明し、診断と治療に向けたバイオマーカーや薬物療法の発展を目指す。まず、「こころの理論」を担う神経回路を解析し、社会的認知機能の神経基盤を理解する。自閉スペクトラム症においては、培養神経細胞の神経突起やシナプス発達を指標に、リスク遺伝子の機能を解析し、脳磁図を用いた脳病態研究によって脳の活動異常を調査する。また、統合失調症や自閉スペクトラム症の分子遺伝学的研究を行い、疾患発症の遺伝的メカニズムを解明する。向精神薬の効果や副作用に関するゲノム薬理研究では、薬物応答性を決定する因子を特定し、治療の個別化を進める。さらに、治療抵抗性うつ病や周産期うつ病について、バイオマーカーや心理社会的因子を解析し、効果的な治療アプローチを探る。この演習を通じ、精神疾患の多面的な理解とともに、臨床に応用できる診断技術や治療法を開発する力を育成する。	
		小児科学・小児保健学演習		この演習では、新生児や小児の疾患と発達に関する生理学的および分子生物学的なメカニズムを探求し、診断や治療の向上を目指す。新生児・未熟児の発達生理を研究し、早期発達に関する基礎知識を深め、未熟な臓器やシステムの成長過程とその特性を理解する。また、小児腎疾患の病態と治療に関する研究を行い、腎疾患が成長や発達に与える影響を解析する。さらに、悪性腫瘍、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、感染症など、小児における分子生物学的なメカニズムを調べ、治療法開発の可能性を探る。小児の生活習慣病についても研究し、予防と早期介入の方策を考察する。特にウイルス感染症を中心とした小児感染症の研究では、感染メカニズムや免疫応答を解明し、感染症予防と治療に役立つ知見を提供する。この演習を通じ、小児医療における基礎から応用までの幅広い知識と技術を習得し、子どもの健康を支えるための実践力を育成することを目指す。	
		腫瘍外科学・消化器・一般外科学演習		この演習では、腫瘍外科の基礎から応用に至る幅広い研究を通じて、がん治療と外科的手法の発展を目指す。腫瘍外科学の技術を学びつつ、外科代謝と栄養学の視点から術後の回復を促進する栄養管理についても研究する。また、肝移植や膵移植における免疫反応を解析し、拒絶反応を制御する方法を探る。癌特異的蛋白質や細胞の不死化、腫瘍形成のメカニズムを解明し、腫瘍の浸潤や転移に関する研究を進め、がんの進行抑制に寄与する知見を得る。さらに、蛍光免疫染色を用いてDNA損傷修復のメカニズムを解明し、抗癌剤に対する耐性機序やがんゲノム医療に基づく個別化医療の可能性も探求する。ロボット支援下手術やAIを活用した手術支援技術の開発を行い、がん治療の精度向上を目指す。また、癌と腸内細菌叢の関係についても研究し、腸内環境ががんの発生や進行に与える影響を明らかにする。この演習を通じ、腫瘍外科と関連分野の最新知見と技術を習得し、がん治療における総合的な専門知識と実践力を育成することを目指す。	
		呼吸循環外科学演習		この演習では、心臓および肺の疾患に関する臨床病理学的および分子病理学的なメカニズムを探り、外科治療や移植医療の発展を目指す。まず、肺癌の臨床病理学的研究を通じて、肺癌の進行や病態に関する知見を深め、治療効果を高める方法を模索する。心臓外科領域では、手術前後の心臓機能評価解析を行い、手術の成功率や患者の予後を改善するためのデータ解析技術を学ぶ。また、血管疾患に対する分子・病理学的なアプローチを研究し、血管の健康維持と疾患予防のための基礎知識を習得する。外科治療と血液凝固異常の関連を研究し、術中・術後の血液凝固管理に役立つ情報を提供することを目指す。さらに、心臓および肺移植における拒絶反応や免疫応答のメカニズムを基礎研究し、移植医療の安全性を高める方法を探求する。補助人工心臓に関する研究も行い、心臓機能が低下した患者に対する治療手段としての技術開発に取り組む。この演習を通じ、心臓および肺疾患の外科的治療、移植医療、補助人工心臓技術の理解と応用力を高めることを目指す。	
		整形外科学・リハビリテーション医学演習		この演習では、運動器の修復と再生、病態の解明、治療法の開発に焦点を当て、骨や関節、脊椎・脊髄疾患に関する知見を深めることを目指す。まず、骨・関節のバイオメカニクスを解析し、構造と機能の関係を理解する。また、脊椎・脊髄疾患の病態と治療法の研究を進め、手の外科に関する治療技術を学ぶ。骨や軟部の腫瘍の病理学的解析と治療法の開発、関節リウマチの病態と治療に関する研究を行い、免疫メカニズムや薬物療法の効果を検討する。さらに、運動器リハビリテーションとQOL（生活の質）の関連を調査し、骨粗鬆症や骨代謝異常の予防と治療方法を探る。生活設計や生活支援、スポーツ医学を通じて運動器の健康維持に寄与する研究も行う。四肢や骨盤、脊椎・脊髄の外傷治療や小児運動器疾患の特徴についても考察し、早期介入と回復促進の手段を模索する。この演習を通じて、運動器疾患の総合的な知識と最新の治療法に基づいた実践的スキルを習得し、患者の生活支援とQOL向上に貢献できる力を育成することを目指す。	
		形成・再建外科学演習		この演習では、再建外科および微小外科の高度な技術と知識を習得し、損傷部位の修復と機能再生を目指す。まず、微小外科技術を学び、特に四肢や頭頸部の再建における血管・神経の接続技術を探る。また、末梢神経再生に関する研究を通じて、神経損傷からの機能回復を目指す治療法を開発する。顎顔面外科では、顔や顎の骨格および軟組織の再建手法を学び、唇裂・口蓋裂の形成と修復に関する治療法の向上を図る。さらに、胸壁や乳房再建の研究により、がん手術後の身体的および心理的回復を支援する技術を模索する。同種組織移植に関する研究も行い、組織の拒絶反応や適応に関する知識を深めることで、移植成功率の向上を目指す。この演習を通じて、再建外科における最先端の技術と基礎理論を理解し、患者の生活の質を高めるための実践力を育成することを目標とする。	
		小児外科学演習		この演習では、小児外科疾患に関する基礎と臨床研究を通じ、診断と治療法の発展を目指す。新生児外科疾患の病態や治療方法を学び、特有の発達段階における医療ニーズに応えるスキルを習得する。また、小児内視鏡外科の技術を学び、低侵襲での治療方法を検討し、小児の回復促進に役立つ方法を探る。小児固形悪性腫瘍や泌尿器外科疾患のメカニズム解明を目指し、発症因子の特定と治療法の改善に取り組む。さらに、先天性呼吸器疾患や肝胆膵疾患の特性を研究し、小児期に特有の病態について理解を深める。小児外科代謝栄養に関する研究では、成長期の栄養管理が疾患の治癒と健康維持に与える影響を考察し、鼠径部疾患に対する外科的治療法についても学ぶ。この演習を通じ、小児外科の多岐にわたる専門知識と高度な技術を習得し、若い患者の治療とケアに貢献できる実践力を育成することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	皮膚科学演習		この演習では、皮膚科学の基礎と応用に関する幅広いテーマに取り組み、疾患のメカニズム解明と治療法開発を目指す。重症薬疹の研究では、薬剤に対する過敏反応のメカニズムを解析し、予防と治療法を探る。また、細胞死のメカニズムを研究し、皮膚疾患における細胞死の役割を明らかにする。皮膚マイクロバイオームの研究を通じて、皮膚上の細菌や微生物群のバランスが健康と疾患にどう影響するかを理解する。毛組織に関連する遺伝子の発現や、皮膚の遺伝性疾患のメカニズムについても研究を行い、治療への新たなアプローチを模索する。さらに、研究者の背景や興味に応じて自由なテーマで研究を進められる環境が整っており、皮膚科学に関わるさまざまな分野で知識と技術を磨くことができる。この演習を通じて、皮膚科学分野の基礎研究から臨床応用までの総合的なスキルを習得し、多様な疾患研究に貢献できる力を育成することを目指す。	
		腎・泌尿器病態学・分子腫瘍学演習		この演習では、腎臓および泌尿器系の構造・機能から疾患の治療法まで、幅広いテーマをカバーし、泌尿器科学の基礎と応用を学ぶ。まず、腎の構造と機能に関する理解を深め、泌尿器科学の一般的な知識を基礎として身に付ける。泌尿生殖器腫瘍の基礎と分子生物学を学び、がんの発症メカニズムや遺伝的要因を解析し、治療法の開発に役立てる。また、泌尿器の生理学と神経学的な働きを研究し、排尿や生殖機能の調整メカニズムを理解する。尿路形成手術や腎移植の手法、腎機能再建の技術を学び、手術における実践力も養う。泌尿器科内視鏡学では、低侵襲な診断・治療技術の習得を目指し、アンドロロジーにおける男性の健康問題についても研究する。この演習を通じ、泌尿器科学の基礎知識から高度な治療技術までを習得し、臨床および研究の現場で役立つ総合的なスキルを育成することを目指す。	
		眼科学演習		この演習では、緑内障や網膜硝子体疾患をはじめとする眼科疾患の病態解明と治療法の開発を通じて、視覚機能の改善と患者のQOL向上を目指す。緑内障の病態メカニズムを解析し、新しい治療法の開発に取り組むほか、網膜硝子体疾患のイメージング技術を活用して疾患の診断精度を高める。また、眼科手術やレーザー治療の手法を学び、最新の手術技術を習得する。眼感染症に対する化学療法や薬理学的な研究では、感染予防と治療の最適化に焦点を当て、眼病理学と腫瘍学の知識を基に眼の腫瘍や病理的変化を解析する。神経眼科学や小児眼科学も取り入れ、幅広い眼科領域の疾患を総合的に理解する。さらに、視覚機能がQOLに与える影響についても研究し、緑内障患者に向けたロービジョンケアの方法を学ぶことで、視覚障害患者の生活支援に貢献する。この演習を通じて、眼科医療の基礎から応用までの知識と実践力を培い、臨床と研究の両面で視覚機能の維持・改善に貢献できるスキルを習得することを目指す。	
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学演習		この演習では、頭頸部と感覚器に関連する多分野の知識と技術を学び、診断と治療の向上を目指す。平衡神経科学では、内耳の機能や平衡感覚のメカニズムを解明し、めまいやバランス障害の治療に貢献する。また、神経耳科学と側頭骨外科学を通じて、聴覚や内耳の疾患の病態を理解し、側頭骨の手術技術を習得する。鼻科学では鼻腔と副鼻腔の構造と機能を学び、呼吸器や嗅覚機能の改善に取り組む。口腔咽頭科学や喉頭・気管・食道科学では、発声、嚥下、呼吸機能のメカニズムを探り、関連する疾患への治療法を研究する。音声言語学では、言語と発声に関する神経メカニズムを理解し、音声障害への支援法を検討する。さらに、頭頸部外科学と頭蓋底外科学では、頭頸部のがんや腫瘍を含む疾患に対する外科的アプローチを学び、低侵襲手術や機能温存を目指す技術を磨く。この演習を通じて、頭頸部と感覚器の疾患に対する高度な診断・治療スキルを身につけ、患者の生活の質を向上させる実践力を育成することを目指す。	
		腫瘍放射線医学・機能画像医学演習		この演習では、放射線を用いた診断と治療の技術を学び、がん治療や病変診断の精度向上を目指す。放射線診断学では、X線やCT、MRIなどの画像技術を活用し、病変の早期発見と診断の正確性を高める方法を習得する。また、放射線腫瘍学を通じてがん治療における放射線の役割を深く理解し、腫瘍の局所制御と治療効果の最適化に取り組む。放射線治療における放射線の線量調整や照射技術を学び、患者への副作用を最小限に抑える方法も探求する。さらに、医学物理学の観点から放射線の物理特性や人体への影響を解析し、治療精度向上のための技術的サポートと機器の安全性管理についても学ぶ。この演習を通じて、放射線診断・治療の理論と実践を総合的に習得し、放射線医療の現場で応用できる高度な知識と技能を育成することを目指す。	
		生殖器官制御・生殖医学病態解析演習		この演習では、産婦人科疾患に関する病態解明と治療法の開発を目指し、最新の技術と知識を活用した研究を行う。HPVワクチンの有効性と安全性を検証し、子宮頸がん予防のためのワクチン接種の影響を解析する。また、婦人科がん幹細胞の同定とその臨床応用を通じ、がんの再発防止や新しい治療法の可能性を探る。さらに、マルチオミックス解析に基づく婦人科がんの病態解明や、効果的な新規治療法の開発に取り組む。正常子宮内膜のゲノム異常を基に子宮内膜関連疾患のメカニズムを解析し、疾患発症の要因を明らかにすることも目的とする。産婦人科領域における3次元病理学の確立を目指し、細胞・組織レベルでの詳細な病態観察を実現する技術を学ぶ。また、胎盤の3次元構造解析と空間的トランスクリプトーム解析を行い、周産期疾患の病態を空間的に理解し、母体と胎児の健康維持に貢献する。これらを通じて、産婦人科領域の先進的な研究技術と応用力を培い、臨床研究への橋渡しとなる知識とスキルを習得することを目指す。	
		麻酔科学演習		この演習では、麻酔および痛み管理の基礎と臨床応用に関する知識と技術を学び、術中・術後の患者ケアを最適化することを目指す。麻酔薬の作用メカニズムを解明し、各種麻酔薬が中枢神経系に与える影響やその作用の違いについて理解を深める。また、急性痛のメカニズムを学び、術中および術後の痛み管理方法を検討し、患者の快適性と回復をサポートするための手法を模索する。さらに、神経障害性痛の発生メカニズムを解析し、新しい治療法の開発に取り組む。臨床神経生理・神経病理に関する知識を基に、術中神経系モニタリング技術を習得し、手術中の神経保護に関わる技術を学ぶ。加えて、臨床呼吸循環生理についても学び、術中の呼吸と循環のモニタリングを通じて安全な麻酔管理を実現する方法を探る。この演習を通じて、麻酔や痛み管理、術中モニタリングに関する包括的なスキルを習得し、手術環境での患者ケアの質を向上させる力を育成することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	救命救急医学演習		この演習では、救急医療と集中治療の現場で求められる包括的なケアと医療体制の研究に取り組む。救急医療体制の臨床研究では、効果的な救急対応やトリアージシステムを解析し、患者への迅速で適切な対応を実現するための改善策を模索する。また、蘇生に関する研究を通じ、心肺蘇生や救命処置の最新技術を習得し、救命率向上のための実践的な知識を深める。さらに、救急集中治療および災害医療における看護、リハビリテーション、栄養療法、薬剤管理法の開発に関する研究を行い、患者の早期回復と合併症予防に役立つケア方法を検討する。特に、災害医療の視点から、限られた資源での治療法やチーム医療の重要性を理解し、リハビリテーションと栄養管理、薬剤の適切な使用法についての技術を高める。この演習を通じて、救急・集中治療における多職種連携と包括的ケアの実践力を育成し、緊急時の医療現場での応用力を備えたスキルを習得することを目指す。	
		分子・診断病理学演習		この演習では、がんや炎症・代謝性疾患の病理学的研究と診断技術の向上を目指し、臨床・分子病理学および最新のデジタル技術を活用したデータ解析に取り組む。がんの臨床病理学・分子病理学の基礎を学び、病理診断技術の精度向上を目指して、がんの発生・発育進展のメカニズムを病理学的に解析する。また、がんの悪性度診断の精度を高めるための指標や技術の開発にも注力する。炎症や代謝性疾患の臨床・分子病理学の研究を通じ、がんだけでなく多様な疾患の病理メカニズムを解明し、診断・治療に役立てる知識を習得する。さらに、デジタルパソロジーや病理AIの研究を進め、画像解析や診断支援における人工知能の活用方法を学び、精密かつ効率的な診断を実現するための技術を習得する。マルチオミクス病理データベースの構築と解析手法に関する研究では、大量の病理データを統合し、がんや炎症・代謝性疾患に関する包括的なデータ解析を行う。この演習を通じて、病理学の基礎から最先端の技術までを学び、臨床応用に向けた診断技術と研究スキルを高めることを目指す。	
		生殖医学病態解析演習		この演習では、胎児および妊娠期の病態解明とケアに関する研究を通じ、母子の健康を支える診断と治療法の発展を目指す。超音波診断を用いて胎児の生理および病理を解析し、胎児発育の正常と異常を早期に検出するための技術を習得する。また、モデルマウスを用いて妊娠高血圧症候群の病態を解明し、妊娠期の合併症を予防・治療するためのアプローチを検討する。正常および異常胎盤の3次元構造を解析し、胎盤が胎児および母体に与える影響について理解を深める。さらに、早産児の消化管保護に関する研究では、早産児に特有のリスクに対応するための保護手段や治療法を模索し、消化管の発達と健康維持を支援する方法を探る。不育症と免疫関連疾患の関連を解析し、免疫メカニズムが妊娠の成立と維持に与える影響を理解し、不育症の予防と治療に貢献する。この演習を通じ、母子医療に関する最先端の診断・治療技術を習得し、妊娠期および新生児期における健康を支えるための実践力を高めることを目指す。	
		薬剤評価学演習		この演習では、効果的かつ安全な薬物治療の設計と管理を学び、患者ごとの最適な治療法の確立を目指す。薬物投与設計では、オーダーメイドの薬物治療を含む個別化医療の方法を学び、患者の個別の状態や遺伝的要因に基づいた投薬計画の立案に取り組む。薬剤経済学の視点から、治療コストと治療効果のバランスを検討し、医療経済的に効果的な薬物治療の提供方法を探る。薬物治療とリスクマネジメントでは、副作用や有害事象のリスクを管理し、患者の安全性を確保するための手法を学ぶ。これには、副作用の予測、早期検出、適切な対応が含まれ、患者ケアの質を向上させるためのスキルを身に付ける。この演習を通じ、薬物治療における安全性と効果のバランスを保つための知識と実践的スキルを習得し、医療現場での応用力を高めることを目指す。	
		臨床研究・レギュラトリーサイエンス学演習		この演習では、医薬品や医療機器に関する薬事規制、医療政策、臨床研究の評価方法について学び、安全で有効な医療提供の基盤を理解することを目指す。まず、医薬品医療機器等に関する薬事規制や医療政策の研究を通じて、法的基盤と規制環境の影響を理解し、適切な医療提供のための政策立案の知識を身に付ける。医薬品や医療機器の開発・承認プロセスを解析し、ドラッグラグ問題の解消に向けた方策についても検討する。臨床研究における有効性・安全性の評価尺度の研究では、信頼性の高い治療効果の指標を理解し、患者にとって最適な医療を支える評価方法を習得する。また、臨床研究のデザインから実施、評価、報告までの適切性を検証し、科学的かつ倫理的な研究実施法を学ぶ。さらに、リアルワールドデータに基づく医薬品の適正使用についても研究し、日常診療での薬剤の安全性と効果を検証する。この演習を通じ、医薬品・医療機器の開発、規制、臨床研究の基礎と応用を深く理解し、適正な医療提供に貢献できるスキルを育成することを目指す。	
		総合診療医学演習		この演習では、医療教育や地域医療に関する課題解決の方法を学び、総合的な診療能力を高めるための教育と制度の構築を目指す。卒前教育および臨床研修における「総合的な診療能力」向上のためのカリキュラム開発に取り組み、学生や研修医が患者に総合的なケアを提供するための実践的スキルを身に付けられるような教育内容を検討する。また、医療従事者が継続的に学び直すリカレント教育においても、総合的診療能力の向上に資する制度を構築し、医療の質向上を図る。さらに、デジタル技術を活用した遠隔診療やシミュレータを用いた実践的な医学教育の手法を研究し、医療教育における新しい学習手段の可能性を模索する。地域社会の医療ニーズに応じて地域課題を把握し、解決するための方法を学び、多職種協働による地域医療の提供モデルを研究することで、地域社会に根ざした医療提供を実現するスキルを養成する。この演習を通じて、教育と地域医療の両面での課題解決能力を育成し、社会に貢献できる医療人材としての実践力を高めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	神経病理学演習		この演習では、脳神経疾患の臨床病理学的および病態病理学的メカニズムを解明するための研究に取り組む。剖検を通じた脳神経疾患の臨床病理学的解析を行い、疾患発症の特徴や進行メカニズムを理解し、診断および治療法の改善に向けた基礎知識を深める。また、ヒト脳標本を用いて、脳腫瘍、てんかん原性病巣、神経変性疾患、神経免疫疾患、発生発達期脳障害といった多様な神経精神疾患の病態病理学を研究し、疾患ごとの特異的な組織変化や病理学的特徴を明らかにする。これにより、各疾患における病態形成の基盤を理解し、診断精度の向上と効果的な治療の可能性を探る。この演習を通じ、脳神経疾患に対する臨床病理学的および病態病理学的視点を養い、医療現場での応用につながる実践的なスキルを習得することを目指す。	
		脳神経外科学演習		この演習では、脳の病態とその機能維持・回復を目指した研究を通じ、脳疾患治療の基礎と応用を学ぶ。まず、脳機能温存に関する研究に取り組み、手術や治療中に脳機能を最大限に保護するための方法を探る。次に、脳機能再構築のメカニズムを解明し、損傷した脳が新たな神経回路を形成する過程や、機能を取り戻すための再生プロセスについて研究する。脳卒中後の機能回復メカニズムの研究を通じ、リハビリテーションや神経回路の再編成が回復に及ぼす影響を理解し、効果的な治療法の開発を目指す。さらに、機能的脳疾患（てんかんやパーキンソン病など）の病態と治療法に焦点を当て、神経活動の異常を正すための治療アプローチを検討する。脳腫瘍や脳血管障害の病態と治療に関する研究も行い、がんや血管障害が脳に与える影響とその治療法を学ぶ。この演習を通じて、脳疾患に対する包括的な理解と、脳機能維持・回復を促進する治療技術を習得し、臨床応用に役立つスキルを身に付けることを目指す。	
		脳神経内科学演習		この演習では、神経難病および脳神経障害の病態解明と治療法の開発を目指し、認知症やALS、脳血管障害、免疫性神経筋疾患などの神経疾患に関する包括的な研究に取り組む。まず、認知症やALSといった神経難病の進行メカニズムと治療法の開発に焦点を当て、疾患の原因や病理学的特性を理解し、治療アプローチを探る。また、脳血管障害に関する研究では、脳血流の異常が引き起こす病態やその修復プロセスを解析し、回復を促進する方法を模索する。さらに、免疫性神経筋疾患の病態と治療を通じて、自己免疫反応が神経・筋機能に与える影響を理解し、治療法を検討する。多様なモデル動物を用いた神経難病の研究を行い、病態解明のための基礎的なデータを集め、治療戦略の基盤を築く。また、脳神経回路の再編と再生に関する研究では、損傷を受けた神経回路がどのように再編成され、機能を取り戻すかについて理解を深め、リハビリテーションや再生医療への応用を目指す。この演習を通じ、神経難病に対する理解を深め、診断と治療に役立つ高度なスキルと知識を習得することを目指す。	
		脳機能解析学演習		この演習では、磁気共鳴技術を用いてヒト脳の高次機能や代謝、微細構造を解析し、脳の働きと健康維持のメカニズムを探求する。機能的磁気共鳴画像法（fMRI）を活用し、認知、感情、運動などの高次脳機能に関する脳活動を測定し、脳内ネットワークの働きや異常を解析する。また、磁気共鳴分光法（MRS）を用いて脳内代謝物の濃度や変動を調査し、脳の健康状態や代謝異常が認知症や神経疾患にどのように影響を与えるかを研究する。さらに、拡散磁気共鳴画像（DTI）を通じて脳の微細構造、特に白質の神経経路や接続性を可視化し、脳回路の変化が機能に与える影響を理解する。この演習を通じ、磁気共鳴技術の活用方法を習得し、脳機能と健康に関する深い理解を得て、臨床応用や診断技術の向上に貢献できるスキルを身に付けることを目指す。	
		生体磁気共鳴学演習		この演習では、核磁気共鳴法と脳波を用いて、脳の水動態、代謝、機能に関するメカニズムを探究し、脳の健康や機能異常に対する理解を深める。核磁気共鳴法を活用して脳内の水動態を調査し、水の移動や分布が脳機能や健康状態に与える影響を明らかにする。また、磁気共鳴分光法（MRS）を用いた脳代謝の研究を通じて、脳内代謝物の濃度や変化を解析し、代謝異常が神経疾患や認知機能にどのように関わるかを理解する。さらに、核磁気共鳴や脳波を組み合わせて、ヒトおよび動物の脳機能を調査し、脳活動や神経経路の働きが脳の高次機能や行動にどのように関連するかを解析する。この演習を通じて、核磁気共鳴法と脳波の応用技術を習得し、脳機能と病態の理解を深め、診断や治療の開発に役立つ実践的なスキルを身に付けることを目指す。	
		臨床機能脳神経学演習		この演習では、陽電子放射断層撮像法（PET）と核磁気共鳴法（MRI）を活用して、脳機能イメージングの技術を用いた精神神経疾患および神経変性疾患の研究を行い、病態解明と創薬の促進を目指す。精神神経疾患に関する脳病態解明研究を通じ、認知症やパーキンソン病をはじめとする神経変性疾患において脳内でどのような変化が起きるかを解析する。特に、脳内の異常たんぱくの蓄積が示唆される精神神経疾患や加齢脳の影響についても研究し、疾患の進行メカニズムを深く理解する。また、脳環境の恒常性維持機構を調べ、脳内の代謝や神経伝達がどのように調整されているかを明らかにすることで、健康な脳機能の維持に必要な要素を探索する。さらに、神経変性疾患における創薬を促進するためのバイオマーカーの開発に取り組み、PETやMRIで観測できる脳内指標の特定とその信頼性向上を図る。この演習を通じ、先端的な脳機能イメージング技術の知識と応用スキルを習得し、脳疾患の診断や治療に貢献できる高度な技術力を育成することを目指す。	
		神経病因遺伝学演習		この演習では、認知症のトランスレーショナル研究と認定遺伝カウンセラー養成に焦点を当て、実践的な知識と技術の習得を目指す。認知症のゲノム解析により遺伝的要因の影響を調べ、バイオマーカーの開発で早期診断と病態予測に役立つ指標を構築する。また、認知症研究のバイオバンクを整備し、臨床研究への資源提供と診断・治療法の検証を行う。さらに、認定遺伝カウンセラー養成プログラムでは、人類遺伝学や遺伝医学の基礎を学び、医歯学総合病院での臨床実習を通じて遺伝カウンセリングの技能と態度を習得する。これにより、認知症の予防・治療と遺伝医療における実践力を培い、臨床での応用力を高めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	神経機能・発生・生殖工学演習		この演習では、疾患モデル動物を用いて脳神経科学や生殖・発生工学の知識と技術を深めることを目指す。遺伝子改変技術を駆使して疾患モデル動物を作製し、行動学、生化学、組織学、生理学的解析を通じて、その分子メカニズムを解明する。また、脳機能に関連する分子の生理機能を遺伝子改変動物で解析し、脳の高次機能に関する理解を深める。さらに、生殖補助医療にも応用可能な生殖・発生工学技術の開発に取り組み、発生過程や生殖機能の基盤を探る。国内外の研究者との共同研究により、最先端の脳神経科学や分子生物学に触れる機会が得られ、実践的なスキルと最新の知識を習得することができる。	
		細胞病態学演習		この演習では、生体脳を対象としたゲノム編集や分子イメージング技術の開発と応用を通じ、学習・記憶や発達障害の分子メカニズムの解明を目指す。具体的には、学習記憶の生理機能を分子レベルで理解するための技術を開発し、疾患モデルを用いて発達障害の病態を迅速かつ精密に解析する。また、二光子顕微鏡や電気生理学的手法と組み合わせることで、生体脳における神経活動を高解像度で観察し、神経科学研究に貢献する独自技術の開発に取り組む。これにより、学習・記憶や発達障害の分子メカニズムに対する深い理解と、新たな治療法の基礎を築くことを目指す。卒業後には、国内外の研究室で活躍できる基盤を養成し、国際的な研究活動にもつながる機会を提供する。	
		システム脳病態学演習		この演習では、脳と神経回路の構造と機能、形成のメカニズムを明らかにし、脳や脊髄損傷後の神経回路の修復・再生と機能回復を目指す研究を行う。まず、運動や自律神経に関連する神経回路の構造と機能を解析し、複雑な神経ネットワークがどのように形成され、働くかを理解する。また、脳卒中や脊髄損傷において、神経回路の破綻が及ぼす機能や免疫・臓器連関の障害が疾患に与える影響を調べ、病態の解明に取り組む。さらに、神経回路を修復・再生させ、機能回復をうながすメカニズムと方法論を探る。遺伝子改変動物、ウイルス神経トレーサー、分子生物学、組織学、イメージング、光・化学遺伝学、行動学など、さまざまな脳神経科学の技術を用い、神経回路の形成と修復・再生に関して統合的に研究する。この演習を通じ、脳や神経系の機能維持と回復に関する先端的な知識と技術を習得し、神経科学と神経再生分野の発展に寄与することを目指す。	
		脳病態解析学演習		この演習では、神経変性疾患や老化に関連する難病の病態解明と、それに基づく治療法の開発を目指し、パーキンソン病、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの研究に重点を置く。研究室の方針である「難病を克服する」「障害を支え合う」「科学の歴史を刻む」を理念に、発達障害のメカニズムにも着目し、病態の分子・生理的基盤を探る。また、製薬企業や食品メーカーとの共同研究を通じて、神経疾患への応用可能な予防・治療手法を模索する。培養細胞や小型魚類、マウス、ヒト剖検脳など多様なモデルを用い、比較解析によって難病や老化の本質に迫り、疾患に共通するメカニズムを理解する。この演習を通じて、難病と老化に関する先端的な知識と技術を習得し、実社会への応用を視野に入れた研究スキルを磨くことを目指す。	
		災害医療学演習		この演習では、災害時に必要な医療知識と支援技術を学び、災害対応力を強化するための多面的な研究に取り組む。災害医学一般の基礎を学び、災害時に求められる医療行動と倫理的判断力を養う。また、災害時の情報管理学において、ソフトウェアやハードウェアを活用した迅速で効率的な情報収集・伝達方法を研究する。災害教育学では、シミュレーション医学教育を通じて実践的な災害対応スキルを習得し、心肺蘇生法の教育理論と成果判定に関する研究を通じて効果的な救命技術の教育方法を検討する。さらに、多職種・地域への災害医療普及、災害時のロジスティクス、災害薬事についての理解を深め、効果的な物資・薬剤の管理と供給を目指す。国際災害支援にも焦点を当て、国際的な協力体制と現場対応力を強化する。これにより、災害医療における実践的な知識とスキルを習得し、社会への貢献を目指す。	
		バイオインフォーマティクス学演習		この演習では、腸内細菌叢やがんゲノムをはじめとする多様なデータの解析技術と、医療分野での人工知能（AI）の応用について学ぶ。腸内細菌叢のメタゲノムデータ解析手法を研究し、腸内細菌の相互作用や疾患因子との関連を解析する技術を習得する。また、がんゲノムデータの解析手法を開発し、がんの発症・進行に関与する遺伝的要因を特定する。リン酸化サイトの比較ゲノム研究を通じて、細胞内シグナル伝達やタンパク質の機能調節のメカニズムを理解する。さらに、オミクスデータ（ゲノム、プロテオーム、メタボローム など）の統合データベース構築にも取り組み、膨大な医療データの効率的な管理と活用方法を探る。加えて、これらのデータ解析に基づく医療用AIの開発にも携わり、診断支援や予防医療の向上を目指す。	
		神経精神薬理学演習		この演習では、依存症、疼痛、発達障害、情動に関する病態解明と治療法の開発を目指し、ゲノム解析や行動薬理学を用いた多角的なアプローチを学ぶ。依存症については、ゲノム解析と行動薬理学的手法を通じて依存形成のメカニズムを探り、治療への臨床応用を検討する。また、疼痛脆弱性や鎮痛薬への感受性に関するゲノム解析と行動薬理学的解析を行い、個別の患者に適したテーラーメイド医療の実現を目指す。さらに、自閉症やAD/HDなどの発達障害について、行動薬理学的および分子生物学的解析を通じて、症状の改善に寄与する分子機構や治療法を研究する。加えて、快・不快情動の分子メカニズムに焦点を当て、情動の調節や精神的な健康に影響を与える要因を明らかにする。この演習を通じて、疾患特性の理解を深め、個別化医療や治療の実践に役立つ高度な知識と技術を習得し、精神医学と薬理学の分野で応用力を高めることを目指す。	
		分子遺伝学演習		この演習では、哺乳類遺伝学を基盤とし、視聴覚疾患の発症に関与する遺伝子群の特定と機能解析を通じて、疾患の分子メカニズムを理解することを目指す。視聴覚疾患に関与する遺伝子を解析し、遺伝子異常がどのように疾患の発症や進行に影響を与えるかを解明する。また、ヒト疾患モデルとしての遺伝子改変マウスを樹立し、個体レベルでの疾患発症メカニズムを詳細に調査することで、疾患の予防や治療法の開発に向けた知見を得る。この演習を通じて、遺伝子解析技術やモデル動物を活用した疾患研究のスキルを習得し、視聴覚疾患の診断や治療に応用できる実践力を高めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	メディカルサイエンスプログラム	神経工学演習		この演習では、脳神経損傷後の機能回復と運動制御のメカニズムを探り、治療法の開発と臨床応用を目指す。まず、人工神経接続を用いた脳機能再建法の開発に取り組み、損傷した神経回路の再構築を通じて機能回復を促進する方法を研究する。また、脳脊髄損傷後の機能回復メカニズムを解明し、再生治療やリハビリテーションに応用できる知見を得る。さらに、意欲や情動が身体運動制御にどのように関与するか、その神経メカニズムを解明し、モチベーションが運動機能やリハビリ効果に与える影響についても検討する。この演習を通じて、神経損傷治療の基礎と応用技術を習得し、脳神経再生や運動制御に関する高度なスキルと知識を実践に活かせる力を育成することを目指す。	
		小児脳病態学演習		この演習では、小児における脳疾患の分子メカニズムと診断技術の開発に取り組み、発症メカニズムの解明と診断・治療の向上を目指す。まず、ミクログリアの発達と分化の分子基盤について研究し、脳の免疫細胞であるミクログリアが脳の成長と健康維持に果たす役割を理解する。また、小児に特有のウイルス関連急性脳症の病態を解析し、感染がどのように脳に影響を与えるか、その分子メカニズムを解明する。さらに、小児の自己免疫性脳炎に対する新しい診断技術の開発を行い、早期診断と治療開始を可能にする手法を模索する。この演習を通じて、脳疾患に関する先端的な知識と診断技術を習得し、小児の脳の健康を支える実践的なスキルを高めることを目指す。	
		生物学的精神医学演習		この演習では、統合失調症の分子基盤を多角的に解析し、個別化治療や早期支援の開発を目指す。まず、統合失調症のゲノム解析と症例研究を通じ、疾患の遺伝的要因と発症メカニズムの分子基盤を解明する。また、統合失調症に特異的なバイオマーカーの同定とその分子基盤の解析を行い、診断の精度向上に寄与する指標を確立する。さらに、マウスや細胞モデルを用いて統合失調症の分子メカニズムを詳細に調べ、モデルを通じての実験結果を実際の治療に役立てる手法を学ぶ。疾患層別化による患者の分類と、それに基づく個別化治療や早期支援法の開発も行い、患者への最適なケアを提供できる方法を研究する。この演習を通じ、統合失調症に関する分子病態の理解と、診断・治療法開発に貢献できる実践的スキルを習得することを目指す。	
		脳神経発生学演習		本演習では、ニューロンの分化、移動、神経突起の伸長、シナプス形成など、神経回路がどのように構築されるかを学ぶ。特に、細胞外基質であるプロテオグリカンが神経回路形成に果たす役割に注目し、その分子機構を探求する。また、神経回路形成の異常が精神・神経疾患の発症にどのように関与するかを考察し、統合失調症や自閉症などの治療法開発への応用可能性についても議論する。さらに、マウスやショウジョウバエを用いた実験手法を通じて、神経発生学の研究技術を習得し、将来の研究や臨床応用に向けた基盤を築くことを目指す。	
		ゲノム科学演習		本演習では、少量の検体からゲノム全体の分子プロファイルを取得する手法を習得し、臨床情報とゲノムデータを統合して解析する情報処理技術を学ぶ。特に、臨床研究におけるデータの安全管理や大量データの効率的な処理方法に焦点を当て、実際の臨床研究解析を通じて、ゲノムデータの効果的な活用法を探求する。また、既存のゲノムデータを活用した研究開発にも取り組み、予防医療や診断技術の向上に寄与することを目指す。	
		がんゲノム演習		本演習では、がんをはじめとする疾患の根幹に関わる「ゲノムの継承と維持」の異常に注目し、その分子メカニズムの解明と治療戦略の構築を目指す研究を行う。特に、DNAの複製・修復・組換え・分配といったゲノム安定性の維持機構や、これを制御する因子群の解析を中心に、がんの発生や進展におけるゲノム動態の破綻の意義を明らかにする。また、ヒト細胞や動物モデル、さらには細菌などの多様な生物種を対象に、最先端のゲノム解析技術や分子細胞生物学的手法を駆使して、DNA損傷応答、染色体構造、核内シグナルの機能を比較・統合的に解析する。さらに、得られた知見をもとに、がんの予測・予防・治療へとつながる新規診断マーカーや標的分子の同定を目指す。この演習を通じて、がんや遺伝性疾患の理解に不可欠なゲノム生物学の基礎と応用力を身につけ、将来のがん医療や創薬研究に貢献できる実践的な研究スキルを養うことを目的とする。	
		視覚病態学演習		本演習では、視覚障害の主要な原因である網膜および視神経の変性疾患に注目し、その分子メカニズムの解明と新規治療法の開発を目指す研究を行う。特に、緑内障や視神経変性に対する神経保護療法および視神経の再生療法の開発に重点を置き、これらの病態の進行機構と再生能力の制御因子を解析する。また、遺伝子改変マウスをはじめとする疾患モデルや、最新の遺伝子治療・分子生物学的技術を駆使して、グルタミン酸神経伝達や細胞内シグナルの破綻、軸索再生の促進メカニズムを詳細に検討する。さらに、Dock3などの分子を標的とした治療戦略の構築を通じて、視覚機能の維持・回復を目指す。この演習を通じて、視覚系の変性疾患に対する包括的な理解と先端的研究技術を修得し、将来の視覚障害医療や再生医療への応用を見据えた実践的な研究スキルを養うことを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	口腔保健福祉学プログラム	口腔保健福祉学研究論		この講義では、「食べること」を基点として、口腔保健や医療福祉に関する基礎知識と現状について、最新の研究成果も交えながら包括的に学ぶ。また、口腔保健および医療福祉分野で研究を遂行するための調査・分析手法について、体系的なコースワークを通じて基本知識を習得することにより、口腔保健および医療福祉分野の基礎知識を幅広く理解し、適切な研究計画の立案や論文作成法を習得する。 （オムニバス方式／全16回） （134 STEGAROIU ROXANA／9回） 研究法の基礎として研究計画の立案や論文作成法を講義する。さらに、口腔インプラントを含む咀嚼・摂食機能の再建と維持に関する最新の研究状況を題材に、学生が口腔保健・医療福祉分野での研究を遂行するための知識を深める機会を提供する。 （14 大内　章嗣／3回） 社会保障制度の動向と将来の展望について講義する。厚生労働省白書等の資料を基に社会保障・社会福祉制度の現状を解説し、学生に現状を踏まえた政策や制度の在り方を考える素養の獲得を目指す。 （24 神子島　旬子／2回） 地域福祉とその援助の展開について講義する。地域に根ざした福祉のアプローチや、保健福祉における支援の実際について理解を深め、地域・集団に対する支援の重要性とその実践方法について学生に学ばせる。 （142 中村　健／2回） 地域福祉援助とその展開について、生活困窮者の生活・健康支援を題材に講義する。地域での支援体制や実践的なソーシャルワークのあり方を学生に理解させ、実際の地域活動における支援方法について学ばせる。	オムニバス方式
		専門英文読解		この演習では、口腔保健福祉分野の英語論文を題材にして、専門用語や表現に焦点を当てた個別的なコースワークを通じて、英語論文の読解力を高めることを目的とする。特に、口腔保健福祉分野で一般的に使用される英語の専門用語と表現、また英語論文の基本構成や論理を理解し、的確な読解力を養う。	
		一般口腔保健管理学Ⅰ		齲蝕や歯周病を中心とした口腔疾患に関する疾病動向を含めた基礎知識を身に付けるとともに、最新の予防・治療・メインテナンス方法を学び、広く一般人を対象とした口腔疾患の予防管理に関する知識と技術を習得する。また、齲蝕や歯周病の予防管理に関連する最新の研究成果を交えながら、最新のエビデンスを学び、これらの疾患の予防管理に関する効果的な研究デザインや解析技法についての理解も深める。	
		一般口腔保健管理学Ⅱ		歯周病やう蝕を中心とした口腔疾患の予防管理の実際について、医歯学病院等における実習を通じて実践的に習得・習熟することを目的とする。具体的には、個別事例に基づいて、歯周病やう蝕を中心とした口腔疾患のリスクファクターを把握・分析し、これに基づく予防管理法の立案・実施、効果評価を通じて実践的な予防管理方法を身に付けるとともに、予防管理の重要性とその方法について深い理解を得ることを目指す。	
		特殊口腔保健管理学Ⅰ		有病者の歯科治療上の留意事項や入院手術患者や放射線治療、化学療法、緩和ケア患者に多く見られる口腔疾患・所見の対応方法について学ぶとともに、周術期などにおける口腔機能管理の目的・効果や対象患者、歯科専門職の果たす役割、多職種連携・チーム医療の重要性および具体的な連携方策について学習する。また、周術期口腔機能管理などに関連する最新の研究成果を踏まえ、そのエビデンスと今後の課題について理解する。	
		特殊口腔保健管理学Ⅱ		口腔外科病棟および一般病棟等での実習を通じて、先天異常や発育異常、外傷、機能障害、口腔粘膜疾患、口腔腫瘍などの主要な口腔外科疾患の病因や病態、治療および口腔保健管理の実際について症例に基づき学ぶ。また、全身疾患を有する患者に対する歯科治療のおよび指導管理の実際を経験することにより、その管具体的な注意点や対応方法についても理解し、実践に活用できる力を養う。	
		摂食嚥下機能評価支援学		摂食嚥下障害患者のリハビリテーションに関連する最新の研究成果も交えながら、摂食嚥下障害の背景にある神経制御機構や病因論を理解するとともに、摂食嚥下障害の評価法および訓練法に関する実践的な知識・技術を習得する。 （オムニバス形式／全16回） （90 山村　健介／8回） 摂食嚥下障害の機能評価や加齢による摂食嚥下機能の変化、咀嚼嚥下関連筋活動の分析方法を含む神経制御機構の理解と、摂食嚥下障害者に対する食品学的対応や運動機能訓練の指導方法について講義する。 （9 井上　誠／8回） 脳血管障害などによって生じる摂食嚥下障害および味覚障害に対する検査・診断・治療・リハビリテーションの方法と、リスク管理や関係職種との連携について講義する。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	口腔保健福祉学プログラム	口腔保健の疫学と統計		口腔保健に関連する疫学研究のデザインや対象設定、統計的解析方法に関する実践的な知識を学習する。この科目では、衛生・福祉統計に関する既存のデータベースの活用方法について習得するほか、研究デザインの立案、対象者の統計的抽出法、データ解析ソフトウェアを用いた基礎的な統計解析方法を学ぶ。さらに、地域差や社会経済状況に起因する健康格差に関する研究成果等を交えながら地域・社会を対象とした公衆衛生・健康対策のあり方についても考察する。	
		口腔健康教育入門		個人や集団の健康な生活を効果的に支援できるよう、健康教育・行動変容に関する理論と実践について学習する。特に口腔保健活動に焦点を当て、健康教育や行動変容に関連する理論や最新の研究成果について学ぶとともに、それぞれの個人や集団に適した健康教育や口腔保健活動を立案・展開できる能力の獲得を目指す、	
		地域歯科保健活動		生活習慣病と歯科疾患および栄養改善と歯科疾患の関係を疫学的な視点から整理するとともに、ポピュレーションストラテジーとハイリスクストラテジーの違い、住民参加、公診連携等の概念について、地域での実践事例も踏まえながら具体的に理解する。また、都道府県や市町村が行っている歯科保険計画の策定やライフステージごとの地域歯科保健活動を評価し、多職種連携・他分野協働の視点も交えながら理想的なあり方を検討し、地域社会における歯科保健活動の実践力を身につける。	
		口腔保健活動展開論		実際の事例等に基づき、口腔保健活動の構成要素やプロセス、その特性と問題点について理解するとともに、口腔保健活動を効果的に行うために必要な組織管理の理論や技術について、特に組織論、管理過程論、リーダーシップ、意思決定、調整・交渉、医療安全を含めたリスクマネジメントおよびキャリア開発の観点から学習する。そのうえで、関連する諸理論を活用し、口腔保健活動の問題を批判的に分析し、他職種と適切に協働しながら、課題を解決していく能力の獲得を目指す。	
		保健福祉計画演習		この演習では、保健医療福祉分野における地方自治体の行政計画を、事例検討を通じて理解し、各計画間の関連性やその背景を分析する。具体的には、医療計画や健康増進計画、地域福祉計画、介護保険事業計画など、各種計画の制度的背景とその役割を確認しつつ、複数の自治体を選んで実際の計画内容を収集し、策定・実施・評価の段階ごとに比較分析することにより、各自治体の抱える背景や課題を理解し、改善の方向性について考察する能力の獲得を目指す。	
		口腔保健医療福祉援助論		スペシャルニーズを持つ患者の口腔保健医療の現状と課題、およびこうした患者を取り巻く保健医療福祉制度に関する知識を習得する。具体的には障がい児者の事例や関連する文献、報告書をもとに、こうしたスペシャルニーズを持つ患者の口腔保健医療上の課題やその多様性について理解を深める。また、これらの患者が利用する各種保健医療福祉制度の実際と口腔保健サービスとの連動という視点から見た課題を分析し、幅広い視点から口腔保健医療福祉のあり方を学び、支援に必要な知識を体系的に身につける。	
		口腔保健医療福祉制度		この科目では、医療保障制度、介護保険制度を始めとした保健医療福祉制度の現状と課題について学習し、今後の口腔保健医療施策の在り方について自ら考察できる能力の獲得を目指す。具体的には、行政機関や各種団体から公表される統計調査や報告書などを収集しながら現状把握を行い、現状の保健医療福祉制度に関する理解を深めるとともに、各種制度・施策における口腔保健医療福祉活動の位置づけと今後の在り方について政策立案演習を行う。	
		医療福祉援助技術論		高齢者や障がい児（者）を取り巻く社会情勢や求められる支援の実際、これに関わる専門職の役割や多職種連携の重要性を学ぶことを目的に、要介護高齢者や施設入所障害がい児（者）を対象とした学外施設での実習を行う。実習を通して、現場で行われるアセスメントや援助技法について理解するとともに、その有効性と課題について整理する。また、要介護高齢者や障がい児（者）への福祉援助の展開過程を通して、これに関わる専門職の役割と連携の実際について学習する。	
		口腔医療福祉政策学		医療政策と福祉政策の連携に必要な事項を行政・従事者・利用者など様々な視点から多角的に学ぶ。授業は、学術論文、参考資料を用いて「食べる」という口腔の基本機能に焦点を当て、関連する制度や他領域での研究を探索し、演習を通じて理解を深めるとともに、これらの制度に関する政策的課題についても概要を説明する力を身につける。	
		地域福祉活動		地域福祉の推進では、住民や多様な主体が参加し、世代や分野を超えて人と人、人と資源がつながり、地域共生社会の実現を目指している。このため、各地域で行われている地域福祉活動の実践事例の分析を通じ、その活動主体や目的、内容、対象、課題を学び、地域福祉におけるソーシャルワークの実際についての具体的な理解を深め、地域福祉、地域共生社会や包括的支援体制の概念に関する本質的な理解を獲得することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	基礎看護学実習		この実習は、看護学における研究プロセスを実践的に学ぶ授業であり、研究計画から学会発表までの一連の過程を経験する。学生はまず、研究計画書について倫理審査委員会から承認を得てから、研究対象者に研究協力依頼を行い、介入研究や調査研究などを通してデータを収集し、分析を行う。その後、中間発表会にてグループ討議とプレゼンテーションを行い、研究内容を深める。また、学会発表も求められ、前期課程修了要件として、学会または研究会での発表が必要とされる。講義内容は、研究協力依頼、データ収集と整理、データ分析、中間発表、学会発表の準備と発表トレーニングまでが含まれている。	
		国際看護学実習		この科目は、インドのマニパル大学で実施される「ラーニングシンポジウム」であり、学生はフィールドオリエンテーション、週末のカンファレンスなどに参加する。文化体験も含まれ、学生は複雑な国際作業環境を体験し、インドの保健システムを学びつつ、他大学の学生・教員と交流しフィードバックを得る。また、プライマリーヘルスケア施設や政府機関の見学を通じて、将来の研究指針となるシステムマップを作成し、保健システムの理解を深める。さらに、学生は修士論文の研究計画を学術会議で発表し、専門家や同僚からフィードバックを受ける。このプログラムは学生が多様なグループでの活動に順応し、異文化に基づく洞察を得るための機会を提供するものである。	
		小児看護学実習		この実習では、小児看護の実践場（小児病棟、保育所、養護施設、学校等）において、看護介入や家族指導を行い、評価を通じて新たな研究疑問を生み出す機会とする。小児看護学の臨床経験を有する教員が担当し、小児看護に必要な理論を活用しながら実践力を高めることが目的である。学生は、実習フィールドでの学習計画を立案し、現場での看護活動とその評価を通じて、理論に基づいた考察を行う。プログラムは、事前学習からフィールドでの研修、最終カンファレンス、成果発表まで段階的に構成されており、学生が小児看護における多角的な課題分析や自己課題の特定と取り組みを通じて、実践力を高めることを目指している。また、文献検討を通じて看護の動向も学び、実践の中で得られた課題に対して理論を用いて考察し、自己成長に繋げる。	
		精神看護学実習		本講では、精神科病院のスーパー救急病棟やデイケア、訪問看護などで、精神科リハビリテーション看護を含む高度な専門技術を実習を通じて学ぶ。教員は精神科臨床やコミュニティケアの経験を持ち、学生に実践的な精神看護の知識と技術を教授する。実習では、危機的状況での精神看護、精神科リハビリの計画立案、健康状態の評価、援助計画、相談やカウンセリングの実践が含まれる。また、倫理的問題について看護スタッフや他職種と検討する機会もある。実習は2週間にわたり、精神科医療機関で実施予定である。実習目標に基づき、受け持ち患者に対して看護計画を立案し、ケアや相談を行い、評価まで行う流れで進行する。各回の授業は実務経験のある教員や実習指導者が担当する。	
		母性看護学実習		この科目では、学生が関心のある領域に基づき、地域や病院、学校などで実習を行い、女性の健康に関する課題を把握し、根拠に基づくケアの開発や改善、システム改革を促す研究手法を学ぶ。母性看護の実務経験を持つ教員が授業を担当し、リプロダクティブヘルスやジェンダー、生活者視点を基盤とした女性の健康支援に関する実践的教育が行われる。具体的には、女性や家族の健康課題に対する支援活動や、倫理的配慮のある行動を取る方法、自助グループや支援団体への支援計画と評価を習得する。論文コースの学生は実習現場でデータ収集や対象とのコミュニケーション、看護管理者との倫理検討を行い、課題解決に向けたアプローチを習得。授業はデータ収集から分析、結果発表までの流れで構成され、計画・実施・評価を通じて研究実践力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	看護倫理学		この科目では、医療倫理・生命倫理の基礎を学び、各領域（母性・小児、成人・老年、終末期医療、地域・精神）の看護倫理を専門教員から学ぶ。受講者は、自らの臨床事例を通して倫理的な問題点を整理し、理論やケーススタディをもとに実践的な解決方法を習得する。授業内容は、歴史・理論（原則論、物語論、手順論）の学習に加え、各領域での看護倫理の実践における問題解決能力の向上を目指す。最終的に、受講者は自身の経験や事例を選び、倫理調整の計画や提案をまとめ、実践に活かす方法を学ぶ。授業形式は講義と演習が中心で、チームでの意思決定や臨床現場での倫理的課題への対応力を養成することに重点を置いている。 （オムニバス方式／全16回） （88 宮坂　道夫／10回） 看護倫理の歴史と基礎理論（原則論、物語論、手順論）を教授し、総合演習や学修の統合を通じて臨床実践に即した倫理的課題の理解と意思決定プロセスを指導する。 （139 田中　美央／1回） 母性・小児領域における看護倫理の課題を指導し、実践に即した倫理的問題の整理とチームでの意思決定の道筋を学ばせる。 （144 西方　真弓／1回） 母性・小児領域における看護倫理の課題を指導し、実践に即した倫理的問題の整理とチームでの意思決定の道筋を学ばせる。 （37 坂井　さゆり／1回） 成人・老年領域および終末期医療における倫理的問題に焦点を当て、実践に基づく論点整理や意思決定プロセスを習得させる。 （227 菊永　淳／1回） 成人・老年領域および終末期医療における倫理的問題に焦点を当て、実践に基づく論点整理や意思決定プロセスを習得させる。 （67-① 中村　勝（令和8年度）、67-② 中村　勝（令和9年度）／1回） 地域および精神領域における看護倫理の実践的課題を理解し、倫理的問題の解決やチームでの意思決定の方法を指導する。 （100 井上　智代／1回） 地域および精神領域における看護倫理の実践的課題を理解し、倫理的問題の解決やチームでの意思決定の方法を指導する。	オムニバス方式
		母性看護学特論Ⅰ		この科目では、周産期を含む女性のライフステージ各期における身体的、心理的、社会的、霊的な健康課題を社会システムを含む環境との相互作用の中で考察する。女性の健康支援に関する概念枠組みや関連理論を理解し、看護実践の倫理や政策課題を通して、母性看護の実践活動について深く考える。様々な保健医療機関での経験を持つ教員が担当し、「女性の性と生殖に関する健康と意思決定支援」「生涯を通じた女性の健康支援」の理念を基に、専門的な支援スキルと卓越した看護実践を学ぶ。具体的には、リプロダクティブヘルスやライツ、ジェンダー視点に基づいた看護の理論、女性のライフコースにおける健康問題と社会的相互作用の理論、エビデンスに基づく周産期ケア、政策立案の具体的方略などを習得する。授業内容は、各ライフステージ（思春期、成熟期、更年期、老年期）の健康課題と支援方法、母子保健や女性のヘルスケアシステム構築に関する政策科学も含まれる。	
		母性看護学特論Ⅱ		この科目では、女性のライフステージ各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）にある女性と家族のリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関わる健康問題を診断し、科学的根拠に基づいた看護ケアの提案力を養う。母性看護の経験を有する教員が担当し、ホリスティックケアやヘルスプロモーション、ヘルスケアシステムの理論を用いて、女性と家族の健康問題に対応するための他職種との連携や保健医療福祉制度、政策提言の方法を考察する。授業内容には、各ライフステージにおける健康評価、性教育や感染症予防、リプロダクションに関わるグリーフケア、女性への暴力による健康問題、不妊治療と体験世界の理解などが含まれ、女性の健康支援の倫理的問題と看護職の責務も学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	看護研究		この科目では、看護研究の進め方を学び、各回のテーマに沿って研究の意義や臨床データの収集方法、データ処理、論文作成、プレゼンテーションの方法などを習得する。臨床および研究活動の経験を持つ教員が担当し、学生は看護学における研究の意義、評価方法、成果活用の知識を広げ、Evidence-Based Practice（EBP）についても理解を深める。授業内容には、質的研究や実験研究、質問紙調査のデータ分析方法、論文執筆と発表方法、研究倫理などが含まれ、さらに研究計画書の作成にも取り組む。最終回では総括と期末レポートを通じて、学んだ内容を実践的に活用し、看護学の発展に寄与できる知識とスキルを習得することを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （67-① 中村　勝（令和8年度）、67-② 中村　勝（令和9年度）／2回） 第1回：看護研究の意義と目的、看護研究の運用とエビデンスに基づく実践を指導する。 第15回：まとめ（総括）と期末レポートの指導を行う。 （139 田中　美央／1回） 第2回：看護研究のクリティークと研究計画書の作成方法を指導する。 （37 坂井　さゆり／2回） 第3～4回：質的研究の特徴と進め方、データ分析の方法と実際を指導する。 （51 関　奈緒／2回） 第5～6回：データ収集の方法と統計解析について指導する。 （112 柿原　奈保子／2回） 第7～8回：実験研究の特徴と進め方、データ分析の方法と実際を指導する。 （135 関島　香代子／2回） 第9～10回：質問紙調査の特徴と進め方、データ分析の方法と実際を指導する。 （143 成田　太一／2回） 第11～12回：論文の書き方とプレゼンテーションの方法を指導する。 （88 宮坂　道夫／1回） 第13回：看護研究の倫理について指導する。 （284 小山　諭・163 横野　知江／1回）（共同） 第14回：生理学的研究・症例研究の方法と実際を指導する。	オムニバス方式 共同（一部）
		小児看護学特論Ⅰ		この科目は、小児看護学の科学的実践の基盤知識を習得することを目的とし、小児の発達段階や健康と環境との関連性を理解する理論や、それらを看護に活用する方法を学ぶ。臨床経験を持つ教員が、学生が理論的に考える力を養えるよう授業を行う。小児看護の理念や目的、対象について理解を深め、健全な育成を支えるケアの基盤を学び、小児期の健康課題や発達理論、発達評価に関する知識を深める。また、小児看護師の役割や管理の方法、看護現象の分析、環境調整、倫理的判断についても学ぶ。授業では、学生が自身の研究課題を討論する場が設けられ、理論を現場にどう活かすかについて理解を深めることができる。	
		小児看護学特論Ⅱ		この科目は、看護学分野の「専門科目」として、小児看護学特論Ⅰの内容を基に、社会的課題を持つ小児への看護実践に必要な基礎知識を習得し、病院だけでなく地域や学校など様々な場でのアプローチ方法を学ぶ。小児看護と医療の臨床経験を持つ教員が担当し、危機管理の基本や健康支援に関する理論を活用して小児の健康問題に対応する力を育てる。授業では、子どもの病気認知とストレス・コーピング、家族看護（Family Centered Care）、障害を持つ小児や在宅医療、児童虐待とケア、緩和ケア、小児看護における多職種連携などを取り扱う。	
		基礎看護学特論Ⅱ		この科目では、基礎看護学領域における看護実践方法とその評価、看護ケア技術の開発に関する研究方法を学び、学生が自身の研究に応用できる知識を習得する。看護学における基礎的研究の経験を有する教員が担当し、介入研究の方法、安楽性に関する文献レビュー、実験プロトコルの作成、補完代替療法（CAM）による快と身体回復に関する研究、心身負担の定量的測定法、探索的研究から介入研究への展開（質的研究方法や尺度開発、教育プログラム開発）などを学ぶ。さらに、研究と産学・地域連携に関しても取り扱い、研究成果を地域へ還元する方法についても学習する。最終回には、これらの内容を踏まえた期末レポートを提出し、基礎看護学の研究に対する理解と応用力を深める。	
		基礎看護学特論Ⅲ		この科目は、最新の知見に基づき、科学的根拠を持った看護実践と研究を行うための能力を養成することを目的とし、Evidence-Based Medicine（EBM）およびEvidence-Based Nursing（EBN）の概念と方法を理解する。学生は主体的な学習（文献検索と論文の批判的吟味）、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、疫学研究の方法論や統計学的手法を学び、自身の研究課題に適した情報収集とデータ解析を行う力を習得する。講義では、履修者が発表担当として選んだ文献の批判的吟味を行い、エビデンスレベルの評価と適切な統計手法の理解を深める。最終的に、学んだ内容を総括し、期末レポートとしてまとめることで、科学的根拠に基づいた看護実践能力の向上を図る。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	基礎看護学特論Ⅳ		この科目は、質的研究法として注目されるナラティヴ分析法を体系的に学び、研究計画に適用する基礎力を養うことを目的とする。Riessmanの分類に基づき、テーマ分析、構造分析、会話分析、パフォーマンス分析、ビジュアル分析の概要を理解し、テーマ分析を中心にデータ収集法とデータ分析法を演習形式で学ぶ。学生は看護分野の研究課題にナラティヴ分析を適用した研究例を批判的に読み解く能力も身につけ、自身の関心に沿った研究計画の立案を目指す。授業はナラティヴ分析法の理論的基盤、データ収集および分析の演習、自分の研究課題に適用する総合演習を通して進行する。	
		基礎看護学特論Ⅴ		この科目は、看護理工学のうち、「看護理学」に相当する看護のためのバイオ研究を実施する上での素地となる基礎的な知識と技術を養うことを目的とする。看護学と検査技術科学の教員が担当し、座学と演習を通して先行研究をはじめ手法を学ぶ。	
		国際看護学特論		この科目は、グローバルパートナー大学が提供するグローバルヘルスプログラムの一環で、学生がグローバルおよび地域視点からグローバルヘルス政策の問題を批判的に分析する力を養うことを目的とする。国際保健活動の経験を持つ教員が、従来の政策分析手法だけでなく、政策の問題定義や関係者の政治的プロセス、社会的不平等への対応に焦点を当てた批判的アプローチを教授する。学生はBacchiのWPRフレームワークやHankivskyのIBPAフレームワークを学び、グローバルヘルス政策の概念とプロセスを理解し、多様なオンラインチームでの自己の役割を振り返る力を養う。授業では政策分析や権力の不均衡、主要なグローバルヘルス関係者の役割、異文化チームワークの理解を深め、課題の作成・発表を通じて分析結果を効果的に伝える力を育成する。各週の内容はオンライン学習システムの使い方から始まり、段階的に新聞課題、政策分析、インターセクショナリティに基づく分析手法を学び、最終的に個人レポートにまとめる。	
		小児看護学演習		この科目は博士前期課程の看護学分野における専門科目で、小児とその家族が抱える長期的な発達問題や健康問題に関する文献収集とレビューを通じて、研究の基本姿勢を習得することを目的とする。小児看護学の臨床経験を持つ教員が担当し、学生は研究課題の明確化、データ収集・分析方法の理解を深め、適切で妥当な研究方法の判断力を養う。また、自身の研究背景を調査し、研究課題を絞り込んで研究計画書を作成する力も身に付ける。主な学習目標は、健康問題に関する文献の収集・整理、批判的評価、実践への適用と限界の分析、さらにアプローチ法の理解と実施方法の説明能力を養うことにある。授業はゼミ形式で行われ、文献の討論を通じて知見を深める。	
		精神看護学特論Ⅰ		この科目は、精神疾患が個人の現象であると同時に社会的要因と深く関わっている点に注目し、人生の視点から精神疾患と社会の関連を考察することを目的とする。精神科臨床看護やコミュニティケアの経験を持つ教員が担当し、学生は精神障害が人生での苦悩とどのように結びついているかを理解し、精神障害者の人間関係や支援方法について学ぶ。授業では、精神疾患とライフサイクル、個人と家族の精神病理、災害精神医学、解離と心的外傷、精神病理と人生、国際精神保健の動向などを取り上げ、最終的に自己の経験と照らし合わせた深い洞察を行う力を養う。	
		精神看護学特論Ⅱ		この科目では、日本の精神科医療における開放化と地域生活支援の拡充について学び、精神障害の理解、法的施策との関係、そして当事者の処遇に関する国際基準を点検する。精神科臨床やコミュニティケアの経験を持つ教員が担当し、最新の精神障害への理解に基づく精神看護の方向性や、精神保健福祉の国際基準を学ぶことで、精神障害に対する認識を再検討する機会を提供する。授業では、精神保健福祉行政や精神障害者の現状、統合失調症の治療とリハビリテーション、社会生活支援、精神保健福祉法、触法精神障害者の問題、国連原則の意義について学ぶ。最終的に、日本の現状課題を分析し、国際基準との比較を通して今後の政策やサービス提供の方向性について考察する。	
		母性看護学演習		この科目では、女性特有の心身の状態や自己決定の視点からリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する女性の健康問題と看護ケアをテーマに、研究文献の検討や問題の分析を行い、研究課題の明確化や適切な研究方法の選定、研究計画書の作成を学ぶ。母性看護の臨床経験を持つ教員が担当し、看護ケア方法の開発や研究手法を用いた問題解決能力を養うことを目的とする。また、専門看護師コースの学生は、臨床スタッフや学生に対する基礎的な教育能力も身に付ける。授業では、各ライフステージにおける女性の健康問題やリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関するテーマについてのゼミナールが行われ、研究計画の報告・検討を通じて実践力を高める。	
		看護教育		この科目は、看護ケアの質向上を目指し、看護職者（患者・家族を含む）が自己成長できる看護教育の原理と実践を学ぶものである。看護教育の目的、理論、制度、継続教育、キャリア開発に関する知識を基盤に、看護学生の基礎教育から看護職者の新人教育、スペシャリストの能力開発までの人材育成、さらに患者や家族への自己管理や生涯学習向上を目指した教育を教授する。看護教育の研究経験を持つ教員が授業を担当し、教育計画や評価方法、アクティブラーニング、患者教育の技法、各対象に応じた教育方法など、看護におけるさまざまな教育技法を習得することを目的とする。授業では、教育プログラムの発表や討議、各自の課題に基づいた教育計画の策定を行い、期末レポートとしてまとめる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	基礎看護学演習		この科目は、学生が基礎看護学領域における各自の研究テーマに基づき、文献検索・クリティーク・レビューを行い、研究課題や目的を明確にし、必要な研究方法を学んで研究計画書を作成、倫理審査に提出することを目的とする。看護学の基礎研究経験を持つ教員が指導し、修士論文の準備として、文献検索から研究課題の設定、方法の選定、分析、倫理的配慮の基礎知識と技術を学ぶ。授業内容には、文献検索、研究目的や意義の明確化、データ収集・分析方法の選択、研究計画書の作成、そして倫理審査申請書類の作成と承認の取得が含まれる。	
		国際看護学演習		この科目では、グローバルヘルス分野における「問題定義」から「問題解決」への移行を重視し、持続可能な解決策の模索と現実的なプロジェクト提案作成スキルの育成を目指す。学生は批判的分析に基づき、グローバルヘルス課題に対して現地の利害関係者の視点や国際政策の調整を取り入れたプロジェクト設計を学ぶ。また、ジェンダーや社会正義を考慮したレスポンシブデザインと、結果重視の資金要件とのバランスを取る方法も習得する。架空の財団「TRAM3」による提案募集に応じたプロジェクト提案作成を通して、社会的・構造的変革をもたらす活動設計、予算作成、評価指標の設定を経験し、課題解決に向けた知識と実践力を養う。授業はプロジェクト提案書の作成から最終プレゼンテーションまで段階的に進行し、各自の批判的自己評価と専門的態度も育成する。	
		精神看護学演習		この科目は、看護倫理、看護判断、人権擁護に関する法的知識を含む支援方法を学び、精神障害者が自己決定を行うための支援方法や、患者と看護師間の信頼関係構築の技法について教授する。精神科臨床看護やコミュニティケアの経験を持つ教員が担当し、学生は人権擁護の重要性を理解し、その根拠となる倫理思想や法的な枠組みについて学ぶ。また、自己決定支援や信頼関係構築の具体的技法も理解し実践する力を養う。授業は、精神医療における特殊性や人権課題、自己決定支援、信頼関係構築技法などを学び、最終的に課題発表と総括を通じて、看護倫理に基づく看護判断と精神障害者支援への理解を深める。	
		医療ナラトロジー		この科目は、ナラティヴ・アプローチの基礎理論を学び、ナラティヴ分析法とナラティヴ実践法についての実例を通して理解を深め、日本の医療現場での臨床応用の可能性を検討することを目的とする。まず、医療ナラトロジーの基礎である物語論を学び、次に質的研究法としてのナラティヴ分析法とその実践法について学習する。実務経験のある教員が指導し、学生は物語論の基礎理論、ナラティヴ分析の技法、医療分野でのナラティヴ実践の実例を学ぶ。最終的には、学んだ内容を統合し、期末レポートにまとめることで実践への応用力を身につける。 （オムニバス方式／全16回） （88 宮坂 道夫／12回） 第1～2回：ナラティヴについての基礎理論を学ぶ。 第3～4回：ナラティヴ理論のケアへの応用を学ぶ。 第7～8回：学修の統合として、期末レポートの作成に向けた講義を行う。 （37 坂井　さゆり／2回） 第5回：医療分野におけるナラティヴ・アプローチ（ナラティヴのケアへの展開）の実例を学ぶ。 （227 菊永　淳／2回） 第6回：医療分野におけるナラティヴ・アプローチ（ナラティヴのケアへの展開）の実例を学ぶ。	オムニバス方式
		地域看護学実習		この科目は、学生が保健所や管轄市町村において、地域や集団の健康ニーズを疫学的手法で分析し、地域看護活動の計画・実施・評価を通して、卓越した実践能力と地域ケアシステム構築に必要な能力を養うことを目的とする。地域看護の経験を持つ教員が実習指導を行い、学生は実習計画書を作成し、実習施設で事例検討やカンファレンスを主体的に行う。また、地域包括ケアシステム開発に向けた施策や戦略を提案し、医療保健福祉機関と連携する能力を高める。学生が主体的に健康課題のニーズ分析や看護診断を行い、佐渡市の保健所や市役所で実施する。実習終了後は報告会を開き、今後の学習課題を明確にすることで学びを深化させる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	地域看護学特論Ⅰ		この科目は、地域看護の概念・理論および地域看護診断、施策化についての理解を深めるとともに、ケアシステムの形成、政策形成プロセス、社会資源の開発について学ぶものである。講義やプレゼンテーション、ディスカッションを通じて具体的な実践事例を用い、より質の高い地域看護技術の開発方法を探求する。内容には、地域看護の理論・概念、コミュニティ・アセスメントから施策化までのプロセス、地域ケアのネットワーク構築、多職種連携、社会資源の開発手法が含まれる。また、地域看護活動における住民とのパートナーシップ、個人・グループ・コミュニティエンパワメントの概念と方法についても学習する。さらに、地域看護における研究分野、研究の動向、研究手法について理解を深めることにより、実践活動の展望を得る。最後に、学びを総括し、自己の学習課題を明確化することを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （45 佐藤　美由紀／5回） 地域看護における政策動向や課題、ケアシステム開発の政策形成プロセスについて先進事例を用いて検討し、企画・立案から政策評価までの一連のプロセスを指導する。また、地域看護の研究分野や動向、手法を含む活動の展望について指導する。 （143 成田　太一／3回） コミュニティ・アセスメントの理論と実際、特にパートナーモデルとエスノグラフィーを解説し、実践事例の有効性と課題を考察する。また、CBPR（地域参加型研究）の進め方や実践例の考察を行い、CBPRの成果を実践や研究にどう生かすかを指導する。 （100 井上　智代／3回） 地域看護学で用いるプライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタルの概念、ケアネットワーク・システム形成や多職種連携の重要性について先進活動事例を通じて指導する。また、地域看護政策形成やシステム形成の動向と実践について指導する。 （45 佐藤　美由紀・143 成田　太一・100 井上　智代／4回）（共同） ガイダンス、コミュニティ参加型活動・実践、発表・討議、まとめの講義を担当する。	オムニバス方式 共同（一部）
		地域看護学特論Ⅱ		この科目では、行政・学校・産業看護分野における個人・家族・集団支援に共通する概念、理論、支援方法について学び、事例を通して支援過程の分析・評価を行う。これにより、理論や方法論の実践適用可能性、課題、効果的支援方法の開発について考察する機会を提供する。さらに、在宅看護分野等における概念、理論、支援方法について学び、地域包括ケアやケアマネジメントの理論、ケアシステム、多職種連携、入退院支援に関する理解を深める。講義、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて、地域看護領域における高い実践能力と連携調整の基礎を習得することを目指す。	
		地域看護学演習Ⅰ		この科目は博士前期課程の看護学分野における専門科目で、地域に暮らす多様な人々の健康問題と地域看護ケアをテーマに、文献の検討や問題の分析を行い、研究課題の明確化や適切な研究方法の選定、研究計画書の作成を学ぶ。地域看護学の実務経験を持つ教員が担当し、学生は研究課題の明確化、データ収集・分析方法の理解を深め、適切で妥当な研究方法の判断力を養う。授業はゼミ形式で行われ、文献検討、研究計画の報告・検討を通じて実践力を高める。	
		地域看護学演習Ⅱ		この科目では、地域看護の基盤となるコミュニティ・アセスメントの方法を学び、実際の地域資料や地区踏査を通じてその技術を向上させることを目指す。実施したコミュニティ・アセスメントに基づき、地域の実践プログラムの立案、実施、評価方法の技術を習得し、今後の実習に活かすことが目的である。対象地域の既存資料を分析し、地区踏査・インタビューを実施することで、具体的な健康問題の抽出・分析を行い、地域のケア計画を立案・評価するスキルを養う。また、討議や発表を通じて実践に基づく学びを深め、地域看護実践の実践力を高める。	
		家族看護学特論		この科目では、地域看護の基盤となる個人および家族ケアの概念や理論、家族を取り巻く社会や保健医療福祉制度の現状と課題について分析・検討する。また、事例を用いて家族の健康問題や生活問題のアセスメントおよび支援方法、評価方法を探求する。保健師の実務経験を有する教員が指導を行い、家族支援に関する理論や支援モデルを学び、実践に活かせる高度な看護実践能力を修得することを目指す。さらに、家族看護に必要なアセスメント技術や支援方法を理解し、地域看護領域における具体的な実践事例を通じて、家族支援の実際と課題、研究手法を学び、ケアの質向上を図る。	
		遺伝看護学特論Ⅰ		この科目は、遺伝的課題を持つ患者や家族に対して統合的にケアを提供するために必要な遺伝学の知識を学ぶものである。内容は、細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝学、薬理遺伝学、腫瘍遺伝学、遺伝学的検査を含み、遺伝医療・看護の基礎を理解することを目指す。授業は、研究・開発や臨床経験を有する教員が担当し、遺伝医療が社会に与えた影響や変遷を学びつつ、各分野の知識を深める。学生は、遺伝看護に関する疑問解決の手法も学び、プレゼンテーションと質疑応答を通して各領域の理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	遺伝看護学特論Ⅱ		この科目は、遺伝的課題を持つ人々を統合的に理解し、患者や家族中心のケアを提供するための臨床遺伝学の知識を学ぶ。主要な遺伝性疾患（先天異常症候群、家族性腫瘍、遺伝性神経筋疾患、遺伝性循環器疾患など）の表現型の識別方法、原因、再発率、臨床像、診断と治療について理解を深めることが目的である。家系図作成による遺伝形式の推定や遺伝リスク評価、遺伝看護に必要なアセスメント技術を学び、遺伝性疾患に関する疑問を探究する力を養う。授業は、実務経験を有する教員による指導のもと、プレゼンテーションとQ&Aを通して、臨床遺伝学の実践的な知識と技術を習得する。	
		遺伝看護学特論Ⅲ		この科目は、遺伝医療とELSI（倫理的・法的・社会的課題）に関連する知識を学び、患者と家族中心のケアを提供するための基盤を構築するものである。医療と看護に関する倫理、社会制度、遺伝医療サービスの国内外の現状と課題を理解し、遺伝医療における倫理問題の特徴やその分析方法を学ぶ。具体的には、ライフサイクルや発症前診断、保因者診断、生殖補助医療などの状況に応じた倫理的課題を国内外の視点で考察し、倫理調整の方法を修得する。実務経験を持つ教員が指導し、事例を基にガイドラインや倫理的調整を学ぶことで、看護現場における実践力を養う。 （オムニバス方式／全16回） （88 宮坂　道夫／3回） 遺伝医療における倫理問題の特性について、原則論、物語論、手順論を含む倫理分析方法を指導し、ナラティヴ・アプローチなどの具体的手法を学ぶ講義を行う。 （4-① 有森　直子（令和8年度）、4-② 有森　直子（令和9年度）／13回） 国内外の遺伝医療サービスやELSI（倫理的・法的・社会的課題）に関連する倫理課題について、看護現場での具体的事例を通じた指導を行う。さらに、小児期や周産期の意思決定、生殖補助医療、発症前診断、保因者診断といった特有の倫理的課題とその調整方法についても詳しく学ぶ。	オムニバス方式
		遺伝看護学特論Ⅳ		この科目は、遺伝看護学の基礎を理解し、遺伝学的課題を抱える個人、家族、集団に対する専門的支援について学ぶことを目的とする。対象者が直面する生活上の課題を理解し、遺伝性疾患を持つ人々がどのような体験を通して生活しているかを把握するための知識と技術を提供する内容である。授業では、ナラティブ分析や事例研究などの方法を用いて遺伝看護の実践的なアプローチを学び、実際の支援に活かせるようにする。対象者には、先天性疾患、家族性腫瘍、神経筋疾患など、遺伝的課題を抱える人々やその家族が含まれる。遺伝学的課題に直面している人々の多様な特性を理解し、その中での課題や支援のニーズを考察する。また、クライアントが属するコミュニティの特性を考慮し、個人や家族、集団に対する支援方法を検討することで、看護師としての知見と対応力を高める。本科目は、遺伝看護学演習や実習の事前科目として位置づけられており、看護職としての実践力を養うための基盤を築くものである。 （オムニバス方式／全15回） （4-① 有森　直子（令和8年度）、4-② 有森　直子（令和9年度）／9回） 遺伝学的課題を持つ個人・家族・集団の特性について講義する（第1・2回）。 事例研究を通じて、遺伝学的課題を持つ個人・家族への研究アプローチを指導する（第5・6回）。出生前検査や発症前検査を受ける人々の課題と看護について講義する（第7・8回）。神経筋疾患を持つ個人とその家族の生活上の課題について講義する（第13・14回）。学習総合発表・まとめを行う（第15回）。 （88 宮坂　道夫／2回） ナラティブ分析を用いた、遺伝学的課題を持つ個人・家族への研究アプローチを指導する（第3・4回）。 （50 住吉　智子／2回） 先天性疾患を持つ個人と家族の生活上の課題について講義する（第9・10回）。 （37 坂井　さゆり／2回） 家族性腫瘍を持つ個人と家族の生活上の課題について講義する（第11・12回）。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	遺伝看護学特論Ⅴ		この科目は、遺伝看護学の定義と専門的支援に必要な実践的知識や技術を学ぶものである。授業では、遺伝看護の定義やコア・コンピテンシーを規定する国内外の団体について学び、先天性疾患や遺伝性疾患を持つ患者およびリスクのある人々を対象とした遺伝看護の実践について理解を深める。また、遺伝看護の特徴として、緩和ケアの側面（ノーマライゼーション）、家族での遺伝情報共有におけるプライバシー保護と情報提供、意思決定支援に関わる倫理調整などの側面を学ぶ。具体的な遺伝看護の実践例として、先天異常症候群、家族性腫瘍、遺伝性神経筋疾患、血液疾患、循環器や呼吸器の遺伝疾患、眼科や皮膚科、先天性難聴、不育症、性染色体異常、出生前診断などを取り上げ、それぞれの疾患に対する症状管理、心理社会的支援、生活支援の方法を習得することを目指す。 （オムニバス方式／全16回） （4-① 有森　直子（令和8年度）、4-② 有森　直子（令和9年度）／12回） 遺伝看護学の定義や特徴、意思決定支援の重要性、先天異常症候群、遺伝性神経筋疾患、血液遺伝性疾患、不育症、性染色体異常、出生前診断に関する遺伝看護の実践について指導する。 （50 住吉　智子／1回） 先天異常症候群の遺伝看護に関する実践的な知識と技術を指導する。 （37 坂井　さゆり／1回） 家族性腫瘍の遺伝看護に関する実践的な知識と技術を指導する。 （282 栗山　洋子／2回） 遺伝性循環器疾患、遺伝性呼吸器疾患、遺伝性眼科疾患、遺伝性皮膚科疾患、先天性難聴に関する遺伝看護の実践について指導する。	オムニバス方式
		遺伝看護学特論Ⅵ		この科目は、遺伝的課題を持つ人への包括的なケアを提供するために必要な遺伝学の知識と技術を学ぶものである。遺伝看護学特論Ⅰに続く内容で、研究や臨床経験を持つ教員が指導を行う。授業では、遺伝生化学、生殖・発生遺伝学、集団遺伝学、家系分析、体細胞遺伝学、免疫遺伝学といった遺伝医学の基礎を学習し、これらの知識を活用して患者と家族中心のケアを提供できるようにする。学生は、遺伝学に関する疑問を探求し、解決するための方法を習得し、理解を深めていく。	
		遺伝看護学実習Ⅰ		この科目では、遺伝性疾患患者と家族に対する高度な看護実践として、遺伝診療部が行う遺伝カウンセリングの実際を学ぶ。遺伝カウンセリングに同席し、実際の場面を通して遺伝看護の役割を考察する機会を得る。様々な保健医療機関での経験を持つ教員が指導を行い、遺伝診療部の組織や運営、クライエントのニーズ、チーム医療での役割分担、意思決定支援、フォローアップ、他部門との連携について理解を深める。実習は10日間行われ、臨床講義、チャートスタディ、カウンセリング見学、ケースカンファレンス参加、カンファレンス企画運営、実習記録・レポート作成などを通して学びをまとめる。	
		遺伝看護学実習Ⅱ		この科目は、遺伝看護学特論や演習での学びを統合し、小児先天異常症、家族性腫瘍、遺伝性神経筋疾患、多因子遺伝病、周産期遺伝相談などの特定領域において直接ケア実習を行うものである。学生はクライエントを担当し、遺伝看護における高度実践（高度な看護実践、コンサルテーション、コラボレーション、倫理調整、教育）について考察を深める。遺伝看護専門看護師として必要な高度な実践能力を発揮できるよう、実習指導者や看護管理者の助言を受けながら進行し、40日程度の実習期間中に2事例程度の直接ケアを担当する。カンファレンスへの参加や教員からのスーパービジョンを通して、ケアの妥当性や役割についての理解を深める。	
		遺伝看護学実習Ⅲ		この科目では、遺伝医療における専門看護師の役割（教育、相談、連携調整、倫理調整）について、実際の現場で遺伝看護専門看護師や関連する看護職の活動に同行し、その実践を学ぶ。がん看護をはじめとする他の専門看護師との協働の視点も含め、遺伝看護におけるリーダーシップや実践活動を理解する。実習は、遺伝診療部を持つ医療施設で行われ、実習前に学生が実習計画書を作成し、実習指導者と確認後に参加する。実習では専門看護師の活動に同行し、卓越した実践や教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整についてフィールドノートに記録し、指導者とのディスカッションで理解を深める。また、実習終了後にこれらの活動を振り返り、実習レポートにまとめることで専門看護師としての役割を学ぶ。	
		遺伝看護学実習Ⅳ		この科目では、演習Ⅱで学んだ知識と技術を活用し、医療施設や地域において遺伝教育を実施・評価する実習を行う。教育活動はPeple-Centered Care（人中心のケア）の理念に基づき、対象者とパートナーシップを形成しながら進める。授業は看護経験を有する教員が担当し、遺伝教育の重要性とその実践方法を指導する。実習では、遺伝教育を必要とするコミュニティや医療施設を特定し、対象者のニーズに合わせた教育計画を立案、関連機関との調整を経て実施し、その評価と課題の明確化を行う。具体的には、演習Ⅱで作成した教育案を基に、参加者のリクルートや予演会を実施した後、教育プログラムを進め、アウトカム評価とプロセス評価を活用して実施内容を評価する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	遺伝看護学演習Ⅰ		この科目は、遺伝看護分野における専門的支援のための実践的な知識と技術を提供し、クライエントの自律的意思決定を支援するカウンセリング方法を学ぶものである。授業では、様々な学問領域の理論を理解し、遺伝看護に適したカウンセリング技術を演習を通じて習得することを目指す。また、遺伝情報検索のリテラシーや遺伝学的根拠に基づく情報提供方法、意思決定支援理論について学び、患者とその家族にエビデンスに基づいた選択肢を提示し、適切な意思決定支援を行う技術を習得する。カウンセリングの基礎理論、心理カウンセリングの理論に加え、周産期や小児期、家族性腫瘍、神経筋疾患、多因子遺伝疾患に関する遺伝カウンセリングの実践についても学び、ロールプレイ演習を通して技術を深める。最終的には、支援技術のリフレクションスキルも身につけることを目的としている。	
		遺伝看護学演習Ⅱ		この科目は、遺伝的課題を抱える人やその家族に対する統合的なケアと、地域遺伝医療に基づく遺伝教育を学ぶものである。ピアグループや家族会の役割、医療者や社会に対するケアニーズを分析し、支援の在り方を理解することを目指す。また、地域住民や看護職を対象にした遺伝教育の企画・運営についても学習する。授業は遺伝看護学の実務経験を活かした教員によって行われる。学習内容には、当事者団体やピアグループの特性やケアニーズ、遺伝教育の生涯を通じた在り方が含まれる。さらに、教育モデルを活用したプログラムの立案と評価についても理解を深める。	
		遺伝看護学演習Ⅲ		この科目は、がん遺伝看護、周産期遺伝看護、小児遺伝看護、遺伝性神経筋疾患、多因子遺伝病の看護など、特定専門領域に特化した知識と技術を学ぶものである。過去の事例を活用し、遺伝看護における高度な看護実践、コンサルテーション、コラボレーション、倫理調整の役割を理解し、プレゼンテーションと討議を通じて実践的な知識を深める。多様な保健医療機関での経験を持つ教員が指導を行い、専門領域に応じた高度実践看護者の役割を学ぶ。事例を通じて遺伝看護の倫理的思考も養い、特定領域における高度実践の意義を理解する。 （オムニバス方式／全15回） （4-① 有森　直子（令和8年度）、4-② 有森　直子（令和9年度）／13回） 遺伝看護における高度実践看護の役割について指導する。内容は、看護実践、コンサルテーション、コラボレーション、倫理調整、遺伝看護教育の各領域にわたる。また、がん遺伝看護や周産期遺伝看護、小児遺伝看護、遺伝性神経筋疾患、多因子遺伝病など特定専門領域の事例検討も行い、専門的なケアについての理解を深める。 （88 宮坂 道夫／2回） ナラティブを用いた事例検討を通して、遺伝看護における倫理的思考の形成を支援し、実践看護における具体的な場面の分析を行う。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	ＣＮＳコース共通	臨床薬理学		この科目は、薬物をより効果的かつ安全に使用するために、薬物の人体への作用や体内動態に影響を与える要因を解説し、薬物療法を講義する。具体的な疾患に対する薬物療法の現状と課題についても取り上げ、専門看護師として治療薬の使用判断の根拠や用法を理解する。臨床医療の経験を持つ教員が担当し、薬物体内動態、副作用の知識を習得し、疾患別薬物療法の現状と動向を理解する。主な疾患の成因・病態を踏まえ、治療効果、作用機序、副作用、禁忌など薬物治療学的知識を学び、薬の適正な使用方法を理解する。また、患者モニタリングの視点を学び、服薬管理能力を向上させる説明や指導を行う力を養う。授業では、基礎薬理学から疾患別の薬物療法、事例検討、専門看護師に必要な臨床薬理学の実践と課題について学び、各テーマに関する質疑応答で理解を深める。	
				フィジカルアセスメント		この科目は、健康問題を持つ対象の観察、身体・精神状況の診察、臨床評価を行うための系統的なフィジカルアセスメントの知識と技術を学ぶものである。医学・看護学の実務経験を持つ教員が担当し、身体的情報だけでなく精神的・社会的側面も含めた包括的な診査を習得することを目指す。授業ではフィジカルアセスメントの目的や方法、必要性を理解し、心身両面から自覚症状と他覚所見を評価する高度な知識と技術を身につける。さらに、フィジカルアセスメントを看護実践に応用する力を養う。授業内容は各部位・疾患別の診査とアセスメントから構成され、最終的に事例検討と総括を通して学びを深め、期末レポートでまとめる。 （オムニバス方式／全19回） （12 内山　美枝子／3回） 授業ガイダンス、フィジカルアセスメント概論 （123 齋藤　あや／3回） 腎疾患の診査とアセスメント （67-① 中村　勝（令和8年度）、67-② 中村　勝（令和9年度）／1回） 精神機能の診査とアセスメント （284 小山　諭／1回） 頭頸部・乳房の診査とアセスメント （157 松田　康伸／1回） 腹部の診査とアセスメント：消化器系 （179 近藤　直樹／1回） 骨格筋の診査とアセスメント （163 横野　知江／3回） 脳・神経系の診査とアセスメント （58-① 池主　雅臣（令和8年度）、58-② 池主　雅臣（令和9年度）／1回） 胸部の診査とアセスメント：循環器系 （103 牛木　隆志／1回） 血液疾患の診査とアセスメント （51 関　奈緒／2回） 胸部の診査とアセスメント：呼吸器系 （12 内山　美枝子、163 横野　知江、123 齋藤　あや／2回）（共同） 事例検討、まとめ：専門看護師に必要なフィジカルアセスメントの実際と課題	オムニバス方式 共同（一部）
				基礎看護学特論Ⅰ		この科目は、看護管理の基礎知識と理論を学び、看護職が行う看護ケアや治療支援、安楽提供のプロセスを管理する方法について理解を深めるものである。看護管理の経験豊富な教員が指導し、マネジメント論、組織行動論、人的資源管理、医療経済、医療政策を基礎に、看護管理の重要性や役割を学ぶ。また、看護職のキャリア開発、スペシャリストとジェネラリストの活用法、看護行政と政策の仕組み、組織の文化・風土・倫理についても学習する。授業は、看護管理の概念から、経営視点でのコスト管理、看護職のキャリアビジョン、組織改革とリーダーシップ、人的資源の活用まで幅広いテーマを含み、看護の質向上を目指すための視点と方法を修得する。最終的に看護管理への介入方法とその成果を学び、期末レポートにまとめる。	
				コンサルテーション論		この科目は、コンサルテーションがコンサルティとコンサルタントという専門家同士の対等な関係で成り立つプロセスであることを理解し、コンサルテーションの理論と具体的な方法を学ぶことで、看護職がコンサルタントとして専門知識を活用した支援を行えるようになることを目指す。また、必要に応じて他の人的資源をコンサルティとして活用し、問題解決に役立てる力を養う。周産期や遺伝相談の経験を持つ教員が担当し、看護・医療・福祉の現場で発生する多様な問題への具体的な支援方法としてのコンサルテーションの実践方法を学ぶ。授業では、コンサルテーションの目的や基本特性、展開過程、コンサルタントの要件と教育、困難事例への対応方法を学び、最終的に実践事例の評価と今後の課題をまとめる。	
				病態生理学		この科目は、生体の生理機能変化と病態の関係を理解し、臨床での生理機能評価の方法とその意義を学ぶことで、専門看護師に必要な病態生理学の知識を習得することを目的とする。臨床医療の経験を持つ教員が担当し、患者の健康問題を的確に捉えて適切な観察とアセスメントを行う力を養う。授業では、循環器、血液、消化器、呼吸器、内分泌・代謝系、脳神経系、腎疾患、免疫機能障害などの各疾患領域における病態生理学的変化と、それに対応する検査方法（心電図、超音波、呼吸機能、血液ガス分析、脳波、CT、MRIなど）を学ぶ。授業の最後には、学んだ知識を活用し、実際の臨床での課題とその対応について総括する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	慢性看護コース	成人・老年看護学実習Ⅰ		この科目は、慢性疾患を抱える患者に対する在宅療養管理について、医学的評価や薬物療法の実施を通じて理解を深め、専門的な看護支援技術を習得することを目的としている。学生は、医療施設での外来診療や入院診療において、医師や慢性疾患看護専門看護師の指導のもとに参加観察実習を行い、薬物療法や医療処置に関する知識と判断技術を学ぶ。また、患者の生活の質を維持・向上させるための教育や相談を通じて、患者および家族の自律的な療養管理を支援する方法を習得する。実習では、患者の身体状況に基づき、薬物療法の調整やケアの実施にあたる。また、実習後にはレポートを作成し、自己の学習課題や専門看護師としての役割機能を反映させる。	
				成人・老年看護学実習Ⅱ		この科目は、慢性疾患を抱える患者とその家族に対する包括的なアセスメントを行い、個々の状況に応じた柔軟で高度な看護支援の方法を探求することを目的としている。学生は病院や介護保険施設での実習を通して、医療・看護チームや福祉チームと協働しながらケアプランを立案し、実践と評価を行う。これにより、慢性疾患看護に必要な情報統合能力、アセスメント能力、合理的な思考能力、看護実践能力を向上させることを目指す。さらに、患者と家族の自己決定を尊重し、症状管理や苦痛緩和を支えるアドボカシーの視点を取り入れたケアを実践することが求められる。実習では、特論や演習で得た知識を活用し、医師や専門看護師の指導のもとで慢性疾患に関する包括的な看護を展開する。実習内容を振り返り、フィードバックを受けながらケア計画を改善し、最終的には課題に応じたレポートを論文形式で作成する。	
				成人・老年看護学実習Ⅲ		本科目は、離島、積雪地域、災害被災地、高齢化・過疎化が進む地域など、医療資源が限られた環境で生活する慢性病患者とその家族を支援する看護の実践を通して、地域医療における専門看護師の役割とケアシステムの構築を学ぶことを目的とする。実習では、地域資源を相補的に活用し、チーム体制による連携看護の実践能力を身につけ、課題解決に導くリサーチ能力と教育能力も養成する。学生は、地域住民の健康状態と資源を包括的に評価し、慢性病者のリハビリテーション支援や療養支援を計画、実施、評価する。また、多職種と連携してカンファレンスを行い、医師や栄養士等と協働して支援体制の構築を経験する。さらに、実習総括では、チーム医療のシステム全体を評価し、新たな資源の連携技術や在宅看護技術の発展について考察する。実習は新潟大学医歯学総合病院や信楽園病院など、地域医療に取り組む施設で行われ、各自が取り組んだ看護展開についてレポートにまとめる。	
				成人・老年看護学実習Ⅳ		本科目は、慢性看護師としての倫理観と責務を基盤にした看護実践能力を体現するための実習であり、複雑化・多元化した慢性病者およびその家族の問題に対し、看護支援やコンサルテーション、関係者間の調整、倫理的問題の調整などを行い、実践過程の理論化を目指す。慢性疾患看護専門看護師が実務指導を担当し、過去の実習科目で得た知識・技術を統合、発展させて専門看護師に必要な能力の到達状況を自己評価と教育評価を通して認識し、自己研鑽を図る場である。実習内容は、慢性病者が抱える問題の解決過程における看護師の役割、教育・相談、調整、コンサルテーション、リーダーシップを活用したチーム連携の適用など多岐にわたり、履修生は主体的に課題を設定し、学習目標を達成するための計画を立案する。実習期間中は、密な連絡・報告を行い、実習協力者への説明・同意を得て倫理的配慮を持って実施する。また、最終的に実習カンファレンスを企画・運営し、得られた知見や今後の課題を整理して実践をまとめる。	
				成人・老年看護学特論Ⅰ		この科目は、成人期および老年期にある慢性病患者とその家族の心理・行動的特性、社会との関係性について学び、慢性病がもたらす不確かさや生活への制約を理解することを目的としている。看護師としての支援技術を基盤に、患者と家族が自ら状況を評価し、生活目標を設定するための方法を検討することを目指す。慢性病患者が生活の主体であり、家族もまた看護対象であるという認識を深め、患者の生活や疾病管理に影響を与える要因や課題について分析できるようになることが求められる。主な学習内容には、ヘルス・ビリーフ・モデル、不確かさの理論、セルフコントロール評価、慢性疾患とQOL、リハビリテーションにおける受容過程、家族の行動理解などが含まれる。また、現代社会における慢性病患者への看護の役割についても探求し、各理論や事例を通して包括的な看護支援の方法を検討する。 （オムニバス方式／全15回） （129 清水 詩子／11回） 慢性病者の心理・行動に関する諸理論を学ぶ（ヘルスビリーフモデル、障害受容、セルフコントロール、QOL、病みの軌跡、不確かさの理論、ステージ理論、生きがい論、慢性病者・家族の思いと目標、慢性病者の理科苦・認知、リハビリテーション理論）。 （287 鈴木　健太郎／4回） 慢性病者の発達学、症状マネジメントモデル。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	慢性看護コース	成人・老年看護学演習Ⅲ		この科目は、成人・老年期にある慢性病患者の下降期や終末期において、患者が望む生き方に沿った看護を追求することを目的としている。慢性病と共に年齢を重ね、人生の最終段階を迎える患者への支援を学び、看護師としての死生観・人生観を深く問い直すことが求められる。身体的・心理社会的・スピリチュアルな側面を含め、患者を全人的に理解し、アドボカシーに基づいた自己決定支援、症状マネジメント、苦痛緩和、家族への援助やグリーフケアの理論と実践を学ぶ。下降期と終末期においても患者と家族が質の高い生活を送れるように、専門看護師としての倫理調整やケアの展開が重視される。また、ライフヒストリーの理解を通じ、患者と家族の苦悩に寄り添い、ケアリング・プラクシスに基づいた看護支援の理論と方法を修得する。 （オムニバス方式／全15回） （129 清水　詩子／9回） 成人・老年期にある慢性病患者の終末期において、個々の患者が望む生き方に添える看護を探求し、患者や家族が質の高い療養生活を続けられるよう支援する方法を指導する。症状マネジメントやアドボカシー、自己決定支援の重要性、患者の人生観・死生観への理解、苦悩への寄り添いといった全人的なケアについて学ぶ。講義の最後には、人生の最終段階における看護について総括する。 （277 上原　喜美子／2回） 終末期における痛みの発生機序や、緩和ケアとその評価方法を指導し、患者の身体的苦痛に対応するためのケア技術について理解を深めることを目指す。 （227 菊永　淳／4回） スピリチュアルケアの理論と実践について学び、さらに、慢性病患者を支える家族への支援としてのグリーフケアやグリーフワークの理論とその展開方法について指導する。これにより、患者と家族の精神的・社会的な支援方法を学ぶ。	オムニバス方式
				成人・老年看護学特論Ⅱ		この科目は、成人期・老年期にある慢性病者を対象に、身体的、心理・社会的、スピリチュアルな側面を含む包括的なアセスメント方法を学ぶものである。代表的な疾患事例や複雑な心理・社会的問題を抱えたケースを題材に、最新の研究を活用しつつ高度なアセスメント技術を修得することを目指す。慢性病者のライフヒストリーを基にしたアセスメントの枠組みから、身体的状態や心理・社会的背景、スピリチュアリティ、さらに住環境や家族のニーズといった幅広い要因がもたらす影響について学習する。学生は、地域や生活環境の評価方法や家族の問題対処能力に基づいた看護アプローチの理論と実践について理解を深める。また、慢性病者が抱える複雑な苦悩に対して、精神的側面では捉えきれないスピリチュアルな支援方法も検討し、実践への適用を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （129 清水　詩子／11回） 慢性病者・家族の包括的アセスメントの方法と必要な知識（ライフヒストリー、身体・心理・社会的側面の理解、スピリチュアル、療養環境）と、慢性病（呼吸・循環器）者のアセスメントを学ぶ。 （275 石﨑　香織／4回） 慢性病（代謝・内分泌、腎）者のアセスメントを学ぶ	オムニバス方式
				成人・老年看護学特論Ⅲ		この科目は、慢性病者や療養が必要な人が地域や施設で質の高い療養生活を送るための支援技術を学ぶものである。看護支援の基本的技術を基盤とし、人権理論、意思決定理論、人間関係理論、チーム医療論、地域と文化に基づいた療養支援や治療環境の整備に関する理論と実際を教授する。また、看護師や専門看護師の経験を有する教員による指導のもと、慢性疾患看護における地域支援の役割を認識し、地域資源の活用や現行制度の分析を通して看護の役割拡大について考察する。慢性病者とその家族の支援に必要な環境要因の理解を深め、意思決定のプロセスや家庭内の倫理的課題、ケアサポートにおけるソーシャルサポート評価などの多面的な視点から慢性病者のケアシステムを体系的に学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （129 清水　詩子／11回） 慢性病者の支援に関わる理論（居宅あるいは介護施設におけるチームアプローチ、ソーシャルメディア、セルフヘルプグループ、外来看護、財政的課題、就労支援、意思決定支援、ソーシャルサポート評価、患者・家族関係、患者・看護師関係）を学ぶ。 （283 小林　千穂／4回） 慢性病者の支援に関わる地域連携、家族内の倫理的諸問題について学ぶ。	オムニバス方式
				看護理論		この科目では、看護理論の歴史的な変遷を概観し、各理論の構成や特徴、実践への適用の可能性、弱点や限界について理解を深めることで、専門看護師（CNS）としての優れた実践と看護研究を行うための理論的基盤を養うことを目的とする。授業は、各理論家に関するプレゼンテーション、看護理論の理解と意見交換、課題レポートの提出を通して進められる。看護理論を基に自身の看護実践を説明し、理論を実践や研究にどう適用できるかを考察することで、卓越した看護実践に必要な理論的理解を深める。理論の学習には、トラベルビーの対人関係理論、ロイの適応モデル、オレムのセルフケア理論、ワトソンやペナーのケアリング理論、ペプローの人間対人間モデル、キングのシステム論、レイニンガーの文化的差理論、ロジャーズのホメオダイナミクス、M.ニューマンの統一体的パラダイムなどが含まれる。これらを通して、看護実践と理論との関連を考察し、理論の適用およびその限界についての理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	慢性看護コース	成人・老年看護学特論Ⅳ		この科目は、慢性病患者や療養を要する人々が地域や施設で質の高い生活を送るために必要な制度をケアシステムの視点から学ぶことを目的とする。特に、患者や家族が抱える社会的課題をふまえ、急性期から終末期までの各段階における支援制度の生活への影響を考察し、看護の革新的な支援方法を探求する。授業は、現行の制度やケアシステムの理解を基に、患者や家族支援の課題を分析し、革新的なケアシステムのあり方を考える機会とする。具体的な内容として、医療保険や診療報酬、障害者自立支援法、介護保険制度、難病医療費助成制度などの社会保障制度に加え、予防・健康増進事業、先進的な取り組みと専門看護師の役割についても学習する。 （オムニバス方式／全15回） （129 清水　詩子／11回） 慢性病者・家族の社会的課題と、支援に必要な諸制度（施策・制度の全体像、保健・医療・福祉制度、医療保険と診療報酬、障害者自立支援法、難病の医療費、介護保険制度）を学び、支援に必要な施策・制度について検討する。 （277 上原　喜美子／4回） 慢性病者の支援に必要な諸制度（難病の医療費、予防・健康増進事業）を学ぶ。	オムニバス方式
				成人・老年看護学演習Ⅰ		この科目では、成人期・老年期の慢性病予防や、慢性病患者が回復・安定期において主体的に健康管理やリハビリテーションを行えるよう支援するため、エビデンスに基づく看護過程と支援技術を実技演習を通じて学ぶ。慢性疾患看護に関する実務経験を有する教員の指導のもと、患者と家族が自身の目標や生きがいを見つけられるような看護支援を探求する。慢性病者の包括的なヘルスアセスメント、自己管理支援、リハビリテーション看護について討議と実技演習を行い、専門看護師として高度な実践能力を育成する。また、各自がこれまで学んだ知識を基盤に、支援計画の作成や実施、報告を通じて包括的なアセスメントと支援技術を研鑽し、報告会や総括で討議を通じて課題を明確化する。	
				成人・老年看護学演習Ⅱ		この科目では、慢性病患者の急性増悪期におけるフィジカルアセスメントや検査・診断・治療のプロセスを学び、ハイリスク状態にある患者とその家族への高度な専門的看護支援の方法を探求する。実務経験を有する教員が指導し、急性増悪期における特徴的な症候の理解や、リスクの程度に応じた対応法、さらに危機が患者や家族に及ぼす影響について理論的に学ぶ。実習では、呼吸・循環器、消化器、代謝・内分泌、腎疾患のそれぞれの増悪期における病態や診断・治療の理解と看護支援技術を習得する。授業の最後には、事例を通じた支援技術の発表や討論を行い、実践上の課題や今後の方向性についても考察する。 （オムニバス方式／全16回） （129 清水　詩子／8回） 慢性病患者の急性増悪期におけるフィジカルアセスメントおよび看護支援の基礎を指導する。特に、呼吸・循環器疾患と消化器疾患に対する支援技術、ハイリスク患者への高度な看護支援方法について学び、急性増悪期における看護支援技術の展開と課題について総括する。 （284 小山　諭／4回） 呼吸・循環器疾患および消化器疾患の急性増悪期における病態、診断、治療のプロセスを指導する。これにより、疾患ごとの急性期の特徴と対応法についての理解を深める。 （277 上原　喜美子／4回） 代謝・内分泌疾患および腎疾患の急性増悪期における支援技術について指導する。急性増悪期に特有の症状への対応方法や患者の看護支援技術について学び、実践的な知識と技術の修得を目指す。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	がん看護コース	がん看護学演習Ⅲ		この科目では、エンド・オブ・ライフ・ケア、スピリチュアルケア、地域緩和ケアに関する教育プログラムやハンズオンへの参加、フィールドワーク、事例検討などを通して、対象の病状・発達段階・療養の場、病の軌跡、ガイドラインをふまえたアセスメントとマネジメント、家族ケア、チーム・アプローチ、患者の信念や倫理について、がん看護の視点から深く理解し、高度実践看護における態度・役割について考察する。 （オムニバス方式／全16回） （227 菊永　淳／10回） オリエンテーション、エンド・オブ・ライフ・ケアとは、演習計画の検討（第1回～第2回）、EOL看護の知識、必要な態度、現状と課題、文献検討、実践事例の検討（第3回～第4回）、フィールド・ワーク、ケースレポート作成（第7回～第8回）、まとめ総合討論（第13回～第16回） （37 坂井 さゆり／4回） がん患者のEOLケアにおけるスピリチュアルケア、看護師の態度、文献検討、事例検討（第5回～第6回）、地域を見据えた緩和ケア（第11回～第12回）、 （227 菊永　淳・37 坂井　さゆり・274 浅野　暁俊／2回）（共同） 合同検討会（第9回～第10回）	オムニバス方式 共同（一部）
				がん看護学演習Ⅳ		がんの療養過程各期における緩和ケアのケア開発について学習する。痛みの閾値をあげるケア、治療に伴う有害事象へのケア、検査・診断に伴う苦痛へのケア、セルフケア、理学療法、認知行動療法、リラクゼーション法、がん相談支援技術、患者教育技法、補完代替療法等、いずれかの課題を設定し、ケアニーズに対する課題解決を、エビデンス検索、実験・演習により検討する。がんの治療過程で必要なケアニーズに対する看護実践、チーム・アプローチ、研究開発の必要性について学習する。 （オムニバス方式／全16回） （112 柿原　奈保子／13回） オリエンテーション、がんの療養過程におけるケア法テーマ選定（第1回～第2回）、生体計測・介入研究の実際（第3回～第4回）、ケア開発の実際、実験法（第5回～第6回）、選択テーマに関する演習・検討（第7回～第10回）、研究計画書の作成（第13回～第14回） （112 柿原　奈保子・37 坂井　さゆり・289 野口　美貴／3回）（共同） 合同検討会（第11回）、まとめ（第15回～第16回）	オムニバス方式 共同（一部）
				がん看護学実習Ⅰ		がん患者・家族のケアニーズ、がん医療におけるチーム・アプローチ・地域連携の実際について、参加観察実習により現状と課題を分析する。また、がん治療医・緩和ケア医の同行実習、がん看護の高度実践看護の場に同行実習し、臨床判断過程、実践知から看護の機能を考察する。自己の関心課題に焦点を置いた参加観察実習により、複雑で対応に検討を要するがん患者・家族のがん看護について、ケースレポートを作成する。	
				がん看護学実習Ⅱ		がんの診断・治療に伴う臨床判断および身体管理について実践を通して学習する。実習計画や記録用紙、ケア、評価は、既習の講義・演習により得られた課題から自身でデザインし実施する。複雑な状況にあるがん患者を2例以上担当し、エビデンスに基づく専門的なアセスメントおよび看護ケア・看護支援技術を用い、緩和ケア医など多職種と協働し、看護を実践する。担当者の高度実践事例をケースレポート（事例研究）として論文化し、自己の実践について内省を深め、がん看護専門看護師としての高度実践を考察する。	共同（一部）
				がん看護学実習Ⅲ		がん看護専門看護師の役割におけるコンサルテーション、調整、教育を主題とする。がん患者の療養の全過程を通して、多様な局面における健康課題や看護課題を取り上げ、課題解決のために必要なケアチームのニーズをアセスメントし、既習のコンサルテーション理論、教育技法に基づく支援技術を展開し、コンサルテーション、教育について学ぶ。 また、がんの予防と早期発見に向け、がん患者と家族の療養生活を周辺から支える教育機能とその評価法など、がん看護専門看護師としての役割を考察し、開発する。	
				がん看護学実習Ⅳ		がんを抱えた対象とその家族に対して、地域資源を相補的に調整しチーム体制を活用して、連携看護に携わるための看護実践能力を育成し、リサーチ能力と教育能力をもとに課題解決に導く資源相補型の看護実践能力を習得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	がん看護コース	がん看護学特論Ⅰ		最新のがん医療について、疫学、腫瘍学（分子生物学、遺伝学含む）、緩和医療学、検査・診断学、治療学（薬物療法、放射線療法、手術療法等）のがんプロe-ラーニングを併用した専門家によるオムニバス講義方式で学習する。がん医療に関する病態生理学全般を深く学習し、がん看護における高度な臨床判断力を養う。 （オムニバス方式／全16回） （112 柿原 奈保子／3回） ガイダンス、ガイドラインのみかた（第1回）、高齢者総合機能評価とがん治療（第14回）、まとめ（第16回） （51 関 奈緒／1回） がんの疫学とヘルスプロモーション（第2回） （131 ZHOU QILIANG／2回） がんの病態生理に関する遺伝学と分子生物学的理解、薬物治療の実際、免疫療法、オンコロジック・エマージェンシー（第3回～第4回） （284 小山　論／2回） がん手術療法の特性と心身への影響（乳腺・消化器系）、がんリハビリテーションと栄養マネジメント（第5回～第6回） （41 笹本　龍太／2回） 放射線治療の特性と有害事象、治療計画の読み方、チームアプローチ（第7回～第8回） （292 本間　英之／2回） がん性疼痛のメカニズム、疼痛マネジメント、鎮痛剤の薬理作用、症状マネジメント、チームアプローチ（第9回～第10回） （103 牛木　隆志／2回） 血液・造血器腫瘍の治療、薬物療法の実際、有害事象管理、移植医療の実際、リハビリテーション（第11回～第12回） （37 坂井 さゆり／1回） 不安・抑うつ、ストレス・コーピング（第13回） （131 ZHOU QILIANG・37 坂井　さゆり／1回）（共同） 臨床推論（第15回）	オムニバス方式 共同（一部）
				がん看護学特論Ⅱ		がん患者の複雑な健康問題に対し、臨床推論、症状マネジメント理論を活用し、CureとCareを統合した包括的な看護支援技術を修得する。また、患者・家族のQOL向上のためのケア開発について、がん医療、緩和ケア、がん看護領域の研究動向を概観し、保健医療福祉システムにおけるチーム・地域連携等、多面的ながん看護実践から検討する。 （オムニバス方式／全16回） （37 坂井　さゆり／6回） ガイダンス、がん看護における全人的視点cureとcare（第1回）、ガイドライン・エビデンスに基づくがん看護（第2回）、がんサバイバーの心身変化とケア課題、QOL評価（第3回～第4回）、がん患者の複雑な健康問題に対する包括的看護支援の在り方、総合討論、まとめ（第15回～第16回） （26 上村　顕也／2回） がん看護ヘルスアセスメント、診療推論力高める基礎知識と診察技術、コミュニケーション、計測機器、ICT（第5回～第6回） （290 林　ゑり子／2回） 患者・家族支援、的確な臨床判断と看護援助、症状マネジメント、チーム・アプローチの実際（第7回～第8回） （100 井上　智代／2回） がん対策推進基本計画とがん予防、がん検診、がんの健康政策、地域包括ケアとがん患者の在宅看護、高度実践看護の役割（第9回～第10回） （112 柿原　奈保子／2回） がん患者のQOL向上に向けたケア開発、がん治療とスキンケア、がん医療の社会的支援（第11回～第12回） （163 横野　知江／2回） End-of-life期の褥瘡ケア、がん患者の排便・ストマケア（第13回～第14回）	オムニバス方式
				がん看護学特論Ⅲ		がん患者やその家族が経験する喪失や危機に関する理論、QOLを維持・継続しながら地域社会で生活していくためのサバイバーシップ、セルフマネジメントに関する理論、意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング、倫理調整などのがん看護支援技術に関する理論など、がん看護実践の基盤となる主要理論の理解とその活用方法を考察する。 （オムニバス方式／全16回） （227 菊永　淳／8回） ガイダンス、課題の検討、専門看護師の機能（第1回～第2回）、がんサバイバーシップとセルフケア理論（第3回～第4回）、危機理論とグリーフ・ケア（第7回～第8回）、まとめ（第15回～第16回） （37 坂井　さゆり／4回） 症状マネジメントモデル（第5回～第6回）、アドバンス・ケア・プランニング、スピリチュアルケア（第9回～第10回） （4-① 有森　直子（令和8年度）、4-② 有森　直子（令和9年度）／2回） 意思決定支援（第11回～第12回） （88 宮坂　道夫／2回） がん看護における医療倫理と検討モデル、倫理調整の方法（第13回～第14回）	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	専門看護師（ＣＮＳ）コース	がん看護コース	がん看護学演習Ⅰ		がん治療期に焦点を置き、がんや治療に伴う患者の苦痛・症状に対する早期からの緩和ケア実践のための臨床判断過程について、ライフステージ、臨床推論、包括的ヘルスアセスメントの事例検討やロールプレイにより学習する。ガイドラインやエビデンス検索を実施し、治療に伴う有害事象の予防・早期発見、心身機能やケアの評価法、また生活、セルフケア状況、意思決定能力など全人的な視点によるアセスメントを探究し、高度な臨床判断とケア開発の基盤とする。 （オムニバス方式／全16回） （37 坂井　さゆり／10回） ガイダンス、演習課題設定（第1回～第2回）、事例の病態生理、治療・症状のメカニズム、看護に必要なヘルスアセスメント、意見交換（第5回）、ヒストリー聴取のためのガイド作成、意見交換（第6回）、ヘルスアセスメント検討（第7回～第8回）、2事例目の検討（第11回～第12回）、ヘルスアセスメントに基づく臨床判断とケアの提案、看護の役割、まとめ（第15回～第16回） （163 横野　知江／2回） 症状の予防と早期発見の評価、測定、検査・検診　身体診察、エコーの活用講義（第3回～第4回） （37 坂井さゆり・288 園部　里美／2回）（共同） 合同検討会、抗がん治療を受ける患者の有害事象（irAE対策）、予防および緩和ケアのためのヘルスアセスメントの実際　通院治療室での看護の実際（第9回～第10回） （37 坂井さゆり・279 奥山　晶子／2回）（共同） 合同検討会、抗がん治療を受ける患者の有害事象、予防および緩和ケアのためのヘルスアセスメントの実際　地域で療養するがん患者に対する継続看護（地域連携）の実際（第13回～第14回）	オムニバス方式 共同（一部）
				がん看護学演習Ⅱ		がん患者の診断時からエンド・オブ・ライフまで療養の全過程を通して、多様な局面における緩和ケアニーズや看護問題を取り上げ、支援に必要な概念、理論を用いた技術の展開を通し、実践能力を養う。また、がん患者およびその家族の療養生活を周辺から支える教育機能、意思決定への支援、チーム形成、倫理調整、コンサルテーションの各技術とその評価方法を事例検討やロールプレイにより習得する。 （37 坂井　さゆり／14回） がん患者支援に必要な概念を教授する。 （37 坂井　さゆり・280 柏木　夕香／2回）（共同） 合同検討会、がん看護専門看護師のコンピテンシー、がん看護専門看護師の実践とは（第11回～第12回	共同（一部）
	次世代医療技術科学プログラム			病態解析学概論		本科目は、心血管系、消化器系、放射線医学の各分野における疾患の病態解析方法とその意義について学び、診断や治療に役立つ検査法の基本理論と応用力を修得することを目指す。急性心筋梗塞や心不全などの心疾患、肥満に関連する消化器疾患や肝疾患、またB型・C型肝炎ウイルス感染に伴う悪性腫瘍の発生メカニズムを、最新の研究トピックを交えながら学習する。さらに、肝がんの発生・転移に関わる分子生物学的メカニズムや、心臓ポンプ機能・興奮伝導能を把握することで病態評価・解析力を養う。講義では、実務経験を持つ医師の指導のもと、画像解剖学や診断・治療に必要な検査法を習得し、適切な診断力を身につけることを目指す。	
				応用数理解析学概論		この講義では、医療分野の研究を支援するために必要な応用数理解析手法や、コンピュータを用いた実験データ解析、シミュレーション手法の数学的基礎理論を教授する。受講者は、フーリエ級数やフーリエ変換、ラプラス変換、微分・積分方程式、数値微分・積分、数値フーリエ変換アルゴリズムなどの基礎的な数学的手法を学び、医療研究に応用する能力を習得することを目指す。カリキュラムには「フーリエ級数」「フーリエ変換」「ラプラス変換」「微分・積分方程式」「数値計算法」「コンピュータを用いたデータ解析」「シミュレーション手法の数学的基礎」といったテーマが含まれ、これらを段階的に学ぶことで、理論と実践の両方から医療系研究への応用スキルの向上を図る。	
				医学物理学概論		本科目は、放射線を用いた診断と治療に関する医学物理の基礎理論と実践的課題について広範に解説し、誤用が重大な障害を引き起こす可能性を踏まえた理解を促進する。特に、放射線治療学と画像医学における物理学的アプローチの論理力を養い、議論を通じて各分野の特徴や方法論への理解を深めることを目指す。講義は医学物理士の経験を有する教員による実践的指導を含み、1～8回では放射線の特性や治療関連機器、線量校正、治療計画装置と技術、QA/QCなど放射線治療に関する基礎を学ぶ。9～16回では画像診断に焦点を当て、X線CTや核磁気共鳴（MRI）の基礎理論と実践応用についての理解を深める。講義を通して、放射線の医学利用における安全かつ効果的な実践を支える基礎知識と応用技術の習得を図る。 （オムニバス方式／全16回） （105 宇都宮　悟／8回） ガイダンス及び総論、放射線の特性、放射線治療関連装置・機器、放射線治療の線量校正、放射線治療計画装置、放射線治療計画と照射技術、放射線治療の線量計算、放射線治療のQA/QC （15 大久保　真樹／8回） X線CTを利用した画像診断法における基礎理論、実践的課題に対するX線CTの医学物理学の応用例、核磁気共鳴現象を利用した画像診断法における基礎理論、実践的課題に対する核磁気共鳴画像診断法の医学物理学の応用例	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	医用放射線科学概論		この講義では、医用放射線科学の基礎から臨床分野まで幅広い最新情報を、医師や診療放射線技師の経験を有する教員がオムニバス形式で指導する。急速に進化する放射線技術を背景に、受講者は医療の進歩に対応するため、基本事項に加えて最新技術についても継続的に学ぶことが求められる。内容はCTやMRIを用いた死亡時画像診断などの新技術（第2～6回）、高精度放射線治療に関する最新理論と技術（第7～11回）、およびCT装置の原理・特性と最新技術（第12～16回）についてである。各回では、関連する英語論文の読解や解説を通じ、放射線科学の最前線を学ぶとともに、理論と実践の両方から医療放射線技術を理解する力を養う。 （オムニバス方式／全16回） （41 笹本　龍太／6回） 第1回でガイダンスを担当し、第7～11回で高精度放射線治療に関する英語文献の読解と解説を通して、放射線治療の理論や新しい技術について指導する。 （54 髙橋　直也／5回） 第2～6回でCT、MRIにおける死亡時画像診断を含む新しい技術や分野について、英文論文を用いて教授する。 （250 成田　啓廣／5回） 第12～16回でCT装置の原理、特性、および新たな技術に関する事項について講義を行う。	オムニバス方式
		国際放射線医療科学概論		この講義は、放射線医療技術科学の分野で国際的な視点を養い、医療のグローバリゼーションに伴う課題や対応方法を分析する力を育成することを目的とする。日本と他国、特に米国における診療放射線技師の認定制度や教育制度を比較し、それぞれの特徴や利点、課題を理解することで、放射線医療の現状を国際的に把握し分析する能力を身につける。初回から第5回では日本の診療放射線技師制度について学び、第6回から第10回では米国の制度を紹介し日米の違いを議論する。第11回から第15回は日本と米国の医学物理士の制度について学び、診療放射線技師制度との違いも考察する。	
		生体構造機能解析工学特論		この講義では、筋骨格系を中心とした生体の構造や機能を、放射線技術や工学的視点から解析する手法とその臨床応用技術について学ぶ。主にX線、CT、MRI、超音波装置などの医療用モダリティの測定原理と応用を理解し、骨、関節、軟骨、靭帯、腱、筋肉といった部位の診断手法についての知識を深める。また、骨粗鬆症や変形性関節症の診断法など、最新の研究や臨床の課題にも触れる。講義は、英文論文の要約や発表、ディスカッションを通じて進められ、最終的に研究課題についての検討結果を発表し、学びをまとめる。	
		生体構造機能解析工学演習		この演習では、生体構造や機能を医用生体工学の視点から解析するために、関連文献の考証と最新研究の検証を行う。また、X線、CT、MRI、超音波装置など医療用診断装置を用いた生体の構造・機能評価に関する基礎技術を習得する演習も実施する。特に、骨粗鬆症や変形性関節症の診断技術に注目し、関連する最新の技術や研究動向について理解を深める。授業は前半に文献考証を行い、後半で実験を通じた演習を行い、最終回に全体のまとめを行う。	
		放射線物質科学特論		この講義では、放射線技術の物質科学における基礎と応用の最新情報を学び、博士前期課程の研究に必要な知識と方法論を習得することを目的とする。特に、放射線検出や遮蔽に使用される物質や材料と放射線の相互作用について理解を深め、これを基に技術改良や材料開発の関心を育む。講義では、放射線技術の基礎領域（第1～5回）と応用領域（第6～10回）について学び、後半（第11～15回）では研究推進に必要な文献や資料の検索方法も習得することで、研究課題の選択や推進方法についての指針を提供する。	
		放射線物質科学演習		この演習では、放射線技術の物質科学分野における研究を推進するため、必要な関連文献や資料を輪読し、理解を深めることを目的としている。特に、放射線検出や遮蔽に使用される物質や材料と放射線との相互作用に関する理論的理解を重視し、これを基に技術改良や新しい材料開発のための基礎を築く。また、研究に役立つ資料や文献を調査・討論することを通して、文献の理解力や研究推進能力を高め、実践的な応用力の向上を図る。講義の前半（第2～8回）では放射線検出用の材料や相互作用に関する文献を輪読し、後半（第9～15回）では物質科学における研究推進に必要な資料を読み解く力を養う。	
		医用放射線機器科学特論		この講義では、医用放射線画像診断機器および放射線治療機器の構造、物理特性、性能評価法について学ぶ。主にCT装置やMRI装置、画像誘導放射線治療装置に焦点を当て、それらの原理と構成、性能を維持・管理するための科学的方法を探求する。さらに、画像診断機器の性能評価の一環として、画質や線量の不変性試験方法、ROC曲線を用いた診断評価指標についても学習する。授業は診療放射線技師や医学物理士の実務経験を持つ教員による実践的な内容で構成され、実際の機器管理や評価に役立つ知識を習得する。 （オムニバス方式／全15回） （15 大久保　真樹／5回） 第1回～第5回　CT装置やMRI装置の原理および構成とその性能評価法 （105 宇都宮　悟／5回） 第6回～第10回　画像誘導放射線治療装置とその精度管理 （250 成田　啓廣／5回） 第11回～第15回　X線CT装置の不変性試験方法を基にした画質および線量の評価法、ROC曲線などの診断評価指標とCT画像の画質	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	医用放射線機器科学演習		この演習では、画像診断機器および画像誘導放射線治療装置に関する先端開発研究や特性評価について、最新の文献を輪読し、討議を通じて研究に必要な方法論を身につけることを目的とする。特に、CT装置やMRI装置、放射線治療装置の構造や性能評価法、画像特性の評価手法について詳細に学ぶ。実習では、コンピュータプログラムを使用した画像特性の評価演習も行い、実践的な理解を深める。授業は診療放射線技師や医学物理士の実務経験を持つ教員が担当し、最新の研究動向と臨床応用についての解説を行う。学生は検索した論文を抄読し、ディスカッションを通じて自身の研究テーマと関連づけて討論し、疑問点を文献調査で解決する能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （15 大久保　真樹／5回） 第1回～第5回　CT装置やMRI装置等に関する研究論文の検索、論文の抄読とディスカッション、および論文に関連した実験・演習 （105 宇都宮　悟／5回） 第6回～第10回　放射線治療装置とその精度管理等に関する研究論文の検索、論文の抄読とディスカッション、および論文に関連した実験・演習 （250 成田　啓廣／5回） 第11回～第15回　X線CT装置の不変性試験方法や画質および線量の評価法等に関する研究論文の検索、論文の抄読とディスカッション、および論文に関連した実験・演習	オムニバス方式
		臨床画像医学特論		この授業では、近年デジタル化によって飛躍的に向上している臨床画像診断技術と、死因究明のための死亡時画像診断について学ぶ。特に、死亡時画像診断の進展に関する最新の英文論文を精読し、その内容を理解し、要点をまとめることを通じて、学生の読解力を高めることが目的である。また、画像診断法の進歩について理解を深め、統計学的手法を含む英語論文の執筆法にも触れる。授業では、死亡時画像診断に関する論文を詳細に読み込み、その有用性や課題について考察することで、画像診断技術の応用範囲と臨床現場での意義についての理解を促進する。	
		臨床画像医学演習		この演習では、1990年代のデジタル化導入以降大きく発展した画像診断技術の理解を深めるとともに、死因究明のための死亡時画像診断の役割についても学ぶ。X線CT、MRI、RIなど、現代医療において不可欠な画像検査法の知識と技術を習得し、臨床診断および法医学的診断に対する理解を広げることを目指している。授業では、正常な解剖画像を用いた基礎的な画像の観察から始め、呼吸器疾患や肝疾患などの具体的な病変の画像所見を詳細に観察し、各モダリティによる特徴的な画像を通して解剖学的知識や臨床的な判断力を養う。さらに、死亡時画像診断に特化した技術やその応用についても議論し、法医学的観点からの診断技術とその有用性、ならびに問題点について理解を深めることが目的である。	
		医用画像情報学特論		この科目は、医用画像の認識法、評価法、処理法、情報抽出法とその応用について学び、さらに人工知能を活用したコンピュータ支援による画像診断システムの構築方法を教授するものである。目的は、医学部保健学科の「画像工学」で学んだ基礎知識に加え、最新の画像処理技術への理解を深めることである。この分野は急速に進展しているため、最新の学会誌などで定期的に情報を更新することが重要である。科目内容は、医用画像関連の最新動向の研究と医用画像情報処理法の二つの方向から構成される。前者では、関連する英語論文の精読や議論、プレゼンテーションが行われ、後者では基礎知識を教授した後に課題に取り組み、レポートを作成する。いずれの方式でも、理論的理解を実践的に応用し、医用画像情報学の基礎事項を習得することを目指す。 （オムニバス方式／全16回） （33 近藤　世範／4回）医用画像情報処理法 （219 岡本　昌士／4回）最新研究動向-一般X線画像解析- （211 市川　翔太／4回）最新研究動向-CT画像解析- （232 近藤　達也／4回）最新研究動向-MRI画像解析-	オムニバス方式
		医用画像情報学演習		この演習では、医用画像情報学の講義内容を深めるため、図書や学術雑誌、インターネットを活用し、情報理論や画像工学、視覚情報処理、人工知能、コンピュータ診断支援に関する国内外の文献を精読する。目的は、医用画像の基礎から応用までの画像処理技術の知識とスキルを身につけることである。演習は二つの方法で進められ、必要に応じて組み合わせる。第一の方法は、医用画像情報処理に関する文献の輪読を通じて理解を深め、最後にプレゼンテーションと議論を行う。第二の方法では、コンピュータ診断支援システム構築を目的に、画像領域の検出や特徴量の描出、識別手法の演習を実施し、最終的にレポートを作成する。専門的知識に不安がある学生には適宜説明が行われ、積極的な質問が奨励される。 （オムニバス方式／全16回） （33 近藤　世範／4回）医用画像情報処理の実践 （219 岡本　昌士／4回）医用画像での検出・領域抽出に関わる画像処理・人工知能技術 （211 市川　翔太／4回）医用画像での分類・識別に関わる画像処理・人工知能技術 （232 近藤　達也／4回）医療情報での大規模言語処理に関わる情報処理・人工知能技術	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	核医学情報学特論		この科目では、放射性同位元素（RI）の定義や壊変形式、製造方法を学ぶとともに、核医学画像診断装置の基礎的な測定技術や、単光子断層撮影（SPECT）、ポジトロン断層撮影（PET）における画像処理手法についても学習する。さらに、放射性医薬品の種類やそれぞれの体内動態、機能評価法についての理解を深め、これらの技術の最新改良や新しい技術の情報も取り上げる。実習では、ドーズキャリブレータやサーベイメータなどの品質管理（QA/QC）機器の取り扱いについても学ぶ。授業は診療放射線技師の経験を活かした実践的な内容で構成され、核医学検査技術やその応用範囲の広がりを学び、期末レポートで総まとめを行う。	
		核医学情報学演習		この演習では、SPECTやPETによって作成される核医学画像の基礎を学び、ガンマカメラの固有性能と総合性能の評価方法を習得する。さらに、核医学画像に影響を及ぼす技術的因子を解明し、正確な定量化のための新しい解析手法を理解することを目指す。授業は実務経験を活かした指導を受けながら、ガンマカメラ、SPECT、PET、およびSPECT/CTやPET/CT装置の品質管理（QA/QC）や関連規格について学ぶ。画像再構成の方法としてFBP法やOSEM法を用いて演習し、画像補正の方法も扱う。また、ソフトウェアを活用して画像の定量化や解析手法を学び、技術改良や最新の放射性医薬品に関する情報も取り入れる。時間が許す場合には、トレーサー標識化合物の純度試験や体内被ばく評価のための撮像条件についても検討を行う。期末にはこれらの内容を総括するレポートを作成する。	
		国際病態検査科学概論		この科目では、医療技術学の国際的視点を学び、医療のグローバル化に伴う医療技術上の課題を明らかにし、その対応法について理解を深める。輸入感染症について、感染経路、症状、検査方法、予防策を学び、特に食品や動植物から発生する感染症や新興感染症についても検討する。また、バイオテロとして持ち込まれる可能性のある感染症についても取り扱う。さらに、熱帯地域の貧困層に多い“顧みられない熱帯病（NTD）”の理解と、その解決に向けた国際的な取り組みを学ぶことが、ミレニアム開発目標の達成に重要であることも認識する。授業内容にはNTDや新興感染症、バイオテロ感染症などの事例、国際病態検査についての論文抄読、総括が含まれ、これにより国際的な感染症対策や医療技術学の課題に対する知識を深めることを目指す。	
		基礎生体情報検査科学論		この科目では、検査技術科学の基礎技術である生体情報の計測・解析について、専門的視点からオムニバス形式で授業を行う。具体的には、生化学・分子生物学的な視点から生体情報の理解を深め、その検出や解析方法を学び、分子生物学的応用技術の原理についても理解する。また、免疫組織化学の手法を用いた微量の生理活性物質の可視化技術についても解説し、その原理と実際の方法を理解することを目指す。主なトピックとして、ハイブリダイゼーション法、PCR法、DNAシークエンス法、トレーサーによる生体情報解析、生体の抗酸化ストレス系解析、免疫組織化学の基本手法、神経細胞の化学物質（神経伝達物質、関連因子、受容体、接着因子など）が含まれる。これにより、分子生物学と免疫組織化学の基礎知識を応用し、医療や基礎医学における実際の技術や理論について説明できるようになることを目的とする。	
		臨床生体情報検査科学論		本科目では、臨床医学の発展に不可欠な「clinical question」に基づく研究計画の立案・実施方法を学び、その成果を臨床現場に応用する手法を理解する。担当教員は20年以上の血液内科での診療経験をもとに、実際のclinical scientistによる基礎・臨床研究の事例を解説し、研究計画の立案過程や実証方法への理解を深めることを目指す。学生は血液学、腫瘍学、免疫学、分子生物学などの基礎知識をclinical questionに応用し、研究を発展させるスキルを身につける。また、医療チーム内での応用も意識し、臨床的な研究能力を養成する。主な講義内容として、血液内科学、造血幹細胞学、細胞治療、再生医療、NKT細胞と樹状細胞の機能、各種感染症、ワクチン研究、肝がん、分子生物学的手法、臨床検査の精度保証など、幅広いトピックが取り上げられる。	
		ゲノム検査分子生物学特論		ヒトゲノムの全構造が解明されたことで、遺伝子に関わる検査や診断、治療が医療現場に導入され始め、今後の高度先端医療の中心的な手法となると期待される。本特論では、ヒトゲノムの特性を理解するための基礎知識とともに、分子生物学的手法を用いたゲノム解析や分子病態の解析について概説する。また、最新のゲノム編集技術を活用した遺伝子改変動物や細胞の作製技術とその応用についても学ぶことを目的とする。講義内容は、遺伝子の構造や物理化学的特性、複製と発現制御機構、遺伝情報の解析法を含み、特に細胞内シグナル伝達や転写因子の活性化、エピジェネティックな発現制御についても扱う。	
		ゲノム検査分子生物学実習		この実習では、ヒトゲノムの全構造解明に伴い、医療現場で導入が進む遺伝子検査、診断、治療法の基盤となるヒトゲノムの特性を学び、分子生物学的手法を用いたゲノム解析や分子病態解析について理解を深める。また、最新のゲノム編集技術を活用した遺伝子改変動物や細胞の作製技術とその応用についても学ぶことを目指す。具体的には、遺伝子DNAの構造や物理化学的特性、複製や発現制御機構について理解し、特に細胞内シグナル伝達系や転写因子の活性化、エピジェネティックな発現制御の仕組みについて学ぶ。また、遺伝子工学や遺伝子検査の基礎および応用技術、分子生物学的解析法などの最新技術も取り上げる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	病原微生物解析学特論		感染症は、病原体の病原性と宿主であるヒトの生体防御機構の相互作用によって発症が決まるため、両者の理解が重要である。本講義では、細菌やウイルス感染症について、ワクチンで予防可能なものを中心に病原体と宿主の関係を解説する。また、寄生虫感染症における病原因子とその検索法、宿主の多様な防御機構についても詳述する。加えて、病原体と宿主の反応のみならず、環境要因が感染症の成立にどう影響を与えるかをエコヘルスの視点で考察する。さらに、主要な病原体検査法や診断法についても取り上げ、理解を深めることを目指す。受講生は、病原体と宿主の相互関係や環境要因の影響を含む感染症の理解と、適切な検査法の選択ができるようになることを目標とする。	
		病原微生物解析学実習		この実習では、感染症における病原体の病原因子に焦点を当て、検出および解析に関する手法を学習する。具体的には、病原体の検査法の基本原理と応用技術を理解し、実践を通してその技術を習得することを目指す。また、文献調査を行い、最新の技術についても学ぶ。主な内容として、ウイルス分離培養法やウイルス感染症の遺伝子検査法、塩基配列決定法、分子疫学解析、寄生虫感染症の診断法（免疫学的・分子生物学的・形態学的手法）について実習する。最終的に、各手法の基礎から応用、検体の適切な扱いと保存法について理解し、実習で学んだ内容をレポートにまとめる。	
		生体情報解析学特論		この講義では、生体が示す信号を分子、細胞・組織、器官・生体レベルで捉え、各レベルでの情報検出や解析の基本原理について解説する。これにより、健常な状態や病態の意味を理解し、日々の研究で活用できる技術を習得することが目指されている。具体的には、生体情報の検出と解析の技術、情報の生理的意義、エネルギー論と関連分子、細胞の活動と生死のメカニズム、細胞や組織の機能・物質情報の計測、器官の活動とその調節機構など、各階層の生体情報について多角的に学ぶ。	
		生体情報解析学実習		この実習では、生体が示す信号を分子、細胞・組織、器官・生体レベルで収集・解析する手法を学び、健康や病態の理解を深めることを目的とする。研究活動に役立つ技術の習得を目指し、安全な実習手順や薬物取扱いの基礎知識を含むガイダンスから始め、標本作成や生体の化学的・エネルギー状態の解析手法を学習する。また、組織・細胞レベルでの活動の検出や計測、さらにデータ整理と統計解析を実践し、最終的には実習で得られた結果をまとめ、プレゼンテーションやレポートを通じて発表することで、日常の研究に応用可能なスキルを高める。	
		病態病理検査学特論		この特論では、個体を構成する細胞が分化、成熟、老化、細胞死のサイクルを通して個体の一生を支えている仕組みについて学ぶものである。通常、形態的・機能的に異常を起こした細胞は自己免疫機構により細胞死を迎えるが、がん細胞はこの防御をすり抜けて特異な生命活動を行う。本講義では、正常な細胞と異常な細胞が示す形態的・機能的変化を教授し、呼吸器、消化器、生殖器、泌尿器系組織の良性・悪性病変についても理解を深めることを目的とする。また、各組織の構成細胞について分類や形態学的特性、組織化学および免疫組織化学的特性を学び、病理所見と異常細胞の形成要因を結びつけて考察できるようにする。担当教員は細胞検査士としての臨床経験を活かし、実践的な視点で授業を行うものである。	
		病態病理検査学実習		この実習では、細胞や組織の正常・異常状態を形態学的に判定するための染色手法を学ぶ。細胞検査士の臨床経験を持つ教員が指導し、基本的なヘマトキシリン・エオジン染色、パパニコロウ染色から、組織化学染色、免疫組織化学染色、遺伝子発現を観察するための免疫染色や in situ hybridization など多様な染色技法を習得することを目指す。これらの手法を組み合わせることで、組織や細胞の状態をより精密に評価できるようになる。また、肺、消化管、泌尿器、非上皮性組織における各種細胞の検出法を学び、それぞれの病変に応じた組織化学的解析の技術を習得し、染色像から組織・細胞の状態を正確に判定して説明できる能力を養うものである。	
		病態生理機能学特論		本科目は、循環器系および消化器系の診断・評価に用いる生理機能検査の基本的および発展的技術について解説するものである。臨床経験豊富な教員が、心血管系と消化器系における最新の医療検査法について実務に基づいた講義を行う。循環器系の検査では、心電図や長時間心電図、加算平均心電図、運動負荷検査、心内心電図などの方法とその結果の解釈について学ぶ。また、消化器系の検査では、腹部超音波装置を用いた検査法の原理とアーチファクトの評価、肝・胆管・膵・腎疾患における超音波画像の特徴と鑑別診断法を学ぶ。特に、肝疾患治療に関する最新のトピックについても触れ、実践に役立つ知識とスキルを習得する。これにより、循環器系および消化器系疾患の正確で質の高い診断・評価を行う能力を身につけることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	病態生理機能学実習		この実習では、循環器疾患および消化器系疾患の診断・治療に必要な臨床生理検査の技術を学ぶことを目的としている。臨床経験のある教員が対面で授業を行い、現在用いられている心血管系・消化器系の検査について実践的な指導を行う。前半では、循環器系生理検査の概要から始まり、標準12誘導心電図や長時間心電図、心拍変動解析、心臓自律神経の評価、心電図のコンピュータ分析、心臓電気生理検査、心内心電図検査とその解析法など、電気生理的な検査手技と解析を学習する。後半では、消化器系生理検査の概要から腹部超音波検査装置の操作法、アーチファクトの鑑別法、肝内脈管や病変の描出・鑑別手技、消化管分泌液を用いた機能検査の原理と手技を学ぶ。最終回には技術・知識の総復習と確認を行い、質の高い検査を実施するための技能を習得することを目指している。	
		血液・腫瘍検査学特論		この講義では、血液疾患や固形腫瘍などの腫瘍に関する最新の知見を学び、検査技術を用いた病態解析や研究の理解を深めることを目的としている。血液疾患および腫瘍性疾患に関する基礎理論と応用技術を習得し、造血幹細胞移植や細胞治療、再生医療に必要な検査技術を学ぶ。具体的には、造血細胞の培養法、細胞の由来や成熟段階を調べるフローサイトメトリー、遺伝子発現解析に使われるRT-PCRの原理と応用などを学習する。講義は血液・腫瘍検査学実習と一体となっており、英文論文の抄読を通じて科学的データのまとめ方や最新の免疫学的診断、治療法も理解する。さらに、各技術で得られた結果の解析方法を実践的に習得する。	
		血液・腫瘍検査学実習		この実習では、最新の血液学関連の文献を通じて検査技術の知識を習得し、実際の検査手技の向上を図ることを目的としている。血液疾患の病態解析のための細胞培養、細胞保存技術、フローサイトメトリーを用いた細胞形質の解析手法などを学び、応用力を身につける。また、教員との討議を通じて検査手技の問題点を明らかにし、その技術を活かして血液疾患の病因解明や治療法開発への応用を図る。実習内容には、ヒト細胞の液体・半固体培養法、モノクローナル抗体を用いたフローサイトメトリー法、細胞障害試験が含まれ、これらの検査法で得られた結果の解釈や応用についても検討する。さらに、研究テーマの選定、計画立案、その成果の意義についての考察も行う。	
		免疫病態検査学特論		この講義は、免疫系の制御機構とその異常が引き起こす疾患の病態や検査法について学び、理解を深めることを目的としている。免疫応答の制御機構の概要を英文文献で学び、異常や破綻によって起こる疾患（特に自己免疫疾患）の病因や検査方法についての理論と実践的な知識を身につける。自己寛容の破綻や、遺伝的・環境的要因が関与する自己免疫疾患の病態、さらに自己免疫疾患の診断法や、微生物認識を介した自然免疫応答などについて詳しく取り扱う。後半では、肺炎の病態形成におけるT細胞とB細胞の役割や、その診断方法についても学び、免疫異常に関する最新の知見や研究方法を理解する。	
		免疫病態検査学実習		この実習は、免疫系が関与する疾患の検査技術を学び、その理論と実践を修得することを目的としている。具体的には、自己免疫性肝炎、肺炎、敗血症などの疾患に関連する検査法を取り上げ、データ解釈と疾患との関連性を理解し、実践的に応用できるようにする。酵素免疫測定法（ELISA）による生体情報物質の測定法、末梢血や臓器からの免疫担当細胞の分離、フローサイトメトリーを用いた細胞解析といった技術を実習する。実習は、免疫疾患の病態に対する理解とそれに基づく検査手技の実践力を養うものであり、各技術の特性とその応用法を体系的に学ぶ。また、実習で得られた知見を基にした期末レポートの作成が求められる。	
		細胞検査学特論		本科目は、病理学的検査診断法の片翼を担う細胞検査士を目指すために必要とされる、細胞診の標本作製法、ならびに病理学的診断に関する技能を体系的に学び、臨床現場における実践的な知識を身に着けることを目的とする。本科目では、臨床検査技師・細胞検査士の資格を有し、臨床現場における豊富な経験を持つ教員が臨床に直結した病理組織学の講義を実施することで疾患への理解と思考力を身に着けることができる。さらに、臨床から提出される多様な検体とその状況に応じた適切な標本作製法および実践的な鏡検トレーニングに基づく精緻なスクリーニング手法を学ぶことができる。修了生は、本科目で習得した知識と考察能力によって、臨床現場における即応的実践スキルをもつ細胞検査士を目指すことができる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	医学物理士コース	医学物理学特論		この科目では、高精度放射線治療における線量評価と線量検証の物理的課題について、各分野の専門教員が基礎から臨床応用までを幅広く指導する。授業は放射線技師や医学物理士、医師の実務経験を持つ教員が担当し、実践的な内容を含む。授業は全15回で、オムニバス形式で進行する。 （オムニバス方式／全15回） （105 宇都宮　悟／7回） 高精度放射線治療の物理的諸課題の基礎を概説し（3回）、さらに治療計画と線量評価に関する物理学的課題について教授する（4回）。 （297 遊佐　洋右／1回） 高精度放射線治療の基礎物理に関する課題について教授し、荷電粒子加速器や量子検出器、治療放射線ビームと物質の相互作用および輸送問題を含む治療計画の基礎課題について説明する。 （272 大坪　隆／1回） 高精度放射線治療の基礎物理に関する課題について教授し、治療計画に関連する物理的課題について説明する。 （147 早川　岳英／2回） 高精度放射線治療の精度保証に関する物理学的QA（品質保証）の課題について教授し、放射線治療における精度管理の重要性を説明する。 （296 棚邊　哲史／2回） 高精度放射線治療全般における物理的・技術的課題について教授し、放射線治療に関わる基礎的な物理学と技術について説明する。 （41 笹本　龍太／2回） 高精度放射線治療における治療計画と線量評価に関連する臨床的課題について教授し、放射線治療の計画における臨床的な側面を理解させる。	オムニバス方式
			医学物理学演習		この演習では、医学物理学に関連する放射線診断物理学、核医学物理学、放射線治療物理学の各分野について、装置の原理、適切な使用法、データ測定法、精度管理法などを学び、実践的なスキルを身につけることを目的としている。各演習項目では、装置の操作やデータ処理の方法を高いレベルで実施できること、装置の原理を理解し説明できることが目標である。具体的には、放射線診断物理学ではCT装置のデータ収集と再構成方法を学び、Excelを用いた画像再構成を行う（第1～2回）。核医学物理学ではSPECT装置のデータ収集および再構成方法を学ぶ（第3回）。放射線治療物理学では治療計画や装置のQA/QCを含む多岐にわたる演習を行う（第4～11回）。また、画像・医療情報学では放射線診断、核医学、放射線治療に関連する画像工学や医療情報学について学ぶ（第12～14回）。最後に全体のまとめと考察を行い、知識と技能を定着させる（第15回）。 （オムニバス方式／全15回） （105 宇都宮　悟／6回） 放射線治療物理学における放射線治療計画、QA/QC（品質管理）、治療装置QA/QC、CTシミュレータQA/QC、位置照合装置QA/QCに関する演習を行う。また、画像工学と医療情報学における内容を扱い、全体のまとめと考察も行う。 （250 成田　啓廣／3回） 放射線診断物理学において、CT装置のデータ収集方法および再構成方法を学び、Excelを用いて画像再構成を行う。さらに、核医学物理学に関して、SPECT装置のデータ収集と再構成方法についても学ぶ。 （41 笹本　龍太／4回） 放射線治療物理学での放射線治療計画および関連するQA/QCについて演習を行う。さらに、画像工学と医療情報学における演習も担当する。 （147 早川　岳英／2回） 放射線治療物理学において、治療計画および関連するQA/QC（品質管理）に関する演習を行う。	オムニバス方式
			放射線腫瘍学特論		この科目では、放射線治療技術学および放射線腫瘍学に関する専門的な知見を、英文論文の読解・要約を通じて学び、学術的な英文表現に慣れることを目指す。また、放射線治療計画装置の線量計算アルゴリズムの基礎についても学び、医歯学総合病院の医学物理ミーティングに参加して、実際の病院勤務者とともに医学物理に関する理解を深める。授業では、放射線治療技術学や腫瘍学の知見を理解し説明する能力、線量計算アルゴリズムの基礎の理解、医学物理に関連する英文論文の読解力を身につけることを目標としている。授業は、ガイダンスと放射線治療関連の英文論文の読解・要約、線量計算アルゴリズムの基礎講義、医学物理ミーティングへの参加を中心に構成されている。	
			放射線腫瘍学演習		この演習では、放射線治療技術学および放射線腫瘍学に関する英文論文を読解・要約し、学会形式でプレゼンテーションを行う。また、標準計測法12に関する実務的内容を学ぶとともに、医歯学総合病院の医学物理ミーティングに参加し、病院勤務の医学物理士と共に実践的な知見を得ることを目指す。演習を通じて、放射線治療技術や腫瘍学に関する知識と英文表現を身につけ、学会形式のプレゼンテーション技術を習得するほか、標準計測法12の具体的な実務内容を理解できることが目標である。各講義でのプレゼンテーション、標準計測法12の演習、ミーティング参加などが組み合わされ、実践的な理解とスキルの習得を促す内容となっている。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	医学物理士コース	医学物理臨床実習		この実習では、外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法および3DCRT（3次元適形放射線治療）とIMRT（強度変調放射線治療）を実際に測定・計画することで理論と技術を修得する。まず、水吸収線量の標準計測法について、理論の復習から始まり、光子線および電子線の実測演習を行い、測定データのまとめと口頭試験を通じて理解を深める。後半では、3DCRTおよびIMRTの治療計画法について学び、全脳、全乳房、前立腺の治療計画実習を行う。さらに、IMRTと定位照射（脳・体幹部）に関する実習を通して、各種の治療計画法と品質管理についての知識と技術を習得することを目指す。実習の最終回には、計画法のまとめと実技試験が行われ、放射線治療計画の精度管理における重要なスキルを確立する。	
			電磁気学特論		この講義では、医学物理士として必要とされる電磁気学の基礎知識を中心に、物理学の重要な概念と法則を学ぶ。電磁現象の理解を深めることを目標とし、電荷保存則やクーロンの法則、ガウスの法則など、電場や磁場に関する基礎方程式を通して、統一的に物理現象を捉える力を養う。また、コンデンサーやキルヒホッフの法則、ファラデーの誘導法則、マクスウェル方程式、電磁波なども含め、電磁気学における応用面も習得する。さらに、振動や波動の性質についても取り上げ、波動の干渉、回折、フーリエ変換、ドップラー効果について学ぶ。最終的に、電磁現象と波動の基本的性質を総合的に理解し、臨床現場で必要な物理学的素養を身につける。	
			量子力学特論		医学物理士として放射線医療に携わるためには、物理学の素養が不可欠と言える。量子力学は現代物理学の基礎である。本講義では、医学物理士に必要とされる量子力学の各項目についての講義を行う。	
特別研究			特別研究I（メディカルサイエンス）		医療に関わる領域の研究を着想し、文献収集とレビューを行い、基本的研究姿勢を習得する。さらに各自が研究課題への明確化に向けた課題の絞りこみ、適切なデータ収集・分析方法について理解を深める。 （43 佐藤　昇） 比較解剖学的手法を用いて、抹消神経回路の形成に関わる課題の研究指導を行う。 （47 芝田　晋介） 多様な顕微鏡技術を駆使した細胞・組織の構造機能解析の手法を用いて，神経変性疾患の可視化と病態理解に関する課題の研究指導を行う。 （74 長谷川　功） 霊長類動物モデルを用いた皮質脳波法を用いて，視覚認知や記憶の大脳メカニズム解明に関する課題の研究指導を行う。 （49 杉山　清佳） 本演習では、こどもの脳における経験依存的な神経回路形成が、個性形成や発達障害などの精神疾患にどのように関わるのかを研究課題とし、行動や情動の基盤となる神経回路の柔軟性とその応用に関する研究指導を行う。 （85 松本　雅記） タンパク質の発現や翻訳後修飾の解析手法を用いて，がんや老化の分子基盤に関する課題の研究指導を行う。 （65 中津　史） 脂質の生化学的役割や代謝経路を理解し、医療・健康における重要性を学ぶ。文献を調査・レビューすることで、脂質に関する最新の知見を習得するとともに、特定の課題について深く考察する。さらに、適切なデータ解析手法を学び、脂質研究の基礎となる科学的思考を養う。 （78 平島　正則） 遺伝子変異マウスを用いた脈管系発生解析の手法を用いて，リンパ管発生の分子機構解明に関する課題の研究指導を行う。 （84 松本　壮吉） 抗酸菌などの難治性細菌感染症の病原性メカニズムに基づいて，ワクチンや治療薬、診断薬開発に関する課題の研究指導を行う。 （1 阿部　隆之） ウイルス学、特にウイルス性肝炎や小児ウイルス感染症に関わる領域の研究を着想し、文献収集とレビューを行い、基本的研究姿勢を習得する。さらに各自が研究課題への明確化に向けた課題の絞りこみ、適切なデータ収集・分析方法について理解を深める。　1)分子生物学的なアプローチからウイルス感染及び複製機構の理解に繋がる研究指導を行う。 2)創薬科学の研究アプローチからウイルス感染制御法の開発に繋がる研究指導を行う。 3)実験動物学の研究アプローチからウイルス病原性発現機序の理解に繋がる研究指導を行う。 （66 中村　和利） 村上コホート研究による大規模疫学データ解析の手法を用いて，加齢性疾患と生活習慣要因の関連に関する課題の研究指導を行う。 （36 齋藤　玲子） インフルエンザウイルスの検出・培養および遺伝子解析の手法を用いて，薬剤耐性ウイルスの検出と分子疫学に関する課題の研究指導を行う。 （25 片貝　智哉） マウスモデルを用いた免疫細胞解析の手法を用いて，リンパ節や脾臓を中心とした免疫組織の構造と機能に関する課題の研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅰ（メディカルサイエンス）		（53 高塚　尚和） 法医病理学と法医画像診断学の手法を用いて，法医解剖所見と画像診断による死因究明に係る課題の研究指導を行う。 （19 岡崎　史子） 医療者のコミュニケーション能力獲得に対する教育手法を取り上げ，患者や医療チーム内での効果的な対話技術育成の課題の研究指導を行う。 （10 猪又　孝元） 動脈硬化症と不整脈の発症メカニズムに基づいて，血管内病変形成と心臓の電気的活動異常に関する課題の研究指導を行う。 （52 曽根　博仁） 様々な医療ビッグデータとそのAI、ICTによる活用を通じて、心理面に配慮した治療、健康寿命延伸、予防医療などに関する課題の研究指導を行う。 （91 山本　卓） 腎疾患や生活習慣病に関連する研究を通じて、腎機能低下や合併症の理解と治療法の開発、また複雑な病態の解析に関する課題の研究指導を行う。 （59 寺井　崇二） 消化器疾患に対する修復再生療法と遺伝子治療の手法を用いて，臓器機能回復を目指す治療戦略に関する課題の研究指導を行う。 （34 齋藤　昭彦） 新生児・未熟児の発達生理学的メカニズムに対する分子生物学的手法を取り上げ，早期発達における未熟な臓器システムの成長過程の課題の研究指導を行う。 （95 若井　俊文） 腫瘍外科学における外科代謝と栄養学に基づいて，術後回復を促進する栄養管理に関する課題の研究指導を行う。 （28 川島　寛之） 骨・軟部腫瘍や脊椎・脊髄疾患の病態に対する分子生物学的な研究課題や，骨粗鬆症や骨代謝異常の予防と治療法開発に関する課題の研究指導を行う。 （83 松田　健） 微小外科技術による血管・神経接続の手法を用いて，四肢や頭頸部の再建における組織修復に関する課題の研究指導を行う。 （31 木下　義晶） 小児外科領域で扱う、新生児外科疾患、小児がん、先天性泌尿生殖器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、臓器移植などを取り上げ、新しい診療技術の開発に関する研究指導を行う。 （2 阿部　理一郎） 分子生物学的手法を用いて，皮膚疾患病態についての課題の研究指導を行う。 （81 堀井　新） 平衡神経科学と神経耳科学の手法を用いて，内耳機能と平衡感覚のメカニズム解明に関する課題の研究指導を行う。 （7 石川　浩志） 放射線診断学における画像解析技術を用いて，病変の早期発見と診断精度向上に関する課題の研究指導を行う。 （94 吉原　弘祐） HPVワクチンの有効性と安全性検証の手法を用いて，子宮頸がん予防におけるワクチン接種の影響解析に関する課題の研究指導を行う。 （75 馬場　洋） 麻酔薬の作用メカニズム解析の手法を用いて，中枢神経系に与える影響と臨床応用に関する課題の研究指導を行う。 （70 西山　慶） 救急医療におけるメガデータの解析を用い、急性期医療における医療システムに関する研究指導を行う。集中治療領域における臨床データを用いて、重症患者診療に関する研究指導を行う。侵襲下における動物実験におけるグリア細胞およびニューロンの解析の評価を行い、救急及び集中治療における脳神経機能とその障害のメカニズムに関する研究指導を行う。 （18 大橋　瑠子） がんの臨床病理学的・分子病理学的解析の手法を用いて，発生・発育進展メカニズムと悪性度に対する病理診断精度向上に関する課題の研究指導を行う。 （68 西島　浩二） 動物実験により肺サーファクタントと胎脂の生理活性を明らかにし、早産児の消化管成熟のメカニズム解明に関する研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅰ（メディカルサイエンス）		（64 外山　聡） 個別化医療における薬物投与設計のアプローチにより，患者の遺伝的要因と個別状態に応じた最適な投薬計画立案に関する課題の研究指導を行う。 （26 上村　顕也） 「総合的な診療能力」を向上するための卒前・卒後教育に関する課題の研究指導を行う。 （23 柿田　明美） 剖検を通じた脳神経疾患の臨床病理学的解析手法を用いて，疾患発症の特徴と進行メカニズム解明に関する課題の研究指導を行う。 （13 大石　誠） 脳機能温存と再構築メカニズムに基づいて，手術・治療中の脳機能保護と損傷後の神経回路形成に関する課題の研究指導を行う。 （22 小野寺　理） 神経変性疾患（ALSや脊髄小脳変性症）、認知症、脳小血管病を対象に、臨床・基礎医学的手法を用いて、病態解明と治療法開発の課題について研究指導を行う。脳画像解析、神経生理学的検査、バイオマーカー同定など多角的アプローチによる神経疾患の早期診断法確立に関する研究指導を行う。 （48 島田　斉） PETとMRIを用いた脳機能イメージングの手法を用いて，精神神経疾患における脳内異常たんぱく蓄積の解析に関する課題の研究指導を行う。 （5 池内　健） 認知症のゲノム解析とバイオマーカー解析の手法を用いて，遺伝的要因の影響解明と早期診断指標構築に関する課題の研究指導を行う。 （39 笹岡　俊邦）（令和8年度のみ） 遺伝子改変技術を用いた疾患モデル動物の実験手法を用いて，行動学・生化学・組織学的解析による分子メカニズム解明に関する課題の研究指導を行う。 （87 三國　貴康） 生体脳を対象としたゲノム編集技術などの手法を用いて，学習記憶の分子メカニズム解明と生理機能理解に関する課題の研究指導を行う。 （11 上野　将紀） 運動や自律神経の神経回路の構造と機能、障害時の神経回路修復・再生の課題について、知見の収集と課題設定、解析方法の研究指導を行う。 （82 松井　秀彰） 神経変性疾患の病態解明と治療法開発に向けて，パーキンソン病・アルツハイマー病・ALSの分子メカニズム解析に関する課題の研究指導を行う。 （21 奥田　修二郎） 腸内細菌叢のメタゲノムデータ解析の手法を用いて，細菌間相互作用と疾患因子の関連解明に関する課題の研究指導を行う。 （55 他田　真理） 中枢神経系における恒常性維持機構について，グリアの細胞間相互制御や非自律性神経細胞死に着目した研究指導を行う。 （6 池田　和隆） 医療領域の研究着想から文献レビューを踏まえ、ゲノム解析と行動薬理学の手法を用いて依存症治療戦略の課題の研究指導を行う。 （30 吉川　欣亮） 哺乳類遺伝学の手法を用いて，遺伝子改変マウスを活用した視聴覚疾患の発症機構解明の課題の研究指導を行う。 （69 西村　幸男） 人工神経接続による再建技術の手法を用いて，脳神経損傷後の機能回復メカニズムの課題の研究指導を行う。 （38 佐久間　啓） ミクログリアの発達を解析する手法を用いて，小児脳疾患の病態解明の課題の研究指導を行う。 （3 新井　誠） ゲノム解析と症例研究の手法を用いて，統合失調症の遺伝要因解明の課題の研究指導を行う。 （86 丸山　千秋） プロテオグリカンの分子機構解析の手法を用いて，神経回路形成異常と精神疾患発症との関係解明の課題の研究指導を行う。 （27 川路　英哉） 少量検体からのゲノム全体プロファイル解析の手法を用いて，臨床情報との統合解析の課題の研究指導を行う。 （40 笹沼　博之） がんをはじめとする疾患の根幹に関わる「ゲノムの継承と維持」の異常を取り上げ、分子メカニズムの解明と治療戦略の構築に関する研究指導を行う。 （46 篠崎　陽一） 視覚障害の主要な原因である網膜および視神経の変性疾患を取り上げ、分子メカニズムの解明と治療戦略の構築に関する研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究I（メディカルサイエンス）		（71 丹原　惇） 顎顔面形態に対する形態学的分析手法および咬合と咀嚼に関する機能的解析手法を用いて、不正咬合を引き起こす要因と不正咬合によって引き起こされる機能的問題に対する新しい治療法と診断基準の模索に関する課題の研究指導を行う。 （76 早崎　治明）（令和8年度のみ） 小児の口腔機能，特に摂食機能の発達メカニズムを工学的手法を用いて，捕食機能不全に関する課題の研究指導を行う。 （90 山村　健介） 電気生理学的な手法を用いて、ヒトの咀嚼運動の反射による神経性制御機構についての課題の研究指導を行う。 （8 泉　健次） 無細胞性足場材として既製のI型コラーゲン製材を利用した3次元細胞培養法により、培養口腔粘膜を作製することで口腔粘膜角化細胞と細胞外基質との相互作用に関する課題の研究指導を行う。 （79 藤井　規孝） 医療安全や感染管理を念頭におきながら様々な器材を扱ってう行う歯科治療において、適切な医行為を客観的に評価するために必要なポイントに関する研究指導を行う。 （20 小川　祐司） 新潟コホート研究による疫学データ解析の手法を用いて、口腔健康が全身健康に及ぼす作用に関する課題の研究指導を行う。 （61 照沼　美穂） 脳疾患におけるアミノ酸代謝機構の役割と歯周病原細菌がもたらす脳内変化の解析に関する研究指導を行う。 （17 大峡　淳） 遺伝子改変マウスを用いた分子生物学的アプローチによる、顔面頭蓋における器官形成メカニズム解明に関する課題の研究指導を行う。 （77 林　孝文） AIとRadiomicsを用いた顎顔面領域の画像診断精度向上と、MRIや超音波診断装置の開発に関する研究指導を行う。 （57 多部田　康一） 歯周病における組織破壊の分子生物学的メカニズム解明と治療法への応用を課題とする研究指導を行う。 （16 大島　勇人）（令和8年度のみ） 歯と顎顔面頭蓋領域の形態形成機構と象牙質／歯髄複合体の発生・再生に関する研究に関する研究指導を行う。 （9 井上　誠） 摂食嚥下障害における臨床評価上の画像診断に関わる研究指導を行う。 （80 堀　一浩） 口腔機能障害の構造とその評価を研究課題とし，実験・調査で得られるデータ解析や分析に関わる研究指導を行う。 （60 寺尾　豊） 口腔関連細菌について，感染メカニズムおよび病原性発現機序の解明に関する基礎科学的な研究指導を行う。 （62 冨原　圭） 口腔癌前臨床モデルを用いた、がん免疫応答における免疫抑制性細胞の機能解析法について指導を行う。 （56 田沼　順一）（令和8年度のみ） 口腔領域に発生するがんを対象に、臨床病理学的および分子病理学的手法を用いて、がんの発生・進展メカニズム解明を目指す。併せて、がんの悪性度評価法および病理診断の精度向上に関する課題についても研究指導を行う。 （72 野杁　由一郎） 種々のバイオフィルム実験モデルを用いて、デンタルバイオフィルムの実態解明およびデンタルバイオフィルムの制御法の開発に関する課題について研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅰ（口腔保健福祉）		口腔保健福祉に関わる領域の研究を着想し、文献収集とレビューを行い、基本的研究姿勢を習得する。さらに各自が研究課題への明確化に向けた課題の絞りこみ、適切なデータ収集・分析方法について理解を深める。 （93　葭原明弘） 医療・保健・福祉領域の関連をさらに発展させるため、福祉領域における口腔保健活動の及ぼす効果について、社会的・環境的要因にも着目しながら、歯科的関与の可能性について倫理的配慮に基づいた研究計画の設定、フィールドにおける調査研究方法や結果の分析方法について研究指導を行う。 （92　吉羽永子） 根面う蝕を含むう蝕の発生機序および予防管理に関する基礎・臨床両面にわたるこれまでの研究を調査・検討し、その意義及び問題点を理解する。その上で、高齢者、障がい者等の特性・社会背景を考慮したう蝕の発生、再発予防のための効果的な手法の開発、リスク評価等について研究課題を設定し、研究指導を行う。 （73　濃野要） う蝕や歯周疾患、歯の喪失が全身に及ぼす影響について、これまでの疫学研究を調査・検討し、その意義及び問題点を抽出する。その上で因果関係を明らかにするために必要な研究方法を考察するとともに、実際に行われている研究の疫学的背景、生物学的意義を理解するための研究課題を設定し、研究指導を行う。 （14 大内　章嗣） 地域住民および要介護高齢者等の特定集団を対象とした摂食・口腔機能維持向上のための効果的介入方策の開発に関し、受け手側である住民等および提供者である保健医療福祉従事者等の意識・行動パターン分析、多職種間の連携を促進するためのツール開発とその評価、社会資源・経済面を含めた費用対効果を中心とした研究課題を設定し、研究指導を行う。 （24 神子島　旬子） 主として障がい福祉、児童福祉領域における効果的な保健医療福祉の統合をテーマとし、障がい福祉、児童福祉分野における効果的かつ包括的支援の在り方に関する研究課題を設定し、研究指導を行う。 （134 STEGAROIU ROXANA） 歯を喪失した場合、インプラントを含む各種歯科補綴装置の適用により、咬合・咀嚼機能の維持・回復が図られており、高齢者の健康保持に重要である。こうした補綴装置を長期にわたり適切に機能させていくために重要となる口腔内各組織への力学的影響を検証し、咬合・咀嚼機能の面から補綴装置の長期維持管理を阻害するリスク要因を簡易に検出する手法の開発等に関する研究指導を行う。 （128 柴田　佐都子） 原因疾患、ライフステージ等様々な背景を有する摂食・嚥下障害者を対象に、口腔衛生状態の維持に影響する要因について、環境や職種連携を含めた多面的な視点から分析・検討するとともに、これら対象別要因分析に基づいた口腔保健・口腔機能の維持向上のための効果的指導法の開発と評価に関する研究課題を設定し、研究指導を行う。 (165 米澤　大輔) 医療・福祉の観点から、児童や高齢者を対象とし、疫学研究および質的研究を主体に調査・研究を実施することで、その問題点を抽出する。医療および福祉における質的なデータから抽出された新たな課題から、疫学的背景を検討するとともに、対象者への保健指導や健康評価の開発等に関する研究指導を行う。 (142 中村　健) 貧困の概念、貧困に対する制度・政策の発展、貧困問題の背景や要因について、これまでの研究を調査・検討することで多角的に理解を深める。その上で、福祉事務所等の貧困に対する支援を行う関係機関や、従事する専門職に求められる役割、他機関や他分野との連携による支援の在り方などを中心に研究課題を設定し、研究指導を行う。 （120 黒川　孝一） 地方自治体における生活習慣病対策の経験を礎に、生活習慣病予備軍に対する口腔保健管理と生活習慣病予防対策の相乗効果を期待するプログラムの開発、他職種との連携による効果的介入方策について検討し、実践、解析、成人期における中短期的医療経済効果の検証、評価を中心とした研究課題を設定し、研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅰ（看護学）		看護学に関わる領域の研究を着想し、文献収集とレビューを行い、基本的研究姿勢を習得する。さらに各自が研究課題への明確化に向けた課題の絞りこみ、適切なデータ収集・分析方法について理解を深める。 （51 関　奈緒） こころとからだの健康づくり、疾病予防、喫煙対策、感染症対策など公衆衛生に関わる領域の研究課題について研究指導を行う。 （88 宮坂　道夫） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （12 内山　美枝子） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （37 坂井　さゆり） がん看護、緩和ケア、生命倫理に関する研究課題について研究指導を行う。 （50 住吉　智子） 小児医療の臨地における健康課題や看護課題について研究指導を行う。 （45 佐藤　美由紀） 地域で暮らす人々の健康と生活の質や、地域看護の実践知の創出に関する研究課題について研究指導を行う。 （129 清水　詩子） 成人および老年期にある慢性疾患患者・家族を対象とする研究課題について研究指導を行う。 （135 関島　香代子） 対象の健康や生活支援に関わる母性看護学/助産学/女性看護学/母子保健の研究課題について研究指導を行う。 （163 横野　知江） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （143 成田　太一） 地域看護学領域における実践上の課題や関心をもとにした研究課題にいて研究指導を行う。 （139 田中　美央） 障害や慢性疾患をもつ子どもと家族への支援についての研究課題について研究指導を行う。 （144 西方　真弓） 母性看護学/助産学/女性看護学領域の研究課題について研究指導を行う。 （112 柿原　奈保子） 成人および老年期にある、あらゆる病期段階と疾患に対する高度看護ケア実践を対象とする研究課題について研究指導を行う。 （100 井上　智代） 地域看護学領域における実践上の課題や関心をもとに研究課題について研究指導を行う。 （123 齋藤　あや） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （207 ABEYWICKRAMA HANSANI MADUSHIKA） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅰ（次世代医療技術科学）		次世代医療技術に関わる領域の研究を着想し、文献収集とレビューを行い、基本的研究姿勢を習得する。さらに各自が研究課題への明確化に向けた課題の絞りこみ、適切なデータ収集・分析方法について理解を深める。 （15 大久保　真樹） 医用放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （35 齋藤　正敏） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （32 小林　公一） 医用放射線科学、特に関節の荷重支持機能と運動機能に関する基礎的な研究課題について研究指導を行う。 （54 高橋　直也） 画像診断における画像診断の新たな手法に関する研究課題について研究指導を行う。 （41 笹本　龍太） 放射線治療技術学／放射線腫瘍学に関する研究課題について研究指導を行う。 （89 山崎　芳裕） 核医学検査技術学に関する研究課題について研究指導を行う。 （33 近藤　世範） 医用画像の画像処理・画像解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （105 宇都宮　悟） 放射線治療に関する研究課題について研究指導を行う。 （147 早川　岳英） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （250 成田　啓廣） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （219 岡本　昌士） 医用画像の画像処理・画像解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （211 市川　翔太） 医用画像解析や放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （44 佐藤　英世） 分子、細胞、組織、個体の各レベルにおける生体機能の生理と病態の解明に関する研究課題について研究指導を行う。 （42 佐藤　拓一） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （63 富山　智香子） 生体機能に関する研究課題について研究指導を行う。 （157 松田　康伸） 肝癌の転移機構に関するシグナル解析、DNA傷害機構に着目したシグナル解析、正常/がん細胞の再生機構の解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （166 渡邉　香奈子） 感染症に関する研究課題について研究指導を行う。 （127 サトウ　恵） 感染症（寄生虫症）に関する研究課題について研究指導を行う。 （133 須貝　美佳） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （110 奥田　明子） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （103 牛木　隆志） 分子，細胞，組織，個体の各レベルにおける生体機能に基づく視点から、臨床血液学の病因，病態の解明に関連する検査技術についての研究課題について研究指導を行う。 （124 齋藤　修） 心血管病の診断と治療を支援するための検査技術システム構築に関する研究課題について研究指導を行う。 （232 近藤　達也） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （263 山本　秀樹） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究II（メディカルサイエンス）		医療に関わる領域の研究課題について、先行研究の批判的吟味、研究テーマの設定、研究計画の策定、データ収集、分析、論文作成、発表に至る一連の研究プロセスを実践することにより、研究遂行能力を育成する。 （43 佐藤　昇） 発生工学的手法を用いて標的とその支配中枢の形成に関わる課題の研究指導を行う。 （47 芝田　晋介） 神経再生と人工神経開発に対する先進的イメージング技術を取り上げ，癌浸潤に伴う痛み発生メカニズムの課題の研究指導を行う。 （74 長谷川　功） 脳における文字言語処理機構の原因を研究課題とし，光遺伝学や化学遺伝学を駆使した脳回路操作に関する研究指導を行う。 （49 杉山　清佳） 本演習では、こどもの脳における柔軟な神経回路形成の分子基盤を解析するとともに動物の神経回路と行動を可視化する技術を用いて、行動の基盤と発達障害や精神疾患との関連を発見する課題の研究指導を行う。 （85 松本　雅記） タンパク質間相互作用の網羅的・定量的計測に対するオミクス技術を取り上げ，システム生物学的アプローチによる疾患研究の課題の研究指導を行う。 （65 中津　史） 脂質に関する研究課題について、先行研究の批判的検討を行い、適切な研究テーマを設定する。さらに、研究計画の立案、データの収集・解析、論文の作成および発表を通じて、脂質生化学の研究を遂行するための基礎的能力を養う。 （78 平島　正則） 血管由来因子によるリンパ管パターン形成に対する影響を取り上げ，脈管の性質変化と病態悪性化の課題の研究指導を行う。 （84 松本　壮吉） 感染病原体に対する宿主免疫応答の原因を研究課題とし，アジアやアフリカにおける国際的な感染症調査と対策に関する研究指導を行う。 （1 阿部　隆之）ウイルス学、特にウイルス性肝炎や小児ウイルス感染症に関わる領域の研究課題について、先行研究の批判的吟味、研究テーマの設定、研究計画の策定、データ収集、分析、論文作成、発表に至る一連の研究プロセスを実践することにより、研究遂行能力を育成する。 1)分子生物学的なアプローチからウイルス感染及び複製機構の理解に繋がる研究指導を行う。具体的には、ウイルスと相互作用する宿主因子の機能解析等を行う。 2)創薬科学の研究アプローチからウイルス感染制御法の開発に繋がる研究指導を行う。具体的には、化合物スクリーニングによる抗ウイルス阻害剤の探索研究を行う。 3)実験動物学の研究アプローチからウイルス病原性発現機序の理解に繋がる研究指導を行う。具体的には、ウイルス感染動物モデルを用いた解析を行う。4)研究学術論文の作成からプレゼンテーションスキルの向上に資する研究指導を行う。 （66 中村　和利） 認知症予防に対する尿プロテオミクスを解析し，ビタミンDやカルシウムなどの栄養素が加齢性疾患に与える影響評価の課題の研究指導を行う。 （36 齋藤　玲子） 新型コロナウイルスとRSウイルスの感染動向に対する分子疫学的アプローチを取り上げ，国際協力による感染症制御の課題の研究指導を行う。 （25 片貝　智哉） 自己免疫疾患やアレルギー疾患における免疫細胞と組織環境の相互作用の原因を研究課題とし，生体イメージング技術による免疫細胞動態の可視化に関する研究指導を行う。 （53 高塚　尚和） 死因究明等に用いる薬毒物検査，生化学検査を研究課題とし，新たな手法や解釈等に関する研究指導を行う。 （19 岡崎　史子） プロフェッショナルアイデンティティ形成を研究課題とし，早期体験実習が医療者のキャリアや技能形成に与える影響に関する研究指導を行う。 （10 猪又　孝元） 心不全の発症・進展における心筋機能低下に対する病態生理学的アプローチを採用し，循環器疾患の予防と心臓リハビリテーションの課題の研究指導を行う。 （52 曽根　博仁） 糖尿病などの生活習慣病や白血病、リンパ腫など腫瘍の分子生物学的メカニズム解明と治療法への応用を課題とした研究指導を行う。 （91 山本　卓） 腎疾患の分子メカニズム解明と治療戦略構築を目指し、腎不全治療や生活習慣病管理の新たな治療法・予防策の開発、患者のQOL向上に関する課題の研究指導を行う。 （59 寺井　崇二） 消化器疾患の進行における免疫学的関与に対する分子生物学的な研究課題や，腸内細菌叢と全身健康の関連性解明の課題の研究指導を行う。 （34 齋藤　昭彦） 小児腎疾患の病態の原因を研究課題とし，成長発達に与える影響と小児における悪性腫瘍の分子メカニズム解析に関する研究指導を行う。 （95 若井　俊文） 癌特異的蛋白質と細胞不死化に対する分子生物学的解析に基づき，腫瘍の浸潤・転移メカニズム解明の課題の研究指導を行う。 （28 川島　寛之） 骨・関節のバイオメカニクス解析の手法を用いて，運動器の構造と機能の関係性解明に関する課題の研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究II（メディカルサイエンス）		（83 松田　健） 末梢神経再生の原因を研究課題とし，顔や顎の骨格および軟組織の再建手法における機能回復に関する研究指導を行う。 （31 木下　義晶） 小児外科領域で扱う、新生児外科疾患、小児がん、先天性泌尿生殖器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、臓器移植などを取り上げ、新しい診療技術の開発に関する研究指導を行う。 （2 阿部　理一郎） 分子生物学的手法を用いて，皮膚疾患病態についての課題の研究指導を行う。 （81 堀井　新） 音声言語学における言語と発声の神経メカニズムにおける研究課題や，頭頸部外科学と頭蓋底外科学の技術開発の課題の研究指導を行う。 （7 石川　浩志） 放射線腫瘍学に対する線量調整と照射技術を取り上げ，医学物理学的観点からの治療精度向上と安全性管理の課題の研究指導を行う。 （94 吉原　弘祐） 婦人科がん幹細胞の同定に対するマルチオミックス解析に関する研究課題や，正常子宮内膜のゲノム異常に基づく疾患発症メカニズムの課題の研究指導を行う。 （75 馬場　洋） 急性痛と神経障害性痛の発生メカニズムにおける神経生理学的な研究課題や，術中および術後の痛み管理最適化の課題の研究指導を行う。 （70 西山　慶） 救急医療におけるメガデータの解析を用い、急性期医療における医療システムに関する研究指導を行う。集中治療領域における臨床データを用いて、重症患者診療に関する研究指導を行う。侵襲下における動物実験におけるグリア細胞およびニューロンの解析の評価を行い、救急及び集中治療における脳神経機能とその障害のメカニズムに関する研究指導を行う。 （18 大橋　瑠子） 炎症・代謝性疾患の病理メカニズムに対するマルチオミクス解析に関する研究課題や，デジタルパソロジーと病理AI技術開発の課題の研究指導を行う。 （68 西島　浩二） 超音波診断による胎児生理・病理解析の手法を用いて，胎児発育の正常と異常の早期検出技術に関する課題の研究指導を行う。 （64 外山　聡） 薬剤経済学における医療経済的研究課題や，薬物治療のリスクマネジメントと副作用予測・対応の課題の研究指導を行う。 （26 上村　顕也） デジタル技術を活用した遠隔診療の教育や地域社会の医療ニーズに応じた多職種協働モデル構築などの課題の研究指導を行う。 （23 柿田　明美） ひと脳標本に対する病態病理学的アプローチを取り上げ，神経変性疾患・神経免疫疾患・発生発達期脳障害の組織学的特徴解明課題の研究指導を行う。 （13 大石　誠） 脳卒中後の機能回復メカニズムに対する神経科学的アプローチを取り上げ，機能的脳疾患の病態解明と新規治療法開発の課題の研究指導を行う。 （22 小野寺　理） 神経変性疾患の分子病態メカニズムを研究課題とし、トランスレーショナルリサーチを基盤とした臨床応用への展開に関する研究指導を行う。脳・脊髄の微小環境と神経細胞変性の関連性について、最新の解析技術を駆使した病態解明と新規治療標的の同定に関する研究プロセスを指導する。 （48 島田　斉） 神経変性疾患の進行メカニズムに対する分子イメージング技術を取り上げ，脳環境の恒常性維持機構と創薬バイオマーカー開発の課題の研究指導を行う。 （5 池内　健） 認知症研究のバイオバンク整備に対する臨床応用アプローチを取り上げ，新規の病態関連遺伝子およびバイオマーカー探索の課題の研究指導を行う。 （39 笹岡　俊邦） 脳機能に関連する分子の生理機能に対する遺伝子改変動物を取り上げ，生殖・発生工学技術の開発と応用の課題の研究指導を行う。 （87 三國　貴康） 発達障害の病態解析に対する分子イメージング技術を取り上げ，二光子顕微鏡と電気生理学的手法を組み合わせた神経活動の高解像度観察の課題の研究指導を行う。 （11 上野　将紀） 脳卒中や脊髄損傷など脳疾患における神経回路の修復・再生の機序を研究課題とし、神経回路の構造と機能への影響、回復を促す治療法に関する研究指導を行う。 （82 松井　秀彰） 培養細胞や小型魚類・マウス・ヒト剖検脳を用いた難病と老化のメカニズム解明の課題の研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究II（メディカルサイエンス）		（21 奥田　修二郎） がんゲノムデータ解析に対するバイオインフォマティクス技術を採用し，オミクスデータの統合と医療用AI開発の課題の研究指導を行う。 （55 他田　真理） ひと剖検脳を対象に、組織解析やトランスクリプトーム解析の手法を用いて、遺伝性白質脳症の病態解明を目指す課題の研究指導を行う。 （6 池田　和隆） 先行研究を批判的に検証し、痛み脆弱性に対するゲノム解析を取り上げ、個別化鎮痛法の課題の研究指導を行う。 （30 吉川　欣亮） 視聴覚疾患に対する遺伝子異常を取り上げ，予防法と治療法の開発に向けた課題の研究指導を行う。 （69 西村　幸男） 脳神経損傷後の意欲と情動の低下に対するリハビリテーションを取り上げ，運動制御促進の課題の研究指導を行う。 （38 佐久間　啓） ウイルス関連急性脳症に対する分子病態を取り上げ，早期診断技術の課題の研究指導を行う。 （3 新井　誠） 統合失調症のバイオマーカーに対する分子基盤を取り上げ，患者層別化と早期支援の課題の研究指導を行う。 （86 丸山　千秋） 神経回路形成の異常に対する実験手法を取り上げ，自閉症や統合失調症への治療法開発の課題の研究指導を行う。 （27 川路　英哉） 大量データ管理に対する情報処理技術を取り上げ，既存ゲノムデータの有効活用の課題の研究指導を行う。 （40 笹沼　博之）（令和8年度のみ） 最先端のゲノム解析技術や分子細胞生物学的手法を用いて、DNA損傷応答、染色体構造、核内シグナルの機能を比較・統合的に解析する課題の研究指導を行う。 （46 篠崎　陽一） 最新の遺伝子治療・分子生物学的技術を用いて、グルタミン酸神経伝達や細胞内シグナルの破綻、軸索再生の促進メカニズムの解明に関する課題の研究指導を行う。 （71 丹原　惇） 一般的な不正咬合や不正咬合を引き起こす顎顔面領域の先天異常に対して、顎顔面形態および咬合機能の生体力学的な解析手法を用いて、不正咬合の予防法および不正咬合の治療と機能回復に関する課題の研究指導を行う。 （76 早崎　治明）（令和8年度のみ） 成長発育期にある小児の乳歯および永久歯の萌出異常の病態を研究課題とし，特にその遅延の相互関係に関する研究指導を行う。 （90 山村　健介） 電気生理学的な手法を用いて、種々の感覚情報によるヒト嚥下誘発およびその変調のしくみについての課題の研究指導を行う。 （8 泉　健次） 口腔粘膜線維芽細胞をコラーゲンゲルに組み込んだ有細胞性足場材による3次元細胞培養法により、培養口腔粘膜を作製することで口腔粘膜角化細胞と線維芽細胞との細胞間相互作用に関する課題の研究指導を行う。 （79 藤井　規孝） 各種器材や手指を用いて行う検査や治療について、通法では可視化することができない重要なtipsを解明することに関する研究指導を行う。 （20 小川　祐司） 歯周治療が糖尿病患者の病態に及ぼす影響について、多角的な視点から研究指導を行う。 （61 照沼　美穂） 口腔扁平上皮癌細胞の新規治療標的の同定と、抑制性神経伝達物質を介した生体恒常性維持機構の研究に関する研究指導を行う。 （17 大峡　淳） 分子発生学的手法を用いて、器官形成における酸化ストレス、老化シグナルの分子機構解明に関する課題の研究指導を行う。 （77 林　孝文） 頭頸部癌の放射線治療患者における口腔管理手法の開発と、摂食機能および生活の質の維持向上を目指す研究に関する研究指導を行う。 （57 多部田　康一） 口腔バイオフィルムの制御を目的したナノメディシンの応用開発に関わる課題の研究指導を行う。 （16 大島　勇人）（令和8年度のみ） デンタルインプラント手術時のリスク評価とオッセオインテグレーションに関する研究に関する研究指導を行う。 （9 井上　誠） 神経生理・解剖・薬理学的アプローチによる摂食嚥下機能の神経基盤解明、種々の疾患や加齢がもたらす摂食嚥下障害の病態解明のための研究指導を行う。 （80 堀　一浩） AIやモバイル機器を用いた口腔機能評価法の開発と応用に関する課題の研究指導を行う。 （60 寺尾　豊） 口腔関連細菌と免疫機構の相互作用を解析し，感染予防および感染症治療へと展開させる応用研究の指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究II（メディカルサイエンス）		（62 冨原　圭） 口腔癌前臨床モデルを用いた、免疫抑制性細胞を標的化するための治療実験法について指導を行う。 （56 田沼　順一）（令和8年度のみ） 口腔領域の疾患の発症メカニズムを解明するための分子生物学的解析に関する研究課題や，バーチャルスライドなどのデジタルパソロジーとAI技術を応用させた研究課題に対する研究指導を行う。 （72 野杁　由一郎） 主にin vivo 系にて歯および歯髄の再生あるいは歯髄の創傷の治癒に関する課題について研究指導を行う。	
	特別研究II（口腔保健福祉）		口腔保健福祉に関わるに関わる領域の研究課題について、先行研究の批判的吟味、研究テーマの設定、研究計画の策定、データ収集、分析、論文作成、発表に至る一連の研究プロセスを実践することにより、研究遂行能力を育成する。 （93 葭原　明弘） 医療・保健・福祉領域の関連をさらに発展させるため、福祉領域における口腔保健活動の及ぼす効果について、社会的・環境的要因にも着目しながら、歯科的関与の可能性について倫理的配慮に基づいた研究計画の設定、フィールドにおける調査研究方法や結果の分析方法について研究指導を行う。 （92 吉羽　永子） 根面う蝕を含むう蝕の発生機序および予防管理に関する基礎・臨床両面にわたるこれまでの研究を調査・検討し、その意義及び問題点を理解する。その上で、高齢者、障がい者等の特性・社会背景を考慮したう蝕の発生、再発予防のための効果的な手法の開発、リスク評価等について研究課題を設定し、研究指導を行う。 （73 濃野　要） う蝕や歯周疾患、歯の喪失が全身に及ぼす影響について、これまでの疫学研究を調査・検討し、その意義及び問題点を抽出する。その上で因果関係を明らかにするために必要な研究方法を考察するとともに、実際に行われている研究の疫学的背景、生物学的意義を理解するための研究課題を設定し、研究指導を行う。 （14 大内　章嗣） 地域住民および要介護高齢者等の特定集団を対象とした摂食・口腔機能維持向上のための効果的介入方策の開発に関し、受け手側である住民等および提供者である保健医療福祉従事者等の意識・行動パターン分析、多職種間の連携を促進するためのツール開発とその評価、社会資源・経済面を含めた費用対効果を中心とした研究課題を設定し、研究指導を行う。 （24 神子島　旬子） 主として障がい福祉、児童福祉領域における効果的な保健医療福祉の統合をテーマとし、障がい福祉、児童福祉分野における効果的かつ包括的支援の在り方に関する研究課題を設定し、研究指導を行う。 （134 STEGAROIU ROXANA） 歯を喪失した場合、インプラントを含む各種歯科補綴装置の適用により、咬合・咀嚼機能の維持・回復が図られており、高齢者の健康保持に重要である。こうした補綴装置を長期にわたり適切に機能させていくために重要となる口腔内各組織への力学的影響を検証し、咬合・咀嚼機能の面から補綴装置の長期維持管理を阻害するリスク要因を簡易に検出する手法の開発等に関する研究指導を行う。 （128 柴田　佐都子） 原因疾患、ライフステージ等様々な背景を有する摂食・嚥下障害者を対象に、口腔衛生状態の維持に影響する要因について、環境や職種連携を含めた多面的な視点から分析・検討するとともに、これら対象別要因分析に基づいた口腔保健・口腔機能の維持向上のための効果的指導法の開発と評価に関する研究課題を設定し、研究指導を行う。 （165 米澤　大輔） 医療・福祉の観点から、児童や高齢者を対象とし、疫学研究および質的研究を主体に調査・研究を実施することで、その問題点を抽出する。医療および福祉における質的なデータから抽出された新たな課題から、疫学的背景を検討するとともに、対象者への保健指導や健康評価の開発等に関する研究指導を行う。 （142　中村　健） 貧困の概念、貧困に対する制度・政策の発展、貧困問題の背景や要因について、これまでの研究を調査・検討することで多角的に理解を深める。その上で、福祉事務所等の貧困に対する支援を行う関係機関や、従事する専門職に求められる役割、他機関や他分野との連携による支援の在り方などを中心に研究課題を設定し、研究指導を行う。 （120　黒川　孝一） 地方自治体における生活習慣病対策の経験を礎に、生活習慣病予備軍に対する口腔保健管理と生活習慣病予防対策の相乗効果を期待するプログラムの開発、他職種との連携による効果的介入方策について検討し、実践、解析、成人期における中短期的医療経済効果の検証、評価を中心とした研究課題を設定し、研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要 （医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究II（看護学）		看護学に関わる領域の研究課題について、先行研究の批判的吟味、研究テーマの設定、研究計画の策定、データ収集、分析、論文作成、発表に至る一連の研究プロセスを実践することにより、研究遂行能力を育成する。 （51 関　奈緒） こころとからだの健康づくり、疾病予防、喫煙対策、感染症対策など公衆衛生に関わる領域の研究課題について研究指導を行う。 （88 宮坂　道夫） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （12 内山　美枝子） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （37 坂井　さゆり） がん看護、緩和ケア、生命倫理に関する研究課題について研究指導を行う。 （50 住吉　智子） 小児医療の臨地における健康課題や看護課題について研究指導を行う。 （45 佐藤　美由紀） 地域で暮らす人々の健康と生活の質や、地域看護の実践知の創出に関する研究課題について研究指導を行う。 （129 清水　詩子） 成人および老年期にある慢性疾患患者・家族を対象とする研究課題について研究指導を行う。 （135 関島　香代子） 対象の健康や生活支援に関わる母性看護学/助産学/女性看護学/母子保健の研究課題について研究指導を行う。 （163 横野　知江） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （143 成田　太一） 地域看護学領域における実践上の課題や関心をもとにした研究課題にいて研究指導を行う。 （139 田中　美央） 障害や慢性疾患をもつ子どもと家族への支援についての研究課題について研究指導を行う。 （144 西方　真弓） 母性看護学/助産学/女性看護学領域の研究課題について研究指導を行う。 （112 柿原　奈保子） 成人および老年期にある、あらゆる病期段階と疾患に対する高度看護ケア実践を対象とする研究課題について研究指導を行う。 （100 井上　智代） 地域看護学領域における実践上の課題や関心をもとに研究課題について研究指導を行う。 （123 齋藤　あや） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （207 ABEYWICKRAMA HANSANI MADUSHIKA） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科　健康科学専攻　博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究II（次世代医療技術科学）		次世代医療技術に関わる領域の研究課題について、先行研究の批判的吟味、研究テーマの設定、研究計画の策定、データ収集、分析、論文作成、発表に至る一連の研究プロセスを実践することにより、研究遂行能力を育成する。 （15 大久保　真樹） 医用放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （35 齋藤　正敏） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （32 小林　公一） 医用放射線科学、特に関節の荷重支持機能と運動機能に関する基礎的な研究課題について研究指導を行う。 （54 高橋　直也） 画像診断における画像診断の新たな手法に関する研究課題について研究指導を行う。 （41 笹本　龍太） 放射線治療技術学／放射線腫瘍学に関する研究課題について研究指導を行う。 （89 山崎　芳裕） 核医学検査技術学に関する研究課題について研究指導を行う。 （33 近藤　世範） 医用画像の画像処理・画像解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （105 宇都宮　悟） 放射線治療に関する研究課題について研究指導を行う。 （147 早川　岳英） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （250 成田　啓廣） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （219 岡本　昌士） 医用画像の画像処理・画像解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （211 市川　翔太） 医用画像解析や放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （44 佐藤　英世） 分子、細胞、組織、個体の各レベルにおける生体機能の生理と病態の解明に関する研究課題について研究指導を行う。 （42 佐藤　拓一） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （63 富山　智香子） 生体機能に関する研究課題について研究指導を行う。 （157 松田　康伸） 肝癌の転移機構に関するシグナル解析、DNA傷害機構に着目したシグナル解析、正常/がん細胞の再生機構の解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （166 渡邉　香奈子） 感染症に関する研究課題について研究指導を行う。 （127 サトウ　恵） 感染症（寄生虫症）に関する研究課題について研究指導を行う。 （133 須貝　美佳） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （110 奥田　明子） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （103 牛木　隆志） 分子，細胞，組織，個体の各レベルにおける生体機能に基づく視点から、臨床血液学の病因，病態の解明に関連する検査技術についての研究課題について研究指導を行う。 （124 齋藤　修） 心血管病の診断と治療を支援するための検査技術システム構築に関する研究課題について研究指導を行う。 （232 近藤　達也） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （263 山本　秀輝） 検査技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻共通科目	リサーチ・メソッズ・アドバンスト		本科目は、博士前期課程修了者が自立した研究者として医療分野の研究を行い、学会や論文で発表するために必要な基礎的な方法論を修得することを目的とする。研究は目的や対象に応じて手法が異なるため、まず文献調査、研究課題の特定、倫理的観点からの検討など共通の基本事項を体系的に学習する。次に、研究手法について各分野（口腔生命福祉、看護学、放射線科学、検査技術科学、医学系分野）の概略を学び、研究の実施とデータ収集・分析に関する方法論も取り上げる。また、研究を行う上での倫理的配慮や倫理審査についても理解を深める。最後に、論文の構造や執筆戦略、引用方法、投稿・査読プロセスなどを学び、批判的改訂や発表の技法も身につける。研究者としてのキャリア構築に向け、継続的な論文刊行の重要性や今後の課題も総括する。	共同
プログラム共通科目群	アカデミックリーディング		研究を行う上で不可欠である英論文の読解に習熟するため、スキャニング、スキミング等の英文を迅速かつ正確に読み取る技術を、テキストを題材としたコースワークにより修得する。具体的には、スキャニングやスキミング、文脈からの意味推測、推論、トピックスリーディング、本旨読解を通じて、実践的なリーディング力を強化する。	
	実践統計学ベーシックコース		研究を成功に導くための鍵はプロトコールの内容（研究デザイン）に対する適切な統計手法を理解することにある。本コースでは実際の研究における事例を用いて研究デザインの構築からデータ解析で用いられている統計学的手法の理論を実践的に習得する。 （オムニバス方式／全15回） （50 小川　祐司／5回） 研究の必要性やデザインの基本から、構造化アブストラクトの作成、プレゼンテーションの基礎、さらにはヒトを対象とする医学研究における倫理的原則 （20 濃野　要／2回） 標準偏差や正規分布などの基礎概念から、単変量解析や多変量解析、サンプルサイズと検定力に至るまでの統計手法 （52 竹原　洋子・58 KAUNG MYAT THWIN／8回）（共同） 研究課題の構造化からプロトコール構築、統計解析の実践、論文の批判的吟味、文献検索・エビデンス整理、研究成果のプレゼンテーションについての演習	オムニバス方式 共同（一部）
	ケア技術開発法		科学的根拠に基づく全人的なケアの開発と検証を行うために、看護実践や研究倫理を基盤とし、看護支援技術の研究手法と解析法を教授し、最新の研究成果をもとに論考する科目である。本科目では、看護実践や実験手法を持つ教員がその経験を活かし、補完代替医療や統合医療の視点から看護ケアへの適用過程を理解し、ケア技術開発の学問的基盤と研究的視点を形成することを目指す。講義では、ケア技術の開発と検証方法、倫理的課題とその対応、補完代替医療領域における看護ケア技術の位置づけと課題について学ぶ。各回で、基礎理論、看護療法の検証、統合医療における健康観や測定法、ケア技術開発のプロセスを取り上げ、これらを通じて看護ケア技術の理解と実践を深める。	
	研究倫理		急速に発展する医療や科学技術がもたらした倫理的問題に対応するため、研究倫理の基礎を学び、自らの研究に必要な倫理的配慮を立案する能力を養うことを目的とする科目である。21世紀においては、医療や福祉へのロボット工学の応用、分子レベルでの治療法、遺伝子工学の環境への影響などの複合的な倫理課題が増えているため、これらの理解が求められる。本科目では、研究倫理、生命倫理、技術倫理、環境倫理、倫理審査に関わる基礎的な概念や法規、主要な事例を学び、責任ある研究行為、不正行為、データ管理、共同研究のルール、利益相反、オーサーシップ、ピア・レビュー、メンタリング、公的研究費の管理などを体系的に理解する。また、eラーニング「eAPRIN」の講義を通じて、実際に研究倫理の主要項目を習得し、Zoom形式での講義により補足が行われる。最後に、受講者の研究計画に必要な倫理的配慮についての演習を行い、具体的な倫理的対応の検討と立案を行う。	
	保健学情報解析法		保健学分野における専門的知識と俯瞰的視野を持ち、自立的に研究に取り組む力を養うことを目的とする。学生は主体的に文献検索や論文の批判的吟味を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じてEBMの概念と方法を理解し、疫学研究や統計学的手法についても学ぶ。学生は、自身の研究課題に必要な情報をデータベースを活用して収集し、得られた情報の客観的評価を行う力を身につける。また、適切な統計学的手法の選択や検定結果の考察、エビデンスの質の評価を行う能力を習得し、保健医療の専門領域で第一人者として自立的に研究を行うためのスキルを養う。講義は学生主体の発表形式で行われ、各回の担当者が選んだ文献の統計手法やエビデンスレベルの評価についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じて理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	口腔保健福祉学プログラム	口腔保健管理学特論		口腔疾患の予防管理に関する最近の知見をふまえた知識・技術を教授するとともに、最新の研究論文等を題材に検討を行うことにより口腔保健管理分野における研究デザイン、評価・解析技法等について理解する。 （オムニバス方式／全16回） （20 濃野　要・23 吉羽　永子／6回）（共同） う蝕、歯周病を中心とした口腔疾患の予防および治療に関する最新の知見を教授するとともに、高齢者・要介護者を中心とした口腔保健管理のための介入法の開発および評価方法について国内外の論文を取り上げながら論究する。 （20 濃野　要／4回） 歯周疾患の病態形成に関する最新の知見を踏まえたリスク分析および全身管理を含めた予防管理法について教授するとともに、歯周病予防管理の評価法や歯周疾患と全身疾患の関連等について国内外の論文を取り上げながら論究する。 （3-① 大内　章嗣（令和9年度まで）、3-② 大内　章嗣（令和10年度）／1回） 介護予防等の観点から注目されている口腔機能低下症・オーラルフレイルについて、現状の取組み状況を踏まえながら、今後の対策の在り方について論究する。 （37 STEGAROIU ROXANA／2回） インプラントを含め、口腔・咀嚼機能のリハビリテーションとしての歯科補綴の理論および実際について教授するとともに、歯科補綴物を長期にわたり適切に機能させていく観点からの口腔保健管理手法の開発および評価法について国内外の論文を取り上げながら論究する。 （24-① 葭原　明弘（令和9年度まで）、24-②葭原　明弘（令和10年度）／2回） 小児期を中心とした口腔疾患の発症・進行に関与する要因、および予防法に関する最新の知見を教授するとともに、国内外の論文を取り上げながら効果的な口腔保健管理法の開発および評価手法について論究する。 （34 柴田　佐都子／1回） 歯科衛生士が行う口腔保健指導に関し、栄養管理学的側面も踏まえた指導法の理論と実際について教授するとともに、行動科学に基づいた効果的指導法の開発および評価手法についての国内外の論文を取り上げながら論究する。	オムニバス方式 共同（一部）
		摂食嚥下機能評価支援学特論		摂食嚥下機能障害者の評価法、指導訓練法、リスク管理およびチームアプローチの理論と実際について最新の知見をふまえながら教授する。加えて、摂食嚥下障害者に対する支援法の開発および評価手法に関する研究デザイン、評価・解析技法等について論究する。 （オムニバス方式／全15回） （51 山村　健介／2回） 摂食嚥下の神経制御機構および加齢変化等について最新の論文を交えて解説し、摂食嚥下機能に関する生理学的研究の動向と今後の展望について教授する。 （49 井上　誠／5回） 摂食嚥下機能障害の評価・診断・治療およびリハビリテーションの背景となる理論と実際について教授するとともに、評価手法や摂食機能訓練法に関する文献について批判的論考を加えることにより、当該分野における研究デザイン、評価・解析技法について論究する。 （3-① 大内　章嗣（令和9年度まで）、3-② 大内　章嗣（令和10年度）／4回） 頭頸部領域の悪性腫瘍等により生じた摂食嚥下およびその他の悪性腫瘍手術等の患者の周術期口腔機能管理に関する診断・治療・リハビリテーションおよびリスク管理について、その背景となる理論と実際について教授する。加えて、こうした患者に対する口腔保健管理・支援法に関する国内外の文献を取り上げながらその研究手法等について論究する。 （24-① 葭原　明弘（令和9年度まで）、24-②葭原　明弘（令和10年度）／2回） 食嚥下障害児の摂食嚥下機能に対する評価・診断等およびリハビリテーションの理論と実際について教授するとともに、心理的・社会的支援を含めた口腔保健管理の実践例を紹介し、今後の研究の課題と方法について論究する。 （53 大湊　麗／2回） 言語聴覚士が行う言語・摂食嚥下障害患者に対する治療・リハビリテーションの背景となる理論と業務実際について最新の知見を交え概説するとともに、実例を提示しながら言語聴覚士からみたチームアプローチの現状と課題について教授する。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	口腔保健福祉学プログラム	口腔保健福祉援助学特論		口腔や摂食嚥下等に問題を抱える要介護者、障がい者、有病者等に対する保健医療福祉を通じた総合的な援助（口腔保健福祉援助）を展開していく観点から、こうした対象者の症例分析等を通じて現状と課題を明らかにするとともに、対象者のニーズ把握、効果的援助方法の開発およびその評価法等に関する研究デザイン、評価・解析技法等について検討、理解する。 （オムニバス方式／全16回） （5 神子島　旬子／7回） 口腔や摂食嚥下に問題を抱える要介護者、障がい者、有病者等の現状と課題について理解するとともに、こうした対象者に対する口腔保健福祉援助を行う際の理論と実践について実例を交えながら教授する。 （45 米澤　大輔／3回） 医療ソーシャルワークの理論と実践について教授するとともに、要介護者、障がい者等のニーズ把握に関する質的研究を中心とした国内外の論文を解説し、援助法の開発および評価に関する研究手法について論究する （47 松本　明日香／1回） 障がい（児）者支援における歯科保健医療関係者の役割と連携について、各種統計資料・報告や事例を交えて教授する。 （34 柴田　佐都子／2回） 摂食嚥下障害を有する患者等に対する歯科衛生士の業務の実際とチームアプローチについて概説するともに、歯科衛生士が行う口腔ケアが摂食嚥下障害患者等の口腔機能および生活の質の向上にどのような役割を果たしているか、関係論文を提示しながら論究する。 （3-① 大内　章嗣（令和9年度まで）、3-② 大内　章嗣（令和10年度）／3回） 地域包括ケア体制の構築に関する現状と課題について事例や文献、調査報告等を提示しながら、体制の構築に向けた社会福祉士の役割について検討する。併せて、地域包括ケアにおける歯科保健医療の果たすべき役割・効果と課題について、関係文献を提示し、批判的論考を加えることにより、今後の研究手法等について検討する。	オムニバス方式
		地域口腔保健福祉学特論		地域の特性を考慮した口腔保健福祉活動や施策を推進するため、地域福祉や保健に関する理論、制度、概念を学ぶ。地域ニーズの把握、ネットワーク形成、施策の意思決定、評価手法などについても考慮する。学生は地域保健医療福祉活動の全体像を理解し、口腔保健福祉の現状や課題を学ぶとともに、地区診断や社会調査を通じた効果的な介入方法の開発と評価の手法についても深く理解する。学習の到達目標には、地域福祉活動の実際と課題の理解、健康福祉支援方策の評価手法、地域施設・職種の役割理解、ネットワーク構築とその支援研究、介護者への口腔保健活動の展開と意思決定過程の分析などが含まれる。また、地域口腔保健活動の理論や国際的な視点からの日本の取り組み、介入法の評価や解析方法の理解も目指す。 （オムニバス方式／全16回） （30 黒川　孝一／9回） 地域口腔保健活動の概念と理論、口腔保健活動の現状とその展開、在宅要介護者・施設入所者に対する口腔保健活動の経緯と実際、事例分析演習、授業の総括 （3-① 大内　章嗣（令和9年度まで）、3-② 大内　章嗣（令和10年度）／3回） 保健医療福祉に関する社会資源の現状と課題、地域ネットワーク論の発達と今後の展開、口腔保健福祉ネットワークの現状と課題 （45 米澤　大輔／4回） 地域健康福祉活動の発達と理論、地域健康福祉活動の実際と課題、地域福祉支援方策の開発と評価	オムニバス方式
		アカデミックライティング		適切な英論文を執筆する能力の獲得を目指し、英語の文章構成スキルを基礎から段階的に習得する。具体的にはセンテンスレベルから英文の形式を学び、緒言、主題文、支持文、結びなどの主要な構成要素や、要約・校正の技術を学ぶ。	
		アカデミックリーディングⅡ		口腔保健福祉分野で頻用される英語論文を題材に、個別的なコースワークにより、専門用語や表現の理解を通して英語論文の読解力を高めることを目的としている。各研究テーマに関連する英語の専門用語や論文の構成、論理を学び、英語論文の要点を正確かつ効率よく読解する力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	地域・国際看護学特講		この講義では、看護学分野において地域と国際社会の両方に通じるグローカルな視点を重視し、地域の文化や特性を考慮した看護技術や介入方法の開発を学習することを目的とする。生活習慣病や精神健康問題への予防的な介入、在宅ケアや介護支援、さらには発展途上国における女性の健康支援において、看護が果たす役割や介入方策を探求する。講義は臨床経験と豊富な研究実績を持つ教員が担当し、各テーマに沿った専門的な知識を提供し、受講者が看護の幅広い専門性を修養することを意図している。また、各ライフステージにおける個人や家族の健康支援ニーズを正確に把握し、対象者に応じた看護戦略を構築する力を養い、看護独自の援助技術の開発に必要な基礎能力を涵養する。グローカルな視点で組織や地域社会、国際的な場において、看護実践や健康支援、研究を推進できる基礎力を備えた人材を育成する。 （オムニバス方式／全15回） （19-① 中村　勝（令和8年度）、19-② 中村　勝（令和9年度）／5回） 第1～2回　国内外の精神保健医療福祉サービスと当事者の地域支援、 第13～14回　課題討議、第15回　まとめ(総括) （13 佐藤　美由紀／2回） 第3～4回　地域看護実践に用いる理論モデルと介入方法の開発 （15 関　奈緒／2回） 第5～6回　公衆衛生学･保健学領域における生活習慣病等の健康支援 （21 宮坂　道夫／2回） 第7～8回　医療倫理学に関連する国内外の課題･検討･方法論 （41 成田　太一／2回） 第9～10回　地域看護学領域におけるメンタルヘルス対策 （25 井上　智代／2回） 第11～12回　地域看護学領域における在宅支援	オムニバス方式
		成人・老年看護学特講		この講義では、学生が自らの関心テーマに関連する理論や最新の研究動向を学び、看護学および保健学における実践的な研究能力を養うことを目的とする。学生は、さまざまな研究デザインをもつ研究論文を批評（クリティーク）することで、研究の課題を明確にし、適切な研究手法や計画を立案する力を培う。また、講義は遠隔の学生に向けてオンラインで行われ、実務経験を有する講師が指導にあたる。具体的な学習内容としては、看護学・保健学領域に関連する概念や理論の理解、現行の研究動向の把握、さらに先行研究に基づいた課題の抽出と批評を行う。このプロセスを通じて、学生は自身の研究課題に対する理解を深め、適した研究手法を検討し、研究計画書の作成能力を育成する。	
		小児・女性看護学特講		この講義は、小児およびライフステージ各期にある女性とその家族が抱える健康課題や遺伝的リスクについて、身体的・心理的・社会的側面からの支援理論とエビデンスに基づく看護介入法を学ぶことを目的とする。小児看護学、女性看護学、母性看護学、基礎看護学、遺伝看護学といった多様な視点から、健康支援や生活支援、意思決定支援の理論を探究し、地域に根ざした支援理論やケア技術の基盤となる能力を養成する。授業は、非対面形式で進められ、実務経験を有する教員が研究指導を行い、受講者は支援課題を理論的に考察し、先端的なケアモデルやケア技術の構築に必要な研究手法を理解する。	
		小児・女性看護学特講演習		この講義では、小児やライフステージ各期にある女性とその家族が抱える健康課題に対し、支援理論やエビデンスに基づいた看護介入法を体系的に学ぶ。特に遺伝的リスクを抱える個人や家族の特質や多様性を理解し、身体的・心理的・社会的な側面からの健康支援、生活支援、意思決定支援について深く考察することを重視する。倫理的配慮や研究者倫理に関する知識を涵養し、研究基盤を固める。国内外の文献精読を通じて研究動向を把握し、関連分野における支援理論や看護介入の方法を理解する。また、ジェンダー、生涯発達、意思決定、統合医療などの観点から、先端的な看護ケアモデルやケア技術の開発に必要な研究手法を学び、実践に応用できる力を養う。さらに、小児・女性・母性・遺伝看護学の倫理的課題を検討し、研究者としての倫理的責任や配慮について理解を深めることで、対象者の多様な背景に配慮した実践力を培うことを目指している。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	看護学プログラム	地域・国際看護学特講演習		本講では、「地域・国際看護学特講」での学びを基礎とし、組織や集団、地域や国際レベルでの健康支援を専門とするために必要な援助技術やスキルを演習を通して修得する。講義は、当該領域での臨床経験や研究実績を有する教員が担当し、各テーマに即して授業を進める。また、この講義は「地域・国際看護学特講」と連携し、学習目標達成に向けて補完的な役割を果たすよう構成され、演習を中心に実施される。特に量的研究法に重点を置き、研究技法のスキルトレーニングを通じて、学生が研究を進める上で必要となる知識とスキルの習得を目的とする。具体的には、組織や集団レベルでの健康支援に必要な研究手法に関する知識・スキルの修得を目指し、地域・国際レベルでの教育研究者や高度専門医療職に必要な基礎力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （19-① 中村　勝（令和8年度）、19-② 中村　勝（令和9年度）／5回） 第1～2回　国内外の精神保健医療福祉サービスと当事者の地域支援、 第13～14回　課題討議、第15回　まとめ(総括) （13 佐藤　美由紀／2回） 第3～4回　地域看護実践に用いる理論モデルと介入方法の開発 （15 関　奈緒／2回） 第5～6回　公衆衛生学･保健学領域における生活習慣病等の健康支援 （21 宮坂　道夫／2回） 第7～8回　医療倫理学に関連する国内外の課題･検討･方法論 （41 成田　太一／2回） 第9～10回　地域看護学領域におけるメンタルヘルス対策 （25 井上　智代／2回） 第11～12回　地域看護学領域における在宅支援	オムニバス方式
		成人・老年看護学特講演習		本講義は、成人・老年看護学特講を基盤に、理論生成と検証過程を通じて、看護研究のシステムと手法を理解し、各自が研究計画を立てて予備研究に取り組むことを目的とする。看護実践能力の向上を重視し、看護現象の分析や組織調整、倫理判断、エビデンスの集積を体験的に学ぶ。特に看護問題への多面的アプローチ法の開発に向けた演習を実施し、実務経験豊富な講師がスーパービジョンを行う。講義はオンライン形式で行われ、個人や家族の社会的・文化的視座から成人・老年期の支援について国内外の文献を精読し、批判的思考を養う。また、プロジェクトマネジメントスキルを習得し、看護の質管理やケアの測定指標、システム開発に関する能力を育成する。各自の研究計画の立案、予備研究の評価、エビデンスの記述など、実践的な研究遂行力を修得する。	
	次世代医療技術科学プログラム	生体機能情報解析学特講		生体の構造や機能を放射線技術科学的および工学的に解析する手法について教え、その臨床応用技術についても教授する。特に、筋骨格系放射線技術科学に関する最新の内容を扱う。生体構造や機能を解析する医療診断機器の測定原理や応用について理解を深め、筋骨格系（骨、関節、軟骨、靭帯、腱、筋肉など）の診断手法を学び、最新の研究に触れる。X線、CT、MRI、超音波装置などによる生体構造・機能評価について理解し、特に近年問題となっている骨粗鬆症や変形性膝・股関節症の最新の診断手法を把握する。	
		生体機能情報解析学特講演習		生体構造および機能を医用生体工学的に解析するための文献考証を行う。さらに、生体のメカニズムおよびメカニクスを放射線関連技術などの手法を用いて解析する、内外の先端研究の検証を通じた演習を行う。医療用診断装置などを用いた生体構造・機能の解析における先端の研究動向を理解し、X線、CT、MRI、超音波装置などによる生体構造・機能評価の最新技術を演習を通じて身につける。特に、近年問題となっている骨粗鬆症や変形性関節症の先端診断技術についても把握する。	
		生体システム機能検査科学特講		個体、臓器・組織、細胞、細胞内小器官などの生体システムにおける情報伝達および情報処理について、研究モデルの作成、情報の検出・計測、データ処理などの新しい研究方法を教授し、さらに病態生理機能学に関する新しい検査技術を解説する。生体システムにおける情報伝達および処理に関する研究モデルの作成、情報伝達と処理、病態生理学的な検査技術について学ぶ。日々の研究活動に活かせる研究解析手法の提供を目指す。生体を全体として、あるいは臓器レベルや細胞レベルでシステムとして捉え、さまざまな生体システムの情報導出方法（検査方法）を説明できるようになる。日々の研究活動に活かせる研究解析手法と情報獲得を目指す。	
		病態病理検査科学特講		機能的・形態的に異常を起こした細胞が生体にさまざまな腫瘍性および非腫瘍性疾患を引き起こす過程を理解し、生体内での正常細胞と異常細胞の形態的・機能的変化とその解析方法について学ぶ。本科目では、臨床検査技師として細胞診の実務経験を持つ教員が、細胞の変化と解析方法に関する講義を行う。細胞レベルでの機能的・形態的異常がどのように疾患の発生につながるかを理解し、正常細胞と異常細胞の変化とその解析方法を習得する。異常を起こした細胞が引き起こす疾患過程や、生体内での正常細胞と異常細胞の形態的・機能的変化、各種病態における変化、およびこれらの解析方法について説明できるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	免疫・血液病態検査科学特講		免疫寛容の破綻による疾患について概要を解説し、その発症メカニズムおよび検査法を学ぶ。生体防御システムにおいて重要なワクチンに焦点を当て、分子免疫学に基づいた自然免疫応答と抗体産生の機序について学習する。また、細胞生物学の視点から造血制御や細胞治療、再生医療について学ぶ。本科目は、実務経験を持つ教員がその経験を活かして授業を行う。各種疾患における免疫異常とその検査法についての高度な理解力を促し、微生物感染防御の中心となる抗体産生機構に関与する細胞および分子の動態を理解する。血液学や輸血・細胞治療学の研究を通じて、血液学を広く深い視点で捉える力を養い、関連する免疫学および血液学領域で教育・研究者として必要な高度な専門知識を習得することを目指す。免疫機構による疾病の発症機序を理解し、その検査法への応用を説明できる。ワクチン戦略における重要な免疫現象や理論、造血細胞について学び、造血や細胞治療を説明できるようになる。	
		ゲノム・微生物病態検査科学特講		遺伝子工学の基礎原理と応用技術について教授し、分子生物学の手法を応用したゲノム編集技術についても学ぶ。さらに、病原微生物の主要な病原因子、感染症発症のメカニズム、および疫学マーカーについても教授する。遺伝子を対象とした解析法の基本原理と応用を理解し、最新のゲノム編集技術の基本原理とその応用方法について学習する。加えて、病原微生物の検出など検査への応用に関する知識を深める。遺伝子工学技術を駆使した検査法についてその基本原理と応用を理解し、最新のゲノム編集技術の基本原理を理解し、その応用方法について考察できるようにする。さらに、病原微生物検査への応用方法についても理解する。	
		生体システム機能検査科学特講演習		個体、臓器・組織、細胞、細胞内小器官などの生体システムにおける情報伝達および情報処理について、研究モデルの作成、情報の検出・計測、データ処理といった新しい研究方法の演習を行い、さらに病態生理機能学に関する新しい検査技術の演習も実施する。生体システムにおける情報伝達と処理に関する研究モデルの作成や、病態生理学的な検査技術を学び、日々の研究活動に応用できる解析手法と情報の提供を目指す。生体を全体として、または臓器・細胞レベルにおいて、構造、機能、基盤分子が統合されたシステムとして捉えることができる。さまざまな生体システムの情報導出方法（検査方法）とその特性について説明できるようになる。	
		病態病理検査科学特講演習		機能的・形態的に異常を起こした細胞が生体内で腫瘍性および非腫瘍性疾患を引き起こす過程を学び、正常細胞と異常細胞の形態的・機能的変化とその解析方法を身につけ、さらに早期診断に向けた効率の良い検査法を探求する。授業は、細胞診の実務経験を持つ臨床検査技師の教員が担当する。細胞レベルでの機能的・形態的異常がどのように腫瘍性および非腫瘍性疾患を引き起こすかを理解し、正常細胞と異常細胞の変化を解析する方法を習得し、効率的な検査法について考察する。異常細胞が引き起こす疾患過程や、正常細胞と異常細胞の形態的・機能的変化、各種病態とその解析方法を説明できるようになり、効率的な検査法について討論できる。	
		免疫・血液病態検査科学特講演習		自己免疫疾患の検査方法について、最新の知見を文献から取り入れ、必要な知識を習得する。また、自己免疫性肝炎モデルを用いて病態に関係する細胞を検出し、その病態解明と検査法への応用可能性を理解する。ワクチンは微生物抗原に対する中和抗体の産生を誘導し、生体防御において重要な役割を果たすため、抗原の侵入によって開始される液性免疫応答について、動物モデルを使い実践的に理解する。さらに、血液学に関連した最新の医薬開発方法を学び、細胞治療や再生医療における細胞調整や品質管理の実際を学ぶことで、血液学の研究手法を深く理解する。免疫機序による疾病の発症メカニズムとその検査法を理解し、自己抗体や自己反応性細胞群が関与する病態形成メカニズムとその応用力を身につける。液性免疫応答に着目したin vivo実験モデルの作製と免疫学的解析法を理解し、血液学や細胞治療・再生医療における検査法を実践的に理解し応用する力を修得する。	
		ゲノム・微生物病態検査科学特講演習		PCRを用いた遺伝子解析法の演習を行い、PCRの基本原理と応用法について習得する。また、病原微生物の遺伝子型決定や遺伝子系統樹作成の演習も実施する。遺伝子工学の手法を活用した病原微生物の検査・解析法を理解し、各検査・解析法の基本原理と応用法について学ぶとともに、文献調査を通じて最新の技術についても習得を目指す。PCRの原理と応用を理解し、それを用いた遺伝子検査法についても理解を深める。さらに、最新の応用技術について文献調査などを通して学び、病原微生物検査法について説明できるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	臨床画像医学特講		この科目では、1990年代にデジタル化が導入されて以来、飛躍的に向上している臨床における画像診断技術と、死因究明を目的とした死亡時画像診断について学ぶ。特に、死亡時画像診断を含む画像診断法の最新の進歩について、英文論文を精読しながら理解を深める。臨床画像診断技術および死亡時画像診断の最近の進展を広く理解し、画像診断の有用性や問題点について説明できるようにする。また、統計学的手法を含む英語論文の書き方についても学び、英文の学術論文を読む力を養うことを目指す。	
		臨床画像医学特講演習		この科目では、1990年代のデジタル化導入以降に飛躍的に進化した臨床画像診断技術と、死因究明を目的とした死亡時画像診断について学ぶ。X線CT、MRI、RIなどの画像検査法は現代医療において不可欠であり、その重要性は増している。様々なモダリティを活用し、実際の画像を用いて解剖学的構造、臨床疾患、死亡時画像診断について学習する。さらに、医療画像技術および診断法の最新の進歩を理解し、多様な画像診断の画像所見を説明できるようになることを目指す。	
		医用画像情報学特講		この科目では、医用画像における画像認識、画像評価、画像処理の基礎理論とその応用について学ぶ。また、コンピュータによる画像診断・治療を支援する知的システムの構築方法についても教授する。医用画像分野での最新の画像処理技術と情報処理に関する知識を学習し、学会誌などに掲載される新しい画像処理方法を理解する。さらに、他の方法との違いを説明できるようにし、オリジナリティある画像処理方法を考案する力を養う。	
		医用画像情報学特講演習		この科目では、図書・学術雑誌、インターネットを用いて情報理論、画像工学、画像処理工学、人工知能、医用画像情報学、コンピュータ診断システムに関する国内外の論文を精読し、「医用画像情報特講」で学んだ内容を深めることを目的とする。幅広い情報から最新の画像処理技術や情報技術について理解を深め、知識の構築を狙いとする。各自の研究テーマに関連する論文を検索し、内容を整理し、必要に応じて論文の追実験を行う演習も実施する。最新の画像処理技術や情報処理技術を理解・評価し、類似技術と比較することで新技術の有効性を整理し、今後の活用方法についても議論できる力を養う。	
		放射線腫瘍学特講		この科目は、放射線治療技術学および放射線腫瘍学に関する最新の専門的知見を、英文論文の読解と討論を通じて学ぶことを目的とする。医歯学総合病院の医学物理ミーティングに参加し、病院で勤務する医学物理士と共に医学物理に関する知見を深める機会も提供する。授業は、医師としての経験を持つ教員が担当し、実践に基づいた指導が行われる。学生は、放射線治療技術学や放射線腫瘍学の知識を習得するだけでなく、英語での学術的表現にも慣れる。これにより、放射線治療や医学物理に関する英文論文の読解力を高め、学んだ内容を自ら説明できる能力を養成する。また、実際の医療現場での専門的な議論を通じて、放射線医学や医学物理学における最新の技術や知見に触れ、より実践的な理解を深める。	
		放射線腫瘍学特講演習		この演習は、放射線治療技術学および放射線腫瘍学に関する最新の専門的知見を、英文論文の読解と討論を通して深く学ぶことを目的とする。また、医歯学総合病院で行われる医学物理ミーティングに参加し、実際に病院で働く医学物理士と共に、放射線治療や医学物理に関する実践的な知見を得る機会を提供する。授業は、医師としての実務経験を持つ教員が担当し、最新の知識を基に指導が行われる。学生は、放射線治療技術学や放射線腫瘍学の専門知識を修得し、英文の学術表現に慣れ、関連する英文論文の読解力を高める。また、授業で学んだ内容を的確に説明できる力を養い、放射線医学や医学物理学に関する理解をさらに深めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	次世代医療技術科学プログラム	医学物理学特講		この科目は、画像診断装置や画像誘導放射線治療装置に関する先端的な開発研究と、その特性評価に関する最新の文献や資料の輪読を通じて、研究の方法論を習得することを目的とする。学生は、関連研究領域の最新の学術論文を検索し、輪読・発表・討議を通じて、研究情報を収集する力を養う。また、研究のためのコンピュータプログラムを用いた演習を行い、論文の内容を検証しつつ、研究テーマに必要な情報を的確に読み取る能力を高める。これにより、画像診断および放射線治療分野における最新の研究情報に精通し、先端的な知識と分析スキルを修得する。 （オムニバス方式／全15回） （4 大久保　真樹／5回） 第1回～第5回　医学物理関連（主に診断領域）の研究論文の検索、論文の抄読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション （27 宇都宮　悟／5回） 第6回～第10回　医学物理関連（主に治療領域）の研究論文の検索、論文の抄読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション （8 齋藤　正敏／5回） 第11回～第15回　医学物理関連（全般）の研究論文の検索、論文の抄読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション	オムニバス方式
		医学物理学特講演習		この演習は、画像診断装置や画像誘導放射線治療装置に関する最新の開発研究と特性評価に関する文献や資料の輪読および討議を通じて、研究の方法論を習得することを目的とする。受講者は、関連する先端学術論文を検索し、研究テーマに基づいた論文を輪読・発表し、討議を通じて最新の研究情報を収集する能力を養う。また、コンピュータプログラムを用いた演習を行い、関連事項に対する理解を深める。授業は医学物理士の経験を持つ教員による実践的な内容も含み、画像診断機器や放射線治療装置に関する知識を深める。さらに、必要に応じて論文内容を検証し、先端研究の情報を習得する力を高める。授業は非対面型と対面型の併用で行われ、アクティブ・ラーニングを取り入れている。 （オムニバス方式／全15回） （4 大久保　真樹／5回） 第1回～第5回　CT装置やMRI装置等に関する研究論文の抄読、詳細内容のプレゼンテーションと討論、および論文に関連したデータの取得に関する実験・演習とディスカッション （27 宇都宮　悟／5回） 第6回～第10回　放射線治療装置とその精度管理等に関する研究論文の抄読、詳細内容のプレゼンテーションと討論、および論文に関連したデータの取得に関する実験・演習とディスカッション （8 齋藤　正敏／5回） 第11回～第15回　X線CT装置の不変性試験方法や画質および線量の評価法等に関する研究論文の抄読、詳細内容のプレゼンテーションと討論、および論文に関連したデータの取得に関する実験・演習とディスカッション	オムニバス方式
		放射線治療医学物理臨床実習		この実習では、高精度放射線治療の治療計画と線量検証に関する理論と方法を学び、実践的なスキルを習得することを目的とする。実習は、診療放射線技師、医学物理士、医師の経験を持つ教員によって行われ、臨床現場で必要な知識と技術を提供する。受講者は、治療計画の理論を深く理解し、独力で治療計画を立てる能力を身につける。また、線量検証法についても理論を理解し、臨床現場で独力で線量検証ができるレベルのスキルを取得することを目指す。この実習を通じて、高精度放射線治療における治療計画および線量検証の独立した実践能力を養成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特定研究	特定研究（口腔保健福祉）		本科目は、博士後期課程の「特定研究」に位置付けられている。口腔保健福祉領域に関する研究課題を設定し、適切な調査方法や分析方法を選択する。さらに選択した方法による適正なデータ収集と分析を通じて研究論文の完成を目指す。それらを助言や指導を受けながらも、自立して実施する。 （24-① 葭原　明弘）（令和9年度まで） 医療・保健・福祉領域の関連をさらに発展させるため、福祉領域における口腔保健活動の及ぼす効果について、社会的・環境的要因にも着目しながら、歯科的関与の可能性について倫理的配慮に基づいた研究計画の設定、フィールドにおける調査研究方法や結果の分析方法について研究指導を行う。 （23 吉羽　永子） 根面う蝕を含むう蝕の発生機序および予防管理に関する基礎・臨床両面にわたるこれまでの研究を調査・検討し、その意義及び問題点を理解する。その上で、高齢者、障がい者等の特性・社会背景を考慮したう蝕の発生、再発予防のための効果的な手法の開発、リスク評価等について研究課題を設定し、研究指導を行う。 （20 濃野　要） う蝕や歯周疾患、歯の喪失が全身に及ぼす影響について、これまでの疫学研究を調査・検討し、その意義及び問題点を抽出する。その上で因果関係を明らかにするために必要な研究方法を考察するとともに、実際に行われている研究の疫学的背景、生物学的意義を理解するための研究課題を設定し、研究指導を行う。 （3-① 大内　章嗣）（令和9年度まで） 地域住民および要介護高齢者等の特定集団を対象とした摂食・口腔機能維持向上のための効果的介入方策の開発に関し、受け手側である住民等および提供者である保健医療福祉従事者等の意識・行動パターン分析、多職種間の連携を促進するためのツール開発とその評価、社会資源・経済面を含めた費用対効果を中心とした研究課題を設定し、研究指導を行う。 （5 神子島　旬子） 主として障がい福祉、児童福祉領域における効果的な保健医療福祉の統合をテーマとし、障がい福祉、児童福祉分野における効果的かつ包括的支援の在り方に関する研究課題を設定し、研究指導を行う。 （37 STEGAROIU ROXANA） 歯を喪失した場合、インプラントを含む各種歯科補綴装置の適用により、咬合・咀嚼機能の維持・回復が図られており、高齢者の健康保持に重要である。こうした補綴装置を長期にわたり適切に機能させていくために重要となる口腔内各組織への力学的影響を検証し、咬合・咀嚼機能の面から補綴装置の長期維持管理を阻害するリスク要因を簡易に検出する手法の開発等に関する研究指導を行う。 （34 柴田　佐都子） 原因疾患、ライフステージ等様々な背景を有する摂食・嚥下障害者を対象に、口腔衛生状態の維持に影響する要因について、環境や職種連携を含めた多面的な視点から分析・検討するとともに、これら対象別要因分析に基づいた口腔保健・口腔機能の維持向上のための効果的指導法の開発と評価に関する研究課題を設定し、研究指導を行う。 （45 米澤　大輔） 医療・福祉の観点から、児童や高齢者を対象とし、疫学研究および質的研究を主体に調査・研究を実施することで、その問題点を抽出する。医療および福祉における質的なデータから抽出された新たな課題から、疫学的背景を検討するとともに、対象者への保健指導や健康評価の開発等に関する研究指導を行う。 （40 中村　健） 貧困の概念、貧困に対する制度・政策の発展、貧困問題の背景や要因について、これまでの研究を調査・検討することで多角的に理解を深める。その上で、福祉事務所等の貧困に対する支援を行う関係機関や、従事する専門職に求められる役割、他機関や他分野との連携による支援の在り方などを中心に研究課題を設定し、研究指導を行う。 （30 黒川　孝一） 地方自治体における生活習慣病対策の経験を礎に、生活習慣病予備軍に対する口腔保健管理と生活習慣病予防対策の相乗効果を期待するプログラムの開発、他職種との連携による効果的介入方策について検討し、実践、解析、成人期における中短期的医療経済効果の検証、評価を中心とした研究課題を設定し、研究指導を行う。	
	特定研究（看護学）		本科目は、博士後期課程の「特定研究」に位置付けられている。保健医療あるいは生活支援における研究課題を設定し、適切な調査方法や分析方法を選択する。さらに選択した方法による適正なデータ収集と分析を通じて研究論文の完成を目指す。それらを助言や指導を受けながらも、自立して実施する。 （1-① 有森　直子）（令和8年度のみ） 看護学の視点から、対象の健康や生活支援に関わる母性看護学/助産学/女性看護学、遺伝看護学の研究課題について研究指導を行う。 （15 関　奈緒） こころとからだの健康づくり、疾病予防、喫煙対策、感染症対策など公衆衛生に関わる領域の研究課題について研究指導を行う。 （19-① 中村　勝）（令和8年度のみ） 看護学教育（精神看護に関わる領域）の研究課題について研究指導を行う。 （21 宮坂　道夫） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （9 坂井　さゆり） がん看護、緩和ケア、生命倫理に関する研究課題について研究指導を行う。 （14 住吉　智子） 小児医療の臨地における健康課題や看護課題について研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特定研究	特定研究（看護学）		（2 内山　美枝子） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （13 佐藤　美由紀） 地域看護学の視点から、学生各自が着想した研究課題について研究指導を行う。 （38 関島　香代子） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （44 横野　知江） 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題について研究指導を行う。 （35 清水　詩子） 慢性病者の健康や生活支援に関わる臨床および研究課題について研究指導を行う。 （41 成田　太一） 地域看護学の視点から、学生各自が着想した研究課題について研究指導を行う。 （39 田中　美央） 障害や慢性疾患をもつ子どもと家族への支援についての研究課題について研究指導を行う。 （42 西方　真弓） 母性看護学/助産学/女性看護学領域の研究課題について研究指導を行う。 （31 齋藤　あや） 看護学の視点から、自身で設定した研究課題について研究指導を行う。 （29 柿原　奈保子） 成人および老年期にある、あらゆる病期段階と疾患に対する高度看護ケア実践の開発に関する研究課題について研究指導を行う。	
	特定研究（次世代医療技術科学）		本科目は、博士後期課程の「特定研究」に位置付けられている。保健医療あるいは生活支援における研究課題を設定し、適切な調査方法や分析方法を選択する。さらに選択した方法による適正なデータ収集と分析を通じて研究論文の完成を目指す。それらを助言や指導を受けながらも、自立して実施する。 （4 大久保　真樹） 放射線技術科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （8 齋藤　正敏） 放射線技術に関する研究課題について研究指導を行う。 （6 小林　公一） 医用放射線科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （16 髙橋　直也） 臨床および死亡時画像診断における画像診断の新たな手法について研究指導を行う。 （10 笹本　龍太） 放射線治療技術学／放射線腫瘍学に関する研究課題について研究指導を行う。 （22 山崎　芳裕） 放射線科学に関する研究課題について研究指導を行う。 （7 近藤　世範） 医用画像情報学に関する研究課題について研究指導を行う。 （27 宇都宮　悟） 放射線治療分野の医学物理学に関する研究課題について研究指導を行う。 （17-① 池主　雅臣）（令和8年度のみ） 実験モデルを用いた心臓の興奮伝搬と再分極に関する発展的研究、循環器系疾患の病態解明・重症度評価・治療効果判定に関する発展的研究課題について研究指導を行う。 （12-① 佐藤　英世）（令和9年度まで） 生体抗酸化系の発現制御機構と生理機能について、自ら設定した研究課題について研究指導を行う。 （11 佐藤　拓一） 検査技術科学領域に関する研究課題について研究指導を行う。 （18 富山　智香子） 肝臓における細胞性免疫機構、またはこれらに関連する検査技術の開発に関する研究課題について研究指導を行う。 （43 松田　康伸） 肝癌の転移機構に関するシグナル解析、DNA傷害機構に着目したシグナル解析、正常/がん細胞の再生機構の解析に関する研究課題について研究指導を行う。 （46 渡邉　香奈子） ウイルス感染症に関する研究課題について研究指導を行う。 （33 サトウ　恵） 感染症（寄生虫症）に関する研究課題について研究指導を行う。 （28 奥田　明子） 細胞生物学およびケミカルバイオロジーに関する研究課題について研究指導を行う。 （32 齋藤　修） 心血管病の診断精度を向上させ、安全かつ効果的な治療を支援する検査技術システムの開発に関する研究課題について研究指導を行う。 （26 牛木　隆志） 分子、細胞、組織、個体の各レベルにおける生体機能に基づく視点から、臨床血液学の病因、病態の解明に関連する検査技術についての研究課題について研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士後期課程　健康科学専攻）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特定研究	特定研究（学術）		本科目は、博士後期課程の「特定研究」に位置付けられている。主に社会福祉、社会科学を基軸としたロ腔保健福祉領域に関する研究課題を設定し、適切な調査方法や分析方法を選択する。さらに選択した方法による適正なデータ収集と分析を通じて研究論文の完成を目指す。それらを助言や指導を受けながらも、自立して実施する。 （24-①　葭原　明弘）（令和9年度まで） 医療・保健・福祉領域の関連をさらに発展させるため、主に介護・福祉領域における他職種連携に基づくロ腔保健活動の効果を、学際的なアプローチから評価する。倫理的配慮に基づいた研究計画を設定し、フィールド調査や結果分析方法について研究指導を行う。 （23 吉羽　永子） う蝕をはじめとした歯科疾患の予防管理に関する基礎・臨床研究を調査・検討し、その意義と問題点を理解する。そのうえで、高齢者や障がい者の特性・社会背景を考慮した多職種連携による効果的な予防管理とリスク評価を開発するための研究課題を設定し、学際的アプローチによる研究指導を行う。 （20　濃野　要） う蝕や歯周疾患、歯の喪失が全身に及ぼす影響について、これまでの疫学研究を調査・検討し、その意義と問題点を抽出する。そのうえで、主に高齢者や障がい者の全身の健康とロ腔保健の関連を明らかにするための、その特性や社会的背景を踏まえた学際的な研究課題を設定し、研究指導を行う。 （3-① 大内　章嗣）（令和9年度まで） 要介護高齢者や障がい児者の摂食・ロ腔機能維持向上のため、利用者と保健医療福祉従事者の意識・行動パターンを分析し、主に介護・福祉従事者の視点からの多職種間の連携を促進するツールの開発・評価を行うとともに、こうした取り組みの社会資源・経済面を含めた費用対効果に関する学際的アプローチによる研究指導を行う。 （5 神子島　旬子） 主として障がい福祉、児童福祉領域における効果的な保健医療福祉の統合をテーマとし、障がい福祉、児童福祉分野における他職種連携による効果的かつ包括的支援の在り方に関する研究課題を設定し、学際的研アプローチによる究指導を行う。 （37 STEGAROIU ROXANA） 主に介護・福祉従事者の視点からの要介護高齢者等における義歯をはじめと歯科補綴装置の適用による効果および歯科補綴装置の長期維持管理に関するリスク要因等の解明を研究テーマとして設定し、学際的アプローチによる研究指導を行う。 （34 柴田　佐都子） 主に要介護高齢者・障がい児者を対象とした、ロ腔衛生状態および摂食嚥下機能の維持に影響する要因を多面的に分析し、介護・福祉職を含めた他職種連携による効果的な支援方法の開発と評価に関する研究課題を設定し、学際的な研究指導を行う。 (45 米澤　大輔) 医療と福祉の連携・統合の観点から、児童や高齢者を対象とした疫学研究および質的研究を通じてその問題点を抽出する。医療と福祉の連携・統合における質的データから抽出された課題について、対象者の社会的背景も踏まえた他職種連携による効果的な試験方法の開発等に関する学際的アプローチによる研究指導を行う。 (40 中村　健) 貧困に対する制度・政策の発展、貧困問題の背景や要因について、これまでの研究を調査・検討することで多角的に理解を深める。その上で、保健医療福祉を通じた統合的支援の観点から、福祉事務所等の貧困に対する支援を行う関係機関や、従事する専門職に求められる役割、他機関や他分野との連携による支援の在り方などを中心に研究課題を設定し、学際的な研究指導を行う。 （30 黒川　孝一） 地方自治体の生活習慣病対策の経験を基に、医科歯科連携・他職種連携による生活習慣病予防対策とロ腔保健管理の一体的推進に向けたプログラムの開発やその医療経済面も含めた総合的な効果検証を中心とした研究課題を設定し、学際的アプローチによる研究指導を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻共通科目	リサーチ・メソッズ・ドクター		本科目は、博士前期課程修了者が自立した研究者として医療分野の研究を行い、学会や論文で発表するために必要な基礎的な方法論を修得することを目的とする。研究は目的や対象に応じて手法が異なるため、まず文献調査、研究課題の特定、倫理的観点からの検討など共通の基本事項を体系的に学習する。次に、研究手法について各分野（歯学・医学分野）の概略を学び、研究の実施とデータ収集・分析に関する方法論も取り上げる。また、研究を行う上での倫理的配慮や倫理審査についても理解を深める。最後に、論文の構造や執筆戦略、引用方法、投稿・査読プロセスなどを学び、批判的改訂や発表の技法も身につける。研究者としてのキャリア構築に向け、継続的な論文刊行の重要性や今後の課題も総括する。	共同
プログラム共通科目群	アカデミックリーディング＆ライティングⅠ		本科目は、リーディングスキルを身につけることを目指し、スキャニングやスキミング、文脈からの意味推測、推論などのスキルを学ぶ科目である。また、プロフェッショナルなレベルのライティングスキルを学び、特に組織的な構成や抽象的な概念、研究論文の要約と構成に関するスキルを習得することを目指す。 （リーディング）パターン認識やアカデミックな文章構成について学び、文型や列挙、順序、比較・対比、原因と結果、問題と解決のパターンを理解する。また、長文読解の要約技術も身につける。（ライティング）専門的な論文やレポートで使われる修辞技術や文章構成パターンの理解を深め、グラフの解釈や説明方法、年代順のエッセイ、比較・対比や原因と結果のエッセイを学びつつ、要約や論文の導入部分の書き方、研究論文の修辞構成や議論分析についても学ぶ。	
	実践医学統計演習		この科目は、研究を成功に導くために必要な統計手法の理解を目的とし、実際の研究事例を通じて研究デザインからデータ解析に用いる統計学の理論を学ぶことで、研究者としての基礎を養う。研究目的やデザイン、適格基準、サンプル数設定、割付、エンドポイント、統計解析など、研究に必要な統計的思考の基礎を学ぶ。記述研究やコホート研究などの研究デザイン、測定デザインも取り上げ、グループワークで研究プロトコールを構築する。また、区間推定や仮説検定から多変量解析までの統計手法および、文献検索、システマティックレビュー、研究倫理についても学ぶ。 （オムニバス方式／全16回） （14 小川　祐司／7回） 研究の必要性やデザインの総論、測定のデザイン、構造化アブストラクト、プレゼンテーションの基本、研究倫理に関する講義と、特にデザイン構築や統計手法についての基本的知識を指導 （263 濃野　要／2回） 基本統計について指導し、区間推定、仮説検定、多変量解析などの統計手法の理解を深めるための理論的講義 （100 竹原　祥子・202 カウン ミヤット トイン／7回）（共同） 研究デザイン、基本統計、論文の批判的吟味、文献検索技術を演習を通じて学ぶ。小グループに分かれての演習では、リサーチクエスチョンを設定し、研究プロトコールを作成する。	オムニバス方式 共同（一部）
	先端医学セミナー		この科目は、新潟大学大学院医歯学専攻の学生を対象とし、「みかんの会」というセミナーを通じて研究スキルを磨くことを目的としている。「みかんの会」では、先端医学研究に関する特別講演が行われるだけでなく、院生や若手研究者が自身の研究を発表する場が設けられる。発表内容の完成度は問わず、未完成の段階でも積極的に共有することが推奨され、多分野の研究者とのディスカッションを通じて新たな視点を得ることができる。このプロセスにより、自らの研究を客観的に見直し、論文執筆や研究の進展に役立つフィードバックを得られる。セミナーを通じて、発表技術や論理的思考力を高めるとともに、多様な視点を取り入れることで研究の質を向上させることが期待される。	
	医学研究発表演習		この科目は、新潟大学大学院医歯学専攻の学生が「みかんの会」での研究発表を通じて、研究内容を効果的に伝えるスキルを養うことを目的としている。発表の準備からプレゼンテーション、ディスカッションまでの過程を実践しながら学び、研究者としての表現力や論理的思考力を高める。「みかんの会」での発表を想定し、スライド作成や発表練習を行い、多分野の聴衆にも理解しやすいプレゼンテーションを目指す。また、実際の発表とその後の質疑応答を通じて、自身の研究を多角的に見直し、フィードバックを基に研究の発展につなげる。この科目を通じて、学生は論文執筆や研究活動に役立つ新たな視点を得るとともに、研究者としての発信力とコミュニケーション能力を磨き、将来の学術活動に活かせる基盤を築くことを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム共通科目群			医学研究倫理		医療や科学技術の急速な進展により生じる倫理的な課題に対応するため、研究倫理の基本的な知識を身につけ、自身の研究に必要な倫理的配慮を計画・実践する能力を育成することを目的とした科目である。21世紀の現代社会では、医療や福祉分野におけるロボット技術の活用、分子治療法の開発、遺伝子工学が環境に与える影響など、多岐にわたる倫理的問題が増加しており、それらへの理解が欠かせない。本科目では、研究倫理、生命倫理、技術倫理、環境倫理の基礎的概念や関連する法規、代表的な事例を学ぶ。さらに、責任ある研究行動、不正行為の防止、データ管理、共同研究のルール、利益相反、著者資格、査読、指導関係、公的研究費の取り扱いといったテーマを包括的に理解することを目指す。eラーニング教材「eAPRIN」を活用して主要項目を学習するとともに、Zoomを用いた講義でその内容を補足する。	
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	細胞免疫学		本講義では、免疫細胞の動的な挙動や二次リンパ組織の構造と機能、ストローマ細胞と免疫細胞の相互作用を中心に、免疫学の基本概念と応用を学ぶ。免疫応答の分子基盤や病態発生メカニズムを解説し、自己免疫疾患、アレルギー、癌など免疫関連疾患への理解を深める。受講者は、免疫系の基本構造と機能を分子レベルで理解し、最新の知見を基に免疫疾患や癌治療における重要性を習得する。また、免疫応答の調節機構を学び、臨床応用や基礎研究への貢献を目指す能力を育成する。学習の到達目標として、二次リンパ組織の構造と免疫機能の説明、ストローマ細胞と免疫細胞の相互作用の理解、自己免疫疾患やアレルギーの免疫応答メカニズムの解説、さらには癌治療における免疫学的役割の議論と応用例の提案が挙げられる。	
			細胞免疫学演習		本演習では、免疫応答の解析技術を学び、二次リンパ組織内での免疫細胞動態やストローマ細胞の機能を実験を通じて理解する。多光子顕微鏡を用いた三次元的な免疫細胞の動態解析を中心に、ケモカインやサイトカインが免疫応答に与える影響を評価する演習を行う。これにより、免疫応答の分子機構を解明するための実践的なスキルを習得することを目指す。受講者は、免疫細胞動態解析やストローマ細胞機能の実験手法を学び、実験結果を基に免疫関連疾患や癌治療への応用可能性を考察する能力を養成する。学習の到達目標として、多光子顕微鏡を用いた解析技術の習得、ケモカインやサイトカインの作用評価、リンパ節微小環境の役割の考察、さらには実験データを基に新たな研究課題を提案する力の育成が挙げられる。	
			免疫学研究法演習		本科目では、免疫学研究の基礎技術を学び、免疫細胞の分離、培養、解析手法を習得することを目的とする。リンパ球活性化アッセイやサイトカイン測定、ストローマ細胞の培養技術などを通じて、免疫応答の分子メカニズムを理解するための基盤を構築する。演習を通じて、実験データの取得と解析技術を実践的に学び、免疫学研究の課題に取り組む能力を育成する。受講者は、リンパ球やストローマ細胞の分離と培養、サイトカイン測定や免疫細胞活性化アッセイを習得し、得られたデータを考察するスキルを身につける。また、これらの基礎技術を基に、免疫応答に関連する研究計画を提案し、実行する力を養成する。	
			感染症対策論演習		本科目では、結核菌や抗酸菌症を中心に感染症対策の基礎理論と実践技術を学ぶ。新規薬剤スクリーニングやワクチン開発の手法を演習形式で習得し、診断技術や地域調査を通じた公衆衛生的アプローチを総合的に理解することを目指す。演習では、実践的な技術習得に加え、得られたデータを基にした考察力や応用力を養う。受講者は、感染症対策に必要なスキルを身につけ、新薬開発や診断技術の向上に寄与するだけでなく、地域流行地の調査デザインを構築し、公衆衛生の観点から総合的な感染症対策を提案する力を育成する。最終的に、実践的な感染症対策計画を立案し、その有効性を議論できる能力を身につけることを目的とする。	
			細菌学特論		本科目では、結核菌や非結核性抗酸菌（NTM）を中心に、細菌学研究の基礎から最新知見までを学ぶ。細菌の増殖制御やエピジェネティクス、薬剤耐性機構、病原性発現のメカニズムを理解し、創薬や治療戦略の方向性について議論する。また、細菌が持つ休眠や長寿命といった独自の生物学的特性を探求し、それらが感染症治療にどのように影響するかを考察する。受講者は、基礎理論と応用の両面での知識を深め、細菌学の最新研究動向を踏まえた研究課題を提案できる能力を身につける。さらに、創薬研究や治療戦略における具体的な事例を学び、自らの研究に応用可能な計画を立案する力を養成することを目指す。	
			感染症診断と治療戦略		本科目では、結核菌やMAC症を含む抗酸菌症を対象に、診断法と治療戦略の基礎から応用までを学ぶ。低酸素環境における細菌の応答メカニズムを解析し、診断マーカーの開発や薬剤耐性菌に対する新規治療法の可能性を探る。これにより、感染症診断と治療の新たな方向性を考察し、具体的な戦略を提案する力を養う。受講者は、診断技術や治療戦略の原理を理解し、実践的な応用力を身につけるとともに、診断精度の向上や新規治療法の研究課題を考案する能力を培う。さらに、公衆衛生的な視点から感染症対策を提案し、評価できる基礎力を構築することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	ウイルス制御学		本講義では、B型・C型肝炎ウイルス、新型コロナウイルス、小児パレコウイルス感染症を対象に、ウイルスの感染・複製機構や病原性発症メカニズムを学ぶ。さらに、自然免疫応答の役割やウイルスによる回避機構を解説し、治療戦略やワクチン開発の基礎理論を議論することで、ウイルス制御の基盤となる知識と応用力を養成する。受講者は、ウイルス感染制御に関する基礎的知識を習得し、最新の研究成果を基に感染症制御の重要性を理解する。これにより、ウイルス排除や治療法開発における課題を考察し、論理的な解決策を提案する力を育成することを目指す。学習の到達目標として、感染・複製機構や病原性発症のメカニズムを説明できる能力、自然免疫応答の理解と応用、治療戦略やワクチン開発に関する知識の習得、そしてウイルス制御の課題を論理的に議論する力を培う。	
			感染症対策論		本講義では、ウイルス性疾患の発生と拡大を抑制するための基礎理論を学び、感染メカニズム、診断法、治療法、ワクチン開発に関する知識を深める。また、パンデミック対策や国際的な感染症制御の課題を考察し、公衆衛生的視点からの感染症対策の重要性を理解することを目指す。これにより、受講者は現場で活用可能な知識を習得し、感染拡大防止に向けた実践的な戦略を提案する力を養う。学習の到達目標として、ウイルス感染症の診断技術や治療法の基礎を理解し、パンデミック時の対応や流行制御の方法を説明できる能力を育成する。また、ワクチン開発や感染症制御の課題を議論し、公衆衛生的視点に基づいた包括的な感染症対策計画を立案するスキルを培うことを重視する。	
			ウイルス制御学演習		本演習では、ウイルス制御に必要な最新技術を学び、実験を通じて具体的な解析手法を習得することを目指す。ウイルス感染モデルや自然免疫応答を用いたデータ取得と解析を行い、抗ウイルス剤スクリーニングやワクチン設計の基本手法を体験的に学ぶ。また、実験結果に基づいてウイルス感染制御の戦略を構築し、発表や議論を通じて考察力を養成する。受講者は、演習を通じてウイルス感染や自然免疫応答の解析手法を実践的に学び、正確に実行する能力を身につける。さらに、抗ウイルス剤やワクチンのスクリーニング技術を応用し、得られたデータを解析して戦略を設計・提案する力を養う。最終的に、結果を基にした論理的な議論や研究課題の発表を通じて、治療やワクチン開発への応用力を高めることを重視する。	
			予防医学特論		この科目では、村上コホート研究を基に、加齢性疾患や生活習慣病のリスク要因とその予防について学ぶ。骨粗鬆症や糖尿病、認知症などの疾患を中心に、ビタミンDの予防効果や生活習慣の影響を科学的に検討する。特に体格や骨折リスク、性差との関連性を解析し、疾患予防のための基礎知識と最新の研究成果を学ぶことを目的とする。リスク要因を理解し、個人および地域レベルでの予防戦略を考える力を養う。講義では、村上コホート研究の背景、骨粗鬆症性骨折とBMI・身長の関連性、ビタミンDの役割と生活習慣病予防、疾患発生の地域差、予防における多職種連携について扱う。学習目標は、研究の意義説明、リスク評価、ビタミンDの役割理解、性差と体格の分析、地域予防策の提案である。	
			予防医学演習		この演習では、村上コホート研究のデータを用いて、加齢性疾患や生活習慣病のリスク要因を解析する実践的スキルを習得する。実際のデータ解析を通じ、疾患発生リスクの評価や予防策の提案を行い、地域住民の健康増進に役立つ具体的な解決策を考案することを目的とする。演習を通じて、統計解析やリスク評価の手法を学び、地域社会で実践可能な予防戦略を立案できる能力を養成する。主要内容として、BMIと骨折リスクの相関分析、ビタミンD摂取と疾患予防効果の評価、性差や地域特性によるリスクの比較分析を含む。さらに、解析結果に基づく地域介入計画を立案し、政策提案書としてまとめることで、解析スキルを施策提言に応用する力を高める。	
			公衆衛生学演習		この科目は、健康の社会的決定要因（SDH）に基づいた公衆衛生の実践的アプローチを学ぶことを目的とする。地域レベルでの健康格差を可視化し、SDHの影響要因を分析する手法や、ポピュレーションアプローチに基づく実践的な介入計画を習得する。アンケートや統計データの分析、地域格差の解消に向けた戦略立案、多職種連携による健康づくりプロジェクトの提案などを行い、都市部と農村部の特徴やバイオマーカー、ビッグデータ解析を活用した精密な評価も含めて学ぶ。演習を通じ、健康格差や地域格差を多角的に分析し、政策提言や介入計画を基に実践力を養う。また、保健医療分野に限らず他分野との分野横断的な連携の重要性を理解し、地域住民の健康向上やまちづくりを推進するスキルを身につける。地域データの可視化やフィールドワークを取り入れ、実効性のある解決策を提案できる力を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	保健医療情報学演習		この演習では、GIS（地理情報システム）の基本概念と保健医療分野での応用方法を学び、感染症サーベイランスや健康格差の可視化、災害時のデータ作成など、具体的事例を通じてその可能性を探る。GISツールを用いて実際の保健医療データを可視化・解析し、地域課題の解決に向けた提案を立案するスキルを養成することが目標である。GISの歴史から基本操作、感染症流行の解析、地域特性データとの相関分析、健康格差の地図化まで幅広く扱い、データから地域課題を発見し、施策提案につなげる能力を育む。また、災害時のデータ提供や公衆衛生政策の策定にGISを活用する方法も学び、地域の健康課題を解決する新たな視点と実践力を身につける。演習では、自身のテーマに基づいたプロジェクトを通じてGIS技術を応用する力を実践的に養うことを目指す。	
			国際感染症制御学Ⅰ		この科目では、インフルエンザを中心に感染症の疫学、分子疫学、薬剤耐性に関する基礎知識を学び、国際的な感染症制御の実践力を養う。インフルエンザの抗原変異や新しい株の発生・伝播経路、薬剤耐性株の発生とその影響について深く掘り下げる。また、パンデミックの歴史や国際的な調査事例（ミャンマーやベトナムなど）を通じて、感染症研究の最前線やグローバルヘルス分野における課題を学ぶ。具体的には、耐性株の拡散メカニズムやWHOナショナル・インフルエンザ・センターの設立支援など、国際的な感染症対策の現場を理解することを目指す。この講義を通じて、感染症制御の基礎的知識と実践的応用能力を身につけるとともに、分野を超えた連携の重要性を理解し、グローバルヘルス分野で活躍できる力を育成する。	
			国際感染症制御学Ⅱ		RSウイルス（RSV）を中心に分子疫学と感染症制御を学ぶ科目である。RSVは小児に多発する急性呼吸器感染症の主因であり、途上国での疾病負荷が大きい。本科目では、RSVのウイルス構造、抗原変異、遺伝子型の特徴を学び、国内外の流行状況や分子疫学的解析の知見を探る。また、現行の対症療法の限界や、ワクチンおよび治療薬の開発動向について議論する。RSV制御に必要な基礎知識と分子疫学手法を習得し、流行パターンや遺伝子型の変化を理解することで、感染症制御のグローバルな視点を養成することを目指す。講義内容には、RSVの構造と進化、途上国の疾病負荷、分子疫学手法、治療薬やワクチンの開発状況、国際的な感染症プロジェクトの事例などが含まれる。これにより、国内外の疫学データを基に疾病負荷の軽減策を提案する能力を育む。	
			法医中毒学特論		この科目では、法医中毒学の基礎理論と実践的応用を学び、アルコールや薬毒物の分析を中心に取り上げる。法医解剖における薬毒物の検査手法を学ぶとともに、新潟県警科学捜査研究所など地域の医療・司法機関と連携した薬毒物分析システムの構築に焦点を当てる。また、救急医療体制における法医学の役割を再考し、救急医療や科学捜査への貢献可能性について議論する。受講者は、薬毒物中毒死の原因究明や地域医療での応用に必要な知識を習得し、実践的スキルを高めることを目指す。授業では薬毒物の検査手法、地域医療との連携、救急医療における法医学的視点の実例、さらに科学捜査との協力事例を通じて、法医中毒学の全体像を深く理解し、実務に活かせる能力を育成する。	
			死因究明学概論		この科目では、死因究明に必要な法医学的基礎知識を体系的に学び、死因特定のための理論と方法を修得することを目的とする。講義では、病死、事故死、犯罪死を含む多様な死亡事例を基に、解剖学、病理学、毒物学、DNA解析などの科学的手法を用いた死因究明プロセスを学ぶ。さらに、死後の身体変化の解釈や死亡時刻の推定法、最新の画像診断技術や微量物質分析などの応用技術も取り上げる。ケーススタディを通じて、実務的な判断能力を養成するとともに、法医学における倫理的課題や法的手続きの重要性についても深く理解する。本科目を通じて、科学的かつ公正に死因を特定する基盤を構築し、現場で応用可能なスキルを育成することを目指す。	
			賠償医学		この科目では、交通事故や医療事故における損傷評価や賠償問題に必要な医学的知識と技術を学び、公正な解決に貢献できる能力を養成する。ICD-10やAIS-90を用いた損傷の分類・コード化、データベース化、事故と疾病の因果関係分析、余命短縮（縮命度）の評価手法などを中心に学習する。さらに、判例や事例解析を通じて医学的視点から法的課題の解決策を提案する力を育む。講義では、損傷評価の基礎から交通事故損傷のデータベース化、因果関係と寄与度の分析、余命短縮の評価、判例研究、多分野との連携までを網羅。医学と法学、保険学を統合した学際的視点を取り入れ、賠償問題における医学の役割を深く探求する。	
			死因究明学演習		死因究明に必要な多分野の知識と技術を実践的に学ぶ。法医解剖、画像診断、薬毒物生化学検査、歯科法医学検査、生体検査などを通じて、死因究明の基礎と応用を習得し、DNA多型解析を活用した個人識別技術にも取り組む。力士傷害致死事件や孤独死の事例解析を含むケーススタディを実施し、多職種連携や特殊事例への対応力を鍛える。新潟大学の死因究明教育センターを活用し、大規模災害時の身元確認や法医学的支援に必要な実践的手法を学ぶ。また、死因究明に関連する法的知識や倫理的課題に対処する力を養い、事件・事故の解明や社会的課題の解決に貢献する能力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	国際医学教育学演習		国際医学教育学演習は、医療の国際化に対応するための実践的な知識とスキルを習得する演習科目であり、多文化社会における医療の提供や研究活動に必要な基盤を築くことを目的とする。演習では、異文化コミュニケーションや医学英語を中心に、多国籍な患者や医療従事者との円滑な連携を図る能力を具体的な場面で体験的に養成する。また、海外の医療制度や医療教育についてケーススタディを通じて学び、国際的視点を持つ医療人としての行動力を高める。さらに、シミュレーションやグループワークを通じて、臨床や研究の場で使える実践的なスキルを向上させ、多国籍な医療現場での適応力と効果的な働き方を学ぶ。最終的に、地域医療と国際協力の双方に貢献できる「グローカル」な医療人を目指し、キャリア形成に向けた具体的な行動計画を策定することが、この演習の目標である。	
			バイオインフォーマティクス特論		本講義では、ゲノム、プロテオーム、メタボロームなどのオミクス解析における基礎理論を学び、バイオインフォマティクスを活用したデータ統合や解析手法を探求する。がんゲノム解析や腸内細菌マイクロバイオーム、メタゲノム解析といった具体例を通じ、バイオインフォマティクスが医学生物学研究に果たす役割を理解する。また、データベース構築や可視化技術の最新動向を学び、それらを研究に活かす方法を習得することを目指す。受講者は、オミクスデータ解析の基礎理論を習得し、バイオインフォマティクス手法を用いてデータ解析を実践できる能力を養う。さらに、データベースの構築原理やデータ可視化技術を理解し、それを研究計画や課題解決に応用する力を育成する。最終的には、医学生物学における統合的アプローチを提案し、課題解決に向けた具体的な方策を示せることを目標とする。	
			バイオインフォーマティクス演習		本演習では、オミクスデータを対象としたバイオインフォマティクス解析技術を実践的に学ぶ。シーケンスデータ解析、データベース構築、KEGGやiPathなどのツールを活用したデータ可視化を実施し、データ取得から解析、考察までの一連の流れを体験する。さらに、実際の研究課題を題材に、オミクスデータの統合的解析を行い、研究への応用力を養うことを目指す。受講者は、シーケンスデータ解析やデータベース構築の基本的技術を習得し、データ可視化ツールを活用して解析結果を効果的に提示するスキルを身につける。また、統合的なデータ解析を通じて、研究課題の考察や新たな研究計画の立案能力を高めることが目標である。本演習は、バイオインフォマティクスを実践する場を提供し、学んだ技術を応用可能な形で研究活動に結びつける力を育成する。	
			医学生物学データ統合解析		本講義では、がんゲノム、メタゲノム、腸内細菌マイクロバイオームを含む多様な医学生物学データの統合解析手法を学び、オミクスデータの解析から知識抽出に至る技術を探求する。特に、解析結果の可視化や応用例を通じて、統合データ解析がPrecision Medicineや病態解析に与える影響を考察する。受講者は、多様な医学生物学データの特徴を理解し、適切な解析手法を選択・実践するスキルを習得する。また、データ解析結果を研究に応用する方法を学び、新たな研究課題を提案する能力を育成する。本講義は、医学生物学における統合データ解析の重要性を深く理解し、解析技術を実践的に活用できる基盤を提供することを目的としている。	
			医療情報学特論		医療情報の電子化が進む中で、電子カルテやオーダリングシステムを中心とした病院情報システムの構造と運用を学び、診療効率や患者サービス向上に必要な知識を養う。また、情報共有や意思決定を支える技術、情報セキュリティ対策、個人情報保護の課題についても深く掘り下げる。医療情報システムの具体的な導入事例や病院経営分析を題材に、情報学の臨床応用や実践的な課題解決能力を高めることを目的とする。医療現場における情報技術の利点と課題を理解し、セキュリティや倫理的配慮を踏まえた上で、診療効率化や病院経営改善に貢献できる応用力を身につけることを目指す。医療情報学の知識を基に、現場の課題を解決する実践的な提案ができる能力を育成する。	
			医療統計学演習		医療データの解析に必要な統計手法を演習形式で学び、基礎的な統計理論から実際のデータ解析までを体系的に理解する。統計ソフトやExcelを活用して、データの整理、グラフや表の作成を通じた可視化スキルを習得し、生存時間解析や遺伝子解析といった医療特有の手法も実践する。さらに、費用対効果分析や臨床研究のデータ解析に応用し、研究や診療現場で必要な統計的思考力と解析能力を育成する。この科目では、統計解析を単なる理論にとどめず、データに基づく結果を正確に解釈し、医療現場で有効に活用する力を養うことを目指す。学びの成果として、統計手法の選択と応用、結果の論理的解釈、臨床研究や医療経済分析への応用能力を実践的に身につける。	
			臨床疫学概論		臨床疫学の基本概念と手法を学び、医療現場でのデータ解析や意思決定に必要な知識を習得することを目的とする。観察研究や介入研究の設計、リスク評価、診断精度の評価、生存分析といった解析手法を具体的に学び、実際の医療データに応用するスキルを養う。また、エビデンスに基づく医療（EBM）の考え方を理解し、臨床研究の質を評価する能力を身につけることで、医療データの信頼性や有用性を的確に評価し、患者ケアや医療政策の意思決定に活用する視点を育てる。学びを通じて、臨床研究における問題解決能力を高め、EBMを実践的に活用する力を養成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	医療経済学特論		医療経済学の理論と手法を学び、医療資源の最適化や医療政策の評価に必要な知識を習得する。費用対効果分析、費用効用分析、費用便益分析といった経済評価手法を中心に、具体的な医療データを用いて実践的な応用力を高める。また、医療制度や病院経営の現状を分析し、医療の効率性や公平性の向上を目指す視点を養う。科目を通じて、医療資源の配分や政策の経済的影響を評価するスキルを身につけ、データに基づいた客観的な判断を行える基礎を築く。さらに、医療政策や病院経営の課題に対して、経済的観点から具体的な解決策を提案できる能力を育成することを目的とする。	
			医療薬剤学特論		この講義では、医療現場での薬剤使用に関する最新の研究を基に、薬物治療の適正使用や副作用管理、効果予測に関する理論と実践を学ぶ。腎機能評価と薬物動態の関係、副作用予測モデル、抗菌薬や抗がん剤の適正使用、薬剤耐性の問題などを取り上げ、薬剤師としての専門性を深める知識を養成する。腎機能推算式を用いた治療効果の予測、副作用リスクの管理、耐性検査の役割、患者個別化医療の実現方法などを具体的に学び、薬物療法の適正化に貢献する力を育てる。講義では、現場の症例データや研究成果を活用し、薬剤師が医療チームの中で果たす役割を明確化し、問題解決能力を高めることを目的とする。薬剤治療における最新の理論と応用を統合的に学び、実践に生かすスキルを養う。	
			医療薬剤学演習		この演習では、薬剤師が医療現場で果たす多職種連携の役割を理解し、チーム医療の実践的なスキルを身につけることを目的とする。感染管理や緩和ケア、妊娠と薬外来、糖尿病教室など、薬剤師が関与するチーム活動をテーマに、シミュレーションや症例検討を通じて学ぶ。薬物療法の適正使用や患者教育の実践方法、他職種との連携を深め、質の高い医療提供に必要なスキルを養成する。演習では、抗菌薬適正使用支援の症例カンファレンス、緩和ケアにおける薬物療法のプランニング、妊娠や授乳に関する薬剤相談の対応、糖尿病教室での患者教育と治療薬相談の実施を行う。また、症例検討を通じて薬剤師としての専門性を活かし、医療チームの一員としての問題解決能力を育てる。多職種連携に必要なコミュニケーションスキルを習得し、実践的な課題解決力を身につけることを目指す。	
			臨床薬効評価学		この講義では、医薬品の臨床的有効性と安全性を評価する方法論を学び、薬物治療の効果とリスクを科学的に検証する能力を養う。薬物動態と薬力学、費用対効果分析、副作用管理、疾患特異的評価指標、多職種連携による薬効改善のアプローチを体系的に学ぶ。がん化学療法や抗菌薬の適正使用、緩和ケアなど具体的な治療領域を題材に、臨床試験や観察研究を基にした科学的評価手法を実践的に習得する。薬物治療の評価を通じて、治療効果を最大化し、副作用を最小限に抑える方法を考える力を育成する。また、多職種連携を活用した治療改善の重要性を認識し、患者中心の医療を実現するための専門性を高める。薬効評価の基礎から応用までを学び、臨床現場で活用できるスキルを身につけることを目指す。	
			総合診療学特論		この科目では、総合診療医が担う多様な役割やスキルを体系的に学び、患者を全人的に診る視点や多職種連携、地域医療での役割を深く理解することを目指す。新潟方式の教育システムを通じて、総合的な診療能力を高め、地域医療の発展に寄与する視点を養う。総合診療医に求められる知識と技能を習得し、患者を多面的に診る能力や多職種との連携を基盤とした質の高い医療を提供する力を育成する。また、地域医療の課題に対応できる実践力を備えた即戦力を目指し、将来のキャリア形成に役立つスキルを磨く。学習内容には、総合診療医の基本スキルや多職種連携、地域医療での応用力、新潟方式を活用した診療手法が含まれる。	
			総合診療学演習		この演習では、総合診療に必要なスキルを実践的に習得し、臨床推論や診断学、症候学を中心に症例ベースの学習を行う。多職種連携を想定した演習や地域医療、外来診療の現場をシミュレートすることで、患者を全人的に診る力を高め、実践的な診療の基礎を構築する。演習を通じて、総合診療医として必要な臨床スキルを磨き、地域医療や外来診療への応用力を養成する。また、患者の健康を支える包括的な視点を身につけ、医療現場で即応できる能力を育成する。多職種連携を活用した実践的な課題解決能力を高め、総合診療に基づいた患者中心の医療を実現するためのスキルを学ぶことを目的とする。	
			救急集中治療医学概論		救急医療と集中治療の理論と実践を学び、重症患者の診療や緊急対応の基礎を習得することを目的とする。救急外来や集中治療部の運営を通じて、救命率向上や後遺症軽減を目指した最新の医療技術やプロトコルを学ぶ。新潟県の救急医療における役割やドクターヘリの運用、災害医療の基本的知識を習得し、救急集中治療の全体像を理解する。これにより、緊急時の迅速かつ適切な判断力と地域医療・災害医療への理解を深める。学習の到達目標として、救急医療と集中治療の基本理論の説明、診療プロセスの理解、ドクターヘリや災害医療の重要性の認識、E-CPRや体温管理療法、人工臓器管理などの治療概念の理解が挙げられる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	グローカル医療研究コース	救急集中治療医学演習		救急医療と集中治療の実践的スキルを身につけるための演習を実施する。救急外来や集中治療室での初期対応から集中治療までを想定したシミュレーションを通じて診療プロセスを体験的に学び、多職種連携による集学的治療や災害時対応の実務を習得する。また、人工呼吸器やECMO、血液浄化装置などの医療機器操作、ドクターヘリの運用知識も含め、包括的な実務能力を強化する。これにより、緊急時に迅速かつ適切に対応できる診療スキルと、チーム医療の重要性を理解する能力を育成する。学習目標として、患者初期対応の実践、医療機器の操作、ドクターヘリ運用の理解、多職種連携の応用、災害時プロトコルに基づく対応の習得を掲げる。	
		精密医学研究コース	組織構造研究法演習		この科目では、組織構造を研究するために必要な基本技法である切片作成、固定、染色、免疫染色を学び、生体標識法や蛍光イメージング、共焦点顕微鏡、電子顕微鏡、多重染色といった応用技術を実習を通じて習得する。これらの技術を用いて、組織や細胞レベルでの詳細な構造解析を行い、自らの研究テーマに応用する力を育てることを目的とする。基礎技術から高度な応用技術までを学びながら、実験計画の立案、遂行、得られたデータの解釈を行い、研究手法の開発や応用力を養う。切片作成や免疫染色を正確に実行し、生体標識法や蛍光イメージング、電子顕微鏡を使ったデータ解析、さらに多重染色を応用した構造解析を行うスキルを身につける。取得したデータを基に新しい仮説を立て、研究計画を立案する力を培う。	
			神経発達分子生物学		本講義では、末梢神経形成における細胞運命決定や神経筋接合部形成、脊髄神経前枝の叢形成といった神経発達に関する分子機構を学ぶ。細胞内タンパク分解系の役割や神経発達への影響についても取り扱い、発育鶏胚をモデルとした遺伝子操作技術や応用例を通じて、神経発生研究の最前線に触れる。受講者は神経発達の分子メカニズムを深く理解し、細胞運命決定や神経形成の基本プロセスを把握することを目指す。また、発育鶏胚を活用した遺伝子操作の最新技術を学び、研究分野への応用力を養う。到達目標として、神経発達における細胞運命決定や神経筋接合部形成の分子機構、細胞内タンパク分解系の影響を説明できること、発育鶏胚研究の利点や遺伝子操作技術を理解し議論できることを掲げる。	
			分子発生学演習		この演習では、発育鶏胚を用いた遺伝子操作技術を学ぶ。生体エレクトロポレーション法や増殖型トリレトロウイルス、Tet-onシステムを活用し、遺伝子発現の時間的・空間的制御を実践することで、プログラム細胞死や神経回路形成の分子メカニズムを解析し、モデル動物研究における先端技術を体験的に習得する。受講者は遺伝子操作技術を体系的に学び、実験計画の立案からデータ解析までを自立して行う能力を身につける。また、最新の分子発生学的技術を習得し、神経発達や細胞運命解析への応用力を養う。到達目標として、発育鶏胚を用いた基本的な遺伝子操作技術の正確な実行、生体エレクトロポレーションやTet-onシステムによる遺伝子発現制御の理解と応用、分子解析結果の解釈、遺伝子転移技術の課題の分析と改良提案、そして適切な技術選択による実験計画の立案を挙げる。	
			神経組織機能解析学演習		摘出した神経組織を対象に、機能解析と評価方法を学ぶ演習である。この科目では、摘出後の神経組織が適切に機能を維持できるよう管理する手法や、ニューロンの単一活動記録を通じて神経細胞の動作原理を理解する。微細電気生理学的手法を用いて液性環境の変化が神経機能に与える影響を解析し、基礎的なメカニズムを学ぶ。また、神経組織の生理機能の動的変化を定量的に評価し、そのデータを基に実験デザインや新たな仮説を立案する力を養う。得られた結果の再現性や解釈の精度を高めるための科学的思考を深めると同時に、研究成果の臨床応用や神経疾患治療への展開可能性についても議論を行う。学生は、実践を通じて高度な専門性と応用的視野を身につけることを目指す。	
			正常発生や再生時における超微構造機能学		この科目では、さまざまなイメージング技法を活用して得られたデータを基に、細胞と組織の微細構造について学ぶ。細胞や細胞集団の動的変化、細胞間および細胞・基質の関連性を可視化し、それらの構造と機能の連関を深く理解することを目指す。受講者は、細胞や組織の構造的特徴を動的に可視化するためのイメージング技法の原理と応用方法を理解し、それを研究に活用できる能力を養う。さらに、得られたデータを解析し、細胞間や細胞・基質相互作用を説明しながら、構造と機能の関係性を議論する力を育てる。到達目標として、イメージング技法を用いたデータ解析と解釈、新たな仮説の立案、研究計画の構築が挙げられる。最終的には、これらの技術と知識を自らの研究に応用する能力を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	分子病態構造学特論		本講義では、疾患の発症、進行、治癒過程を細胞や物質の動態および相互作用の視点から捉え、それが病理組織にどのように反映されるかを学ぶ。「組織の場」を基にした疾患の分子機構や細胞反応の解析意義と方法を解説し、先端的なイメージング技法や分子病理学的手法を活用した具体例を通じて病理学データの収集・解析能力を養成する。受講者は、疾患発症や進行過程における分子・細胞動態解析技術を習得し、得られたデータを多角的に解釈する力を身につける。また、イメージング技法や分子病理学の応用可能性を理解し、研究計画を構築するスキルを育成する。到達目標として、疾患の形態的および分子的特徴を解析し、新たな仮説を立案できること、そして自身の研究テーマに関連する分子・細胞動態を解析する能力を習得することを掲げる。	
			超微構造機能学演習		本講義では、細胞や組織の微細構造とその機能を対象に、光学顕微鏡、電子顕微鏡、走査型プローブ顕微鏡を含む多様な顕微技法を学ぶ。各技法の基礎理論から応用までを体系的に理解し、サンプル準備、観察、データ取得、解析のスキルを実地指導を通じて習得する。また、顕微技術を活用した最新の研究例を取り上げ、微細構造と細胞機能の関係性を解析する具体的なアプローチを学ぶことで、新たな仮説を立案し、顕微技術を研究に応用できる能力を育成する。受講者は、顕微技法を用いて微細構造のデータを取得・解析し、得られた結果を考察する力を養うとともに、研究テーマに応じた顕微技法を選択し、実験計画を立案・実行するスキルを身につけることを目指す。これにより、細胞機能や構造の関係性を探求し、研究の発展に寄与する基盤を構築する。	
			オミクス医学特論		本講義では、ゲノム配列情報がプロテオームに変換され、生命を構成する分子ネットワークを形成する仕組みを学ぶ。タンパク質の発現量や翻訳後修飾、タンパク質間相互作用、分子ネットワークの構築に関する基本原理を解説し、ポストゲノム時代の研究動向と未解明プロテオーム領域の探索について考察する。受講者は、ゲノムとプロテオームの関係性や、生命システム理解におけるプロテオーム解析の重要性を理解する。また、翻訳後修飾や分子ネットワークの基本概念を学び、未解明領域の課題を考察する力を養う。学習の到達目標として、ゲノム情報とプロテオームの関係を説明し、生命科学の研究動向や応用可能性を論じ、新たな研究課題を提案できる能力の育成を目指す。	
			オミクス医学演習		本演習では、質量分析データを含む膨大なプロテオーム解析データを対象に、統計解析とインフォマティクスの手法を学ぶ。データベース構築や再解析の技術を習得し、得られたデータを基に分子ネットワークを構築し、細胞状態の包括的な理解を深めることを目指す。受講者は、プロテオーム解析データを統計的に処理し解釈する技術を身につけるとともに、解析結果を基に分子ネットワークを考察し、新たな研究課題を提案する能力を養成する。到達目標として、質量分析データの統計解析やプロテオームデータベースの活用技術を習得し、解析結果を正確に解釈して細胞状態を評価できることを掲げる。また、プロテオーム解析の成果を適切に報告し、研究の発展に貢献できる力を育てる。	
			オミクス医学実習		本実習では、iMPAQT法を中心としたプロテオーム解析技術を実践的に学び、タンパク質の発現量や翻訳後修飾、タンパク質間相互作用の解析を行う。さらに、メタボロームやトランスクリプトーム解析との統合的手法を取り入れ、未解明プロテオーム領域の探索を進める。受講者は、最新のプロテオーム解析技術を習得し、データ取得から解析、応用までの一連の流れを理解する。翻訳後修飾や相互作用解析を応用した研究設計力を養い、統合的データ解釈により生命システムの理解を深める。学習の到達目標として、iMPAQT法を用いた解析技術の習得、メタボローム統合解析の活用、未解明領域への研究計画提案、そして実験成果を基にした応用的研究課題の構築を目指す。これにより、プロテオーム解析の基盤となるスキルを身につける。	
			細胞機能研究法演習		本科目では、細胞機能を研究するための基本的な解析手法を学び、演習を通じてその実践技術を習得する。単一細胞機能測定法、生化学的分析法、細胞イメージング法の原理と応用を解説し、データ取得から解析までを実践的に学ぶ。さらに、細胞内シグナル伝達や応答の動的変化を可視化する技術の研究応用を学び、取得データを基にした考察力を養成することを目指す。受講者はこれらの解析手法を正確に実行し、取得したデータを多角的に理解・考察する能力を身につける。また、細胞機能解析技術の応用例を学び、自身の研究に活用する計画を立案するスキルを育成する。これにより、研究活動における基盤的なスキルと応用力を構築することができる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	分子生物学演習		本科目では、培養細胞を用いた分子生物学の基本技術を学び、実践を通じてそのスキルを習得する。細胞培養の基本操作や遺伝子発現解析、タンパク質の発現・分離、遺伝子改変技術を取り上げ、分子生物学実験の全体像を体系的に理解する。また、データ取得から解析までの流れを経験し、得られた結果を基に分子メカニズムを考察する力を養成する。さらに、これらの基礎技術の応用例や最新の研究手法についても紹介し、受講者の研究応用力を高めることを目指す。受講者は、実験技術を正確に実行し、解析結果を多角的に理解する能力を身につけ、基礎技術を活用した研究デザインを立案できるようになる。本科目を通じて、分子生物学研究の基盤となる知識とスキルを構築する。	
			発生薬理学特論		本講義では、胎児期における脈管系の発生と制御メカニズムを学び、血管やリンパ管形成に関与する分子の役割や、それに関連する疾患リスクを探求する。特に、胎児浮腫や発生異常が健康に及ぼす影響を解説し、薬理学的アプローチによる病態制御の可能性を考察する。また、モデルマウスを活用した新たな疾患研究や治療技術の開発に関する最新の知見を紹介し、臨床応用の可能性について議論する。受講者は、発生薬理学を通じて胎児期の脈管形成の基礎理論や疾患発生の分子基盤を理解し、疾患モデル研究の重要性を認識する。さらに、薬理学的手法を用いた治療や予防の方向性を考察し、新たな研究課題を提案する能力を養成することを目指す。到達目標には、脈管形成や疾患リスクの基礎理論を説明し、応用研究の方向性を考える力の習得が含まれる。	
			脈管発生学演習		本演習では、血管およびリンパ管の形成メカニズムを実験的に解析し、分子生物学的手法を学ぶ。受講者は遺伝子ノックアウトマウスを活用し、血管透過性やリンパ管形成遅延の解析を行うことで、脈管形成異常の分子基盤を理解する。さらに、疾患モデル研究におけるデータ解析の手法を習得し、その結果を基にした研究計画の立案能力を養うことを目指す。この演習を通じて、血管とリンパ管形成の実験手法を確立し、疾患リスクの分子基盤を考察するスキルを磨く。また、解析結果を基に新たな研究課題を提案し、論理的な議論やプレゼンテーション能力を向上させることを重視する。受講者は、脈管形成の異常を深く理解し、それを応用した研究計画を構築する能力を身につける。	
			脈管の分子病態学特論		本講義では、血管およびリンパ管の発生と機能に関する分子メカニズムを幅広く学び、正常な脈管形成の基本原理から内皮間葉移行や腫瘍血管新生などの病的プロセスに焦点を当てる。これらのプロセスが慢性炎症や癌の進展に与える影響を探り、TGF-β、VEGF、BMP-9などの脈管形成の主要調節シグナル経路の役割と治療応用の可能性を議論する。また、疾患モデルを用いた研究事例や次世代の治療技術の展望を紹介し、疾患研究の基盤を築く。受講者は血管・リンパ管の発生と病態に関する知識を深め、疾患発生や進行のメカニズムを包括的に捉える力を育成する。さらに、シグナル経路を治療標的として理解し、最新の研究事例を基に新規治療法の開発に向けた研究課題を提案する能力を習得することを目指す。	
			シグナル分子制御学		本講義では、選択的オートファジー（マイトファジー）を中心に、細胞内シグナル分子がミトコンドリアの制御にどのように関与するかを学ぶ。オートファジー関連因子（Atg43、Atg44など）の役割やメカニズムを解説し、栄養状態やストレス応答における細胞恒常性維持の意義を考察する。また、TORキナーゼが老化抑制や細胞代謝調節に与える影響について、最新の研究成果を交えて紹介する。これらの知識を通じて、細胞機能や疾病研究への応用能力を養成することを目指す。学習の到達目標としては、選択的オートファジーの基本メカニズムを説明し、オートファジー因子の役割やTORシグナルの調節機構を理解する力を身につける。また、これらの知識を応用し、細胞内シグナル制御に基づく治療戦略を考察する能力や、自身の研究テーマに関連付けた仮説を提案するスキルの育成を目指す。	
			シグナル分子制御学演習		本演習では、分裂酵母をモデルとしてマイトファジー解析やTORキナーゼ制御実験を実践的に学び、細胞内シグナル分子の動態と機能を解析する技術を習得する。遺伝子破壊株や蛍光顕微鏡を活用し、リン酸化による因子制御の影響やオートファゴソーム形成における膜動態のメカニズムを解明する実験を行う。また、得られたデータを解釈し、基礎研究から応用研究への展開方法を考察する力を養うことを目指す。到達目標として、マイトファジー解析やTORキナーゼの活性制御に関する実験を正確に実施し、データを解釈して考察する能力を育成する。また、細胞恒常性維持や疾患との関連性を論じ、得られた知識を基に新たな研究課題を立案・発表するスキルを身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	心電生理学特論		本講義では、不整脈の遺伝的背景や心電生理学の基礎から最新の研究動向を学び、イオンチャネル遺伝子変異が心電活動に与える影響や不整脈の発生メカニズムを細胞・組織・動物モデルを通じて探究する。また、次世代シークエンサーや光学マッピング技術を活用した解析手法、カテーテルアブレーションや薬物療法の臨床応用例も扱う。心電生理学の基礎知識を習得し、不整脈の病態と治療への理解を深めることを目指し、基礎研究と臨床応用を結びつける能力を育てる。さらに、個別化医療の視点を取り入れ、新たな治療法の可能性を議論する。学習目標として、心電生理学の基本原理の説明、不整脈発生メカニズムの解析、次世代技術の活用法の理解、臨床治療の適用条件の説明、個別化医療の提案能力を養う。これにより、基礎から応用まで幅広い知識とスキルを身につける。	
			心不全解析演習		本演習では、心不全に関する実データ解析を通じて、研究課題の設定、データ解析技術の実践、考察を行う能力を養う。心エコーデータやFDG-PET画像、植込みデバイスデータを用いた解析を実施し、AIによる心筋病理解析や遺伝子解析技術を応用して心不全発症の予測因子や治療戦略を検討する。これにより、心不全の病態解明や個別化治療の可能性を探ることを目指す。演習では、心エコーデータを活用したADL低下の解析、FDG-PETによる治療効果評価、AIを用いた心筋病理解析、遺伝子データ解析を実施し、結果を考察するスキルを習得する。さらに、植込みデバイスデータを用いた運動耐容能評価や統計解析を行い、実データを基にした研究課題の設定と結果発表を通じて考察力を高める。心不全解析技術の実践的なスキルを磨き、個別化治療の提案に繋げることを目的とする。	
			心血管カテーテル治療演習		この演習では、心血管カテーテル治療に関わる実践的研究手法を習得することを目的とする。血管内視鏡や超音波、光干渉断層法などの血管内イメージング技術を活用し、実際の診断や治療効果の評価を行う。また、術中の三次元経食道心エコーを用いた治療戦略の立案や、多施設レジストリーデータの統計解析を通じて、病態解明や治療の安全性と有効性の検証を学ぶ。演習を通じて得られたデータを解析し、虚血・出血イベントの予測因子や治療戦略を考察するスキルを身につける。さらに、統合的な研究成果のプレゼンテーションを行い、実践的な問題解決能力を養成することを目指す。	
			リンパ性腫瘍病態学演習		本演習では、悪性リンパ腫や慢性リンパ性白血病（CLL）などを対象に、病態解明と治療開発を目的とした実践的な研究手法を学ぶ。生検検体を用いたフローサイトメトリー解析、染色体・FISH解析、遺伝子解析などを実施し、得られたデータを臨床情報と統合して解析する。また、多施設共同研究データを活用し、発症機序や予後因子を解析するスキルを習得する。さらに、新規治療薬の治験設計や国際共同研究を通じた臨床応用の可能性についても考察する。これにより、基礎から応用までの幅広い知識と技術を実践的に身につけ、医学研究の発展に貢献する力を養うことを目指す。演習を通じて、データ解析力、研究課題の発案力、治療応用への応用力を習得し、国際的な研究動向を踏まえた成果の提案ができるようになる。	
			血液免疫学演習		この演習では、白血病治療に関わる基礎研究から臨床応用までを統合的に学ぶことを目的とする。具体的には、白血病幹細胞の特性や治療抵抗性の原因を理解し、マウスモデルを用いた移植後の免疫動態解析を通じてGVHDの予防策を検討する。また、免疫チェックポイント阻害薬の作用機序や効果予測モデルの開発に取り組み、AIや統計手法を活用して個別化治療アルゴリズムを構築する方法を学ぶ。多施設臨床データの解析を通じて治療成績の評価と課題解決を探求し、全国的な臨床研究の設計や評価手法を学びながら、実際の症例報告作成を通じて実践的な研究力を高める。最終的には、これらの知識と技術を基にした新たな治療戦略を提案し、次世代の白血病治療への貢献を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	大規模医療データサイエンス		本科目では、医療ビッグデータを活用した解析手法を学び、エビデンスに基づく医療研究の基盤を構築する。コホート研究や臨床試験などの従来手法に加え、AIやICT技術を駆使した最新の医療データ解析を実践的に学ぶ。また、メタアナリシスやゲノム解析、統合データ解析の技術を用い、医療現場での応用例を探究する。特に、疾患リスク因子解析や精密医療・先制医療への応用可能性を議論し、医療政策や診療ガイドライン作成に役立つ研究成果の創出を目指す。学生は医療ビッグデータの収集・解析から結果考察、政策提案までのプロセスを通じて、実践的スキルと課題解決能力を養成する。さらに、日本の医療データベースや事例解析を基に、データ駆動型医療研究の重要性を理解し、新たな医療価値の創出に寄与する力を育むことを目的とする。	
			内分泌代謝学演習		この演習では、血液・内分泌・代謝疾患における細胞外基質（ECM）の役割や慢性炎症のメカニズムを探るための研究手法を学ぶ。造血幹細胞の機能維持や骨髄ニッチへの影響を解析し、造血細胞移植後の免疫病態を改善する方法を探求する。また、肥満や糖尿病とECMの関連を実験的に解明し、新たな治療法を模索する。さらに、SOCSファミリーによる慢性炎症やがん免疫の制御メカニズムを研究し、免疫学や代謝学の知見を統合して、これらの基礎研究を臨床応用に結びつけることを目指す。ECMが造血幹細胞の機能や炎症に及ぼす影響、SOCSファミリーが炎症やがん免疫に果たす役割を解明し、それらに基づいた治療戦略を提案する能力を養う。学生は遺伝子改変マウスや細胞モデルを用いて、実験設計から結果の考察、研究発表までを実践することで、慢性炎症や細胞外基質に関する応用研究の基礎を身につけることが求められる。	
			呼吸生理学演習		この演習では、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や低肺機能患者への呼吸リハビリテーション、睡眠時無呼吸症候群（SAS）を中心とした睡眠医学に関する実践的な技術を学ぶ。心肺運動負荷試験や換気応答試験などの最新検査技術を習得し、効果的なリハビリテーションプログラムの設計・評価を行う。また、夜間ポリグラフ検査やCPAP療法を用いてSAS患者の診断と治療計画を立案し、呼吸器疾患がメタボリック症候群、糖尿病、認知機能障害などに及ぼす影響を多角的に分析する。これにより、呼吸ケアや睡眠医学の最新知識と臨床応用力を身につける。演習を通じて、チーム医療や地域ネットワークを活用した実践力を高め、患者個々のニーズに応じた包括的な介入方法を提案する能力を養成することを目指す。	
			心療内科学演習		この演習では、心療内科の基礎理論と実践的な治療技術を学び、心身相関に基づく診療スキルを養う。内科医として必要な身体疾患への対応力を基盤に、心理社会的因子が病態に与える影響を評価し、治療計画を立案する力を育てる。過敏性腸症候群や緊張型頭痛などの心身症を対象に、自律訓練法やバイオフィードバック療法などの専門治療を実践的に習得する。また、患者の心理的ニーズに応える対話技術や、看護師を含む多職種連携による包括的ケアを実践し、身体と心理を統合した医療を提供する能力を養成することを目的とする。心身症や慢性疾患の患者を通じて、心理的アプローチを含む治療が病態改善にどのように寄与するかを体験的に学び、患者個々の病態に応じた最適な治療戦略を提案できるスキルを身につける。	
			呼吸調節病態学特論		この講義は、喘息、間質性肺炎、肺癌などの呼吸器疾患を対象に、病態生理、診断技術、治療法の進展を学ぶことで、疾患解明と診療における科学的知見を深めることを目的とする。免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬の臨床応用、AIを活用した診断モデル構築など、次世代医療の最新動向についても取り上げる。講義では、呼吸器疾患の多様な病態を理解し、適切な治療法を提案する能力の育成を目指す。学習到達目標として、主要疾患の病態生理と診断法を説明できること、アレルギー疾患や間質性肺炎の病態モデルを応用できること、分子標的治療薬や免疫治療の適用条件を理解することが含まれる。また、最新診療ガイドラインの批判的評価やAIを活用した診断・治療モデルの議論を通じて、実践的な知識と応用力を身につけることを目指す。	
			呼吸調節病態学演習		この演習では、呼吸器疾患の診断と治療に必要な技術を実践的に学ぶ。気道過敏性検査や呼吸機能評価を通じて診断スキルを磨き、間質性肺炎に対する多職種診断（MDD）に参加しながら病態の理解を深める。また、喘息やCOPD患者の臨床データを解析し、新規治療法の有効性を検証することで、エビデンスに基づいた診療能力を育成する。さらに、AI技術を用いた診断アルゴリズムの構築に取り組むことで、次世代医療に対応する応用力を養う。この演習の目標は、呼吸器疾患における科学的根拠に基づく診療スキルを身につけること、チーム医療や多職種連携を通じて臨床研究をデザインし実施する能力を高めることにある。受講者は、呼吸機能検査や誘発検査の実践、MDDプロセスへの参加、新規治療法のデータ解析、AI診断モデルの設計、臨床試験プロトコールの作成など、多角的な学びを得ることができる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	消化器病態解析学		この講義は、肝臓疾患の病態解明から治療法の開発に至る過程を総合的に学ぶことを目的としている。非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）におけるミトコンドリアDNA（mtDNA）変化の解析や、骨髄細胞移植による肝線維化の改善、さらに再生医療や遺伝子治療の可能性を含む次世代治療の展望について学ぶ。また、肝細胞癌に対するハイドロダイナミック法を用いた新規遺伝子治療の開発を中心に、基礎研究と臨床応用を結びつけるトランスレーショナルリサーチの重要性を理解する。NASHや肝硬変、肝細胞癌の発症メカニズムを説明し、診断技術を駆使して治療戦略を提案できる能力を養成する。骨髄細胞移植や培養細胞を用いた線維化改善、肝再生療法の基礎を学び、遺伝子治療における新しい治療概念を構築する力を身につける。また、最新の解析技術や臨床試験の設計を通じ、個別化医療を推進し、肝臓疾患における次世代医療の基盤となる知識とスキルを涵養することを目指す。	
			消化器免疫病態学		この講義では、消化器疾患における消化、吸収、代謝の破綻に伴う病態解析を中心に、基礎から臨床応用までを学ぶ。好酸球性食道炎、炎症性腸疾患（IBD）、代謝性疾患（MAFLD/MASH）、自己免疫性肝疾患（PBC、自己免疫性肝炎）などの進行性で、線維化が進み、発がんにいたる病態に焦点を当て、マクロファージ、制御性T細胞などの役割を探究する。また、肝細胞癌、膵癌や胆管癌の細胞外小胞（exosome）の解析を通じ、癌診断や癌微小環境における免疫の影響を理解する。臨床検体や動物モデルの研究を基に、消化器疾患に対する免疫制御病態のメカニズム解明や診断技術、治療法の開発を目指し、さらに進めてきた間葉系幹細胞、細胞外小胞を用いたimmunomodulatuonの機序を基盤とした次世代の新規の抗線維化、修復、再生治療を開発する力を養う。さらに、消化器免疫の特殊性を踏まえた個別化医療や次世代治療法への応用を議論し、すでに医師主導治験を実施してきた実績を踏まえ臨床と研究の橋渡しを行うスキルを習得する。これにより、難治性消化器疾患の診療に貢献する人材の育成を目指す。	
			消化器医工学演習		この演習では、消化管分野における低侵襲治療や再生医療技術を基盤とした医工学的アプローチを学ぶ。内視鏡治療後の狭窄予防や難治性消化器疾患の治療を目指し、バイオマテリアルやハイドロゲル技術を用いた粘膜再生法、消化管血流動態に基づく機器開発を実践的に理解する。また、内視鏡治療の侵襲性評価や低侵襲治療を目指した新規機器の改良を通じて、安全性と効率性の向上を目指す。本科目の目的は、医工学的視点から消化器疾患の診断・治療を支える技術の開発プロセスを学び、患者負担を軽減する革新的な治療法の設計能力を育成することである。受講者は、消化管治療の課題と内視鏡治療後の狭窄発生メカニズムを理解し、再生医療技術や材料科学を活用した解決策を提案する力を身につける。さらに、小動物・大型動物モデルを用いた医療機器の評価を通じて、基礎研究から臨床試験への橋渡しを学ぶ。	
			腫瘍内科学特論		本講義では、固形がんを中心とした腫瘍内科学の基礎と臨床応用を学ぶ。特に、殺細胞薬、分子標的薬、ホルモン剤、免疫チェックポイント阻害薬を含むがん薬物療法の最新エビデンスや、緩和化学療法の終了時期に関する最新の研究成果を取り上げる。また、がん患者のQOL向上を目指した治療選択や高齢患者への個別化治療の課題を検討し、トランスレーショナルリサーチのプロセスを実践的に理解することを目的とする。講義を通じて、がんの分子メカニズムや治療法の効果を評価する能力を養い、緩和医療の重要性を深く理解する。これにより、患者中心の医療を提供するための科学的思考力と実践力を育成することを目指す。到達目標として、がんの分子メカニズムの理解、緩和化学療法の効果評価、副作用管理のスキル習得、高齢患者への個別化治療の実践、臨床研究と基礎研究を結びつける能力の習得を掲げる。	
			緩和医療学演習		この演習では、がん薬物療法を行っている患者を対象に緩和ケア導入のタイミングやケアの質向上を追求する。特に、終末期化学療法が患者の生活の質（QOL）や医療費に与える影響を探り、データ分析を通じて緩和ケアの課題を明確化する。さらに、患者のニーズに応じたケア計画の立案やチーム医療の役割を理解し、緩和ケアの質を高める実践的スキルを習得することを目的とする。本科目では、終末期がん患者の化学療法終了に伴う倫理的・臨床的課題を学び、日本の医療体制に即した改善策を考察する。学習の到達目標として、化学療法終了がQOLに与える影響を説明し、統計データを用いて要因を分析、具体的なケアプランの立案、緩和ケアの早期介入の重要性理解、制度改善の提案能力を習得することを掲げる。	
			小児病態学特論		本科目では、小児期特有の疾患とその病態生理を学び、診断、治療、予防の最新知見を探求する。腎疾患、リウマチ性疾患、循環器疾患、内分泌・代謝性疾患、血液・腫瘍性疾患、神経疾患など多岐にわたる領域を扱い、多職種連携や地域医療の実践も重視する。特に、小児慢性腎臓病の早期発見に役立つ尿中メガリンや先天性心疾患の治療戦略、腫瘍性疾患における分子生物学的アプローチを含む基礎研究と臨床応用の統合を学ぶ。また、チーム医療の重要性を理解し、包括的な医療の実践力を養成する。学習目標には、小児疾患の病態理解、診断指標の応用、最新の治療技術の習得、分子生物学的アプローチの実践、多職種連携を活用した医療展開が含まれる。この講義を通じ、小児の健康と生活の質向上に寄与する能力を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	小児集中治療学演習		この演習科目では、新生児や小児の集中治療に関する基礎から高度な専門知識・技術までを学ぶ。対象は早産児や低出生体重児、複雑心奇形、横隔膜ヘルニアなどの重症児であり、呼吸管理や血液浄化療法、体外循環管理などを含む診療技術を習得する。また、家族中心ケア（FCC）の重要性を理解し、多職種連携による包括的ケアを実践する。さらに、退院後の在宅支援や地域医療との接続に関する課題も学ぶ。学生は、周産期医療センターや地域医療機関との連携を理解し、地域全体の小児集中治療の実践力を身につけることを目指す。また、臨床疑問を基にした研究テーマ設定や発表スキルを養い、家族の心理的支援や発達支援の重要性も深く学習する。この演習を通じ、生命予後や機能予後を改善できる専門医療者を育成することを目標とする。	
			発達免疫・心身学		本科目は、小児期に特有の感染症、免疫疾患、アレルギー疾患、心身症の診療と研究を包括的に学ぶ講義である。リアルタイムPCRなどを用いた迅速診断技術や、新生児・早産児の免疫応答、アレルギー疾患の治療法を学び、さらに心理・社会的要因が免疫に与える影響についても探究する。国内外の疫学データや研究成果を基に、理論と実践を結びつけ、地域および国際的な課題に対応できる視点を養う。学生は、小児特有の免疫応答や発達段階における病態を体系的に学び、診断・治療・予防に必要な知識と技術を習得する。また、心理と免疫の相関を理解し、実践的なケアの提案能力を身につけることを目指す。これにより、小児医療の現場で幅広い疾患に対応できる基礎を確立する。	
			臨床腫瘍学特論		本科目は、がんの基本的な概念と治療の総論を学ぶ講義科目である。乳がん、食道がん、大腸がん、肝胆膵がんなど多岐にわたるがんの診断・治療を基礎から学び、遺伝性がんやゲノム医療、集学的治療などの現代腫瘍学の重要テーマを取り上げる。がんの成因や診断・治療法、集学的治療の意義を理解し、臨床での応用力を養うことを目的とする。学生は、がんの発生メカニズムや治療戦略、遺伝的リスク評価、診療における多職種連携の重要性を体系的に学ぶ。さらに、最新の治療法や診療ガイドラインを症例を交えながら理解し、患者に最適な治療方針を提案する能力を身につける。本講義は、腫瘍学の基礎から臨床応用までを包括的に学び、医療現場での実践的な知識と技術を培う機会を提供する。	
			消化管外科学演習Ⅰ		この演習では、食道癌や胃癌を中心とした上部消化管疾患の診療と治療を実践的に学ぶ。手術療法、化学療法、放射線療法を含む集学的治療や症例検討を通じて、治療計画の立案能力を身につける。ロボット支援手術や腹腔鏡下手術といった最新の低侵襲技術の重要性を理解し、術後合併症の管理やQOL向上を目指したリハビリテーションについても学ぶ。演習では、症例カンファレンスや治療戦略のディスカッション、手術手技のビデオ教材を活用し、最新の臨床試験や基礎研究の成果をもとに議論を行う。特に、患者ごとの治療計画を立案する力や、研究成果を臨床に応用する視点を養うことを目的とする。評価は症例検討への参加状況、演習課題の達成度、小テストやレポートの内容をもとに行う。この演習を通じて、高度な専門性を備えた実践的な医療スキルを習得することを目指す。	
			消化管外科学演習Ⅱ		この演習では、大腸や直腸を中心とした下部消化管疾患の診療、治療、研究について学ぶ。大腸癌、直腸癌、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）などの外科的治療と薬物療法に関するスキルを症例カンファレンスやディスカッションを通じて習得する。遺伝性疾患やゲノム医療の進展にも焦点を当て、患者ごとの遺伝子変異に応じた個別化医療の理解を深める。手術適応の判断や術後管理、QOL向上を目指した新技術にも触れることで、集学的治療の実践力を養うことを目的とする。具体的には、大腸癌の遺伝子変異に基づく治療戦略、直腸癌の肛門温存術式、炎症性腸疾患への外科的アプローチ、骨盤内拡大手術、遺伝性大腸癌の診療フローや遺伝カウンセリング、ゲノム医療の応用を学ぶ。臨床試験や基礎研究の成果を活用し、科学的根拠に基づいた治療計画を立案する力を養成する。	
			臓器横断的がん診療演習		この演習では、肝胆膵領域を中心に、肝臓、胆道、膵臓などの悪性疾患に対する診療、治療、研究を学ぶ。胆道癌、肝臓癌、膵臓癌への外科的治療、化学療法、放射線療法を含む集学的治療の実践的スキルを習得し、症例カンファレンスを通じて多面的な診療アプローチを養う。演習では、早期癌への縮小手術、進行癌への拡大切除、術前術後管理、再発例への対応を学び、個別化医療やがんゲノム医療を踏まえた治療戦略を検討する。目的は臓器横断的な診療能力を育成し、科学的根拠に基づく治療方針を立案する力を身につけることである。	
			呼吸器外科学特論		この講義では、呼吸器外科における主要疾患とその診断・治療の基本を学ぶ。対象疾患は原発性肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、小児呼吸器疾患など。胸腔鏡手術（VATS）やロボット支援手術（RATS）といった低侵襲手術、周術期管理、集学的治療の概念を中心に講義が進められる。また、気道ステントの使用や肺移植の適応、治療法についても取り上げる。これらを通じて、疾患の病態理解、適切な治療選択、術後管理の知識を習得し、患者中心の診療を実践する基礎を養う。さらに、最新技術や研究活動の知見をもとに、チーム医療や集学的治療の重要性を学ぶことで、臨床現場での実践力を身につけることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	心臓血管外科学演習		この演習では、心臓血管外科の実践的スキルを症例ベースで学び、診療能力を高めることを目的とする。対象疾患は虚血性心疾患、心臓弁膜症、大動脈瘤、末梢血管疾患、先天性心疾患など幅広く、低侵襲手術（MICS、ステントグラフト治療）や機械的補助循環（VAD)など先端技術を実際の症例を通じて習得する。また、小児先天性心疾患の段階的手術や成人期のフォローアップについても学ぶ。演習では、症例カンファレンスを通じて治療戦略を立案し、手術手技のシミュレーションや周術期管理、合併症への対応を議論するほか、患者・家族とのコミュニケーションや多職種連携の重要性を学ぶ。これにより、受講者は最適な治療法の選択や根拠ある説明、チーム医療を実践する力を身につけることを目指す。	
			小児腫瘍病態制御学		本講義では、小児固形悪性腫瘍、血管奇形、リンパ管疾患を中心に、その病態や診断、治療法を体系的に学ぶ。糖鎖解析やゲノム医療を活用した最新の診断技術、免疫療法や再生医療など新しい治療法の進展を理解し、AYA世代を含む長期生存者への医療支援や晩期合併症への対応といった長期的な視点についても考察する。受講者は、小児腫瘍の発生機序や病態を深く理解し、患者に応じた治療戦略を立案する力を養う。また、基礎研究と臨床診療を結びつける視点を持ち、心理的ケアや社会的支援の重要性を理解する。学習の到達目標として、小児腫瘍の主要な病態と治療法、免疫療法やゲノム医療の適用、小児期からAYA世代における長期医療支援、診断技術の応用、多職種連携による包括的ケアの提案を目指す。	
			小児外科学概論		本講義では、小児外科が対象とする疾患の病態や治療法を、胎児期から学童期までの各年齢層に応じて体系的に学ぶ。先天性疾患や急性疾患の診断・治療に加え、小児特有の成長過程を考慮した医療の重要性を理解し、低侵襲手術や漢方治療といった小児外科特有の治療アプローチにも触れる。受講者は、疾患の診断から治療までの一連の流れを学び、患者に寄り添った治療方針を考える力を養う。また、腹腔鏡やナビゲーション手術などの低侵襲技術や、多職種連携による医療の実践例を通じて、集学的治療の意義と将来の医療に対応する視点を培う。学習の到達目標として、小児外科の代表的疾患や治療法の理解、年齢特有の症状の判断、低侵襲技術の適応、多職種連携の重要性、新しい治療技術の習得を目指す。	
			小児外科診療演習		この演習では、小児外科診療に必要な実践的スキルを身につけることを目指す。症例カンファレンスや模擬手術を通じて、診断能力や治療方針の立案スキルを高め、腹腔鏡や胸腔鏡を用いた手術技術を学ぶ。また、術後管理や合併症への対応法を理解し、多職種チーム医療の重要性を体感する。受講者は、出生前診断や移行期医療の実際を含め、患者のライフステージ全体を視野に入れた診療アプローチを学ぶ。最終的に、症例を基にした診断や治療計画の立案、手術手技の習得、術後管理能力の向上を図るとともに、他職種との連携を通じて患者中心の医療を実践する力を養う。	
			運動機能制御再建学		本科目は、骨・筋肉・関節・神経などの運動器疾患における再建治療の理論と技術を学ぶ講義である。放射線処理骨や人工関節を用いた再建手術、免疫療法や再生医療の最新技術を探求し、運動解析や三次元画像解析を基にした治療計画やリハビリテーションの基礎を理解することを目指す。本講義では、運動機能障害の病態や修復プロセスを学び、患者個々に適した治療法を考えられる能力を育成する。また、治療における倫理的視点や多職種連携の重要性を学び、包括的な医療提供を実践する力を養う。受講者は、再建治療の基礎知識を習得し、再生医療や免疫療法の応用を理解するとともに、運動機能評価に基づく治療計画を立案できる能力を身につけることを目標とする。	
			運動機能制御再建学演習		この演習では、運動器疾患の診断から治療、再建技術を実践的に学ぶ。症例カンファレンスや模擬手術を通じて、病態評価から治療戦略立案、三次元画像解析や運動解析を活用した精密な手術計画を体験する。リハビリテーションや再生医療の適応も含め、包括的な治療プロセスを学び、多職種連携を通じたチーム医療の実践力を養う。目的は、運動機能障害に対する診断能力や再建技術を向上させ、術後のリハビリ計画を含む総合的な治療設計能力を高めることにある。また、模擬手術や症例検討を通じて手技の精度を磨き、患者や家族とのコミュニケーション力を向上させる。到達目標として、診断・治療計画の立案、手術技術の習得、リハビリ計画の策定、チーム医療の実践力強化を目指す。	
			骨代謝免疫学		この講義では、骨代謝と免疫系の相互作用を学び、骨疾患の発症機序や治療戦略を探る。骨粗鬆症や関節リウマチなどの疾患を対象に、骨吸収と骨形成の分子機構、免疫細胞と骨細胞の連携を理解することを目指す。また、ビスホスホネートや抗体医薬などの治療薬の作用機序、最新の骨再生医療や免疫療法の応用についても取り上げる。受講者は基礎研究から臨床応用への視点を養い、骨疾患における診断と治療法を科学的に考察する力を身につける。これにより、免疫学的手法を活用した新規治療法を提案し、患者個々に最適な治療を提供する能力を高める。講義を通じて、骨代謝と免疫に関する知識を臨床課題の解決に応用し、包括的な診療基盤を構築することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	人工関節学		この講義では、人工関節置換術に必要な基礎知識から臨床応用までを学ぶ。人工股関節や膝関節を中心に、歴史や手術適応、デザイン、素材の特性を理解し、術後リハビリや合併症管理についても学習する。三次元アライメント解析や摩耗対策、次世代型人工関節の開発動向を含む最新の研究成果を取り上げ、手術後の機能回復を最大化するための戦略を考察する。受講者は、人工関節の設計や素材の科学的基盤を理解し、患者に適した診療計画を立案する能力を養う。さらに、術後のリハビリ計画や合併症予防、長期使用に伴う課題への対策を学び、患者の生活の質向上を目指す診療スキルを身につける。人工関節の現状と未来を批判的に評価し、治療技術の進展に対応できる視野を広げることを目標とする。	
			再建外科学特論		本講義では、再建外科の分野における最先端の技術と知識を体系的に学ぶ。頭頸部、乳房、四肢の再建やリンパ浮腫治療などの具体例を通じて、マイクロサージャリーや神経再生の新しいメカニズムを深く理解する。また、低侵襲レーザー治療や創傷治癒の促進を目指した薬理学的アプローチについても取り上げる。さらに、心理的ストレスが創傷治癒に与える影響とその対策に焦点を当て、科学的根拠に基づく包括的な患者ケアの視点を養う。これにより、受講者は臨床課題に対する洞察力を高め、再建外科分野の発展に貢献する能力を培うことを目指す。	
			再建外科学演習		この演習では、再建外科に必要な手術技術と診療スキルを実践的に学ぶ。マイクロサージャリー技術や神経再生手技のトレーニング、低侵襲治療のシミュレーションを通じて、診断から術後管理までの一連のプロセスを体験する。さらに、症例カンファレンスを通じて問題解決能力を養い、心理的ストレスが創傷治癒に与える影響についても考察することで、包括的な患者ケアの重要性を理解する。これにより、受講者は実践力を高め、チーム医療の一員として貢献できる能力を育成する。	
			皮膚病態解析学		本講義では、皮膚疾患の多様な病態や分子・遺伝子レベルのメカニズムを学び、薬疹や遺伝性皮膚疾患、接触アレルギーなどの代表的な疾患の発症メカニズムや診断技術、治療法を理解する。3Dスキンモデルを活用した治療法の評価や重症皮膚疾患のモデル動物を用いた研究を通じ、基礎研究と臨床応用のつながりを考察することを目的とする。受講者は、疾患ごとの発症メカニズムや治療法の選択基準を学び、特に遺伝子解析やプロテオーム解析などの先端技術を活用する能力を養う。また、個別化医療や患者特異的治療の意義を理解し、基礎研究と臨床の統合的視点から患者中心の医療を展開する視点を身につける。これにより、皮膚疾患の病態や治療法を深く理解し、新規治療法の提案や応用が可能となる能力を育むことを目指す。	
			皮膚病態解析学演習		本演習では、皮膚疾患研究に必要な実践的スキルを養い、基礎研究から臨床応用への架け橋となる能力を育成する。受講者は遺伝子解析やプロテオーム解析、3Dスキンモデルの作製などの最新技術を学び、重症薬疹や遺伝性皮膚疾患のモデルを用いて発症機序や治療法を探究する。また、接触アレルギーの原因特定やアレルゲン分析を通じて、診断技術の応用力を高める。これらの活動を通じ、基礎研究の成果を臨床に適用する方法や多職種連携の重要性を理解し、科学的議論を展開する能力を培う。最終的に、個別化医療の視点から患者に最適な治療戦略を考え、応用できる知識とスキルを身につけることを目指す。	
			皮膚腫瘍分子制御学		本講義では、皮膚腫瘍の発症機序や進展メカニズムを分子レベルで解明し、それに基づく新規治療戦略を学ぶ。腫瘍形成に関連する分子シグナル経路、ゲノム変異、免疫応答を理解するとともに、分子標的療法や免疫療法の最新知見を習得する。また、皮膚腫瘍の疫学的背景や社会的影響についても考察を深める。受講者は分子生物学と臨床腫瘍学を結びつける視点を持ち、科学的根拠に基づく治療戦略を構築する力を養うことを目的とする。さらに、腫瘍研究の社会的意義を認識し、患者ケアや医療政策への応用を視野に入れた学びを促進する。これにより、皮膚腫瘍の分子メカニズムを説明し、最新の治療法を理解し、新たな治療戦略を提案する力を育成する。	
			神経分子尿路科学		この講義では、下部尿路（膀胱、尿道、前立腺）の神経制御と分子機構を学び、排尿障害の発生メカニズムや治療法を理解する。過活動膀胱、神経因性膀胱、前立腺肥大症、腹圧性尿失禁などの疾患を中心に、神経伝達と薬理学的制御、分子メカニズムを基にした治療戦略を検討する。排尿障害の診断技術（膀胱内圧測定、排尿日誌など）や治療薬（β3受容体作動薬、抗コリン剤、α1受容体遮断薬）に加え、手術療法の選択基準についても学ぶ。患者個別性に応じた治療アプローチを考慮し、全人的な医療の視点を養うことを目的とする。また、下部尿路の神経制御機構を理解し、最新の研究成果を臨床応用するスキルを習得する。解剖学、神経生理学、薬理学を統合的に学び、下部尿路疾患の管理に必要な知識と応用力を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	泌尿器腫瘍制御学概論		この講義では、泌尿器がん（前立腺がん、腎がん、膀胱がん、精巣がん）の病態、診断、治療法を体系的に学ぶ。前立腺がんではPSA検査やロボット支援手術、腎がんでは腫瘍の診断と手術方法、膀胱がんでは内視鏡手術や放射線治療、精巣がんでは病期別の治療法などを取り上げる。さらに、各治療法の特性、治療中や治療後の副作用の管理、最新技術（免疫療法、ロボット支援手術）の応用についても学ぶ。患者のQOL向上を重視した多職種連携の重要性を理解し、患者中心の医療提供の実践力を育成することを目指す。学生はこれらを通じて泌尿器腫瘍の診療に必要な専門知識と臨床応用力を習得する。	
			泌尿器腫瘍制御学特論		泌尿器腫瘍に関連する疾患や治療、研究を学び、前立腺がん、腎細胞がん、膀胱がんなどの病態解明から治療戦略、分子腫瘍マーカーや新規分子標的薬の研究までを扱う講義。IgG4関連疾患や転移性腎細胞がんの臨床データ解析を通じて診断基準や治療指針を学び、診療情報の活用方法も習得する。目的は、泌尿器腫瘍の病態と治療法を理解し、診療情報や病理組織を活用した臨床研究の基礎を身につけること。分子腫瘍マーカーの役割や研究プロセスの理解を深め、診療と研究をつなぐ視点を養成する。主要テーマは泌尿器腫瘍の最新動向、分子腫瘍マーカーの開発、IgG4関連疾患や転移性腎細胞がんの診断基準と治療、臨床データの研究応用など。診療情報を基にした研究の意義を学び、医療と研究を連携させる能力を育成する。	
			小児泌尿器病態調節学		この講義では、小児泌尿器科の代表的な疾患を中心に、腎・尿路系および生殖器の病態と治療に関する基礎と臨床の知識を学ぶ。停留精巣、尿道下裂、腎盂尿管移行部狭窄症、膀胱尿管逆流症などを題材に、病態生理、診断技術、治療戦略を詳しく解説し、特殊検査や外科的手法、内科的治療の実際を学ぶ。多職種連携の重要性を理解し、小児科や内分泌科との協力を通じた治療計画の立案スキルを養うことを目的とする。学生は、小児特有の生理学的特性を考慮した治療法を提案できる能力を育成し、検査法の適応や役割についても理解を深める。これにより、小児泌尿器疾患治療における基礎から応用までの知識を体系的に習得し、現場で活用する力を育む。	
			移植臓器機能調節学		この講義では、腎移植を中心とした移植医療における臓器機能の調節と治療戦略を学ぶ。腎移植の適応、手術手技、術後管理の基礎知識を習得し、生体腎移植と献腎移植の特性や拒絶反応のメカニズム、免疫抑制療法の応用について理解を深める。拒絶反応の管理や予後改善のための最新技術を取り上げ、患者のQOL向上を目指した治療計画を立案する能力を育成する。さらに、移植医療における倫理的課題や多職種連携の重要性を学び、移植臓器の長期生着率向上に向けた視点を養う。腎移植に関する理論と実践を体系的に学ぶことで、移植医療の現場で必要とされる知識と実践力を高め、患者中心の医療提供に貢献することを目指す。	
			移植医学演習		この演習では、移植医療の臨床と基礎研究を融合させ、実践的なスキルと科学的知識を養うことを目的とする。臨床症例を基に手術適応の判断や予後評価を行い、移植医療における実践的な判断力を高める。また、細胞性拒絶反応や抗体関連型拒絶反応の要因を実験的手法を通じて解析し、拒絶反応のメカニズムとその対策を深く理解する。演習内容には、適応基準の判断、予後調査、免疫抑制療法の評価、抗体測定や補体活性化の実験などが含まれる。これらを通じて、移植医療の現場で求められる判断力、分析力、実践力を育成するとともに、臨床と基礎研究を結びつける視点を養う。移植医療における最新の研究成果や技術も取り入れ、総合的な移植医学の理解を深める。	
			放射線診断学特論		本科目では、放射線画像診断の基礎から応用までを学び、肺腫瘍、循環器疾患、中枢神経疾患を中心とした画像解析技術を習得する。CT、MRI、核医学検査などの手法を用い、疾患の病態解明や治療方針の決定に役立つ知識を深める。特に肺腺癌の予後不良因子となるCT所見、Dual Energyイメージングを活用した肺塞栓症の診断、エンドリークに関する新たな評価方法について詳しく学ぶ。また、画像所見と臨床・病理データの関連性を理解し、診断や治療計画に活用する能力を養う。学生は、画像診断が患者ケアに果たす役割を実践的に理解し、質的診断の向上や治療効果の評価に応用できる知識と技能を身につけることを目指す。最新技術の習得と臨床応用を通じて、放射線診断の専門性を深めることを目的とする。	
			放射線腫瘍学		放射線治療の基礎理論から最新技術までを包括的に学び、腫瘍制御と正常組織保護のバランスを考慮した治療設計や応用方法を理解することを目的とする。転移性脳腫瘍、肺定位照射、食道癌、前立腺癌などの臨床課題を通じて、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）、呼吸同期照射などの先端技術の実際と効果を学ぶ。放射線治療の基本理論、各種腫瘍に対する治療の適応、効果、課題について考察し、治療計画における腫瘍制御と正常組織保護の重要性を理解する。また、治療成績や有害事象の評価指標を学び、放射線腫瘍学における臨床研究と実践の統合的視点を養う。これにより、放射線治療の理論を実践に応用し、今後の治療技術や研究に創造的に貢献できる人材を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	放射線腫瘍学演習		本演習では、放射線治療の計画、実施、効果評価のプロセスを症例を通じて実践的に学ぶ。強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）、呼吸同期照射など最新技術を活用し、腫瘍制御と正常組織保護を両立する治療計画の作成や評価を行う。治療中の問題への対応方法や治療後のフォローアップにおける評価方法を学び、放射線治療における課題解決能力を高める。さらに、多職種連携の重要性を理解し、適切なコミュニケーションを通じたチーム医療を実践する能力を養う。治療計画の立案と評価、有害事象の管理、治療精度の向上に向けた具体的な方法を学び、放射線腫瘍学の理論に基づく実践的な知識と技能を習得することを目指す。	
			婦人科腫瘍学特論		本科目では、子宮筋腫や卵巣腫瘍などの良性疾患から子宮頸がんや卵巣がんといった悪性疾患までを対象に、診断技術や治療法を幅広く学ぶ。手術、化学療法、放射線療法、免疫療法といった治療法の基礎から最新の個別化医療の実践までを探求し、患者のQOL向上と治療効果の最適化を目指す。特にがんゲノム医療や遺伝子診療を通じた遺伝性がんの管理、臨床試験の意義と運営、そして多職種連携による集学的治療の重要性を学ぶことを重視する。学習の目標は、婦人科腫瘍の病態生理や治療法の基礎知識を習得し、適切な治療計画を立案できる能力を養うことにある。また、最新の診断・治療技術を理解し、エビデンスに基づく医療と多職種連携の実践を通じて、集学的な治療に貢献できる力を身につけることを目指す。	
			生殖内分泌学実習		生殖内分泌に関連する基礎知識から、不妊症の診断・治療技術を学ぶ。排卵誘発、人工授精、体外受精、顕微授精などの実践的な技術や、月経異常やホルモンバランスの乱れに対する内分泌療法も扱う。また、生殖補助医療の倫理的課題や患者への心理的支援、情報提供の方法を習得する。さらに、タイムラプス撮像法や子宮内膜細菌叢検査などの最新技術や研究成果を学び、臨床応用を目指す。不妊症の原因と診断方法を理解し、症例に応じた治療計画を立案できる能力を育成するほか、男性不妊や月経異常への対応、倫理的視点からの意思決定支援能力を養う。これにより、生殖補助医療の現場で必要とされる高度な知識と実践力を身につけることを目的とする。	
			周産期医学概論		母体・胎児、新生児の包括的なケアに関する基礎から高度な知識を学び、周産期医療の実践に必要な理論を探究する。ハイリスク妊娠や早産、低出生体重児、先天性疾患などの管理を中心に、集中治療室での診療体制や最新の診断・治療法、遺伝カウンセリングの実際に触れる。母体、胎児、新生児の健康を維持・向上させる基礎を理解し、リスク管理能力を育成することを目的とし、多職種連携による医療提供方法の知識を深め、臨床現場での実践力を養う。解剖学や生理学などの基礎を説明できる能力をはじめ、ハイリスク症例の診断・治療の流れや多職種協働の重要性、遺伝検査の意義を理解し、臨床応用の力を身につける。また、周産期医療における倫理的課題に対し、科学的かつ人道的視点から議論できることを目標とする。	
			女性医学演習		女性のライフステージに応じた健康課題を学び、月経困難症、月経前症候群、更年期障害、骨盤臓器脱、骨粗鬆症などの疾患への理解を深める。ホルモン療法、漢方治療、生活指導などを組み合わせた治療法を学ぶとともに、患者中心の医療提供方法を探究する。また、小児泌尿生殖器疾患や性分化疾患、がん治療後の心身ケアについても学び、各患者の個別性に応じた支援方法を習得する。これにより、ライフステージごとの健康課題を理解し、多様な治療法の選択・適用能力を養う。さらに、多職種連携による包括的ケアを提供できる能力を育成し、患者に寄り添う倫理的観点を持った医療者を目指す。	
			術中麻酔管理学演習		手術中の麻酔管理を学ぶ本科目では、心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、産科など多岐にわたる手術領域の麻酔計画立案と実践を行う。ロボット支援手術やハイブリッド手術室での特殊技術も含め、経食道心エコー、水分バランス管理、脊髄機能モニタリングなど高度な技術を修得する。また、小児麻酔や帝王切開麻酔など、特殊な患者群への対応能力を養う。多職種連携を重視し、安全かつ質の高い周術期医療を実現するためのチーム医療の実践スキルを向上させる。倫理的課題や患者安全への対応力も含め、幅広い麻酔管理の知識と技術を習得する。	
			疼痛管理学演習		この科目では、疼痛の評価、診断、治療法を体系的に学び、急性・慢性の痛みやがん性疼痛、神経障害性疼痛に対する包括的な疼痛管理スキルを修得する。ペインクリニックの役割を理解し、薬物療法や神経ブロック、高周波熱凝固法、脊髄電気刺激療法など多岐にわたる治療法を学ぶことで、痛みに対する専門的なアプローチを習得する。また、痛みが患者の生活や心理に及ぼす影響を考慮した総合的な診療能力を育成する。到達目標として、疼痛の病態評価や診断の実施、最適な治療法の選択と適用、超音波やX線透視下での神経ブロック技術の理解、がん性疼痛の緩和ケア実践を挙げる。患者中心の診療を実践することで、医療の質を高める疼痛管理能力を習得することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	麻酔学特論		この科目では、痛みと麻酔に関する基礎および応用的な研究を通じて、麻酔の作用機序や痛みの伝達機構に関する高度な知識を学ぶ。特に、脊髄や脳における痛みの伝達経路、神経伝達物質の役割、麻酔薬が神経機能に与える影響を探求する。実験的手法として、パッチクランプ法やフラビン蛋白蛍光イメージング法を用い、神経伝達や麻酔の効果を可視化することで、多角的な疼痛研究を実践する。さらに、吸入麻酔薬と静脈麻酔薬の違い、ニューロモジュレーターの影響についても理解を深め、安全で副作用の少ない新規麻酔薬の開発を目指す。本科目は、基礎研究の成果を臨床に応用するトランスレーショナルリサーチを推進し、痛みや麻酔管理の質の向上を図ることを目的とする。	
			耳鼻咽喉手術学演習		耳鼻咽喉領域の外科的治療技術を学ぶ本演習では、耳、鼻、咽喉に関連する代表的な疾患を対象とし、手術の基本手技を実践的に習得することを目的とする。慢性中耳炎や中耳真珠腫、耳硬化症、鼻副鼻腔疾患、咽喉頭癌、嚥下障害に対する手術などを対象に、手術適応の判断から術前評価、手術計画、術後管理までを一貫して学ぶ。内視鏡操作や3Dモデルを用いた手術シミュレーションにより、安全かつ効果的な手術技術の基礎を養う。また、解剖学的知識を深め、術式選択の理論的根拠を理解することで、患者に適した治療を提供する能力を身につける。さらに、合併症の予防や患者の生活の質を向上させる視点も重視し、患者中心の医療に基づく倫理的判断力を強化することを目指す。	
			聴覚障害学特論		聴覚障害に関する医学的、社会的、技術的側面を多角的に学ぶ。聴覚の生理学や病態、診断技術、補聴器や人工内耳といった補聴技術、さらにはリハビリテーションや社会支援まで幅広く取り上げる。特に、難聴と認知機能低下の関連性や遺伝性難聴の病態解明、新しい補聴技術の応用について最新の研究成果をもとに学習する。学生は聴覚の構造と機能、難聴の原因と診断法を理解し、補聴機器の適応基準や選択方法、社会的支援制度についての知識を習得する。さらに、聴覚障害と認知機能低下の関連や臨床・研究的課題への解決策を科学的根拠に基づいて考察する力を養う。これにより、患者の生活の質向上を目指した包括的な医療提供ができる能力を培い、新たな治療や支援方法の開発に貢献する力を育成する。	
			めまいと平衡障害学		めまいと平衡障害に関する解剖学、生理学、病態生理を学び、診断、治療、リハビリテーションの知識と技術を習得する。良性発作性頭位めまい症やメニエール病、前庭神経炎などの主要疾患について、診断方法と治療法を体系的に理解し、実践的な診療能力を養う。さらに、最新の研究成果や技術も取り入れ、多職種連携による総合的なケアの重要性を学ぶ。目標として、平衡障害の発生メカニズムを理解し、関連する検査や治療法を適切に実施できる能力を身につける。また、検査結果の解釈や最適な治療計画の立案、心理的支援を含めた患者中心の医療を実践できることを目指す。これにより、患者の生活の質向上に貢献する知識とスキルを習得する。	
			頭頸部腫瘍学		頭頸部腫瘍の基礎から臨床までを体系的に学び、解剖学や病態生理学、病理学的特徴を通じて腫瘍の発生・進展メカニズムを理解する。主要疾患の診断基準や治療法を習得し、手術、放射線療法、化学療法、免疫療法など多岐にわたる治療の選択基準や適応を学ぶ。また、治療に伴う機能的障害や合併症への対応法を習得し、患者の生活の質（QOL）向上に寄与する方法を考える。科学的根拠に基づいた診療を行うため、ガイドラインや臨床研究を活用し、最新の治療法や技術の動向にも触れる。さらに、多職種連携の重要性を理解し、患者中心のアプローチを通じて包括的なケアを実践する能力を育成することを目的とする。	
			腎疾患組織病理学演習		この演習では、腎生検による組織診断の理論と実践を学び、腎疾患の病理学的特徴を解析するスキルを習得する。光学顕微鏡や電子顕微鏡、蛍光抗体法を用い、腎疾患の病理像を読み解き、臨床情報と結びつけて診断を行うプロセスを理解する。遠隔診断システムや最新の研究成果を活用し、臨床医との連携による診断力の向上を目指す。具体的には、腎疾患の代表的な病理像を説明し、腎生検標本を解析して診断を実践し、治療方針を立案する能力を育成する。さらに、腎生検データの縦断的解析や研究成果を基にした治療選択の考察を通じて、腎疾患治療に対する理解を深める。臨床病理学的な研究や症例のディスカッションを通じて、より質の高い診断と治療の実践力を養うことを目指す。	
			慢性腎臓病病態学特論		慢性腎臓病（CKD）や尿毒症に関連する病態と治療について、基礎研究と臨床研究を基に学ぶ。CKDにおける動脈硬化や骨粗鬆症の進展メカニズム、透析アミロイドーシスの病因解明などの研究成果を通じて、疾患の複雑な病態を理解する。また、蛋白結合尿毒症物質を効率的に除去する新規血液浄化システムや、災害時に役立つ簡易血液浄化技術の開発事例を紹介し、最新の治療技術について考察する。臨床データの解析を通じて疾患リスクや治療効果を評価する手法を学び、基礎研究と臨床研究の連携の重要性を認識する。さらに、腎疾患治療の未来を見据えた研究的視点を養い、次世代の治療法を模索する能力を育成することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	腎代謝学総論		腎臓と代謝疾患の関連を学び、慢性腎臓病（CKD）や糖尿病性腎症をはじめとする病態の基礎から最新の研究成果を探究する。糖尿病やメタボリックシンドロームなど生活習慣病が腎疾患に与える影響を理解し、管理や治療法の実践的知識を習得する。また、低たんぱく質食や栄養療法の効果、SGLT2阻害薬や新規血液浄化システムの開発動向を学び、患者のQOL向上を目指す。さらに、糖尿病と腎疾患を総合的に診る医療の重要性を認識し、腎臓病・糖尿病専門医の育成にも焦点を当てる。基礎研究と臨床研究の連携の重要性を理解し、農学部や企業との共同研究で進められる米タンパク質の有用性や新規治療法の実例も紹介する。これらを通じ、研究成果を医療現場で活用する知識を身につける。	
			腎免疫病態学		本講義では、腎疾患と免疫の相互関係を学び、膠原病やリウマチ性疾患の病態、診断、治療について探求する。特に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス（SLE）、ANCA関連血管炎などの自己免疫疾患の腎合併症に焦点を当てる。また、最新の臨床・基礎研究や治験の知見を基に、病態のメカニズムを深く理解することを目指す。主な内容は、自己免疫疾患に伴う腎病態の特徴や治療戦略、生物学的製剤やステロイド治療の役割と副作用、長期予後の合併症対策などを含む。学生は自己免疫疾患の診療や研究を体系的に学び、多職種連携の重要性を認識しつつ、臨床と研究の両立を目指す医師としての基礎を養う。本科目は、腎・膠原病診療の実践的なスキルと学術的な視点を兼ね備えた医師の育成を目指している。	
			腎分子生物学演習		腎分子生物学演習では、腎疾患の分子メカニズムを解明するための実験技術とデータ解析を学ぶ。遺伝子解析や疾患モデルを用いて、IgA腎症や非定型溶血性尿毒症症候群の発症・進展機構を実践的に研究する。具体的には、全ゲノム塩基配列解析を通じた病因遺伝子の特定や、細胞培養を用いたIgA受容体の機能解析、メタゲノム解析による細菌叢の解析を行う。また、培養細胞や動物モデルを使い、実験計画の立案から結果の考察までのプロセスを体験する。さらに、多分野との共同研究を通じて学際的な視点を養い、腎疾患研究に必要な技術と考察力を育成することを目的とする。この演習を通じ、基礎研究の現場で求められるスキルを実践的に学ぶ機会を提供する。	
			腎糸球体分子生物学		腎臓の糸球体における分子生物学的仕組みを探究し、特に糸球体上皮細胞（ポドサイト）やスリット膜の構造と機能に焦点を当てる。蛋白尿発症のメカニズムやそれに関連するNephrinやEphrin-B1といった分子群の役割を学ぶことで、腎疾患の進展メカニズムを理解する。また、これらの知識を基に、新規治療法や診断技術の開発がどのように進められているかを紹介し、腎臓医学の発展における分子生物学の重要性を理解する。科目の目標は、糸球体構造の分子基盤を把握し、腎疾患の病態や治療に分子生物学の視点からアプローチできる基礎知識を培うことである。	
			腎分子病態学特論		この科目では、腎疾患における糸球体メサンギウム細胞の役割と、慢性糸球体腎炎、特にメサンギウム増殖性腎炎の発症・進展メカニズムを学ぶ。IgA腎症をはじめとした疾患の病態解明を目的に、炎症性メディエーターの役割や動物モデルの特徴を探求し、新規治療法や予防法の開発に向けた基礎研究を紹介する。メサンギウム細胞の構造と機能、炎症性分子の影響を理解し、病態解明に必要な実験データの解釈を習得することで、腎疾患研究の重要性を認識する。学生は、メサンギウム増殖性腎炎の分子メカニズムを論じ、研究成果が治療や予防にどう応用されるかを議論できるようになることを目指す。	
			腎糸球体構造病態学		本科目では、腎糸球体スリット膜の分子構造とその役割を分子レベルで探求し、蛋白尿発症メカニズムを中心に学ぶ。Nephrin、Ephrin-B1、Par complexなどの分子群を取り上げ、スリット膜の機能と病態形成への影響を解明する。さらに、蛋白尿が腎疾患の進行や全身疾患に及ぼす影響を理解し、新規治療法や診断技術の基盤となる研究についても学ぶ。スリット膜構造と機能の基礎を理解し、蛋白尿発症と腎疾患進行におけるメカニズムを明確にすることを目指す。これを通じて、治療や診断法の開発を支える知識を深め、分子生物学の視点から腎疾患研究の発展に貢献する力を養う。学習の到達目標として、スリット膜分子の役割、蛋白尿発症メカニズム、新規治療法の応用可能性を説明できる能力を育成する。	
			腫瘍病理学		腫瘍の形態的特徴や遺伝子変異、放射線感受性について学び、腫瘍の発生から進展に至る過程を病理学的視点で理解することを目的とする。特に消化器系臓器（大腸、胃、食道、肝胆膵）を中心に、形態学、免疫組織学、分子生物学的手法を組み合わせた最新の研究成果を紹介し、腫瘍診断と治療に必要な基礎知識と応用力を養成する。内容としては、腫瘍の前腫瘍性病変、良性腫瘍、悪性腫瘍の形態的進展を理解し、腫瘍進展に関わる遺伝子変異や分子メカニズムについて学ぶ。また、大腸癌の悪性度診断やピロリ菌除菌後の早期胃癌、Barrett食道腺癌など、各種消化器系腫瘍の特徴や臨床的意義を深掘りする。形態観察や分子手法の活用を通じて、腫瘍の診断や治療計画への応用力を高め、国際共同研究の成果も活かしながら、病理学的知識の実践的な活用を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	精密医学研究コース	病態細胞学		腫瘍の発生と生長における形態学的変化と遺伝子異常の関係を学び、特に消化管腫瘍を対象に腫瘍の多段階進展を詳細に理解することを目的とする。腫瘍の形態像と遺伝子変異、形態像と生物学的悪性度の関連を探ることで、腫瘍学における基礎的知識と応用力を養う。また、履修者が個別に選んだ研究課題を設定し、腫瘍の形態や分子生物学的背景について分析する実践的なスキルを身につける。講義では腫瘍の形態的特徴や分類、主要な遺伝子変異の影響、生物学的悪性度との関係を扱い、実習では形態学的観察と分子データ解析を組み合わせた課題研究を実施する。腫瘍の診断や治療に結びつく知見を深め、研究成果を論理的にまとめる能力を高めることを目指す。	
			臨床病理学演習		この演習では、病理学の基礎から臨床応用までを実践的に学び、病理診断のプロセスを通じて診断力と考察力を養うことを目的とする。人体から採取された細胞診や組織診、生検や外科切除検体を観察し、病変の形態学的特徴と疾患の病態を関連付けて理解する。また、CPC（臨床・病理検討会）や肉眼検討会に参加し、臨床医や医療スタッフと協働して症例を検討することで、病理医が医療チーム内で果たす役割を学ぶ。演習では、細胞・組織観察技術や診断手法の習得に加え、病理学的データの考察を基に診断と治療方針の統合的理解を深める。さらに、消化管を中心とした症例研究やグループワークを通じて、論理的思考や発表スキルを磨くことを目指す。臨床現場と病理学の橋渡しを担う病理医の重要性を実感しながら、診断力と応用力を育成する演習である。	
		脳と心の研究コース	認知脳科学特論		本講義では、ヒトの知性を生み出す脳の働きを霊長類モデルを用いて探求し、視覚認知、記憶、文字言語、社会認知に関連する大脳メカニズムを学ぶ。さらに、光・化学遺伝学的手法を用いた脳回路操作の基礎や脳科学研究の最新成果について解説することで、知性に関連する脳の仕組みを深く理解することを目指す。受講者は、霊長類モデル研究の重要性と応用可能性を認識し、視覚や言語、社会認知における脳の動態について最新の研究知見を習得する。学習の到達目標として、大脳メカニズムや脳回路操作技術の基礎理論を理解し、研究成果を議論できる能力を育成する。また、得られた知識を基に知性に関わる脳科学研究の課題を提案し、新たな仮説を立案する力を養う。	
			認知脳科学演習		本演習科目では、神経回路を解析し制御するための手法を学ぶ。皮質脳波法を活用して神経活動を記録・解析し、視覚認知や記憶に関連する神経回路の動態を評価する。また、光・化学遺伝学的手法を用いた脳回路操作の実験計画を検討し、仮説の立案からデータ解析までのプロセスを実践的に習得することを目指す。受講者は、皮質脳波法によるデータ取得と解析技術を習得し、得られた結果を基に神経回路の動態を解釈する力を養う。さらに、光・化学遺伝学的手法を活用した脳回路操作を計画できる能力を身につけ、実験結果を基に新たな仮説を提案するスキルを育成する。これにより、神経回路解析の成果を論理的にまとめ、研究課題を議論できる力を培う。	
			認知脳科学実習		本実習科目では、霊長類モデルを活用し、皮質脳波法を中心とした神経科学研究の基盤技術を習得する。電極設置や神経活動の記録、データ取得と解析手法を実践し、視覚認知や社会認知に関連する脳回路操作を通じて、光・化学遺伝学的手法の応用を体験することを目的とする。受講者は、霊長類モデルを用いた基本的な操作技術を学び、得られた実験データを基に解析を行い、研究成果を論理的にまとめるスキルを養成する。また、光・化学遺伝学的手法を活用した脳回路操作の経験を通じて、その応用可能性を理解し、自身の研究テーマに応用する力を育てる。最終的には、これらの技術を活用して独自の研究計画を立案し、実行できる能力を身につけることを目指す。	
			神経発達学特論		本講義では、発達期の神経回路形成が情動や行動の基盤としてどのように機能するかを探究する。経験が神経回路の形成や可塑性に与える影響を明らかにし、精神疾患や発達障害の基盤について学ぶことで、これらの疾患への応用可能性を考察する。さらに、回路形成を制御する遺伝子群や最新の研究事例を通じて、治療や予防の方向性を探る。受講者は、発達期脳の神経回路形成の基本原理や可塑性に関する知識を深め、経験が神経回路に与える影響や疾患との関連性を論じる力を養う。最新の研究知見を基に応用可能性を考察し、独自の研究テーマを構築するための基盤を構築する。到達目標として、神経回路形成の基本概念を理解し、発達期における回路個性の獲得や、精神疾患、発達障害の研究課題を提案できる力を育成することを目指す。	
			神経発達学演習		本演習科目では、発達期神経回路の形成と可塑性を解析するための技術を学ぶ。動物モデルを用いて神経回路を可視化し、画像認識システムを活用したデータ解析を行うことで、神経回路の構造と機能を深く理解する。また、回路形成を制御する遺伝子群の実験的検証を通じて分子メカニズムを探り、大人のマウス脳で柔軟な回路形成を再現する手法を模索する。受講者は、可視化技術と解析手法を習得し、得られたデータを基に実験計画を立案するスキルを養う。さらに、研究結果から新たな仮説を提案し、研究アプローチを設計する能力を育成する。これにより、発達期の脳科学研究に貢献するための実践的技術と応用力を身につけることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳と心の研究コース	分子精神医学		分子精神医学は、精神疾患の分子レベルでの病態解明と治療法開発を学ぶ講義である。統合失調症や自閉症スペクトラム障害を対象に、ゲノム解析や神経伝達物質の異常、薬物応答性の個体差を解析し、個別化医療の実現を目指す。講義では、遺伝学や薬理学の基礎知識をもとに、患者特性に応じた治療提案能力を養い、動物モデルや死後脳研究、脳画像解析などの技術を活用し、基礎研究と臨床応用を繋げるプロセスを学ぶ。具体的には、精神疾患の遺伝的要因と主要な感受性遺伝子の理解、向精神薬の効果と副作用の個別化、神経心理学や脳画像データを用いた中間表現型の解析、動物モデルや死後脳を用いた神経栄養因子の異常解析、基礎研究成果を臨床応用に結びつける計画立案などを目標とする。これにより、精神疾患の治療と研究の新たなアプローチを開発する能力を養成する。	
			精神機能治療学		この科目では、精神疾患の認知・行動異常と脳構造・機能の関係を解明し、最新の治療アプローチを学ぶことを目的とする。超高磁場MRIや近赤外線スペクトロスコピー（NIRS）を活用した統合失調症や自閉症スペクトラム障害（ASD）、強迫性障害の解析手法を中心に、非侵襲的脳計測技術を駆使した臨床応用を探る。また、発達障害や摂食障害の生物学的要因と心理社会的要因を統合的に理解し、症例に基づく治療法の提案能力を養成する。さらに、生物学的視点と力動的視点を融合させ、不適応行動への治療的対応を学ぶ。これにより、最新の脳科学的技術と心理学的アプローチを活用した実践的知識を習得し、臨床と研究の架け橋となる能力を育成する。	
			臨床心理学演習		この科目では、力動的アプローチや認知行動療法に基づく症例検討を行い、臨床心理学の実践的スキルを養う。また、統合失調症や精神病性障害患者を対象とした心理教育プログラムの設計や効果検証を通じて、心理的支援のエビデンスに基づくアプローチを学ぶ。さらに、精神腫瘍学の視点を取り入れ、癌患者やその家族への心理的・社会的支援の方法論を理解し、緩和医療における心理学的役割を探求する。心理支援の方法を深めると同時に、データ収集・分析の技術を習得し、実践と研究の両面から心理学の貢献を考察する。最終的に、多職種連携や患者との協働を重視し、臨床現場での心理的介入を実践的に展開できる能力を養成する。	
			眼科学総論		本講義では、眼と視覚の基礎から臨床的応用まで幅広く学び、眼が人体と生活の質に与える重要性を理解することを目指す。眼が中枢神経系の一部として持つ特性やその発生、生理、病理について学ぶとともに、緑内障や黄斑疾患、眼腫瘍、ぶどう膜炎などの主要な眼疾患の病態と治療法を体系的に理解する。また、光干渉断層計（OCT）やアンギオグラフィーといった先進的な診断技術の原理と臨床応用にも触れる。さらに、眼疾患が患者の生活の質（QOL）に及ぼす影響を考察し、治療を通じてその改善を目指す医療の在り方を考える力を養う。受講者は、眼の構造と機能を学ぶことで全身疾患との関連性も理解し、診療科としての眼科の魅力と重要性を体感しながら、患者に寄り添った治療法を模索する姿勢を身につけることを目標とする。	
			眼科学演習		この演習では、眼科診療の実践的スキルを養うことを目的に、外来診療、病棟業務、手術助手としての経験を通じて、理論と実践を結びつける力を育てる。視力・視野測定や眼底検査、光干渉断層計（OCT）を用いた画像診断技術を体験し、緑内障や黄斑疾患、眼腫瘍などの症例をもとに診断・治療計画を立案する。さらに、患者の生活の質（QOL）向上を目指した医療を実践し、多職種チーム医療の重要性を理解しながら、連携を円滑に進めるスキルも学ぶ。患者への説明やケアを通じたコミュニケーション力を磨き、最新の診断技術や治療法を実践に応用することで、眼科医として必要な総合的な能力を身につけることを目指す。	
			シナプス可塑性機構論		シナプス可塑性機構論では、記憶・学習、情動など脳の高次機能を分子レベルで解析するための基礎と最新研究を学ぶ。発生工学や分子生物学の技術を活用した研究手法を中心に、シナプス可塑性が神経回路の形成や維持、行動や認知に与える影響を解説する。具体的には、長期増強(LTP)や長期抑圧(LTD)などシナプス可塑性の分子基盤、遺伝子発現解析やトランスジェニック技術、神経回路と脳疾患の関連性を取り扱う。また、最新の神経科学研究にも触れ、フロンティア的な視点を養う。評価は筆記試験、レポート課題、ディスカッションを通じて行い、理論の理解だけでなく批判的思考力の育成も目指す。分子レベルの知識を基に自らの研究課題を構築する力を育てることを目的とする。	
			脳細胞病態学特論		本科目では、脳神経科学における最先端技術の理論と応用を学ぶ。SLENDR法やvSLENDR法をはじめとする革新的なゲノム編集技術や2光子イメージング、光遺伝学、電気生理学など、学習・記憶や発達障害の病態解明に活用される技術の背景と具体的な応用方法を深掘りする。また、これらの技術を通じて複雑な脳のシステムを解析する重要性や研究デザインの考え方を学ぶ。さらに、最新の研究成果を取り上げ、神経科学研究の進展と課題を議論し、批判的な分析能力を養うことを目的とする。学生は、学習・記憶や発達障害に関連する分子・細胞・回路レベルのメカニズムを理解し、研究課題に応じた技術の選択や応用を考える力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳と心の研究コース	脳細胞病態学演習		この科目では、脳神経科学研究に必要な実験技術を実践的に学ぶ。SLENDR法やvSLENDR法を用いたゲノム編集技術、2光子イメージングや蛍光寿命イメージング（FLIM）、光遺伝学、電気生理学などの最先端技術を習得し、生体脳内の分子・細胞・回路の動態を解析する方法を実践的に学ぶ。また、学習・記憶の生理や発達障害の病態研究を念頭に置き、実験計画の立案と実行を通じて研究課題に応用する能力を養う。SLENDR法や2光子顕微鏡を用いた解析や光遺伝学、パッチクランプ法などを実施し、実験データの取得・解析から考察までを一貫して学ぶことを目指す。これにより、学習・記憶や発達障害の分野における研究テーマを基にした実験計画を提案・実行できる力を身につける。	
			脳構造解析学特論		この科目では、ヒト脳組織の3D解析技術に関する理論と応用を学ぶ。透明化技術やシート照明型蛍光顕微鏡を用いた高解像度3Dイメージング技術を中心に、従来の2D組織診を超える解析手法を習得する。また、透明化処理に伴うタンパク質保存や抗原性維持、自家蛍光低減などの課題とその解決策を理解し、3D蛍光染色や免疫染色技術の開発背景と応用例を学ぶ。これにより、神経病理学分野における新たな診断基準の構築や病変形成メカニズムの解明に貢献する知識を得ることを目指す。学生は、これらの技術の基礎から応用までを体系的に学び、神経病理学の発展に寄与する研究視点と技術革新への理解を深める。	
			脳構造解析学演習		この科目では、ヒト脳組織の3D解析を実践的に学び、透明化技術やシート照明型蛍光顕微鏡を用いた高解像度3Dイメージング技術を習得する。実験を通じて、組織透明化のための処理手順、蛍光染色および免疫染色の技術、自家蛍光低減の実践的手法を学び、神経病理学分野での応用力を養う。また、これらの技術を基に、神経病理学の新たな研究テーマを発展させるための実験計画を立案・実行する能力を身につけることを目指す。学生は、3D解析の理論と実践を通じて、神経組織解析における技術的課題を克服し、独自の研究課題を構築するための知識とスキルを得る。	
			先端脳科学技術特論		この科目では、脳神経科学とニューロテクノロジーの発展が社会に及ぼす影響について学ぶ。脳深部刺激療法(DBS)、ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)、意識の形成メカニズム、無意識の科学、大衆心理操作技術、感情や創造性の進化、脳神経倫理学など幅広いテーマを体系的に取り上げ、これらの技術がもたらす社会的意義とリスクの両面を考察する。ニューロテックの進展が人類社会にもたらす福音と破壊的リスクを科学的・倫理的視点から批判的に評価し、未来社会の可能性を探ることを目的とする。学生はニューロモデュレーション技術の仕組みや社会的影響を理解し、意識や行動に及ぼす影響を多角的に考察する能力を身につけ、脳神経科学の進展に伴う倫理的問題について科学的根拠に基づき議論する力を養う。	
			脳機能回復学特論		この科目では、脳や脊髄の障害により破綻した神経回路の再建と機能回復に関する最新の知見と方法論を学ぶ。障害後の残存神経回路が作り出す新たな回路網やその形成プロセスに着目し、回路修復と機能回復を促進する戦略を探る。また、神経回路再建を目指したリハビリテーションや治療法の科学的根拠を理解し、基礎研究から臨床応用への展望を考察する。学生は、神経回路の修復や再生のメカニズム、再建に必要な分子、環境要因を学び、神経回路を操作、再生する技術や方法論を理解する。さらに、研究成果に基づく臨床応用の課題や展望を論じる力を養い、機能回復に向けた新しい治療戦略を科学的に考察できるようになることを目指す。	
			脳機能回復学演習		この科目では、脳や脊髄の神経回路再建に関する実験技術を実践的に学ぶ。遺伝子改変マウス、ウイルス神経トレーサー、光・化学遺伝学、3次元行動解析などの最先端技術を用いて、神経回路の修復や再生を解析する手法を習得する。障害後の神経回路がどのように変化して新しい回路を形成し、代償的に機能を担うのかを実験的に検証し、得られたデータを解析し、機能回復に向けた具体的な戦略を考案する能力を養うことを目的とする。学生は、これらの技術を駆使して神経回路の機能や再建メカニズムを明らかにし、得られた知見を基に治療法やリハビリテーション戦略を構築するための基盤を身につけることを目指す。	
			神経回路構築学		この科目では、脳や脊髄の神経回路がどのように構築され、機能しているかを学ぶ。運動、感覚、自律神経を担う神経回路を中心に、健常時と障害時のネットワーク構造や機能の違いを解説する。これを基に、脳脊髄の障害が神経機能や臓器・免疫など全身のシステムにもたらす影響、病態形成の機序について理解を深める。さらに、神経回路の解析・操作技術を活用し、回路の構造や機能、再構築の治療戦略を探る視点を養う。学生は、神経回路の構築原理と働きを理解し、障害時の回路変化や解析技術を基に、神経回路を再構築する方法を考察し、神経回路の構造と機能を基盤とした脳機能の理解と治療法の発展に関する知識を応用する力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳と心の研究コース	脳神経腫瘍病態学		この科目では、脳神経系腫瘍の病態を組織、細胞、染色体、遺伝子レベルで解析するための手法と理論を学ぶ。腫瘍の発生や進行に関連する遺伝子変異や染色体異常、細胞や組織の特徴を解説し、それらを基に病態の理解と診断への応用を考察する。また、腫瘍の分子メカニズムに基づく治療法の可能性や、最新の研究動向にも触れることで、脳神経系腫瘍研究の基盤を形成する知識を提供することを目的とする。学生は、腫瘍の組織学的および分子生物学的特徴、病態解析手法、診断や治療への応用の視点を学び、さらに最新の研究成果を批判的に分析する力を養うことで、脳神経系腫瘍の病態解明と治療戦略の研究に貢献する基礎力を身につける。	
			臨床神経病理学概論		この科目では、神経・精神疾患や脳腫瘍、てんかんなどの脳神経疾患における病理学的診断や病態形成メカニズムを学ぶ。剖検例や外科手術で得られる組織標本を対象に、病理組織学的検索や分子レベルでの解析手法を解説し、疾患の特徴を理解する。また、病理学的診断を臨床的視点で活用する方法論や研究への応用可能性を探る。学生は、神経疾患の病理学的特徴や検索手法を習得し、病態形成の分子・細胞レベルでの理解を深める。さらに、診断結果を基に治療法の検討や新たな研究課題の提案を行い、病理学と臨床研究の連携を実現する視点を養うことを目指す。	
			臨床神経病理学演習		この科目では、神経・精神疾患や脳腫瘍、てんかんなどの脳神経疾患における病理学的診断を実践的に学ぶ。剖検標本や外科手術で得られた組織標本を用い、病理組織学的解析、免疫組織化学的染色、分子病理学的手法を通じて診断技術を習得する。また、これらの技術を活用して、病態を解明し、診断結果を臨床研究や治療法開発へ結びつけるスキルを養う。学生は、標本解析を通じて疾患の特徴を評価し、病理学的知見を基にした臨床応用や研究課題の立案を目指す。さらに、実験結果を基に神経疾患の病態を考察し、診断と治療の新たな可能性について発展的な議論ができる能力を身につけることを目的とする。	
			神経病理疾患解析学		この科目では、脳神経疾患の病態形成メカニズムと診断や治療の可能性を学ぶ。剖検標本や手術で得られる脳組織を解析し、細胞・遺伝子レベルでの異常や疾患発症への影響を考察する。脳腫瘍、てんかん、神経変性疾患、血管障害などを具体例として取り上げ、それぞれの病理学的特徴や分子メカニズムを深く理解するとともに、解析技術の進展による研究の可能性を探ることを目的とする。学生は、脳神経疾患の病理学的特徴や病態形成メカニズムを理解し、診断や治療に活用する視点を学ぶとともに、解析結果を基に新たな研究課題や治療戦略を提案する力を養うことを目指す。	
			脳腫瘍制御学演習		この科目では、脳腫瘍の病態と治療に関する実践的な技術を学ぶ。神経膠腫、頭蓋底部腫瘍、間脳・下垂体部腫瘍を中心に、病態の理解、画像診断技術の活用、手術支援技術、遺伝子診断を含む総合的な治療戦略を実践的に習得する。CTやMRI、カテーテル検査を用いた画像診断や、ナビゲーションシステム、神経モニタリングを活用した手術技術を学び、病理診断と遺伝子診断を基にした治療計画の立案を行う。さらに、術後の再発腫瘍の評価と治療法の選択肢を科学的に考察し、個別の患者に応じた最適な治療法を提案する能力を養う。学生は、診断から治療計画、術後管理に至るまでの一連のプロセスを実践的に学び、脳腫瘍治療における最新技術と応用力を身につけることを目指す。	
			脳機能病態制御学演習		この科目では、三叉神経痛や片側顔面痙攣などの機能性疾患に対する治療法を実践的に学ぶ。これらの疾患の病態を理解し、MRIやCTを用いた術前シミュレーション技術や、微小血管減圧術を中心とした外科治療の基本的技術を習得する。さらに、最新の手術器具や神経モニタリング装置を活用し、根治率と神経機能温存を両立させる安全性の高い治療法を学ぶ。学生は、症例ごとに適した治療法を検討し、手術計画を立案する能力を養うとともに、低侵襲手術や神経機能モニタリングを用いた実践的な治療技術を身につけることを目指す。この演習を通じて、患者にとって最適な治療法を科学的根拠に基づいて提案する力を育成する。	
			脳血管病態制御学		この科目では、脳動脈瘤、頚動脈狭窄症、もやもや病、脳動静脈奇形など、脳血管疾患の病態と治療戦略を学ぶ。疾患ごとの病態形成メカニズムや診断の基準、開頭手術やカテーテル治療を含む治療法の特性と適応を解説する。さらに、フローダイバーステントや定位放射線治療などの最新技術の役割や個別化医療の観点から治療方針を立案する重要性について考察する。学生は、疾患ごとに最適な治療法を選択する基準を学び、治療戦略を科学的に評価する力を養うとともに、症例に応じた柔軟な治療方針の提案を目指す。また、病態理解と治療選択の関係を深く理解し、患者ごとの個別化医療の実践に向けた視点を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳と心の研究コース	脳血管障害制御学演習		この科目では、脳血管障害、特に脳梗塞の病態と治療法を実践的に学ぶ。急性期治療から慢性期の機能回復療法に至るまで、細胞療法や脳保護薬の開発を中心に取り組む。TGF-βやVEGFなどの治療ターゲットの役割を解説し、動物モデルを用いた細胞療法の効果を評価する実験を通じて、血管新生や神経軸索再生の促進を理解する。また、急性期治療であるtPA療法や血栓回収術における脳保護薬の併用可能性についても検討する。学生は脳梗塞後の組織回復メカニズムを学び、治療戦略の立案と実験データに基づく評価を通じて、基礎研究から臨床応用への橋渡しとなるスキルを習得する。これにより、科学的根拠に基づいた新しい治療法の提案が可能となることを目指す。	
			神経免疫学		この科目では、多発性硬化症や視神経脊髄炎をはじめとする免疫性神経疾患の病態、診断、治療法を学び、免疫学的機序を解説する。疾患修飾薬の作用機序や診断バイオマーカーの役割、臨床研究と基礎研究の連携、国際共同研究や治験の現状を理解することで、疾患治療への包括的な知識を習得する。学生は、免疫性神経疾患の病態を分子レベルから説明し、疾患活動性や治療反応性を評価するバイオマーカーの意義を理解する。また、最新治療法の課題や未来展望を議論する能力を養うことを目的とする。この科目を通じて、臨床診療と基礎研究を結びつける視点を育て、免疫疾患治療における課題解決のための知識を深めることを目指す。	
			脳神経疾患の分子医学		この科目では、神経疾患の発症機構を細胞生物学の視点から遺伝子や蛋白質レベルで理解し、神経細胞の変性過程に関わる分子病態を探究する。特に神経変性疾患に焦点を当て、新規治療法の開発を目指した基礎研究から応用に至るまでのプロセスを学ぶ。分子神経生物学、分子神経遺伝学、臨床神経学を基盤に、最新の研究成果とその医療応用について体系的に講義する。履修者は、神経細胞変性の分子メカニズムや治療法の開発に必要な研究手法を習得し、基礎研究と臨床応用の連携を理解する。さらに、神経疾患治療における課題を議論し、新たな研究テーマを提案する能力を養うことを目指す。	
			脳神経疾患の分子医学演習		この科目では、神経疾患の発症機構を細胞生物学的視点から探究し、遺伝子や蛋白質レベルで理解するための実践的演習を行う。特に神経細胞の変性過程に関連する分子病態を基盤に、新規治療法の開発をテーマとする。履修者は分子神経生物学、分子神経遺伝学、臨床神経学の各分野に基づき、個別に設定された課題に取り組む。課題を通じて分子神経疾患研究に必要な実験技術やデータ解析、考察力を身につけることを目的とする。履修者は、神経疾患の発症メカニズムや分子病態を理解し、基礎研究から応用研究への橋渡しを行う能力を養う。研究課題の計画・実施・解析を通じて、分子レベルの知識を基に治療戦略を提案できるスキルを修得し、実践的な研究能力を深めることを目指す。	
			神経変性疾患学特論		この科目では、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の分子病態を中心に、神経変性疾患の発症メカニズムを学ぶ。ALSの主要な病因因子であるRNA結合タンパク質TDP-43の異常とRNAスプライシング制御の破綻を軸に、運動ニューロン変性の過程を分子レベルで解明する。TDP-43の自己調節機構やその破綻が引き起こす悪循環を理解し、病態進行に伴う分子プロセスの解析を行う。また、最新研究に基づき、ALSの革新的治療法の可能性についても議論する。この学びを通じて、神経疾患研究の基礎から応用への視点を身につけ、病態に基づく治療ターゲットの概念を構築する能力を養うことを目的とする。	
			脳血管分子病態学		この科目では、脳血管の分子病態と認知症との関連を中心に、脳小血管病（CSVD）の発症メカニズムを学ぶ。特に、HTRA1やCOL4A1などの遺伝子変異が引き起こす分子レベルの変化と、TGF-βシグナル経路の異常が血管壁細胞に及ぼす影響を解説する。血管壁細胞の変性や脱落が脳血流制御や認知機能低下に与える影響を理解し、脳小血管病の特徴的な画像所見や分子生物学的背景について深く学ぶ。さらに、遺伝子解析や分子病態解析を用いて、CARASILをはじめとする遺伝性脳小血管病の多様性を探り、治療法の開発に向けた可能性を考察する。これを通じて、脳小血管病の病態を包括的に理解し、分子医学的アプローチによる治療戦略の基礎を身につけることを目的とする。	
			脳機能解析学		脳機能解析学では、脳機能イメージング技術の進化により、脳機能だけでなく疾患の病態を可視化する「脳病態イメージング」の基礎から応用までを学ぶ。陽電子放射断層撮像法（PET）や核磁気共鳴画像（MRI）を中心に、その原理と解析手法を理解し、正常加齢から病的状態への移行を解析する技術を習得する。精神神経疾患の早期診断・治療法の開発を視野に入れたトランスレーショナル研究を推進し、臨床や基礎研究分野、企業との連携を深めることを目指す。学生はこれにより、脳の病態解明や新たな診断・治療法の研究を企画・実践する力を身につけるとともに、臨床応用を見据えた研究者として活躍する基礎を築くことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳と心の研究コース	脳機能解析学演習		本演習では、脳病態イメージング技術を通じて脳機能と病態解析の手法を学ぶ。陽電子放射断層撮像法（PET）や核磁気共鳴画像（MRI）を活用し、脳の正常加齢から病的状態への移行を可視化する技術を習得する。また、精神神経疾患の早期診断や治療法開発に向けたトランスレーショナル研究を実践し、臨床・基礎研究や企業との協力を活用した研究手法を学ぶことを目的とする。この演習のねらいは、脳病態イメージング技術を駆使し、精神神経疾患の病態解明や診断・治療法の開発を推進するための専門的知識と研究スキルを養うことである。受講者はPETやMRIを用いた解析手法を習得し、正常機能と病態の移行を考察できる能力、トランスレーショナル研究の理解と応用力、研究成果の発表力を身につけることを目指す。	
			脳機能イメージング演習		この科目では、脳機能イメージングに関する基礎理論と高磁場共鳴イメージング（MRI）技術の実践的スキルを学ぶ。脳の機能的構造や神経活動を可視化するための理論的背景を理解するとともに、高磁場MRIを用いたデータ取得、解析、解釈に必要な知識を修得する。受講者は、実験計画の立案からデータ取得、解析、結果の考察に至るまでの一連のプロセスを経験し、脳機能イメージング技術の研究や臨床応用への活用能力を身につけることを目指す。本科目では、脳機能イメージングの理論的基礎を説明できるようになること、高磁場MRIを用いた実験デザインや解析手法を理解すること、取得したデータを解析して神経活動を解釈する力を養うことを到達目標とする。	
			脳疾患バイオマーカー解析学		認知症医療の新たなステージにおいて、バイオマーカーとゲノム研究の役割は重要性を増している。この科目では、抗アミロイドβ抗体薬などの疾患修飾薬の登場を背景に、認知症診断精度の向上と個別化医療を支える技術を学ぶ。血液や脳脊髄液を用いたバイオマーカー開発や、アルツハイマー病におけるアミロイドβやリン酸化タウの測定を通じ、病態解明と診断の精度向上を目指す。さらに、神経フィラメント軽鎖やGFAPなどの測定で病態の階層化を探る。ゲノム解析では、日本人特有の遺伝的リスクを明らかにし、ポリジェニック効果を活用したリスク予測やゲノム医療の実現を目指す。バイオマーカー解析とゲノム研究の基礎と応用を学び、認知症医療の未来に貢献する人材の育成を目的とする。	
			脳疾患バイオマーカー解析学演習		この科目では、認知症医療におけるバイオマーカーとゲノム解析技術を実践的に学ぶ。抗アミロイドβ抗体薬の登場を背景に、アルツハイマー病などの認知症の病態解明と治療戦略に必要な技術を習得する。認知症コホート研究で収集した血液や脳脊髄液を用いたバイオマーカー解析や、次世代シークエンサーを活用した全ゲノム解析を通じて、診断精度向上と個別化医療の基盤を学ぶ。アミロイドβやリン酸化タウの測定、ポリジェニック効果による遺伝的リスク予測、階層化の手法を実践的に習得することを目指す。また、バイオマーカー解析とゲノム情報を用いた診断や治療法開発のプロセスを理解し、研究と医療の橋渡しを担う能力を育成する。	
			動物実験法演習		本科目では、動物実験の基本概念を理解し、実験技術を実践的に習得することを目的とする。動物の取り扱いや麻酔、手術法、実験終了後の処理手法について、動物福祉を考慮した適切な技術を学ぶとともに、倫理的責任を持った実験者としての意識を養う。内容は動物実験の歴史や法律、3R原則、実験動物の取り扱い、麻酔薬や手術器具の使用法、実験後の記録管理まで幅広くカバーする。倫理的ジレンマに関するディスカッションも行い、科学的根拠に基づく判断力を育む。評価は実習レポート、技術試験、ディスカッション参加、筆記試験を通じて行う。使用教材には「動物実験の指針と実践」などが含まれ、安全を最優先に実習を進める。学生は事前講義で基礎知識を学び、動物福祉を尊重しながら責任を持って実験に臨むことが求められる。	
			実験動物学		この科目では、実験動物の特性や飼育管理、発生・生殖工学技術、ゲノム編集技術を含む実験動物学の基礎と応用を学ぶ。具体的には、マウス、ラット、ウサギ、ブタ、ニホンザルなど多様な実験動物の特性やSPF環境での飼育管理方法、体外受精、胚移植、凍結保存技術、遺伝子改変動物の作製技術などを取り上げる。これらの知識と技術は、効率的かつ倫理的に研究を進める上で重要であり、動物実験施設の適切な運用や計画的な動物生産の意義を深く理解することを目指す。また、動物研究の効率と精度を向上させるための具体的な手法や技術の応用についても議論し、研究者としてのスキルを高める。	
			加齢性疾患制御学演習		この科目では、加齢関連疾患の分子機構を解明するため、様々なモデルを利用した実験手法と解析技術を学ぶ。例えば、アフリカメダカは短命で加齢に伴いドパミン神経変性やαシヌクレインの蓄積といったパーキンソン病に類似した病態を示す特徴を持つ。本演習では、老化が加齢関連疾患に及ぼす影響を分子・細胞レベルで探究し、疾患病態解明への手法を学習する。また、Omics解析を通じた老化や疾患のデータ解析を実践し、加齢関連疾患の治療法開発に必要な知見を深める。これにより、加齢性疾患の発症メカニズムの理解と制御法の提案を目指す能力を養成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	医学プログラム	脳と心の研究コース	神経難病細胞病理学		神経難病細胞病理学では、パーキンソン病やアルツハイマー病をはじめとする神経難病における細胞病理学的メカニズムを学ぶ。特に、最新研究を基にミトコンドリアDNAの細胞質への漏出やそれに伴う細胞毒性、神経変性との関連性を探る。パーキンソン病モデルでのミトコンドリアDNA漏出が細胞死やI型インターフェロン応答を引き起こすことが明らかになり、DNA分解酵素やDNAセンサーの調節が治療法開発の鍵となる可能性が示唆された。また、神経難病患者の剖検脳で同様の現象が確認され、疾患病態の新たな視点を提供する。講義ではこれらの知見を基に、パーキンソン病のみならずアルツハイマー病や筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症などの病態形成や治療法開発の可能性について議論し、分子病態学的理解の深化を目指す。	
			脳病態モデル解析学特論		本科目では、神経細胞が過活動やストレスに耐えるメカニズムの解明と、神経疾患研究への応用を学ぶ。ショウジョウバエをモデル生物として利用し、光刺激による視神経の過活動モデルを通じて神経細胞の頑健性を支える分子メカニズムを探求する。また、機械学習を活用した自動定量化プログラム「MeDUsA」を用いて、関連分子の同定や病態解明を進める研究手法を紹介する。さらに、ショウジョウバエを用いた遺伝子変異解析を通じて、希少疾患や視神経萎縮などの病態メカニズムの解明に貢献し、効率的な遺伝学的解析が新規治療法の開発につながる可能性を考察する。本講義を通じて、基礎研究と臨床応用の橋渡しとしての研究の意義を理解し、神経細胞の生存メカニズムから神経疾患の診断や治療への展望を学ぶ。	
	歯学プログラム		アカデミックリーディング＆ライティングⅡ		この科目では、リーディングとライティングのスキルを専門的に学び、特にアカデミックペーパーの読解と作成に焦点を当てる。リーディングでは文章の構造や論理的な接続詞のパターンを学び、学術論文の組織を分析する能力を養う。具体的には、リスト構造や原因・結果、比較・対比、問題解決などのパターンを学習する。また、長文読解や要約の練習も行う。ライティングでは、文法的誤りの修正や段落構成の基本を学び、最終的に論理的なエッセイを書くスキルを身につける。文の種類、段落の一貫性や統一性、論理的接続詞の使い方など、実践的な練習を通じて学ぶ。これらを通じて、プロフェッショナルな文書作成能力と批判的思考力を高めることを目指す。	
			生体組織再生工学コースワーク		この科目は、医学生物学研究において必須とされる細胞培養技術の基礎を学ぶもので、細胞培養の意義と基本的な操作手順に重点を置く。ヒトロ腔粘膜から得られる角化細胞および線維芽細胞の初代培養法をはじめ、細胞の継代法、凍結保存、さらに3次元培養法を習得することを目指す。本科目では、無菌的な器具操作、培地と試薬の準備、培地交換、細胞継代に関する技術を実践的に学び、実験室での細胞の取り扱いスキルを高める。	
			ベーシック形態解析コース		この科目では、顕微解剖学的研究に必要な組織標本の作製と染色、さらに顕微鏡観察や画像保存の技術を学ぶ。パラフィン切片や凍結切片の作成から、基本的なH/E染色、AZAN染色、免疫染色、さらにin situハイブリダイゼーションまでの技術を修得することを目指す。適切な麻酔を用いた動物の固定、組織の固定・摘出、染色処理に加え、デジタル顕微鏡を用いた観察も習得する。形態解析に関する基礎技術を身につけることで、実践的な顕微解剖学研究の基礎を築くことを目的とする。	
			顎口腔機能学ベーシックコース		この科目は、大学院生が顎口腔機能を生理学的な視点から深く理解することを目的としている。学部時代に得た基礎知識と関連づけながら、顔面口腔領域の疼痛、咀嚼、嚥下機能を中心に、最新の研究論文を通して知識を拡充する。具体的には、三叉神経、顔面神経、舌下神経の構造と機能、顔面口腔の体性感覚、口腔顔面痛の発生機序や神経基盤、顔面口腔領域の随意運動の神経制御機構、咀嚼および嚥下の神経制御機構について学ぶ。セミナー方式で行われ、状況に応じてリアルタイム型オンライン授業も取り入れる。関連論文を熟読し、積極的なディスカッションを通じて理解を深めることが求められる。	
			顎顔面解剖学ベーシックコース		この科目は、顎顔面領域の解剖学を臨床の視点から体系的に理解し、将来的な歯科臨床や研究の基盤となる知識を深めることを目的とする。実習形式で、大学院生が実際にご遺体を用いて顎顔面の構造を剖出し、内部構造を詳細に観察することで、顎顔面解剖学の理解を深める。具体的には、舌骨上筋群、咬筋、側頭筋、内・外側翼突筋などの主要な筋群や、顎関節、顎下腺、舌下腺、耳下腺などの解剖を通じて、その形態、神経支配、血管の栄養供給、機能を確認する。また、下顎管や翼口蓋窩の走行を理解し、三叉神経や顔面神経、舌咽神経、迷走神経などの神経の構造と機能、各神経枝についても深く学ぶ。鼻腔、舌、口蓋の解剖では、副鼻腔との関係や空間的配置を踏まえて、構造と支配神経、血流を理解することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	ベーシック細胞生物学コース		この科目は、細胞生物学の基本的な知識と技術を修得するための講義と実習で構成されている。大学院生が基礎研究に必要な実験技法を学ぶことを目的としており、最新の研究手法も英語文献を用いて解説する。学習内容には、細胞培養やプラスミドの精製、大腸菌の形質転換、遺伝子導入、アガロースゲル電気泳動、哺乳動物細胞の培養法、トランスフェクション、SDS-PAGE、ウェスタンブロッティング、免疫染色法などが含まれる。学生はこれらの手法を習得し、遺伝子を導入した細胞内で発現したタンパク質の検出や、タンパク質の濃度計測、電気泳動後のタンパク質染色などを行うスキルを身につける。講義と実習を通して、細胞生物学における実践的な能力を養うことを目指す。	
		口腔病理学ベーシックコース		この科目は、口腔顎顔面領域に発生する疾患の病理学的な発生機序を理解することを目指し、分子病理学の視点から病態研究の方法とその思考過程を学ぶ。口腔や顎顔面における疾患の原因や進行過程、予後について、形態と機能の両面から把握し、特に口腔癌の予防・診断・治療に焦点を当てる。学習項目には、歯周組織病変、口腔粘膜病変、唾液腺病変、歯原性病変、顎骨および顎関節の病変、軟部間葉系病変が含まれ、各種疾患の病態や臨床病理学的な鑑別法についても学ぶ。対面講義に加え、標本を用いた演習や討論を通じて、口腔病理学の基礎と応用力を養う。	
		研究の倫理法令・遺伝子組換え実験コースワーク		この科目では、歯学系研究に必要な倫理と法令を学び、研究者としての責任や基本的な注意点について理解を深める。内容は、インフォームド・コンセントや個人情報保護、ラボノートの重要性とその管理、研究不正行為の定義や回避法、遺伝子組換え実験に関する法令（P1・P2・大臣確認・名古屋議定書）などが含まれる。科目は討論形式も取り入れ、多面的な倫理観を養うことを目的とする。成績は筆記試験と討論での発言内容で評価され、テキストとして「科学の健全な発展のために － 誠実な科学者の心得」を使用し、必要に応じて参考論文が配布される。	
		国際連携基礎コース		この科目は、大学院在学中に履修する基礎歯学コースワークを補完し、海外の基礎研究室での研究活動を通じて、より高度な研究能力を養うことを目的としている。受講生は海外で3～12ヶ月間基礎研究に従事し、帰国後は研究成果を学術集会で発表し、報告書を提出することが求められる。科目のねらいは、英語での討論能力や口頭発表能力の向上、基礎研究への理解の深化、国際的な研究ネットワークの構築、そして自国の研究環境の客観的評価である。評価は、報告書の内容と学術発表の実績に基づいて行われる。	
		ベーシック国際口腔保健学コース		この科目は、口腔疾患が引き起こす公衆衛生問題に対応するための国際的知識と理論を教授し、国際口腔保健の理解を深めることを目的とする。授業は英語で行われ、学生は口腔疾患の疫学・病因、予防策、健康推進の理論を学ぶ。内容には、国際保健統計、疫学研究、診査標準化、フッ化物応用、共通リスク要因としての栄養と喫煙の影響、HIV感染と口腔保健、国際保健推進に関する事項が含まれる。成績はレポート、プレゼンテーション、ディスカッションでの発言に基づき、「優」以上の評価でWHOインターンへの参加が可能となる。学習にはWHO出版物や国際口腔保健レポートを使用する。	
		歯内疾患制御学臨床演習コース		この科目は、歯内療法の最新の診療技術と基礎的な実践スキルの習得を目的とする。マイクロエンドドンティックスに焦点を当て、非外科的および外科的歯内療法の意義や適応症、顕微鏡・超音波機器の操作、根管内異物の除去や穿孔封鎖、NiTiロータリーファイルを使用した根管形成、根管洗浄、根管充填の技術を学ぶ。さらに、根尖切除やMTAを用いた逆根管充填法を含む外科的アプローチについても理解を深める。これらの技術は、講義と実習を通じて段階的に修得され、臨床現場での応用力を高めることを目指している。	
		小児歯科関係コースワーク		この科目は、成長過程にある小児の口腔および全身の発育を理解し、口腔機能の発達とその評価方法を学ぶことを目的とする。内容は、全身と口腔の成長発育、下顎運動、口唇機能、呼吸機能、咬合接触など小児の主要な口腔機能を中心に構成されている。講義では、各機能の発達過程や評価方法について理論を学び、口腔保健の観点から小児歯科診療の理解を深める。学生は事前に配布された文献資料を予習し、講義とグループディスカッションに参加することで、専門的な知識を実践的に習得する。	
		補綴歯科学臨床総合コース		この科目では、補綴歯科における基礎知識と臨床技術を体系的に学び、患者の口腔内状況に基づいた診断および治療計画の立案を習得することを目的とする。前半では、可撤性義歯、固定性義歯、デンタルインプラントを含む補綴治療の基礎を講義形式で学び、後半では、具体的な臨床症例を通じて問題点の抽出や治療方法の検討を行う。補綴専門医として求められる知識や技術を習得し、臨床での応用力を高めるために、事前学習として配布資料を活用することが求められる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	補綴歯科学基礎総合コース		この科目は、補綴歯科における基礎知識と治療オプションの選択基準を学ぶことを目的としている。授業は、歯の欠損に対する補綴方法に関する文献をテーマごとに検索し、読解・討論を通じて理解を深める形式で行われる。学生は、適切な文献検索と英語論文の読解、要約を行い、治療方法の選択肢とその具体的説明について考察を重ねる。討論では、各自が興味のある研究論文を選んで熟読し、治療オプションの根拠を総合的に検討するため、準備学習が求められる。	
		顎顔面口腔外科関係コースワーク		この科目は、口腔に発生する炎症や嚢胞、外傷といった疾患の診断および治療技術を学ぶことを目的としている。学生は問診や画像検査に基づく総合的な診断、治療方針の立案、基本的な外科手技を演習を通じて身につける。講義では、感染症や嚢胞の診断・治療、顎骨骨折の治療、埋伏智歯の抜歯、周術期管理などを扱い、診断・手術の実践的技術を修得する。症例検討や報告の作成を通じて、口腔外科専門医としての基礎力を養成する。	
		歯周歯科関係コースワーク		この科目は、歯周病の治療体系を理解し、計画的な治療を行うための基本的かつ実践的な知識を習得することを目的としている。内容には、歯周病の原因と症状、応急処置、疼痛対応、医療面接、基本的な歯周検査、治療計画、プラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、咬合治療、歯周外科治療、根分岐部病変の治療、補綴治療、メインテナンスとSPTが含まれる。学生はこれらの知識を基に症例報告やケースプレゼンテーションを行い、講義とディスカッション形式で学習する。	―
		矯正臨床ベーシックコース		この科目は、歯科矯正の基礎的な知識と技術を学び、矯正治療に必要な分析診断やエッジワイズシステムの基本を習得することを目的としている。学生は、矯正治療の基本概念、セファログラムによる分析法、さまざまな不正咬合の診断と治療計画を学び、成長発育の観点からも治療方法を理解する。また、エッジワイズ装置を用いた矯正治療とアイデアルアーチなどの基本的ワイヤーベンディングの実技を通して、矯正歯科の基礎的スキルを実践的に身につける。事前学習として配布資料と関連文献を活用し、実習を交えて学習を進める。	
		摂食リハ関係コースワーク		この科目は、顎口腔機能における正常および異常を理解し、摂食嚥下リハビリテーションに必要な評価法を学ぶことを目的としている。咀嚼・嚥下、発音、呼吸などの多機能に関わる顎口腔系について、その神経解剖学と生理学を基礎に評価方法を修得する。授業では、摂食嚥下機能に関連する末梢器官、脳幹、高次機能の解剖と生理を学び、筋電図の基礎と表面・針筋電図を用いた検査法についても習得する。学生は事前学習として教科書や資料を予習し、実習を通じて実践的スキルを身につける。	
		包括歯科補綴学コースワーク		この科目は、口腔に関連する機能障害に対する診断・評価と、適切な歯科補綴アプローチを学ぶことを目的としている。咀嚼・嚥下・構音障害について、一般の欠損歯列症例に加え、顎顔面欠損や神経疾患症例、高齢者の症例も取り上げ、口腔機能に基づいた補綴治療の実践的な知識を習得する。授業では有床義歯の設計と長期的な対応、顎顔面補綴治療、リハビリテーションにおける補綴治療を含むPBL（問題解決型学習）を実施する。学生は文献を予習し、症例見学や演習で臨床応用力を養う。	
		組織再建口腔外科関係コースワーク		この科目は、顎口腔外科領域の疾患に対する診断、治療計画、手術、組織欠損に対する再建法、ならびに術後評価の知識と技術を習得することを目的とする。学生は問診や視診、触診、画像診断などに基づく診断手法を学び、外傷や嚢胞、腫瘍など各種疾患に応じた治療計画を立案する。また、口腔外科手術の基本手技、再建法、広範囲顎骨支持義歯やインプラント、形態的・機能的評価も含まれる。事前に教科書を予習し、スライドや動画を活用した講義を通じて、臨床的応用力を高める。	
		歯科放射線関係コースワーク		この科目は、口腔顎顔面領域における画像診断の基本知識と技術を学ぶことを目的としている。授業では、口内法エックス線撮影、パノラマ撮影、CT、歯科用CBCT、MRI、超音波検査、PETなどを対象とし、各種検査法の特徴に基づいた解剖構造や機能の画像化について理解を深める。学生は画像診断装置や画像処理装置を用いた演習を通して、歯科臨床への応用力を養う。事前・事後学習として講義ノートのダウンロードや小テストで理解を深め、知識の定着を図る。Zoomを用いたオンライン授業にも対応し、柔軟な学習環境が提供される。	
		基礎疼痛学コースワーク		この科目は、痛みの発生・認知・変調のメカニズムを理解し、痛覚に関する基礎知識を習得することを目的としている。授業では、痛みの病態や神経伝達機構について学び、末梢神経の解剖や痛みの伝導路、認知、下行性抑制といったテーマに沿って進められる。学生は関連するテキストや文献を整理しながら、痛覚に関する概念や用語を整理し、病態理解を深める。事前学習と講義内容の整理を通じて、痛みの治療法にも触れ、臨床への応用力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	基礎・臨床連続講義		この科目は、顎口腔機能の正常像と異常像の理解を深め、咀嚼、嚥下、発音、呼吸などの顎口腔系の機能評価方法を学ぶことを目的としている。授業では、摂食嚥下に関する解剖と生理の基礎知識に加え、高次機能の役割や顎運動、味覚、三叉神経の機能、脳幹制御の薬理学的アプローチなど、多岐にわたるテーマが取り上げられる。	
		先端感染症学研究A		この科目は、口腔感染症研究における最新の手法や概念を学ぶことを目的とし、in silicoおよびin vitroの微生物学や免疫学に関する研究手法を概説するとともに、分子生物学に基づいた多様な実験演習を実施する。受講者は講義を通じて基礎知識を習得し、演習を通じて実践的な技術を身につける。学習の到達目標には、分子細菌学や遺伝子組換え技術の基本手法の理解、関連法規の説明、PCを活用したin silico実験の実践が含まれる。授業は座学と演習を組み合わせた形式で進行し、毎回の演習には準備学習や資料の配布が伴う。成績評価は筆記試問と討論での発言内容を基に行われ、教材として『Molecular Cloning』が推奨される。	
		先端感染症学研究B		この科目は、口腔感染症研究における発展的な概念と最新の手法を学ぶことを目的としている。in silicoおよびin vitroを活用した微生物学や免疫学の研究手法を解説するとともに、分子生物学の進展に基づいた実験演習を実施する。受講者は講義を通じて高度な知識を習得し、演習でその応用技術を実践的に身につけることが期待される。到達目標として、発展的な分子細菌学や遺伝子組換え技術の手法、関連法規に対する理解を深めること、さらにPCやデータベースを駆使したin silico実験を実践できるようになることを掲げている。授業は座学と演習を交えた形式で進行し、演習の準備学習や補助資料が提供される。評価は筆記試問と討論で行われ、教材として『Molecular Cloning』が推奨される。	
		細菌学・免疫学演習A		本科目は、細菌学および免疫学に関する基礎的な知識と技術の習得を目的とする。授業において基本的知識を学んだ後、演習を通じて分子細胞生物学や細胞工学の手法を実践的に習得する。学習の到達目標として、細菌学、免疫学、分子生物学研究の基礎的な実験手技の説明および実践が含まれる。授業形態は座学と演習を組み合わせて行う。演習では事前の準備学習および配布資料の活用が重視される。評価は口頭試問、実技試験、筆記試問、討論時の発言内容の4つを基準として総合的に行われる。教材として『Current Protocols Essential Laboratory Techniques (Wiley-Blackwell)』や『Molecular Cloning (Cold Spring Harbor Laboratory Press)』を推奨する。	
		細菌学・免疫学演習B		本科目は、細菌学および免疫学に関する展開的な研究技術を習得することを目的とする。授業において細菌学および免疫学研究の発展的な知識を学び、それを基に分子細胞生物学や細胞工学の高度な実験手法を演習で実践する。座学で基礎的知識を習得後、筆記試験による習熟度判定を経て演習に進み、細菌学・分子生物学・免疫学の各分野での実践力を養う。演習では事前の準備学習および配布資料の活用が重視される。評価は口頭試問、実技試験、筆記試問、討論時の発言内容の4つを基準として総合的に行われる。	
		骨免疫学A		この科目は、骨を構成する細胞と免疫細胞の関係を基礎医学的視点から学び、骨代謝学と免疫学の知識を臨床に結びつけることを目的としている。骨免疫学の理論を通じて、全身の代謝メカニズムがどのように連携しているかを理解すると同時に、歯科疾患との関連性も学ぶ。講義では、免疫細胞の成り立ちや働き、骨の機能と代謝、破骨細胞やサイトカインなどの具体的な分子機構について取り上げる。英語を用いる部分もあり、事前学習として専門用語の理解や学術論文の提示が行われる。評価は筆記試験、討論時の発言、授業態度で判定される。	
		骨免疫学B		この科目は、骨免疫学の理論と疾患との関連を学び、骨免疫学に基づく治療法の理解を深めることを目的としている。講義では、骨と免疫細胞の相互作用、関節リウマチや歯周病といった炎症性疾患、さらには癌の骨転移や骨髄GVHDなど、基礎医学的および臨床的視点から骨免疫学を多角的に探求する。特に、炎症性サイトカインや破骨細胞、RANKL-OPGシグナルといった分子機構を重点的に扱う。学習には事前配布のプリントでの専門用語の予習が推奨され、一部講義では基礎的な英語が使用される。成績評価は筆記試験、討論、授業態度を総合的に判定する。	
		基礎分子生物学・細胞生物学・遺伝学A		この科目は、分子生物学、細胞生物学、遺伝学の基礎知識と研究方法を学ぶことを目的としている。講義ではセントラルドグマ、DNA複製、RNAの機能、タンパク質生成と相互作用、細胞代謝、細胞内輸送、エンドサイトーシスなど幅広いトピックを扱い、基礎から応用までをカバーする。授業は英文講義や英語の対話形式で進められ、初級から中級レベルの英語が使用される。受講者は事前に配布されるプリントを活用し、専門用語や学術論文を通じて理解を深めることが求められる。評価は出席、討論、筆記試験の3つを基準に行われる。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	基礎分子生物学・細胞生物学・遺伝学B		この科目は、分子生物学と細胞生物学の実験的アプローチを学び、それらを応用して個々の研究プロジェクトを推進するための技術を習得することを目的としている。講義では、RNAやDNAの分離・品質評価法、ゲル電気泳動、ウェスタンブロッティング、分子クローニング、プライマー設計、細胞トランスフェクション、タンパク質生成法、細胞染色法など多岐にわたるトピックを扱う。講義は初級から上級レベルの英語で行われ、受講者は事前に配布される資料を活用して専門用語や関連技術を予習することが求められる。成績は出席、討論、筆記試験、プレゼンテーションで評価される。	
		生体組織再生工学特論A		この科目は、再生医療におけるティッシュエンジニアリングの基本理念と応用技術を学ぶことを目的としている。講義では、幹細胞生物学やiPS細胞を含むティッシュエンジニアリングの基本要素、さらに時間や血管形成の意義について解説する。足場材や生体材料の特性、成長因子の役割、移植後の転帰を左右する要因についても取り上げ、再生医療に関連する課題を議論する機会を設ける。講義形式で進行し、事前に配布される資料や最新文献を活用する。評価は口頭試問と筆記試験によって行われる。	
		生体組織再生工学特論B		この科目は、ティッシュエンジニアリングの基本理念と応用技術を学び、再生医療における最新の動向を把握することを目的としている。幹細胞生物学を基礎に、時間や血管形成といった要因の重要性を理解し、適切な細胞や足場材、生体材料の特性を習得する。さらに、培地に添加される成長因子の機能や移植後の転帰を左右する要因についても学び、iPS細胞の利用価値や再生医療の課題を議論する機会を提供する。講義は事前配布資料と最新文献を活用しながら進行する。評価は口頭試問と筆記試験に基づいて行われる。	
		生体組織再生工学演習A		この科目は、ティッシュエンジニアリングに必要な細胞解析技術を実践的に学ぶことを目的としている。講義では、マイクロプレートリーダー、ラベルフリー・ライブセルイメージング、３Dバイオプリンター、共焦点レーザー顕微鏡を用いた標準的な細胞解析手法を習得する。また、研究目的に応じた細胞解析の応用力を養い、画像解析と生物物理学的解析法の関係性を理解する。すべて実習形式で進行し、事前配布される資料を活用して学びを深める。評価は対面試験と発表の内容を基に行われる。	
		生体組織再生工学演習B		この科目は、ティッシュエンジニアリングに応用可能な細胞解析技術と画像解析を学ぶことを目的としている。講義ではマイクロプレートリーダー、ラベルフリー・ライブセルイメージング、３D共焦点レーザー顕微鏡などを用いた細胞解析の実践的な手法を習得する。また、画像解析を通じた生物物理学的な分析法の基礎原理を理解し、研究目的に応じた応用力を養う。全て実習形式で進行し、必要な資料は事前に配布される。成績評価は試験と発表の内容を基に行われる。	
		歯内疾患制御学特論A		この科目は、歯髄疾患および根尖性歯周疾患の発症機構に関する生物学的知見を論じるとともに、歯内疾患の制御を目的とした学理と術式を学ぶ講義である。歯髄疾患や根尖部歯周組織疾患の病態を理解し、保存療法や根管形成、洗浄、貼薬、充填法などの基本的な技術と意義を修得することを目指す。授業は講義、示説、実習の形式で行われ、評価はレポートと口述試験による。	
		歯内疾患制御学特論B		この科目は、歯内治療に関する先端的な処置法を中心に学ぶ講義である。歯内疾患の診断から治療に至る過程において、コーンビームCT（CBCT）の応用、MTA（ミネラルトリオキサイドアグリゲート）の特性と臨床応用、Ni-Ti合金製根管切削器具を用いた根管形成法、顕微鏡を活用した治療法などを学ぶ。また、再歯内治療や外科的歯内治療における学理と術式についても詳しく扱う。これらの知識を通じて、歯内治療のグローバルスタンダードを習得することを目指す。	
		歯内疾患制御学演習A		この科目は、歯髄疾患および根尖性歯周疾患の臨床的診査法、診断法、治療法に関する考察を行い、最新の治療器材や材料を用いた先端的治療法を基礎的に演習する内容である。う蝕の病因や病態の解析、歯髄保存療法の実践、さらに各種覆髄材の特性とその使用法について学ぶことで、歯内疾患治療の理論と技術を深めることを目的とする。	
		歯内疾患制御学演習B		この科目は、歯髄疾患および根尖性歯周疾患の臨床的診査法、診断法、治療法に関する考察を深め、最新の治療器材や材料を用いた先端的で臨床に即した演習を行う内容である。顕微鏡を用いた歯内治療、NiTi合金製回転切削器具を活用した根管形成法、さらに根管充填法を実践的に学ぶことで、歯内治療の技術力と理論的理解を高めることを目的とする。	
		う蝕制御管理学演習A		この科目は、う蝕の病因や病態の解析法を考察し、リスクファクターや発症原因の分析に基づいた診断法や治療法を学ぶ演習形式の内容である。う蝕のリスクファクターを分析し、それを基にした正確な診断を行う方法や、治療器具に関する考察と実践を通じて、う蝕管理の基礎を身につけることを目的とする。講義、示説、実習を交えた内容で進められ、病因解析や診断法の理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	う蝕制御管理学演習B		この科目は、う蝕の病因や病態の解析に基づき、リスクファクターの分析を中心に、診断や治療方法について考察する演習形式の内容である。リスクファクター分析を通じたう蝕の処置法を学び、レーザーや抗菌剤を応用した治療法の理論と実技を習得する。また、各種覆髄剤を用いた処置も含まれる。これにより、う蝕制御の実践的なスキルと科学的根拠に基づいた治療法の理解を深めることを目指す。教材としては、配付資料および『クリニカルカリオロジー』などが推奨される。	
		国際口腔疫学A（学術）		この科目は、国際的な口腔疾患の予防や疫学に関する知識を学び、疾患予防プログラムの構築に必要な疫学的視点を習得することを目的としている。講義では、う蝕や歯周病の世界的な有病率、リスクファクター、予防戦略についての最新データが取り上げられる。講義は英語で行われ、テュートリアル形式での討議やレポート作成を通じて、国際口腔保健に関する理解を深める。	
		国際口腔疫学B（学術）		この科目は、国際的な口腔疾患の予防や疫学に関する知識を学び、疾患予防プログラムの構築に必要な疫学的視点を習得することを目的としている。講義では、口腔癌や前癌病変の世界的な有病率、リスクファクター、予防戦略についての最新データが取り上げられる。また、途上国の口腔保健活動や保健政策の立案と実施に関する考察も含まれている。講義は英語で行われ、テュートリアル形式での討議やレポート作成を通じて、国際口腔保健に関する理解を深める。	
		国際口腔保健学演習A（学術）		この科目は、国際的な視点から口腔保健の推進に必要な知識と実践力を養成することを目的としている。講義では、国際口腔保健のヘルスプロモーション、疫学調査デザイン、解析法などのテーマが取り上げられる。テュートリアル形式での討論や発表を通して、口腔保健の実践的な課題解決能力を養う。	
		国際口腔保健学演習B（学術）		この科目は、国際的な視点から口腔保健の推進に必要な知識と実践力を養成することを目的としている。講義では、口腔保健統計、経済社会的研究、サーベイランス、情報システムなどのテーマが取り上げられる。さらに、口腔保健サービスの現状や課題、政策立案に関するケーススタディも実施し、口腔保健プログラムの構築・実施・評価のスキルを習得する。テュートリアル形式での討論や発表を通して、口腔保健の実践的な課題解決能力を養う。	
		予防歯科学演習A		この科目は、口臭臨床を含む予防歯科診療について演習を通じて学ぶ内容である。予防歯科学の概念と知識を深めるとともに、う蝕や歯周病の臨床検査、リスク評価、予防処置を体系的に習得する。具体的には、口臭検査と診断、初期う蝕や歯周病の検査機器の使用、フッ化物応用やスケーリングなどの予防処置を行う。また、患者リコールシステムの構築を学び、予防歯科臨床を実践できる能力を養う。教材としては、『口臭診療マニュアル』や『予防歯科実践ハンドブック』などが推奨される。	
		予防歯科学演習B		この科目は、口臭臨床を中心とした予防歯科診療の実践を学ぶ演習形式の内容である。口臭患者の医療面接や問診から始まり、官能検査やガスクロマトグラフィーを用いた機器検査を通じて、口臭の診断を行う能力を養う。さらに、真性口臭症に対する物理的および化学的制御の治療法を学ぶ一方で、口臭恐怖症や仮性口臭症患者に対するカウンセリング技術の習得も目指す。これらを通じて、口臭に関する包括的な診療能力を構築する。教材としては『口臭診療マニュアル』や『予防歯科実践ハンドブック』などが推奨される。	
		成育歯科学A		成育歯科学は、新生児、乳幼児、学童、思春期を経て次世代を育成する成人世代、即ちリプロダクションに生じる口腔疾患に対する研究を行う学問である。若年者に生じる各種口腔疾患の習得、代表的口腔疾患の疫学調査、成育歯科学の研究方法の検討が科目の狙いであり、若年者に起こりやすい各種口腔疾患を年代的に説明すること、原因とその治療法、予後について列挙できること、研究方法の特徴を説明できることが到達目標である。講義とグループ学習を行うが、文献資料による予習を行ったうえで、議論に積極的に参加することが求められる。主な使用テキストは『Pediatric Dentistry - Infancy Through Adolescence』（WB Saunders Company）である。	
		成育歯科学B		成育歯科学は、新生児、乳幼児、学童、思春期を経て次世代を育成する成人世代、即ちリプロダクションに生じる口腔疾患に対する研究を行う学問である。若年者に生じる各種口腔疾患の習得、代表的口腔疾患の疫学調査、成育歯科学の研究方法の検討が科目の狙いであり、若年者に起こりやすい各種口腔疾患を年代的に説明すること、原因とその治療法、予後について列挙できること、研究方法の特徴を説明できることが到達目標である。講義とグループ学習を行うが、文献資料による予習を行ったうえで、議論に積極的に参加することが求められる。主な使用テキストは『Pediatric Dentistry - Infancy Through Adolescence』（WB Saunders Company）である。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	小児口腔治療学演習A		この科目は、小児の口腔疾患に関する病因、予防、治療、予後管理を対象とした基本的な演習を行う。講義では発育期ごとの口腔疾患の特徴や、小児と成人の疾患の相違について学び、齲蝕とその関連疾患、口腔外科的処置、歯の異常が歯列や咬合に及ぼす影響を理解することを目標とする。また、演習では診断や基本的な治療法、予後管理までの一連のプロセスを実践的に習得する。講義と演習を通じて、小児歯科学の基礎理解力を高めるため、積極的な議論と実習への参加が求められる。教材としては、配布資料とともに、『小児歯科学 基礎・臨床実習 第3版』や『Dentistry for the child and adolescent 11th edition』、『Pediatric Dentistry 6th Infancy through adolescent』が推奨される。	
		小児口腔治療学演習B		この科目は、小児の口腔疾患における病因、予防、治療、予後管理について、応用的な演習を行う。講義では小児の口腔疾患の顎顔面領域の発育への影響や乳歯や永久歯の外傷への対応、全身疾患を有する小児の口腔管理を理解することを目標とする。また、歯の異常が歯列や咬合に及ぼす影響をより深く理解することを目指す。演習では、顎顔面領域の発育への影響を考慮した診療や診断、より応用的な治療法を習得する。講義と演習を通じて、小児歯科学の応用力を高めるため、積極的な議論と実習への参加が求められる。	
		障害者歯科治療学演習A		この科目は、行動障害を持つ患者に対して適切な歯科治療を行うための基本的な対応方法を理解し、その技術を演習を通じて身につけることを目標とする。様々な心身障害を持つ患者の身体的および精神的留意点を学ぶとともに、障害に伴う口腔症状や歯科的特質を理解する。不適応行動への対応法や口腔ケアと健康支援、リスク評価と安全管理の実際についても取り扱い、障害者歯科におけるノーマライゼーションを考察することを目指す。教材としては『スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 第2版』や配布資料が推奨される。	
		障害者歯科治療学演習B		この科目は、行動障害を持つ患者に対して歯科治療を行う前に、症例検討を通して、各個人に適した対応法を選択し、その技術を実践的に習得する内容である。スペシャルニーズを有する人々の身体的、精神的および心理的特徴を理解し、それに基づいた歯科治療計画を立案し、選択した行動調整法を用いた治療を行う能力を養う。具体的には、知的能力障害、自閉スペクトラム症、脳性麻痺、感覚障害などの症例に対して議論を行い、実践的なスキルを高める。	
		顎関節疾患に対する外科的対応A		この科目は、顎関節疾患を対象に病態、診断方法、外科的治療法、術後管理、予後について学ぶ実習形式の内容である。顎運動機能障害の分類と評価、顎関節症の病態分類の鑑別、外科的治療法の適応や種類について理解を深める。また、術後管理と長期予後についても論文を収集し、考察を通じて理解を深める。これにより、顎関節疾患に対する包括的な知識と技術を習得することを目指す。	
		顎関節疾患に対する外科的対応B		この科目は、顎関節症のうち顎関節部の障害である顎関節痛障害、関節円板障害、変形性顎関節症について、病態を理解し、診断と治療に必要な関節腔穿刺法を学ぶ内容である。病態分類や鑑別方法を学び、顎関節腔穿刺の適応、効果、合併症について理解する。また、洗浄療法や薬物注入療法の実際と顎関節鏡を用いた診断・治療を体験し、長期予後について論文を通じて考察することで、実践的な知識と技術を養う。	
		歯科口腔外科学演習A		この科目は、口腔腫瘍の発症に関わる遺伝的変化や分子生物学的特徴を理解し、それに基づいた分子診断法を学ぶ演習形式の内容である。論文抄読を通じて検査手法の原理を学び、実験データと臨床データの関連性を考察する。また、統計解析を用いて腫瘍の診断や治療計画の立案に役立つ知識を習得する。これにより、腫瘍の生物学的性質と臨床経過を結びつけた実践的なスキルを養成することを目指す。教材としては適宜印刷物が配布される。	
		歯科口腔外科学演習B		この科目は、口腔腫瘍の発症に関連する遺伝的（ゲノム）変化の多様性と分子診断手法を学ぶ演習形式の内容である。遺伝子変異や分子生物学的変化を理解し、これらを基にした腫瘍診断と治療計画の立案を行う。具体的には、論文抄読を通じて検査手法の科学的背景を学び、実験データや臨床データを統計解析し、分子診断の意義を検討する。臨床現場での応用を意識した実践的な知識とスキルの習得を目指す。教材としては適宜配布資料と『がんゲノム医療 遺伝子パネル検査実践ガイド』などが推奨される。	
		固定性補綴治療学A		この科目では、固定性補綴物の設計および装着時の調整に必要な知識を、文献的根拠に基づいて学ぶ。審美性や機能回復にとどまらず、補綴物と歯周組織の長期的な維持の重要性を理解し、適切な咬合様式の付与方法や、補綴物が歯周組織に及ぼす影響、その対処法について学習する。また、天然歯およびインプラント補綴における治療方法の選択基準と、それに基づくガイドラインについても取り扱う。	
		固定性補綴治療学B		この科目では、固定性補綴物の設計や装着に必要な知識を発展的に学ぶことを目的とする。審美性や機能回復にとどまらず、補綴物と歯周組織の長期的維持に寄与する形態や咬合様式の重要性を理解する。また、補綴物の適応症、利点・欠点、臨床手技について学び、補綴物が歯周組織に及ぼす影響とその対応方法を考察する。天然歯およびインプラント補綴における治療法を、文献的根拠に基づいて学習するとともに、日本補綴歯科学会のガイドラインを踏まえ、包括的な治療計画を立案する能力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	口腔インプラント治療学演習A		この科目は、デンタルインプラント治療の計画立案とコンピューターシミュレーションを中心に演習を行い、必要な知識と技能を習得する内容である。インプラント治療は補綴の一つの選択肢として有効だが、外科的侵襲が大きいため適応を誤ると重大な事故につながる可能性がある。本科目のねらいはインプラント治療の治療計画に必要な知識と治療計画の立案方法の取得を目的としている。インプラントの利点・欠点、危険性、臨床手技、コンピューターシミュレーションについて学ぶ。	
		口腔インプラント治療学演習B		この科目は、デンタルインプラント治療の補綴設計の立案を中心に演習を行い、インプラント治療に必要な知識と技能を習得する内容である。インプラント治療は補綴の一つの選択肢として有効だが、外科的侵襲が大きいため適応を誤ると重大な事故につながる可能性がある。また、インプラントの使用は補綴治療をより複雑にする危険性も内包している。本科目のねらいはインプラント治療の治療計画に必要な基礎的知識と治療計画の立案方法のより高度な習得を目的とする。インプラントの利点・欠点、危険性、臨床手技、上部構造、咬合、予後に影響を及ぼす因子について学ぶ。	
		口腔インプラント研究演習A		この科目は、デンタルインプラント治療の理論的基盤を形成する研究を対象とした演習である。インプラント周囲組織やインプラントに関する基礎研究の歴史や内容を過去の文献を通じて理解し、現在の課題を解決するための研究手法を習得することを目的とする。デンタルインプラントの歴史や意義、研究の問題点やテーマを把握し、研究手法と基本的な実験技術を実践的に学ぶ。文献抄読や講義を通じて、臨床現象の理解と治療の水準向上に寄与する力を養成する。	
		デジタル技術を用いた補綴臨床治療学A		この科目は、補綴治療におけるデジタル技術の活用法と実践的なスキルを学ぶことを目的とする。補綴治療のための診査・診断や、クラウン・ブリッジ、義歯およびインプラントによる補綴治療におけるデジタル技術の活用法について学び、デジタル的手法とアナログ的手法を用いた治療法について比較する。また、口腔内スキャナーを用いたデジタル印象採得やデジタル咬合採得、CADシステムを用いた歯冠補綴装置の設計について演習形式で学習する。これにより、補綴歯科治療におけるデジタル化の現状と今後の課題について学び、補綴治療におけるデジタルワークフローについて理解を深める。	
		デンタルインプラント臨床学A		この講義では、デンタルインプラント治療における埋入術式や補綴方法を学び、基本的な診査方法や手術手技を習得することを目的とする。デンタルインプラントの歴史や周囲組織の特徴を理解し、上皮、結合組織、骨の構造や役割について詳細に学ぶ。また、診断用ステントの作成や埋入術式における注意点、上部構造の種類と補綴法を考察し、実際の臨床応用に必要な知識を習得する。講義を通じて基礎から応用までのスキルを体系的に習得し、口腔インプラント治療の安全性と成功率を高める実践力を養う。	
		デンタルインプラント臨床学B		この講義では、デンタルインプラントを用いた欠損修復治療における基本的な理論と技術を学ぶ。特に、インプラント周囲組織と歯周組織の違いや接合上皮とインプラント周囲上皮の形態的な特徴、インプラントにおける咬合の考え方について詳しく理解する。また、形態と機能を両立させたインプラント上部構造の設計・製作プロセスや、理想的な咬合構築のための技術的留意点を探求する。授業では、講義とグループディスカッション、レポート作成および発表を組み合わせて進められ、参加者は実践的な課題に取り組みながら知識を深める。	
		疼痛生理学演習A		この科目では、痛覚を中心に体性感覚の神経生理学を学ぶ。末梢神経系と中枢神経系の基本構造や機能、神経細胞の興奮伝導、痛覚の末梢および上行性経路、下行性疼痛抑制系の仕組みを理解することを目指す。授業は講義と演習形式で進行し、配布資料を基にした事前学習と積極的なディスカッション参加が求められる。評価はレポート、口頭試問、ディスカッションへの参加で行われる。具体的な学習内容には、活動電位と興奮伝導、体性感覚の総論、痛みの伝導路（末梢および中枢のメカニズム）、および抑制系の理解が含まれる。これらを通じて、歯科臨床に直結する神経機構の基礎と応用力を身につけることを目的とする。	
		疼痛生理学演習B		この科目では、慢性疼痛を中心に脳神経機構を研究トピックを交えて学ぶ。急性疼痛と慢性疼痛の特徴と違い、痛みの分類、ストレス誘発性慢性疼痛の神経メカニズムとその制御方法を理解することを目指す。授業は講義と演習形式で行われ、配布資料を用いた事前学習と積極的なディスカッションが求められる。具体的な学習内容には、痛覚変調性疼痛や口腔顔面領域の慢性疼痛の特徴、ストレスと疼痛の関連、運動療法や米発酵エキス（酒粕）の影響が含まれる。評価はレポート、口頭試問、ディスカッション参加を基準とし、基礎研究と臨床応用を結びつけた理解を深めることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	臨床う蝕学演習A		この科目では、Minimal Intervention Dentistry（MI）に基づいたう蝕治療を学び、接着修復の基礎理論や臨床技法を習得する。MIの理念、歯質保存の意義、接着理論、感染歯質の除去法を理解し、実践を通じて体得することを目的とする。実習では2級・4級コンポジットレジン修復の模型作成を行い、隔壁法や接着操作の要点を学ぶ。評価は授業態度、実習作品、口頭試問で行われる。講義では接着修復の理論や重合収縮への対応も扱い、実践的なスキルを強化する。事前準備として抜去歯や顎模型の用意が必要で、基礎知識と技能を確実に身につけることを目指す。	
		臨床う蝕学演習B		この科目では、高齢者に増加する根面う蝕の管理と審美修復のスキルを学ぶ。根面う蝕の特徴とエビデンスに基づいた対処法を理解し、天然歯の形態や色調をMIコンセプトに基づいて回復する技術を習得することを目的とする。講義では根面う蝕のマネジメント、接着歯学の基礎、ラミネートベニアやホワイトニング、CAD/CAM修復の理論を学び、実習ではコンポジットレジン修復、歯冠破折の形態回復、ホワイトニング技術、CAD/CAMインレー形成などを実践する。評価は授業態度、実習作品、口頭試問で行われる。配布資料や参考図書を活用し、実践力を高める学びの場が提供される。	
		歯科医療政策学演習A		この科目では、まず、現在の歯科保健医療政策の概要について概観し、その歴史、背景について理解する。加えて、各種統計データや調査資料を基に、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士をはじめとする歯科専門職の需給を中心とした歯科保健医療サービスの提供体制の現状と課題を整理する。さらに、こうした歯科専門職の需給に関わる現状と課題に基づき、今後の政策展開の在り方について演習形式で考察する。評価は演習レポートと口頭試問で行われ、統計データの活用を含む実践的な学びを通じて、政策形成の基盤となる知識と分析力を習得する。	
		歯科医療政策学演習B		この科目では、まず、歯科診療所および病院歯科などの歯科医療機関の現状について、医療施設調査、患者調査をはじめとした各種統計データや調査資料に基づいて整理する。加えて、国民医療費や医療経済実態調査などの医療経済面からの分析を加えることにより、歯科保健医療サービスの提供体制の現状と課題を整理し、こうした歯科専門職の需給に関わる現状と課題に基づき、今後の政策展開の在り方について演習形式で考察する。歯科医療機関の機能や運営状況、患者受療動向、歯科診療医療費の推移などを分析し、これらに基づいた改善策や政策の提案を行う能力を養う。評価は演習レポートと口頭試問で行われ、統計データの活用を含む実践的な学びを通じて、政策形成の基盤となる知識と分析力を習得する。	
		地域口腔保健推進学A		この科目では、う蝕や歯周病に関するリスクファクターとプロテクトファクターを解明し、それらを基にした疫学的研究デザインとデータ解析の方法を学ぶ。研究の立案、交絡因子の理解、データ解析手法の応用、口腔疾患の発症や進行に関する要因を深く理解することを目的とする。講義では疫学調査の方法論やう蝕・歯周病の診断、リスクおよびプロテクト要因の解析に重点を置き、フィールドワークを交えた実践的な学習も行う。評価は口頭試問とレポートで行われ、資料を基にした事前学習が求められる。歯科保健に関する研究能力を養成するための体系的なプログラムである。	
		地域口腔保健推進学B		この科目では、全身的健康状態と関連する口腔疾患の発症や進行に寄与するリスクファクターやプロテクトファクターを研究し、疫学的研究デザインの立案や統計解析方法を学ぶ。歯周疾患や歯の喪失、骨代謝、栄養、遺伝子多型、老人性肺炎、運動機能との関連を解析し、交絡因子の理解やプロトコール作成、データ解析技術を習得することを目的とする。授業は座学とフィールドワークを含み、配布資料の予習が求められる。評価は口頭試問とレポートで行われ、歯科保健分野の実践的研究能力を育成する。	
		衛生・福祉統計学演習A		この科目では、衛生・福祉に関連する調査研究のデザインや対象設定について学ぶ。統計学の基礎知識を背景に、研究デザインの基本概念や歴史、リスク要因の特定、標本抽出、対象の割り付けと無作為化、妥当性の確保、研究戦略、さらにはメタ解析までを体系的に学習する。授業は講義形式で行われ、配布されたテキストを事前に学習して授業に臨むことが求められる。評価は口頭試問とレポートに基づき、調査研究の実践的な理解と応用力を養う。研究デザインの構築や統計的解析の基盤を深め、衛生・福祉領域での実践的な知識を習得することを目指す。	
		衛生・福祉統計学演習B		この科目では、衛生・福祉に関連する調査研究の統計学的解析方法を学ぶ。統計的な測定の基礎から始まり、カテゴリ変数におけるカイ二乗検定や連続変数の分散分析、因果関係の評価を行う基準や相関、回帰分析の方法を理解する。また、研究に適切な統計手法を選択する能力や倫理的な配慮についても学習する。講義形式で進行し、コンピューターベースの解析ソフトを活用して基本的なデータ解析を実践的に行う。評価は口頭試問とレポートで行われ、統計学的なアプローチを用いた実践的スキルを養うことを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	歯科補綴応用生体力学演習A		この講義では、歯科補綴物やインプラント周囲組織に応用される生体力学の基礎を学び、力学的観点から口腔機能を理解する。具体的には、歯科補綴およびインプラント領域での生体力学原理、疲労試験、3次元有限要素法の応用を学び、補綴材料の経年変化と補綴物の支台歯やその周囲組織への影響について検討する。また、支台築造や支台歯の破折リスクに関する事例研究を通じて実践的な知識を深める。講義形式と文献を用いた演習を組み合わせ、参加者は研究手法を学びながら実践的な問題解決能力を養う。	
		歯科補綴応用生体力学演習B		この講義では、歯科補綴およびインプラント治療における生体力学的エビデンスを基に、補綴物およびインプラントの最適な選択方法を学ぶ。具体的には、歯列修復に用いる補綴物のデザインや寸法が支台歯に及ぼす影響、インプラントおよび上部構造の種類や材料が周囲骨に及ぼす応力・ひずみの解析を事例研究を通じて学習する。また、3次元有限要素解析を用いた骨梁の精密シミュレーションや、歯列修復の治療の観点から従来の補綴物とインプラントの比較検討を行う。講義では文献を活用した演習を中心に、実践的な知識と問題解決能力の習得を目指す。	
		海外短期エクスターンシップ		この科目は、海外での短期エクスターンシップを通じて、国際的な視野と実践力を養うことを目的としている。学生は、8日間から2週間にわたり外国の歯学教育機関や医療施設に滞在し、自らの研究成果を紹介、議論したり、医療支援や口腔保健活動に従事する。プログラム内容は事前に滞在先と打ち合わせを行い、自ら立案する。滞在中は英語で積極的にコミュニケーションを図り、歯科医療や研究環境を国際的に比較しながら、自己の可能性を広げる。帰国後には、詳細な報告書を作成して単位取得の要件とする。	
		エクスターンシップ		この科目は、国際口腔保健分野での実地経験を通して、地域社会での保健活動とグローバルな視野を育むことを目的としたエクスターンシップである。学生は、途上国や医療支援が必要な地域に赴き、歯科保健の知識を応用して地域の保健ニーズに対応するプログラムを立案する。現地での活動を通じて、口腔保健の不均衡や社会経済的な課題に触れ、現地指導者と協働する。帰国後は成果を報告・発表し、プログラムの評価と改善に役立てることで、国際的な保健リーダーシップのスキルを養成する。	
		国際口腔保健科学研究発表演習Ⅰ		この科目は、国際口腔保健分野における研究成果を中間発表としてまとめ、プレゼンテーション技術を向上させることを目的としている。学生は、研究の目的、方法、結果、考察を理論的に整理し、データを客観的に評価する能力を養う。発表内容は担当教員の指導を受けて準備し、分野ごとの予演会で発表練習を行う。学会での発表や質疑応答を通じて研究に不十分な点や新たな視点を確認し、博士論文の完成に向けた改善策を見出す。これにより、研究の効果的な伝達力と批判的な考察力を強化する。	
		国際口腔保健科学研究発表演習Ⅱ		この科目は、国際学会での発表を通じて、英語でのプレゼンテーション技術と研究成果の正確な伝達方法を習得することを目的とする。学生は、研究成果をまとめた発表内容をスライドやポスターに構成し、指導教員の指導のもとで準備を進める。分野単位での予演会を実施し、内容や表現を修正しながら発表の完成度を高める。発表後には質疑応答を行い、的確な回答を通じて論理的な説明力を養う。これにより、学会での発表技術と質疑対応のスキルを高め、今後の研究活動に役立てる。	
		国際口腔保健科学特定研究Ⅰ		この科目は、博士論文の作成に向けて国際口腔保健分野での研究テーマを設定し、研究を遂行することを目的とする。学生は指導教員の下で先行研究を踏まえ、学術的意義や新規性、創造性を検討しながら研究課題を立案する。その後、予防歯科学分野の委員会にてプレゼンテーションを行い、課題の妥当性について審査を受ける。審査に合格した後は、必要に応じて国外調査を含めた実地研究を行い、国際口腔保健に貢献する博士論文を完成させるための実践的な研究活動を進める。	
		国際口腔保健科学特定研究Ⅱ		この科目は、国際口腔保健科学分野での博士論文を完成させ、最終審査を受けるためのプロセスを実践する。学生は、これまでの研究で得たデータや、コースワーク、エクスターンシップでの経験、学会発表でのフィードバックを活用し、研究課題の深い解決を目指して論文を執筆する。最終審査では、研究方法と論旨の展開、学術的意義、論文構成が評価され、独自性や新しい知見、学術的貢献が求められる。また、論文は学術雑誌に投稿可能な形式とし、プレゼンテーションを通じて成果を発表する。	
		顎口腔解剖学A		この科目では、顎口腔領域の解剖学的構造と発生過程について、肉眼解剖学、組織学、微細構造学の視点から学ぶ。顎顔面の複雑な機能が各構造物の連携により実現される仕組みを発生学的観点から理解することを目的とする。具体的には、顎顔面の発生、骨形態計測、循環系や神経系、内臓学、口腔と歯の構造をマクロからミクロのレベルで解説する。講義は事前学習が推奨され、対面形式を基本とするが、状況によりオンライン授業も実施する。評価は口頭試問と授業態度で行い、専門的知識の深化を目指す。使用テキストには『口腔組織発生学第3版』（医歯薬出版）が使用される。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	顎口腔解剖学B		この科目では、顎顔面領域の局所解剖学と、歯科処置や外科処置に対する組織修復および再生過程について学ぶ。末梢神経系の再生、歯髄・歯根膜神経の可塑性、硬組織の再生機構、顎関節の細胞生物学および病態、さらにインプラントと組織反応を取り上げ、ミクロレベルでの理解を深める。講義は事前学習を前提に進行し、対面形式を基本とするが、状況によりオンライン授業となる場合もある。評価は口頭試問と授業態度で行い、顎顔面領域の組織修復や再生の基礎を理解し、応用力を身につけることを目指す。使用テキストには『口腔組織発生学第3版』（医歯薬出版）が使用される。	
		顎口腔解剖学演習A		この科目では、顎口腔諸器官の構造と機能を理解するために、細胞学・組織学的解析を実践的に学ぶ。分子解析を基軸とし、顎顔面、歯根膜、セメント、顔面骨、口腔粘膜、唾液腺、骨格筋、歯髄、神経、歯肉、付着上皮、舌といった各組織を対象に解析スキルを習得する。フローサイトメーターや共焦点レーザー顕微鏡、レーザーマイクロダイセクションの基本原理と操作方法を習得することが目標である。これを通じて、顎口腔領域の分子解析能力を深めることを目指す。	
		顎口腔解剖学演習B		この科目では、口腔顔面諸器官の発生メカニズムを分子レベルで学ぶことを目的とし、再生療法の基礎となる理論や研究方法を習得する。神経堤細胞、上皮間葉相互作用、歯や口蓋、口唇、舌などの発生メカニズムを扱い、Trowell式器官培養法やスライス組織培養法などの実験手法も学習する。トランスジェニックマウスを用いた実験を含め、発生メカニズムに関する最新の研究動向を理解する。分子生物学実験の基礎を習得し、次世代の口腔再生療法への応用力を育むことを目指す。	
		顎口腔機能学A		この科目では、顔面口腔領域の運動器の構造と機能を動作学や電気生理学の観点から学び、筋電図記録の技術を習得することを目的とする。筋電図記録とその信号処理の方法を理論と実践を通じて理解する。授業は講義と論文輪読、実習を交えた形式で行われる。評価はレポートや試験、実習や議論への参画度を基に行う。電気測定技術を活用した運動学研究の基礎知識と応用力を養うことを目指す。	
		顎口腔機能学B		この科目では、顔面口腔領域における運動機能とその制御について学び、下顎運動、舌運動、顔面運動、咀嚼運動の制御メカニズムを運動学的および電気生理学的観点から理解することを目指す。随意運動および咀嚼運動時の筋電図記録と解析方法を実践的に習得し、最新の研究論文を輪読して議論を行う。講義、論文輪読、実習を組み合わせた形式で進行し、評価はレポートや試験、実習および輪読への参画度で行う。運動制御に関する基礎知識と解析スキルを深め、研究や臨床への応用力を養成する。	
		神経科学演習A		この科目では、神経機能に焦点を当て、生体の外部および内部環境変化に適応する仕組みを学ぶ。神経細胞、グリア細胞、静止膜電位、活動電位、シナプス、受容体機構について、基礎から実践的な記録方法を学習する。また、痛覚系を含む体性感覚機能の神経機構を深く理解することを目指す。講義と討論形式で進行し、関連資料の事前学習が求められる。評価はレポートや口頭試問、授業参加の積極性を基に行い、神経科学の専門的知識と実践的スキルを養成する。授業は主に英語で行われる。	
		神経科学演習B		この科目では、生体の恒常性維持に重要な脳神経系の役割を中心に学び、特に痛覚のメカニズムに焦点を当てる。急性疼痛と慢性疼痛、口腔顎顔面痛、痛みの調節因子についての理解を深め、疼痛の脳神経機構を説明できるようになることを目指す。講義と討論形式で進行し、体性感覚、炎症性疼痛、神経損傷性疼痛、三叉神経領域の疼痛やTMD痛に関する知識を養う。評価はレポートや口頭試問、議論への積極性を基に行い、最新の文献抄読や議論を通じて応用力を身につける。授業は可能な限り英語で実施される。使用テキストには、『神経科学-脳の探求-改訂版(2021年)（西村書店）』が使用される。	
		神経生物学特論A		この科目では、脳機能の理解に必要な神経科学・神経生物学の基本知識を習得することを目的とし、特に分子細胞生物学の実験技術に焦点を当てる。脳細胞の初代培養、分子の局在や機能の解析、細胞の免疫染色、共焦点レーザー顕微鏡の使用、タンパク質の分離・解析手法（SDS-PAGE法、ウェスタンブロッティング法）を実践的に学ぶ。実習形式で行われるため、あらかじめ配布される事前資料での学習が求められる。	
		神経生物学特論B		この科目では、脳細胞や脳組織を用いた最新の分子細胞生物学実験技術を学び、特にタンパク質の翻訳後修飾、活性測定法（カルシウムイメージング法）、細胞死の検出、細胞内輸送観察に焦点を当てる。これらの技術を通じて、脳機能や分子の挙動に関する知識を深めるとともに、データ解析や得られた研究結果を受講者の前で発表することから、それらの方法を習得することも目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	顎顔面矯正学A		この科目では、正常咬合と不正咬合の原因および診断を中心に学び、歯科矯正学の基本を習得する。正常咬合の定義やセファロ分析の方法、不正咬合の種類と特徴を理解し、それに基づいた診断と治療方針の立案を行うスキルを養成する。講義形式で進行し、指定されたテキスト『The textbook of CONTEMPORARY ORTHODONTICS (5th edition; W. Proffit, ed., Mosby Year Book, Inc.)』や参考文献の事前学習が求められる。評価は講義内容や症例分析に基づく口頭試問で行い、歯科矯正臨床に必要な診断力と分析力を育てることを目指す。	
		顎顔面矯正学B		この科目では、矯正治療に伴う顎顔面構造や咬合の変化について学び、成長変化に基づく構造の変化や不正咬合の治療方法、症例ごとの治療効果の違いを理解する。講義形式で進行し、症例を基に治療効果を分析するスキルを養成する。事前に指定されたテキスト『The textbook of CONTEMPORARY ORTHODONTICS (5th edition; W. Proffit, ed., Mosby Year Book, Inc.)』や文献の学習が推奨され、評価は講義内容や症例分析に基づく口頭試問で行う。矯正治療の効果と成長変化を適切に評価し、臨床に応用する能力を身につけることを目指す。	
		歯科矯正学演習A		この科目では、矯正歯科臨床における治療目標や基本的な治療法について学び、早期治療や永久歯列期の矯正治療に関する知識と技能を習得する。矯正治療の目的を説明し、治療方法を実践的に理解する能力を養成することを目的とする。評価はレポート、口頭試問、授業態度に基づき行い、矯正歯科臨床に必要な基礎的スキルと応用力を身につけることを目指す。指定テキストには『矯正臨床の基礎』（与五沢矯正研究会編、クインテッセンス出版）が使用され、参考文献として『Edgewise system Vol I』および『Edgewise system Vol II』（与五沢文夫著）が推奨される。	
		歯科矯正学演習B		この科目では、矯正歯科臨床における外科的矯正治療や他診療科との連携が必要な症例の対処方法について学ぶ。口唇裂・口蓋裂の矯正治療、外科的矯正治療、他診療科と連携した症例対応の知識と技能を習得することを目的とする。評価はレポート、口頭試問、授業態度を基に行い、複雑な症例における矯正歯科医の役割を理解し、実践的な対応力を身につけることを目指す。指定テキストには『矯正臨床の基礎』（与五沢矯正研究会編、クインテッセンス出版）が使用され、参考文献として『Edgewise system Vol I』などが推奨される。	
		歯科矯正治療学演習A		この演習では、歯科矯正治療に必要な物理学的知識とバイオメカニクスを学び、治療における理論と応用力を養う。矯正用ワイヤーの材料力学や選択基準、固定法、ワイヤーとブラケットの力学的関係、矯正装置における摩擦、3次元的な歯の移動、応力と生体反応について深く学ぶ。また、ヘッドギアや顎間ゴムのメカニクス、垂直被蓋のコントロール、リンガルアーチの治療法、抜歯症例の空隙閉鎖、顎変形症治療とバイオメカニクスについても扱う。これにより、臨床に直結した知識と技術の理解を深める。	
		歯科矯正治療学演習B		この演習では、歯科矯正用アンカースクリューを用いた治療法とそのメカニクスを中心に学ぶ。上顎前突や下顎前突の症例、開咬や過蓋咬合、部分矯正など、各症例に応じた効果的な治療方法を検討し、力学的理論と実践的知識を深める。また、アンカースクリュー使用時の治療メカニクスや起こりうる反作用についても学び、適切な対処法を習得する。これにより、臨床での応用力を高め、症例別の最適な治療を実現するための基礎を築く。	
		嚥下障害学A		この演習では、摂食嚥下に関わる顎口腔機能の加齢変化や、脳血管障害、頭頸部悪性腫瘍摘出後に生じる摂食嚥下障害の評価法を学ぶ。摂食機能評価のスクリーニング検査から嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、筋電図や咽頭圧検査、高次機能評価、食事場面評価まで、専門的な検査法を体系的に理解し実践できる能力を養う。主要テキストとして『Dysphagia, Clinical Management in Adults and Children』（Elsevier）を使用し、実践的な知識を強化する。	
		嚥下障害学B		この演習では、摂食嚥下障害に関わる臨床における各検査法の目的や選択基準を深く学び、適切なリハビリテーションの実施項目を列挙する能力を養う。顎舌や頸部咽頭部の間接訓練、直接訓練食品の選定や嚥下法、口腔ケアの意義、環境設定、さらにリハビリテーション手術の適用について、各訓練法の目的や適用法を深く理解する。これにより、適切なリハビリテーションの実施項目を列挙し、患者の嚥下機能向上を支援する実践的能力を養う。主要テキストとして『Dysphagia, Clinical Management in Adults and Children』（Elsevier）を使用する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	摂食・嚥下障害診断学演習A		この演習では、摂食嚥下機能障害の診断に必要な関連器官の評価法について学ぶ。摂食嚥下機能に関わる舌、喉頭、関連筋群の生理や動きを評価するための検査法を習得する。舌運動評価や舌圧測定、咽頭圧測定、喉頭運動評価、モーションキャプチャーを用いた生体計測、嚥下関連器官の協調性の評価など、多様な手法を実践的に学ぶ。また、検査結果を記録・同期する技術についても習得する。使用テキストには『摂食嚥下リハビリテーション学分野作成のハンドアウト資料』、参考文献として『Dysphagia: Clinical Management in Adults and Children』などを用い、演習を通じ て診断力を高める。	
		摂食・嚥下障害診断学演習B		この演習では、摂食嚥下障害の診断と評価を実際の症例を通じて学ぶ。嚥下スクリーニング検査や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を中心に、食品物性やQOL評価、訓練評価など、臨床的に必要な多様な検査法を体験的に習得する。また、各検査法を用いた嚥下機能評価の実際を学び、診断能力を高めることを目指す。使用テキストには『摂食嚥下リハビリテーション学分野作成のハンドアウト資料』、参考文献として『Dysphagia: Clinical Management in Adults and Children』などを用い、症例に基づく実践的な 演習を行う。	
		摂食機能評価学演習A		この演習は、摂食嚥下機能の基礎知識を摂食機能評価を通じて学ぶもので、スクリーニング検査、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査の実践手技、評価、診断、画像解析を行う。また、口腔機能評価の実施とその解釈を体系的に学ぶ。これにより、摂食機能評価法の目的を理解し、検査の基礎的技術を習得するとともに、臨床診断と摂食嚥下リハビリテーションへの応用のための知識を深める。使用テキストには『摂食嚥下リハビリテーション学分野作成のハンドアウト資料』、参考文献として『Dysphagia: Clinical Management in Adults and Children』などを用いる。	
		摂食機能評価学演習B		この演習では、摂食嚥下機能評価を基に行われた診断から、摂食嚥下障害に対する訓練法を学び、実際の障害例を通じてその適用を理解する。間接訓練と直接訓練の基本と実践を中心に、摂食嚥下機能代償法や歯科補綴的対応、食物調整と栄養評価についても扱う。これにより、摂食嚥下障害の診断に基づく摂食嚥下リハビリテーションの実施の一連の流れ、解するとともに、訓練法の基礎的手技を実践できる能力を養う。使用テキストには『摂食嚥下リハビリテーション学分野作成のハンドアウト資料』、参考文献として『Dysphagia: Clinical Management in Adults and Children』などを用いる。	
		歯周治療学A		この講義では、多因子性の炎症性疾患である歯周病について、病因やリスク因子を理解し、適切な治療法を選択するための基礎と臨床の知識を学ぶ。歯周病の診断や治療計画立案などの歯周治療の基本的事項から、再生医療技術の理論まで、専門的歯周治療を行うために必要となる臨床事項について総合的な知識を習得する。使用テキストには『臨床歯周病学　第3版』（医歯薬出版）を使用し、参考文献として『再生歯科のテクニックとサイエンス』などを推奨する。	
		歯周治療学B		この講義では、歯周病の病因・病態に関する最新の知見および手術術式を科学的視点から学び、専門的な歯周治療を行うに必要とされる知識を習得する。歯周病の分類や疫学、炎症反応、免疫応答、リスクファクターなどの基礎的事項をに加え、塩基性線維芽細胞増殖因子、培養骨膜などを用いた再生治療手法について講義を行う。使用テキストには『臨床歯周病学　第3版』を使用し、参考文献として『再生歯科のテクニックとサイエンス』などを推奨する。これにより、歯周治療の理論と実践的応用力を養う。	
		歯周再生治療学演習A		この演習では、歯周病による歯周組織欠損に対する歯周組織再生治療について学び、検査、診断、治療法のガイドラインを習得する。症例の整理と文献的考察を通して、自家骨・人工骨移植、非吸収性膜および吸収性膜を用いたGTR手術、エナメル基質タンパクや塩基性線維芽細胞増殖因子などを活用した治療法の理論と手法を理解する。使用テキストには『臨床歯周病学　第3版』を用い、参考文献として『再生歯科のテクニックとサイエンス』などを推奨する。	
		歯周再生治療学演習B		この演習では、歯周再生治療に関する最新の治療法や手技について講義および演習を行い、臨床応用に必要な実践的知識と基本的スキルを習得する。全層フラップや部分層フラップの形成、各種縫合法、多血小板血漿（PRP, PRF）、培養骨膜シートを活用した治療法の理論と手法を理解する。また、先進的な歯周検査やティッシュエンジニアリングの概念を学ぶ。使用テキストには『臨床歯周病学第3版』を用い、参考文献として『再生歯科のテクニックとサイエンス』などを推奨する。	
		歯周治療学演習A		この演習では、歯周治療に必要な歯周組織の構造や歯周疾患の種類、症状、病因を理解し、病態を正確に把握するプロセスを学ぶ。また、歯周病が全身疾患に与える影響について最新のエビデンスを収集し、プレゼンテーションとディスカッションを通じて理解を深める。具体的には、歯周組織や歯周炎の構造、病因、感受性などについて学び、全身疾患との関連性に焦点を当てた発表を行う。使用テキストには配布資料および関連論文を用い、参考文献として『臨床歯周病学　第3版』などが推奨される。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	歯周治療学演習B		この演習では、歯周疾患の検査・診断に基づく治療計画の立案方法や、包括的な歯周治療体系を学ぶ。歯周組織の検査から診断、治療方針の立案、基本治療、フラップ手術や歯周再生治療などの外科治療、咬合治療、補綴・インプラント治療、安定期治療までの流れを理解する。また、治療計画のプレゼンテーションや演習を通じて、実践的なスキルを養う。使用テキストには配布資料および関連論文を用い、参考文献として『臨床歯周病学　第3版』などを推奨する。	
		生体防御機能回復学A		この講義では、歯周組織の特性および歯周病の病因論を学び、研究遂行に必要な基礎的知識を習得する。歯周組織の特性、歯周病原細菌の特徴、自然免疫と獲得免疫の仕組み、歯周疾患における免疫病原論について講義と討論を通じて理解を深める。これにより、歯周疾患の病因と病態に関する知識を基盤とした学術的および臨床的な応用力を養う。使用テキストには配布資料および関連論文を用い、参考文献として『臨床歯周病学　第3版』を推奨する。	
		生体防御機能回復学B		この講義では、歯周病の病因論に基づく組織再生の免疫学的基盤を学び、歯周病と全身疾患との関連性を探究する。共生細菌の役割や糖尿病、メタボリックシンドローム、冠動脈疾患など、歯周疾患が全身の健康に及ぼす影響についても考察する。また、最新の研究トピックスを取り上げ、討論を通じて知識を深める。これにより、歯周組織再生の理論を免疫学的視点から説明し、全身疾患との関連性を理解する能力を養う。使用テキストには配布資料および関連論文を用い、参考文献として『臨床歯周病学　第3版』を推奨する。	
		硬組織形態学A		この講義では、硬組織形態学研究に必要な歯の発生生物学を学び、頭蓋顔面や歯の発生、エナメル質や象牙質形成、歯周組織の形成と構造、歯の萌出や交換、顎関節、骨生物学に関する知識を習得する。これにより、歯および関連組織の構造と機能を理解し、基礎的な発生学的背景を説明できる能力を養う。使用テキストには『Ten Cate’s Oral Histology』を用い、参考文献として『Textbook and Color Atlas of Traumatic Injuries to the Teeth』を推奨する。講義と配布資料を活用した学習を通じて、発生生物学の基礎知識を深める。	
		硬組織形態学B		この講義では、硬組織形態学研究に必要な研究計画の立案、実践、発表までの一連の過程を演習形式で学ぶ。具体的には、論文の構成と書き方、効率的な文献検索、還流固定法や標本作製、免疫組織化学、顕微鏡写真撮影、共焦点レーザー顕微鏡の操作、Photoshopを用いた画像加工法、プレゼンテーション作成法などを習得する。使用テキストには配布プリントを用いる。研究技術の基礎と応用を総合的に学ぶ。	
		硬組織形態学演習A		この演習では、硬組織解析のための試料作製法から、マイクロCTを用いたマクロ解析、各種染色法によるミクロ解析までを学ぶ。試料作製の基礎として固定法、脱灰法、脱水・包埋法、パラフィン切片や凍結切片の薄切法を習得し、組織染色および免疫組織化学染色の手法を深く理解する。また、得られた所見の解釈方法を身につけ、研究目的に応じた硬組織観察法を選択できる能力を養う。使用テキストとして講義資料を配布し、適宜参考文献も提供される。演習形式を通じて、硬組織形態解析の基礎と応用を学ぶ。	
		硬組織形態学演習B		この演習では、歯胚組織を対象とした解析手法を学び、組織切片の作製、器官培養、遺伝子解析の技術を習得する。具体的には、歯胚の発生および組織学的特徴を理解し、パラフィン切片の作製と染色法、歯胚器官培養の基礎から応用、RT-PCR法を用いた遺伝子発現解析と制御法を実践的に学ぶ。また、歯胚再生研究の現状についても議論を深める。使用テキストには講義資料が配布され、参考文献として『歯の再生』や『形態形成・分子メカニズム研究の最新技術』を推奨する。演習形式を通じて、歯胚研究に必要な知識とスキルを総合的に養う。	
		口腔病理診断学A		この講義では、口腔粘膜や唾液腺腫瘍の発生機構、臨床病理学的診断、予防法について学ぶ。口腔潜在的悪性疾患や口腔癌の多様性、臨床像、病理組織像を深く理解し、良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別、口腔細胞診の判定技術を習得する。また、唾液腺腫瘍についても同様に解析し、スクリーニングや予防法について議論する。使用テキストには『新口腔病理学（第3版）』および『口腔細胞診入門』を用い、参考文献として『わかりやすい病理学（第7版）』を推奨する。対面講義、実習、討論を通じて、口腔病理学的診断能力を養う。	
		口腔病理診断学B		この講義では、歯原性および顎骨関連腫瘍の発生機構、臨床病理学的診断、予防法について学ぶ。歯原性腫瘍、顎骨および顎関節腫瘍、軟部間葉系腫瘍の多様性、臨床像、病理組織像を詳しく解析し、良性と悪性の鑑別やスクリーニング法を習得する。また、これら腫瘍の予防策を議論し、臨床応用の基礎を養う。使用テキストには『新口腔病理学（第3版）』および『歯学生のための基礎病理学』を用い、参考文献として『わかりやすい病理学（第7版）』を推奨する。対面講義、実習、討論を通じて、歯科病理学の専門知識を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	口腔分子病理学演習A		この演習では、口腔顎顔面領域における疾患の病理発生機序を解明するための分子病理学的研究方法を学ぶ。細胞・新鮮組織検体の収集および保存、DNAおよびRNAの抽出と精製、ポリメラーゼ連鎖反応（PCR）や逆転写ポリメラーゼ連鎖反応（RT-PCR）、電気泳動法、ヘテロ接合性喪失（LOH）解析法などの手技を習得する。また、これらの技術の原理を理解し、臨床応用への基盤を築くことを目指す。使用テキストには『マウス ラボマニュアル（第2版）』を用い、参考文献として『がんの分子生物学（第3版）』を推奨する。対面講義と実習を通じて、研究技術の実践力を養成する。	
		口腔分子病理学演習B		この演習では、口腔顎顔面領域に発生する疾患の病理発生機序を解明するための分子病理学的研究方法を学ぶ。DNAシークエンス法、in situハイブリダイゼーション、蛍光in situハイブリダイゼーション(FISH)、免疫組織染色および免疫蛍光染色の技術を習得し、それらの基礎原理を理解する。これにより、分子レベルでの病理学的解析能力を養うことを目指す。使用テキストには『マウス ラボマニュアル（第2版）』および『病理と臨床 Vol.25』を用い、参考文献として『がんの分子生物学（第3版）』を推奨する。対面講義と実習を通じて、分子病理学の実践的スキルを習得する。	
		臨床口腔病理学演習A		この演習では、口腔顎顔面領域の各種疾患について、その原因、発生機構、経過および転帰について、形態と機能の両面から理解し、臨床病理診断の基礎を習得する。口腔顎顔面領域疾患の多様な臨床病態について、口腔顎顔面領域疾患の病理発生機序について考察ができるようにする。使用テキストには『Oral and Maxillofacial Pathology (4th edition)』を用い、関連論文を参考文献とする。講義と討論を通じて、臨床歯科医学の基礎力を養う。	
		臨床口腔病理学演習B		この演習では、口腔顎顔面領域の各種疾患について、その原因、発生機構、経過および転帰について、形態と機能の両面から理解し、臨床病理診断の技量を習得する。口腔顎顔面領域疾患の臨床病理組織学的鑑別、口腔顎顔面領域疾患の臨床ならびに病理学的診断の要点、口腔顎顔面領域疾患の予防について理解ができるようにする。使用テキストには『Oral and Maxillofacial Pathology (4th edition)』および『WHO Classification of Head and Neck Tumors (5th edition)』を用い、関連論文を参考文献とする。講義と討論を通じて臨床歯科医学の応用力を養う。	
		臨床口腔細胞診断学演習A		この演習では、口腔顎顔面領域に発生する疾患の病理発生機序を学び、細胞診断学の基礎知識および技術を習得する。細胞検体の採取、標本作製、染色法、正常および疾患における細胞形態の観察方法を理解し、細胞診の意義や適応を学ぶ。また、口腔粘膜や唾液腺疾患に関する最新の判定システム（ベセスダシステム、ミラノシステム）についても理解を深める。使用テキストには『口腔細胞診入門』および『細胞診を学ぶ人のために（第5版）』を用い、適宜参考文献が提供される。講義、演習、討論を通じて細胞診技術の向上を目指す。	
		臨床口腔細胞診断学演習B		この演習では、口腔顎顔面領域および全身主要臓器の疾患に対する細胞診断学の基礎と応用を学ぶ。口腔粘膜の腫瘍性疾患、歯原性腫瘍、唾液腺腫瘍に加え、全身臓器（婦人科・呼吸器領域など）の細胞診を通じて、細胞形態学、細胞検体の観察と判定方法を習得する。また、免疫細胞化学的染色法や遺伝子抽出といった研究手法を実践し、病態研究への応用を目指す。使用テキストには『口腔細胞診入門』および『細胞診を学ぶ人のために（第5版）』を用い、適宜参考文献も提供される。講義と演習を通じて細胞診技術の発展的知識を深める。	
		薬理学演習A		この演習では、薬物と生体の相互作用や作用機序を分子レベルで理解することを目的として、骨代謝調節に関連する薬物に焦点を当て、それらの作用機序について学ぶ。まず、破骨細胞と骨芽細胞の培養細胞を用いた実験手技と解析方法について概説し、その後、演習を通じて、基本的実験手技や解析手法を習得する。使用テキストは講義前に随時資料が配布され、参考文献は適宜指示される。骨代謝に関わる破骨細胞と骨芽細胞の特徴の理解と、それらの基本的な実験技術の習得を目指す。	
		薬理学演習B		この演習では、薬物と生体の相互作用や作用機序を分子レベルで理解することを目的として、実際に薬物を用いて、それらの骨代謝に関連する破骨細胞と骨芽細胞の分化における作用機序を学ぶ。まず、骨代謝に作用する薬物と作用機序について概説し、その後、薬理学演習Aで習得した知識と技術を実践的に活用する方法を習ぶ。使用テキストは講義前に随時資料が配布され、参考文献は適宜指示される。骨代謝に関わる破骨細胞や骨芽細胞の分化を制御する薬物について理解し、それらの作用機序の解析法の習得を目指す。	
		咬合機能再建学A		この講義では、咀嚼・嚥下・構音などの口腔機能障害に対する診断・評価法および歯科補綴的アプローチを学ぶ。正常な咀嚼・嚥下機能やその障害が全身の健康やQOLに及ぼす影響を理解し、口腔がん術後、脳卒中、神経疾患患者における障害の特徴と治療方法を探究する。さらに、オーラルフレイルや口腔機能低下症に関する最新の知見も学習する。使用テキストとして適宜資料を配布する。参考文献として『新よくわかる顎口腔機能』や『嚥下障害の臨床』などを推奨する。講義、文献紹介プレゼンテーション、レポートを通じて、臨床歯科医学および研究能力を養成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	咬合機能再建学B		この講義では、有床義歯の設計と製作技術、顎顔面補綴治療、要介護高齢者への補綴治療、リハビリテーション医療における補綴治療について学ぶ。有床義歯における支持、把持、維持の確立、顎間関係記録、人工歯排列など有床義歯製作の基本から、顎義歯やエピテーゼなど顎顔面補綴装置の使用、さらに未来の研究課題として食品開発に関わる補綴の役割にも触れる。また、超高齢社会の背景を踏まえ、補綴治療が患者の生活の質（QOL）に及ぼす影響を理解し、臨床における応用力を養成する。テキストとして『無歯顎補綴治療学』や『嚥下障害の臨床』などを使用し、講義やレポート、文献紹介プレゼンテーションを通じて知識を深める。	
		顎機能評価学演習A		この演習では、咀嚼・嚥下機能障害の診断に必要な関連器官の評価法を学ぶ。舌、喉頭、下顎、および関連筋群の動きを評価するための検査法を実践的に習得するとともに、舌運動評価、舌圧測定、咽頭圧測定、顎運動測定および分析、モーションキャプチャーを用いた生体計測、喉頭運動測定など、多角的な検査技術を深く理解する。使用テキストとして包括歯科補綴学分野作成のハンドアウト資料を用い、参考文献には『新よくわかる顎口腔機能』を推奨する。講義と実習を通じて、機能障害の評価技術を身につけることを目指す。	
		顎機能評価学演習B		この演習では、咀嚼・嚥下機能障害の診断と評価を臨床症例を通じて学び、実際の診療における顎口腔機能評価の知識と技術を習得する。関連器官の協調性の評価、咀嚼機能評価、咬合力測定、嚥下機能評価、構音機能評価、QOL評価、食品物性と嚥下機能の関連性について、記録の同期方法とともに学ぶ。使用テキストには包括歯科補綴学分野作成のハンドアウト資料を用い、参考文献として『新よくわかる顎口腔機能』を推奨する。演習を通じて、臨床現場で必要とされる高度な評価スキルを身につけることを目指す。	
		口腔インプラント臨床学演習A		この演習では、デンタルインプラントを用いた無歯顎患者の機能回復に関する治療計画や技術を学ぶ。インプラントオーバーデンチャーやインプラントブリッジ、All-on-4コンセプトなどの治療方法とその特徴を理解し、無歯顎患者の顎骨診査・診断、CT診断およびコンピュータガイドシステムを活用した解析方法を習得する。また、講義や症例データの分析を通じて診断力を向上させる。使用テキストには『ITI Treatment Guide』などを用い、参考文献として『Implant Overdentures』や『All-on-4® treatment concept Procedures manual』などが推奨される。演習を通じて、無歯顎患者におけるインプラント治療の基礎から応用を学ぶ。	
		口腔インプラント臨床学演習B		この演習では、デンタルインプラントを用いた無歯顎患者の機能回復に関する治療計画とメインテナンスを学ぶ。コンピュータシミュレーション演習を通じて治療計画方法を習得し、治療の実際や偶発症への対応についても理解を深める。また、症例発表やメインテナンス方法の学習を通じて、臨床スキルの向上を目指す。使用テキストには『ITI Treatment Guide』を用い、参考文献として『Implant Overdentures』や『All-on-4® treatment concept Procedures manual』などが推奨される。演習と討論を組み合わせた形式で、無歯顎患者におけるインプラント治療の実践力を養う。	
		顎口腔組織再建外科学A		この演習では、顎口腔領域の腫瘍に対する診断および治療計画の立案、手術療法、術後の組織欠損に対する再建法について学ぶ。腫瘍切除術の基本手技や術式、組織再建のための材料選択（局所皮弁、有茎皮弁、血管柄付き遊離皮弁、生体材料）について理解を深める。また、歯科用インプラントを用いた機能再建の技術や、組織工学的手法を活用した再生医療の基礎についても学ぶ。使用テキストには『口腔科学』が指定され、参考文献として『An Atlas of Head and Neck Surgery』や『Atlas of Regional and Free Flaps for Head and Neck Reconstruction』などが推奨される。講義、課題プレゼンテーション、試験を通じて専門的知識と技術を養成する。	
		顎口腔組織再建外科学B		この演習では、顎顔面領域における腫瘍切除後の再建手術に関する具体的な手技や留意点、再建材料の特徴と選択基準を学ぶ。再建手術（舌、口底、下顎、上顎・口蓋）や頸部郭清術の手技と、それらに関連する合併症および術後管理について学ぶ。また組織工学的手法を用いた再生医療の応用、さらに顎顔面領域の再生医療（顎骨再建、末梢神経再生）についても深く理解する。使用テキストには『口腔科学』が指定され、参考文献として『An Atlas of Head and Neck Surgery』や『Atlas of Regional and Free Flaps for Head and Neck Reconstruction』などが推奨される。講義、課題プレゼンテーション、試験を通じて専門的知識と技術を養成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	腫瘍制御学演習A		この演習では、口腔がんの診療に必要な基礎知識を学ぶ。顎顔面頸部の解剖学、口腔がんの疫学、病因、前がん病変や状態、病理組織、発生機構、浸潤・転移機構、そして治療法（外科療法、化学療法、放射線療法、分子標的治療薬）について講義と文献抄読を通じて理解を深める。口腔がんの多段階発生や広域発癌、上皮間葉転換など最新の研究も取り上げる。使用テキストには『ORAL CANCER』や『口腔癌取り扱い規約』などを用い、参考文献としてNCCNガイドラインが推奨される。抄読会、討論、論述試験を通じて知識を応用する能力を養成する。	
		腫瘍制御学演習B		この演習では、口腔がんを中心とした口腔外科診療の基本を学ぶ。病歴聴取や理学的所見の取得、手術器具の取扱い、麻酔、抜歯、切開、縫合、創傷管理といった基本手技を習得し、院内感染対策や診断法（生検、生体染色、病理組織、画像検査）を実践する。また、外科療法、再建方法、放射線治療、化学療法、有害事象の対策、摂食嚥下や言語機能の評価、顎補綴の基礎を学び、症例報告書の作成と発表を通じて実践力を養う。使用テキストには『口腔外科学』『切開と縫合の基本と臨床』『口腔癌取り扱い規約』などを用い、NCCNガイドラインも参考文献として推奨される。講義、実習、症例検討を通じて診療技術を向上させる。	
		顎顔面発育異常治療学演習A		この演習では、顎顔面発育異常の病態を理解し、診断および外科的矯正治療計画の立案に必要な技術を学ぶ。頭部X線規格写真やCT画像、顔貌写真、歯列模型の分析を通じて顎顔面形態と顎口腔機能を評価し、診断に必要な資料収集および解析方法を習得する。また、顎矯正手術のシミュレーションや課題プレゼンテーションを通じて治療計画の実践力を養う。使用テキストには『顎変形症治療アトラス』を用い、参考文献として『Modern practice in orthognathic and reconstructive surgery』が推奨される。講義とプレゼンテーションを組み合わせ、専門的知識と技能を高めることを目指す。	
		顎顔面発育異常治療学演習B		この演習では、顎顔面発育異常に対する外科的矯正治療の術式、周術期管理、術後評価について学ぶ。Le Fort I型骨切り術、下顎枝矢状分割法、歯槽骨骨切り術、オトガイ形成術、顎骨延長法などの術式を理解し、呼吸管理、顎間固定、知覚異常と耳管機能への対応などの周術期管理を習得する。また、術後の顎骨安定性、顎関節機能、咀嚼機能、睡眠時呼吸機能、心理学的評価、主観的評価を通じて包括的な治療効果の評価方法を学ぶ。使用テキストには『顎変形症治療アトラス』を用い、参考文献として『Modern practice in orthognathic and reconstructive surgery』が推奨される。講義とプレゼンテーションを通じて実践力を養う。	
		顎顔面放射線学A		この科目では、歯科臨床における画像診断の重要性を理解し、様々な疾患における画像所見の特徴を学ぶ。単純エックス線、CT、歯科用コーンビームCT（CBCT）、MRI、超音波診断（US）、PETなどの診断装置を用いて得られる画像情報をもとに、歯・歯周疾患、先天異常、顎骨疾患、腫瘍、唾液腺疾患、軟組織疾患、顎関節疾患、上顎洞疾患などにおける画像所見を詳しく解析する。使用テキストには『歯科臨床における画像診断アトラス第2版』を用い、参考文献として『頭頸部の臨床画像診断学』ならびに『口腔癌』も推奨される。講義とプレゼンテーションを通じて、画像診断能力の向上を目指す。	
		顎顔面放射線学B		この科目では、口腔領域の疾患に対する先進的な画像診断法を実践的に学ぶ。歯・歯周疾患、先天異常、顎骨疾患、顔面外傷、腫瘍、唾液腺疾患、軟組織疾患、顎関節疾患、上顎洞疾患などを対象とし、各疾患における画像所見を理解し実践する能力を養う。使用する画像診断法には、CT、歯科用コーンビームCT（CBCT）、MRI、超音波診断（US）、PETなどが含まれる。使用テキストには『歯科臨床における画像診断アトラス第2版』を用い、参考文献として『頭頸部の臨床画像診断学』ならびに『口腔癌』も推奨される。講義とプレゼンテーションを通じて、画像診断能力を深め、実践的スキルを向上させることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（医歯保健学研究科博士課程　医歯学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	歯学プログラム	顎顔面画像診断学演習A		この演習では、顎顔面領域の画像診断に必要なDICOM画像の取り扱いと画像処理技術を学ぶ。DICOMタグを理解し、画像の種類と特性を把握後、3次元画像データに関与するDICOMタグの意味を理解し、基準平面をアフィン変換にて揃える手順を学ぶ演習を経ることで、MPR画像での適切な断面設定手順を身につけ、相互比較可能な高品質な画像診断へと導いている。また、CTやMRI画像でのROIを用いた計測や画像処理・演算の応用として、ダイナミック造影やDWI、ADC mapの解析などを実践的に習得する。使用ソフトにはImageJやFijiを推奨するがPythonやMATLAB等の利用も許可している。参考文献には『ImageJではじめる生物画像解析』や『医用画像処理入門』などが含まれる。オンライン形式の演習を通じて、画像診断における理論と実践の両面での能力向上を目指す。	
		顎顔面画像診断学演習B		この演習では、顎顔面領域の画像診断における人工知能（AI）と機械学習、深層学習の基礎と理論を学び演習を通じて適応範囲と限界を学ぶ。Pythonの環境構築にはpipenvを用いているが、minicondaをはじめ他の手法も許容し環境構築が困難な場合にはMATLABの利用も許可している。演習では多層ニューラルネットワーク、畳み込みフィルタ、GAN（敵対的生成ネットワーク）、U-Net等を学び、Vision-Transformer（ViT）についても概要を確認する。演習で用いる臨床画像については原則オフラインでの利用としている。また、AIの限界や説明責任、公平性、バイアス問題についても議論を深め、AIによる認識と人間の認識の差異を理解することで診断補助の意味するところを適切に学ぶ。	
		頭頸部放射線治療学A		頭頸部領域のがん治療において放射線治療は重要な役割を担っている。本コースでは放射線治療の理解に必要な臨床腫瘍学から放射線物理学・放射線生物学の基礎まで、頭頸部放射線治療の基礎を系統的に学ぶ。特に、口腔がんや咽頭がんなどの放射線治療の実際、放射線治療の考え方、放射線の影響と管理、放射線生物学および物理学の基本について体系的に理解することを目指す。使用テキストには『やさしくわかる放射線治療学 改訂第2版』を用い、参考文献として『がん・放射線療法 改訂第8版』が推奨される。グループワークと講義形式で行う。講義や発表後どの程度知識が増え、整理ができたかを学習者自身が確認するために、担当教員および参加者と質疑応答を行う。授業形態は、対面を基本とする。	
		頭頸部放射線治療学B		放射線治療患者の口腔保健管理を適切に行うには放射線治療およびその支持療法の理解は必須である。本コースでは頭頸部放射線治療と口腔保健管理の実際について基礎から最新の医療情報までを系統的に学ぶ。特に、放射線治療計画の概要、放射線治療のリスクマネジメント、放射線治療による正常組織反応、頭頸部がんに関する放射線治療、頭頸部放射線治療の口腔有害事象とその対応について体系的に理解することを目指す。使用テキストには『やさしくわかる放射線治療学 改訂第2版』を用い、参考文献として『がん・放射線療法 改訂第8版』が推奨される。グループワークと講義形式で行う。講義や発表後どの程度知識が増え、整理ができたかを学習者自身が確認するために、担当教員および参加者と質疑応答を行う。授業形態は、対面を基本とする。	
		末梢神経再生学演習A		この演習では、脂肪組織由来細胞からのcell extractの作製と、その神経系細胞への影響を評価する手法を学ぶ。細胞培養の基本的技術を習得し、脱分化脂肪細胞や幹細胞の樹立、cell extractの特性解析とその作製方法を理解する。また、cell extractがシュワン細胞や神経細胞に与える影響を解析し、神経再生への応用可能性を探究する。参考文献には『Cell extracts from spleen and adipose tissues restore function to irradiation-injured salivary glands. (J Tissue Eng Regen Med. 2018) 』が推奨される。講義と演習を通じて、再生医療に必要な知識と技術を習得する。	
		末梢神経再生学演習B		この演習では、脱分化脂肪細胞からのcell extractの作製と、その神経系細胞への影響を評価する手法を学ぶ。細胞培養の基本技術を習得し、脱分化脂肪細胞や幹細胞の樹立方法、cell extractの作製およびその特性解析を理解する。また、cell extractがシュワン細胞や神経細胞に与える影響を解析し、神経再生医療への応用可能性を探究する。参考文献には『Mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells exhibit multilineage potential (J Cell Physiol, 2008) 』が推奨される。講義と演習を通じて、再生医療の基礎知識と技術を深める。	
		歯科心身医学演習A		この演習では、口腔顔面痛に対する歯科心身医学の基礎を学び、心理的要因と慢性疼痛の関連性を理解する。心療医学の各種分析法を通じて、口腔顔面痛患者の心理状態や心身医学的要因を評価し、その知識を症例見学を通じて実践に活かす。実習態度、レポート、口頭試問を通じて評価され、専門的スキルの向上を目指す。使用テキストや参考文献は適宜紹介され、講義と実習を通じて歯科心身医学の基礎と応用を深める。	
		歯科心身医学演習B		この演習では、口腔顔面痛患者の心理状態を分析し、心身医学的要因の評価を通じて慢性疼痛との関連を理解する。心療医学の分析手法を実施し、口腔顔面痛患者の心身医学的診断能力を習得する。症例を通じた実習と考察を組み合わせ、実践的な診療スキルを向上させる。成績評価は実習態度、レポート、口頭試問に基づいて行われる。使用テキストや参考文献は適宜紹介され、演習を通じて歯科心身医学の応用力を深める。	